

# 授業計画

平成23年度

# Syllabus 2011

---

経済情報学部

経済情報学科

健康科学部

栄養マネジメント学科

健康システム学科

看護学科

生涯福祉学部

社会福祉学科

短期大学部

保育科第一部

保育科第三部

基礎・教養科目

# 經濟情報学科

基礎・教養科目

(平成 23 年度(2011 年度)開講科目)

# カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成23年度（2011年度）入学者対象

（ ）は兼任、[ ]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		教員免許関係			学年配当(数字は週当り授業時間)								平成23年度の担当者	ページ	
					情報	商業	公民	1年		2年		3年		4年				
								I	II	I	II	I	II	I	II			
基礎科目	◎日本語（読解と表現）	演習	2					2									[安井]・[野田]・[辻本]	55
	◎英語	演習	2					2									(平本 幸治)	59
	◎英語	演習	2		□	△	◇	2									[小泉 毅]	62
	◎英語	演習	2					2									[Michael. H. FOX]	65
	◎コンピュータ演習	演習	2		□	△	◇	2									西田 悦雄	69
	◎コンピュータ演習	演習	2					2									(河野 稔)	70
人文系	宗教と人生	講義	2			◆		2									(本多 彩)	83
	生命倫理学	講義	2						②		②		②		②		[浅沼 光樹]	86
	哲学	講義	2			◇			②		②		②		②		[三浦 摩美]	90
	文学	講義	2					②		②		②		②			[安井 重雄]	91
	芸術	講義	2						②		②		②		②		[柳楽 節子]	94
	芸術	講義	2						②		②		②		②		[岩見 健二]	95
	心理学	講義	2					②		②		②		②			(北島 律之)	96
	宗教と文化Ⅰ（仏教）	講義	2						②		②		②		②		(本多 彩)	97
	宗教と文化Ⅱ（キリスト教）	講義	2					②		②		②		②			[穂積 修司]	98
	宗教と文化Ⅲ（イスラム教）	講義	2						②		②		②		②		[重親 知左子]	99
	生活とデザイン	講義	2					②		②		②		②			(稲富 恭)	100
	色彩学	講義	2					②		②		②		②			(浜島 成嘉)	102
	音楽表現	演習	2					②		②		②		②			[大串 和久]	103
	アメリカ文学	講義	2						②		②		②		②		(平本 幸治)	104
	論説と評論	講義	2						②		②		②		②		[安井 重雄]	105
歴史学	講義	2					②		②		②		②			金子 哲	106	
社会系	法と社会	講義	2						②		②		②		②		(今井 俊介)	108
	日本国憲法	講義	2		□	△	◇	②		②		②		②			(今井 俊介)	109
	人権の歴史	講義	2					②		②		②		②			[中川 智章]	112
	政治学	講義	2				◇	②		②		②		②			斎藤 正寿	113
	国際関係論	講義	2						②		②		②		②		斎藤 正寿	114
	社会学	講義	2					②		②		②		②			(吉原 恵子)	115
	ジェンダー論	講義	2						②		②		②		②		(吉原 恵子)	117
	経済学	講義	2					②		②		②		②			石原 敬子	120
自然科学系	数学	講義	2						②		②		②		②		山本 真弓	121
	物理学	講義	2					②		②		②		②			(湯瀬 晶文)	122
	化学	講義	2					②		②		②		②			[岡本 一彦]	123
	生物学	講義	2					②	②	②	②	②	②	②			(本多 久夫)	124
	食と健康	講義	2						②		②		②		②		(亀谷 小枝)	125
言語学系	英語Ⅰ	演習	2						②		②		②		②		[Michael. H. FOX]	127
	英語Ⅱ	演習	2							②		②		②				
	英語Ⅲ	演習	2								②		②		②			
	フランス語Ⅰ	演習	2					②		②		②		②			[本多 雄一郎]	130
	フランス語Ⅱ	演習	2					②		②		②		②			[本多 雄一郎]	131
	ドイツ語Ⅰ	演習	2					②		②		②		②			[竹内 節]	132
	ドイツ語Ⅱ	演習	2					②		②		②		②			[竹内 節]	133
	中国語Ⅰ	演習	2					②		②		②		②			[佟 曉寧]	134
	中国語Ⅱ	演習	2					②		②		②		②			[佟 曉寧]	135
	韓国語Ⅰ	演習	2					②		②		②		②			[李 知妍]	136
韓国語Ⅱ	演習	2					②		②		②		②			[李 知妍]	137	
体育系	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2						②		②		②		②		(三宅 一郎)	138
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2						②		②		②		②		(徳田 泰伸)	139
	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習	2		□	△	◇	②		②		②		②			(三宅一)・(徳田)・(藤本)・(矢野)	141
	健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習	2					②		②		②		②			(三宅一)・(徳田)・(藤本)・(矢野)	151

□は情報教員免許必修科目、■は情報教員免許選択科目  
 △は商業教員免許必修科目、▲は商業教員免許選択科目  
 ◇は公民教員免許必修科目、◆は公民教員免許選択科目

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

# カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成22年度（2010年度）入学者対象

（ ）は兼任、[ ]は兼任講師

授業 科目 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		教員免許関係			学年配当(数字は週当り授業時間)								平成23年度の 担当者	ページ
					情報	商業	公民	1年		2年		3年		4年			
								I	II	I	II	I	II	I	II		
基礎 科目	◎日本語（読解と表現）	演習	2				2										
	◎英語	演習	2		□	△	◇	2									
	◎コンピュータ演習	演習	2		□	△	◇	2									
人文 系	宗教と人生	講義	2				◆	2									
	生命倫理学	講義	2						2		2		2		2	[浅沼 光樹]	86
	哲学	講義	2				◇		2		2		2		2	[三浦 摩美]	90
	文学	講義	2					2		2		2		2		[安井 重雄]	91
	芸術	講義	2						2		2		2		2	[柳楽 節子]	94
	芸術	講義	2						2		2		2		2	[岩見 健二]	95
	心理学	講義	2					2		2		2		2		(北島 律之)	96
	宗教と文化Ⅰ（仏教）	講義	2						2		2		2		2	(本多 彩)	97
	宗教と文化Ⅱ（キリスト教）	講義	2					2		2		2		2		[穂積 修司]	98
	宗教と文化Ⅲ（イスラム教）	講義	2						2		2		2		2	[重親 知左子]	99
	生活とデザイン	講義	2					2		2		2		2		(稲富 恭)	100
	色彩学	講義	2					2		2		2		2		(浜島 成嘉)	102
	音楽表現	演習	2					2		2		2		2		[大串 和久]	103
	アメリカ文学	講義	2						2		2		2		2	(平本 幸治)	104
論説と評論	講義	2						2		2		2		2	[安井 重雄]	105	
歴史学	講義	2					2		2		2		2		金子 哲	106	
養 社 会 系	法と社会	講義	2					2		2		2		2		(今井 俊介)	108
	日本国憲法	講義	2		□	△	◇	2		2		2		2		(今井 俊介)	109
	人権の歴史	講義	2					2		2		2		2		[中川 智章]	112
	政治学	講義	2				◇	2		2		2		2		斎藤 正寿	113
	国際関係論	講義	2						2		2		2		2	斎藤 正寿	114
	社会学	講義	2					2		2		2		2		(吉原 恵子)	115
	ジェンダー論	講義	2						2		2		2		2	(吉原 恵子)	117
	経済学	講義	2					2		2		2		2		石原 敬子	120
自 然 系	数学	講義	2						2		2		2		2	山本 真弓	121
	物理学	講義	2					2		2		2		2		(湯瀬 晶文)	122
	化学	講義	2					2		2		2		2		[岡本 一彦]	123
	生物学	講義	2					2	2	2	2	2	2	2		(本多 久夫)	124
	食と健康	講義	2						2		2		2		2	(亀谷 小枝)	125
語 学 系	英語Ⅰ	演習	2						2		2		2		2	[Michael. H. FOX]	127
	英語Ⅱ	演習	2							2		2		2		[Michael. H. FOX]	128
	英語Ⅲ	演習	2								2		2		2	[Michael. H. FOX]	129
	フランス語Ⅰ	演習	2					2		2		2		2		[本多 雄一郎]	130
	フランス語Ⅱ	演習	2					2		2		2		2		[本多 雄一郎]	131
	ドイツ語Ⅰ	演習	2					2		2		2		2		[竹内 節]	132
	ドイツ語Ⅱ	演習	2						2		2		2		2	[竹内 節]	133
	中国語Ⅰ	演習	2					2		2		2		2		[佟 曉寧]	134
	中国語Ⅱ	演習	2						2		2		2		2	[佟 曉寧]	135
	韓国語Ⅰ	演習	2					2		2		2		2		[李 知妍]	136
韓国語Ⅱ	演習	2						2		2		2		2	[李 知妍]	137	
体 育 系	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2						2		2		2		2	(三宅 一郎)	138
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2						2		2		2		2	(徳田 泰伸)	139
	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習	2		□	△	◇	2		2		2		2		(三宅一)・(徳田)・(樺本)・(矢野)	141
	健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習	2					2		2		2		2		(三宅一)・(徳田)・(樺本)・(矢野)	151

□は情報教員免許必修科目、■は情報教員免許選択科目

△は商業教員免許必修科目、▲は商業教員免許選択科目

◇は公民教員免許必修科目、◆は公民教員免許選択科目

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

# カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成21年度（2009年度）入学者対象

（ ）は兼任、[ ]は兼任講師

授業 科目 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		教員免許関係			学年配当(数字は週当り授業時間)								平成23年度の 担当者	ページ
					情報	商業	公民	1年		2年		3年		4年			
								I	II	I	II	I	II	I	II		
科 基 礎	◎日本語（読解と表現）	演習	2				2										
	◎英語	演習	2	□	△	◇	2										
	◎コンピュータ演習	演習	2	□	△	◇	2										
教 文 系	宗教と人生	講義	2			◆	2										
	生命倫理学	講義	2					2		2		2		2		[浅沼 光樹]	86
	哲学	講義	2			◇		2		2		2		2		[三浦 摩美]	90
	文学	講義	2					2		2		2		2		[安井 重雄]	91
	芸術	講義	2						2		2		2		2	[柳楽 節子]	94
	芸術	講義	2						2		2		2		2	[岩見 健二]	95
	心理学	講義	2					2		2		2		2		(北島 律之)	96
	宗教と文化Ⅰ（仏教）	講義	2						2		2		2		2	(本多 彩)	97
	宗教と文化Ⅱ（キリスト教）	講義	2						2		2		2		2	[穂積 修司]	98
	宗教と文化Ⅲ（イスラム教）	講義	2						2		2		2		2	[重親 知左子]	99
	生活とデザイン	講義	2						2		2		2		2	(稲富 恭)	100
	色彩学	講義	2						2		2		2		2	(浜島 成嘉)	102
	音楽表現	演習	2						2		2		2		2	[大串 和久]	103
アメリカ文学	講義	2							2		2		2		(平本 幸治)	104	
論説と評論	講義	2							2		2		2		[安井 重雄]	105	
歴史学	講義	2						2		2		2		2	金子 哲	106	
養 社 会 系	法と社会	講義	2						2		2		2		2	(今井 俊介)	108
	日本国憲法	講義	2	□	△	◇		2		2		2		2		(今井 俊介)	109
	人権の歴史	講義	2						2		2		2		2	[中川 智章]	112
	政治学	講義	2			◇			2		2		2		2	斎藤 正寿	113
	国際関係論	講義	2							2		2		2	2	斎藤 正寿	114
	社会学	講義	2						2		2		2		2	(吉原 恵子)	115
	ジェンダー論	講義	2							2		2		2	2	(吉原 恵子)	117
	経済学	講義	2						2		2		2		2	石原 敬子	120
科 自 然 系	数学	講義	2							2		2		2		山本 真弓	121
	物理学	講義	2						2		2		2		2	(湯瀬 晶文)	122
	化学	講義	2						2		2		2		2	[岡本 一彦]	123
	生物学	講義	2						2	2	2	2	2	2	2	(本多 久夫)	124
	食と健康	講義	2							2		2		2	2	(亀谷 小枝)	125
目 語 学 系	英語Ⅰ	演習	2							2		2		2		[Michael. H. FOX]	127
	英語Ⅱ	演習	2								2		2		2	[Michael. H. FOX]	128
	英語Ⅲ	演習	2									2		2	2	[Michael. H. FOX]	129
	フランス語Ⅰ	演習	2						2		2		2		2	[本多 雄一郎]	130
	フランス語Ⅱ	演習	2						2		2		2		2	[本多 雄一郎]	131
	ドイツ語Ⅰ	演習	2						2		2		2		2	[竹内 節]	132
	ドイツ語Ⅱ	演習	2							2		2		2	2	[竹内 節]	133
	中国語Ⅰ	演習	2						2		2		2		2	[佟 曉寧]	134
	中国語Ⅱ	演習	2							2		2		2	2	[佟 曉寧]	135
	韓国語Ⅰ	演習	2						2		2		2		2	[李 知妍]	136
韓国語Ⅱ	演習	2							2		2		2	2	[李 知妍]	137	
体 育 系	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2							2		2		2		(三宅 一郎)	138
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2							2		2		2		(徳田 泰伸)	139
	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習	2	□	△	◇			2		2		2		2	(三宅一)・(徳田)・(橋本)・(矢野)	141
	健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習	2							2		2		2	2	(三宅一)・(徳田)・(橋本)・(矢野)	151

□は情報教員免許必修科目、■は情報教員免許選択科目  
 △は商業教員免許必修科目、▲は商業教員免許選択科目  
 ◇は公民教員免許必修科目、◆は公民教員免許選択科目

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

# カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成20年度（2008年度）入学者対象

（ ）は兼任、[ ]は兼任講師

授業 科目 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		教員免許関係			学年配当 (数字は週当り授業時間)								平成23年度の 担 当 者	ページ
					情報	商業	公民	1年		2年		3年		4年			
								I	II	I	II	I	II	I	II		
科 基 礎	◎日本語（読解と表現）	演習	2					2									
	◎英語	演習	2		□	△	◇	2									
	◎コンピュータ演習	演習	2		□	△	◇	2									
教 養 科 目	宗教と人生	講義	2				◆	2									
	哲学	講義	2				◇		②		②		②		②		[三浦 摩美] 90
	文学	講義	2					②		②		②		②			[安井 重雄] 91
	芸術	講義	2						②		②		②		②		[柳楽 節子] 94
	芸術	講義	2						②		②		②		②		[岩見 健二] 95
	心理学	講義	2					②		②		②		②			(北島 律之) 96
	宗教と文化Ⅰ（仏教）	講義	2					②		②		②		②			(本多 彩) 97
	宗教と文化Ⅱ（キリスト教）	講義	2					②		②		②		②			[穂積 修司] 98
	宗教と文化Ⅲ（イスラム教）	講義	2					②		②		②		②			[重親 知左子] 99
	生活美学	講義	2					②		②		②		②			(稲富 恭) 100
	色彩学	講義	2					②		②		②		②			(浜島 成嘉) 101
	音楽表現Ⅰ	演習	2					②		②		②		②			[大串 和久] 103
	音楽表現Ⅱ	演習	2						②		②		②		②		不開講
	アメリカ文学	講義	2						②		②		②		②		(平本 幸治) 104
	英語コミュニケーション	講義	2						②		②		②		②		不開講
	生命倫理学	講義	2						②		②		②		②		[浅沼 光樹] 86
	論説と評論	講義	2						②		②		②		②		[安井 重雄] 105
	歴史学	講義	2						②		②		②		②		金子 哲 106
	法と社会	講義	2						②		②		②		②		(今井 俊介) 108
	日本国憲法	講義	2		□	△	◇	②		②		②		②			(今井 俊介) 109
	人権の歴史	講義	2					②		②		②		②			[中川 智章] 112
	政治学	講義	2					◇	②		②		②		②		斎藤 正寿 113
	国際関係論	講義	2						②		②		②		②		斎藤 正寿 114
	論説と議論	講義	2						②		②		②		②		不開講
	ジェンダー論	講義	2						②		②		②		②		(吉原 恵子) 117
数学	講義	2						②		②		②		②		山本 真弓 121	
物理学	講義	2						②		②		②		②		(湯瀬 晶文) 122	
化学	講義	2						②		②		②		②		[岡本 一彦] 123	
生物学	講義	2						②	②	②	②	②	②	②		(本多 久夫) 124	
食と健康	講義	2						②		②		②		②		(亀谷 小枝) 125	
英語Ⅰ (TOEIC 400)	演習	2						②		②		②		②		不開講	
英語Ⅱ (TOEIC 500)	演習	2						②		②		②		②		不開講	
英語Ⅲ (TOEIC 600+)	演習	2						②		②		②		②		不開講	
フランス語Ⅰ	演習	2						②		②		②		②		[本多 雄一郎] 130	
フランス語Ⅱ	演習	2						②		②		②		②		[本多 雄一郎] 131	
ドイツ語Ⅰ	演習	2						②		②		②		②		[竹内 節] 132	
ドイツ語Ⅱ	演習	2						②		②		②		②		[竹内 節] 133	
中国語Ⅰ	演習	2						②		②		②		②		[佟 曉寧] 134	
中国語Ⅱ	演習	2						②		②		②		②		[佟 曉寧] 135	
健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2						②		②		②		②		(三宅 一郎) 138	
健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2			□	△	◇	②		②		②		②		(徳田 泰伸) 139	
健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習	2						②		②		②		②		(三宅一)・(徳田)・(橋本)・(矢野) 141	
健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習	2						②		②		②		②		(三宅一)・(徳田)・(橋本)・(矢野) 151	
放送大学科目（別表1）																	
大学洋上セミナーⅠ	講義	4						④		④		④		④			不開講
大学洋上セミナーⅡ	講義	2						②		②		②		②			不開講
特別講義Ⅰ	講義	1						①		①		①		①			不開講
特別講義Ⅱ	講義	1							①		①		①		①		不開講
特別演習Ⅰ	演習	2							2								
特別演習Ⅱ	演習	2									2						

□は情報教員免許必修科目、■は情報教員免許選択科目

△は商業教員免許必修科目、▲は商業教員免許選択科目

◇は公民教員免許必修科目、◆は公民教員免許選択科目

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。



# 栄養マネジメント学科

基礎・教養科目

(平成 23 年度(2011 年度)開講科目)



# カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科 平成23年度（2011年度）入学者対象

（ ）は兼任、[ ]は兼任講師

授業 科目 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		栄養士 管 理 栄養士	栄養 教諭 一種	食 品 衛 生 管 理 者 等	学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成23年度の 担 当 者	ペー ジ
								1年		2年		3年		4年			
								I	II	I	II	I	II	I	II		
基礎 科 目	日本語（読解と表現）	演習	2					2								[安井]・[辻本]	56
	英語	演習	2					2								(平本 幸治)	59
	英語	演習	2					2								[小泉 毅]	62
	コンピュータ演習	演習	2					2								原田 昭子	72
	コンピュータ演習	演習	2					2								湯瀬 晶文	73
	生物基礎	講義	2					2								[来田村]・[田中]・[池内]	78
	化学基礎	講義	2					2								[廣井]・[中本]・[田中]	81
人 文 系	宗教と人生	講義	2						2							(本多 彩)	84
	生命倫理学	講義	2						②		②		②			[浅沼 光樹]	86
	生涯発達心理学	講義	2						②		②		②			(森田 義宏)	87
	人間関係論(含カウンセリング)	講義	2						②		②		②			(森田 義宏)	89
	哲学	講義	2						②		②		②			[三浦 摩美]	90
	文学	講義	2						②		②		②			[安井 重雄]	91
	芸術	講義	2						②		②		②			[柳楽 節子]	94
	芸術	講義	2						②		②		②			[岩見 健二]	95
	心理学	講義	2						②		②		②			(北島 律之)	96
	宗教と文化Ⅰ（仏教）	講義	2						②		②		②			(本多 彩)	97
	宗教と文化Ⅱ（キリスト教）	講義	2						②		②		②			[穂積 修司]	98
	宗教と文化Ⅲ（イスラム教）	講義	2						②		②		②			[重親 知左子]	99
	生活とデザイン	講義	2						②		②		②			(稲富 恭)	100
	色彩学	講義	2						②		②		②			(浜島 成嘉)	101
	音楽表現	演習	2						②		②		②			[大串 和久]	103
	アメリカ文学	講義	2						②		②		②			(平本 幸治)	104
	論説と評論	講義	2						②		②		②			[安井 重雄]	105
歴史学	講義	2						②		②		②			(金子 哲)	106	
日本語表現法	演習	2						②		②		②			[野田 直恵]	107	
社 会 系	法と社会	講義	2						②		②		②			(今井 俊介)	108
	日本国憲法	講義	2						②		②		②			(今井 俊介)	109
	人権の歴史	講義	2						②		②		②			[中川 智章]	112
	政治学	講義	2						②		②		②			(斎藤 正寿)	113
	国際関係論	講義	2						②		②		②			(斎藤 正寿)	114
	社会学	講義	2						②		②		②			(吉原 恵子)	115
	ジェンダー論	講義	2						②		②		②			(吉原 恵子)	117
経済学	講義	2						②		②		②			(石原 敬子)	120	
自 然 系	数学	講義	2						②		②		②			(山本 真弓)	121
	物理学	講義	2						②		②		②			湯瀬 晶文	122
	化学	講義	2					A	②		②		②			[岡本 一彦]	123
	生物学	講義	2						②	②	②	②	②	②		(本多 久夫)	124
	食と健康	講義	2						②		②		②			亀谷 小枝	125
	コンピュータ応用演習	演習	2						②		②		②			河野 稔	126
目 語 学 系	英語Ⅰ	演習	2						②		②		②			[Michael. H. FOX]	127
	英語Ⅱ	演習	2							②		②					
	英語Ⅲ	演習	2								②		②				
	フランス語Ⅰ	演習	2						②		②		②			[本多 雄一郎]	130
	フランス語Ⅱ	演習	2						②		②		②			[本多 雄一郎]	131
	ドイツ語Ⅰ	演習	2						②		②		②			[竹内 節]	132
	ドイツ語Ⅱ	演習	2						②		②		②			[竹内 節]	133
	中国語Ⅰ	演習	2						②		②		②			[佟 曉寧]	134
	中国語Ⅱ	演習	2						②		②		②			[佟 曉寧]	135
	韓国語Ⅰ	演習	2						②		②		②			[李 知妍]	136
韓国語Ⅱ	演習	2						②		②		②			[李 知妍]	137	

# カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科 平成23年度（2011年度）入学者対象  
 （ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		栄養士	管理栄養士	栄養教諭一種	食品衛生管理者等	学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成23年度の担当者	ページ
			必修	選択					1年		2年		3年		4年			
									I	II	I	II	I	II	I	II		
教育系	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2						②		②		②		②	(三宅 一郎)	138
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2						②		②		②		②	(徳田 泰伸)	139
	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習		2					②		②		②		②		(三宅一)・(徳田)・(樽本)・(矢野)	141
	健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習		2						②		②		②		②	(三宅一)・(徳田)・(樽本)・(矢野)	151
キャリア系	特別講義	講義		2					②		②		②		②			
	私のためのキャリア設計	講義		2					②		②		②		②		[有働 壽恵]	161
	就職基礎能力Ⅰ	講義		2						②		②		②		②	[山本 清美]	162
	就職基礎能力Ⅱ	講義		2							②		②		②			
	就職基礎能力Ⅲ	講義		2								②		②		②		

◇は栄養士免許必修科目

○は管理栄養士国家資格必修科目

△は栄養教諭必修科目、▲は栄養教諭選択科目

※ 食品衛生管理者・食品衛生監視員取得には「化学」を修得すること。……A

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

# カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科 平成22年度（2010年度）入学者対象  
 （ ）は兼任、[ ]は兼任講師

業 区 分	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	単 位 数		栄 養 士	管 理 栄 養 士	栄 養 教 諭 一 種	食 品 衛 生 管 理 者 等	学 年 配 当 (数字は週当り授業時間)								平 成 23 年 度 の 担 当 者	ペ ー ジ
			必 修	選 択					1年		2年		3年		4年			
									I	II	I	II	I	II	I	II		
基 礎 科 目	日本語（読解と表現）	演習	2					2										
	英語	演習	2				△	2										
	コンピュータ演習	演習	2				△	2										
	生物基礎	講義	2					2										
	化学基礎	講義	2					2										
人 文 系	宗教と人生	講義	2					2										
	生命倫理学	講義	2						②		②		②		②	[浅沼 光樹]	86	
	生涯発達心理学	講義	2						②		②		②		②	(森田 義宏)	87	
	人間関係論(含カウンセリング)	講義	2						②		②		②		②	(森田 義宏)	89	
	哲学	講義	2						②		②		②		②	[三浦 摩美]	90	
	文学	講義	2						②		②		②		②	[安井 重雄]	91	
	芸術	講義	2						②		②		②		②	[柳楽 節子]	94	
	芸術	講義	2						②		②		②		②	[岩見 健二]	95	
	心理学	講義	2						②		②		②		②	(北島 律之)	96	
	宗教と文化Ⅰ（仏教）	講義	2						②		②		②		②	(本多 彩)	97	
	宗教と文化Ⅱ（キリスト教）	講義	2						②		②		②		②	[穂積 修司]	98	
	宗教と文化Ⅲ（イスラム教）	講義	2						②		②		②		②	[重親 知左子]	99	
	生活とデザイン	講義	2						②		②		②		②	(稲富 恭)	100	
	色彩学	講義	2						②		②		②		②	(浜島 成嘉)	101	
	音楽表現	演習	2						②		②		②		②	[大串 和久]	103	
	アメリカ文学	講義	2						②		②		②		②	(平本 幸治)	104	
	論説と評論	講義	2						②		②		②		②	[安井 重雄]	105	
	歴史学	講義	2						②		②		②		②	(金子 哲)	106	
	日本語表現法	演習	2						②		②		②		②	[野田 直恵]	107	
	社 会 系	法と社会	講義	2						②		②		②		②	(今井 俊介)	108
日本国憲法		講義	2				△	②		②		②		②	(今井 俊介)	109		
人権の歴史		講義	2					②		②		②		②	[中川 智章]	112		
政治学		講義	2					②		②		②		②	(斎藤 正寿)	113		
国際関係論		講義	2					②		②		②		②	(斎藤 正寿)	114		
社会学		講義	2					②		②		②		②	(吉原 恵子)	115		
ジェンダー論		講義	2					②		②		②		②	(吉原 恵子)	117		
経済学		講義	2					②		②		②		②	(石原 敬子)	120		
自 然 系	数学	講義	2						②		②		②		②	(山本 真弓)	121	
	物理学	講義	2					②		②		②		②	湯瀬 晶文	122		
	化学	講義	2				A	②		②		②		②	[岡本 一彦]	123		
	生物学	講義	2					②	②	②	②	②	②	②	(本多 久夫)	124		
	食と健康	講義	2						②		②		②		②	亀谷 小枝	125	
	コンピュータ応用演習	演習	2						②		②		②		②	河野 稔	126	
目 語 学 系	英語Ⅰ	演習	2						②		②		②		②	[Michael. H. FOX]	127	
	英語Ⅱ	演習	2							②		②		②	[Michael. H. FOX]	128		
	英語Ⅲ	演習	2								②		②		②	[Michael. H. FOX]	129	
	フランス語Ⅰ	演習	2					②		②		②		②	[本多 雄一郎]	130		
	フランス語Ⅱ	演習	2					②		②		②		②	[本多 雄一郎]	131		
	ドイツ語Ⅰ	演習	2					②		②		②		②	[竹内 節]	132		
	ドイツ語Ⅱ	演習	2					②		②		②		②	[竹内 節]	133		
	中国語Ⅰ	演習	2					②		②		②		②	[佟 曉寧]	134		
	中国語Ⅱ	演習	2					②		②		②		②	[佟 曉寧]	135		
	韓国語Ⅰ	演習	2					②		②		②		②	[李 知妍]	136		
韓国語Ⅱ	演習	2					②		②		②		②	[李 知妍]	137			

# カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科 平成22年度（2010年度）入学者対象  
 （ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		栄養士	管 理 栄養士	栄養 教諭 一種	食 品 衛 生 管 理 者 等	学年配当 (数字は週当り授業時間)								平成23年度の 担 当 者	ペー ジ
			必修	選択					1年		2年		3年		4年			
									I	II	I	II	I	II	I	II		
教 育 系	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2						②		②		②		②	(三宅 一郎)	138
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2						②		②		②		②	(徳田 泰伸)	139
	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習		2						②		②		②		②	(三宅一)・(徳田)・(樽本)・(矢野)	141
	健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習		2						②		②		②		②	(三宅一)・(徳田)・(樽本)・(矢野)	151
科 目	特別講義	講義		2						②		②		②				
	私のためのキャリア設計	講義		2						②		②		②			[有働 壽恵]	161
	就職基礎能力Ⅰ	講義		2							②		②		②		[山本 清美]	162
	就職基礎能力Ⅱ	講義		2								②		②		②	[山本 清美]	163
	就職基礎能力Ⅲ	講義		2								②		②		②	[山本 清美]	164

◇は栄養士免許必修科目

○は管理栄養士国家資格必修科目

△は栄養教諭必修科目、▲は栄養教諭選択科目

※ 食品衛生管理者・食品衛生監視員取得には「化学」を修得すること。……A

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

# カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科 平成21年度（2009年度）入学者対象

（ ）は兼任、[ ]は兼任講師

業 区 分	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	単 位 数		栄 養 士	管 理 栄 養 士	栄 養 教 諭 一 種	食 品 衛 生 管 理 者 等	学 年 配 当 (数字は週当たり授業時間)								平 成 23 年 度 の 担 当 者	ペ ー ジ
			必 修	選 択					1年		2年		3年		4年			
									I	II	I	II	I	II	I	II		
基 礎 科 目	日本語（読解と表現）	演習	2					2										
	英語	演習	2				△	2										
	コンピュータ演習	演習	2				△	2										
	生物基礎	講義	2					2										
	化学基礎	講義	2					2										
人 文 系	宗教と人生	講義	2					2										
	生命倫理学	講義	2						②		②		②		②	[浅沼 光樹]	86	
	生涯発達心理学	講義	2						②		②		②		②	(森田 義宏)	87	
	人間関係論(含カウンセリング)	講義	2						②		②		②		②	(森田 義宏)	89	
	哲学	講義	2						②		②		②		②	[三浦 摩美]	90	
	文学	講義	2					②		②		②		②	[安井 重雄]	91		
	芸術	講義	2						②		②		②		②	[柳楽 節子]	94	
	芸術	講義	2						②		②		②		②	[岩見 健二]	95	
	心理学	講義	2					②		②		②		②	(北島 律之)	96		
	宗教と文化Ⅰ（仏教）	講義	2						②		②		②		②	(本多 彩)	97	
	宗教と文化Ⅱ（キリスト教）	講義	2					②		②		②		②	[穂積 修司]	98		
	宗教と文化Ⅲ（イスラム教）	講義	2					②		②		②		②	[重親 知左子]	99		
	生活とデザイン	講義	2					②		②		②		②	(稲富 恭)	100		
	色彩学	講義	2					②		②		②		②	(浜島 成嘉)	101		
	音楽表現	演習	2					②		②		②		②	[大串 和久]	103		
	アメリカ文学	講義	2						②		②		②		②	(平本 幸治)	104	
	論説と評論	講義	2						②		②		②		②	[安井 重雄]	105	
	歴史学	講義	2					②		②		②		②	(金子 哲)	106		
	日本語表現法	演習	2						②		②		②		②	[野田 直恵]	107	
	社 会 系	法と社会	講義	2						②		②		②		②	(今井 俊介)	108
日本国憲法		講義	2				△	②		②		②		②	(今井 俊介)	109		
人権の歴史		講義	2					②		②		②		②	[中川 智章]	112		
政治学		講義	2					②		②		②		②	(斎藤 正寿)	113		
国際関係論		講義	2						②		②		②		②	(斎藤 正寿)	114	
社会学		講義	2					②		②		②		②	(吉原 恵子)	115		
ジェンダー論		講義	2						②		②		②		②	(吉原 恵子)	117	
経済学		講義	2					②		②		②		②	(石原 敬子)	120		
自 然 系	数学	講義	2						②		②		②		②	(山本 真弓)	121	
	物理学	講義	2					②		②		②		②	湯瀬 晶文	122		
	化学	講義	2				A	②		②		②		②	[岡本 一彦]	123		
	生物学	講義	2					②	②	②	②	②	②	②	(本多 久夫)	124		
	食と健康	講義	2						②		②		②		②	亀谷 小枝	125	
	コンピュータ応用演習	演習	2						②		②		②		②	河野 稔	126	
目 語 学 系	英語Ⅰ	演習	2						②		②		②		②	[Michael. H. FOX]	127	
	英語Ⅱ	演習	2							②		②		②	[Michael. H. FOX]	128		
	英語Ⅲ	演習	2								②		②		②	[Michael. H. FOX]	129	
	フランス語Ⅰ	演習	2					②		②		②		②	[本多 雄一郎]	130		
	フランス語Ⅱ	演習	2						②		②		②		②	[本多 雄一郎]	131	
	ドイツ語Ⅰ	演習	2					②		②		②		②	[竹内 節]	132		
	ドイツ語Ⅱ	演習	2						②		②		②		②	[竹内 節]	133	
	中国語Ⅰ	演習	2					②		②		②		②	[佟 曉寧]	134		
	中国語Ⅱ	演習	2						②		②		②		②	[佟 曉寧]	135	
	韓国語Ⅰ	演習	2					②		②		②		②	[李 知妍]	136		
韓国語Ⅱ	演習	2						②		②		②		②	[李 知妍]	137		

# カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科 平成21年度（2009年度）入学者対象  
 ( ) は兼担、[ ] は兼任講師

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		栄養士	管 理 栄養士	栄養 教諭 一種	食 品 衛 生 管 理 者 等	学年配当 (数字は週当り授業時間)								平成23年度の 担 当 者	ペー ジ
			必修	選択					1年		2年		3年		4年			
									I	II	I	II	I	II	I	II		
教 育 系	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2						②		②		②		②	(三宅 一郎)	138
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2						②		②		②		②	(徳田 泰伸)	139
	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習		2					②		②		②		②		(三宅一)・(徳田)・(樽本)・(矢野)	141
	健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習		2						②		②		②		②	(三宅一)・(徳田)・(樽本)・(矢野)	151
科 目	特別講義	講義		2					②		②		②		②			
	私のためのキャリア設計	講義		2					②		②		②		②		[有働 壽恵]	161
	就職基礎能力Ⅰ	講義		2						②		②		②		②	[山本 清美]	162
	就職基礎能力Ⅱ	講義		2							②		②		②		[山本 清美]	163
	就職基礎能力Ⅲ	講義		2							②		②		②		[山本 清美]	164

◇は栄養士免許必修科目

○は管理栄養士国家資格必修科目

△は栄養教諭必修科目、▲は栄養教諭選択科目

※ 食品衛生管理者・食品衛生監視員取得には「化学」を修得すること。……A

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

# カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科 平成20年度（2008年度）入学者対象  
 （ ）は兼担、[ ]は兼任講師

業 区 分	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	単 位 数		栄 養 士	管 理 栄 養 士	栄 養 教 諭 一 種	食 品 衛 生 管 理 者 等	学 年 配 当 (数字は週当り授業時間)								平 成 23 年 度 の 担 当 者	ペ ー ジ	
			必 修	選 択					1年		2年		3年		4年				
									I	II	I	II	I	II	I	II			
基 礎 科 目	日本語（読解と表現）	演習	2					2											
	英語	演習	2				△	2											
	コンピュータ演習	演習	2				△	2											
	生物基礎	講義	2					2											
	化学基礎	講義	2					2											
人 文 系	宗教と人生	講義	2					2											
	哲学	講義	2						②		②		②		②		[三浦 摩美]	91	
	文学	講義	2						②		②		②		②		[安井 重雄]	91	
	芸術	講義	2							②		②		②		②		[柳楽 節子]	94
	芸術	講義	2							②		②		②		②		[岩見 健二]	95
	心理学	講義	2						②		②		②		②		(北島 律之)	96	
	宗教と文化Ⅰ（仏教）	講義	2							②		②		②		②		(本多 彩)	97
	宗教と文化Ⅱ（キリスト教）	講義	2							②		②		②		②		[穂積 修司]	98
	宗教と文化Ⅲ（イスラム教）	講義	2							②		②		②		②		[重親 知左子]	99
	生活美学	講義	2						②		②		②		②		(稲富 恭)	100	
	色彩学	講義	2						②		②		②		②		(浜島 成嘉)	101	
	音楽表現Ⅰ	演習	2						②		②		②		②		[大串 和久]	103	
	音楽表現Ⅱ	演習	2							②		②		②		②		不開講	
	アメリカ文学	講義	2							②		②		②		②		(平本 幸治)	104
	英語コミュニケーション	講義	2							②		②		②		②		不開講	
	生命倫理学	講義	2							②		②		②		②		[浅沼 光樹]	86
	論説と評論	講義	2							②		②		②		②		[安井 重雄]	105
	社 会 系	歴史学	講義	2						②		②		②		②		(金子 哲)	106
		法と社会	講義	2							②		②		②		②	(今井 俊介)	108
		日本国憲法	講義	2					△	②		②		②		②		(今井 俊介)	109
人権の歴史		講義	2						②		②		②		②		[中川 智章]	112	
政治学		講義	2						②		②		②		②		(斎藤 正寿)	113	
国際関係論		講義	2							②		②		②		②	(斎藤 正寿)	114	
ジェンダー論		講義	2							②		②		②		②	(吉原 恵子)	117	
自 然 系	数学	講義	2							②		②		②		②	(山本 真弓)	121	
	物理学	講義	2						②		②		②		②		湯瀬 晶文	122	
	化学	講義	2					A	②		②		②		②		[岡本 一彦]	123	
	生物学	講義	2						②	②	②	②	②	②	②		(本多 久夫)	124	
	食と健康	講義	2							②		②		②		②	亀谷 小枝	125	
語 学 系	英語Ⅰ (TOEIC 400)	演習	2							②		②		②		②		不開講	
	英語Ⅱ (TOEIC 500)	演習	2							②		②		②		②		不開講	
	英語Ⅲ (TOEIC 600+)	演習	2							②		②		②		②		不開講	
	フランス語Ⅰ	演習	2						②		②		②		②		[本多 雄一郎]	130	
	フランス語Ⅱ	演習	2							②		②		②		②		[本多 雄一郎]	131
	ドイツ語Ⅰ	演習	2						②		②		②		②		[竹内 節]	132	
	ドイツ語Ⅱ	演習	2							②		②		②		②		[竹内 節]	133
	中国語Ⅰ	演習	2						②		②		②		②		[佟 曉寧]	134	
中国語Ⅱ	演習	2							②		②		②		②		[佟 曉寧]	135	
体 育 系	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2							②		②		②		②		(三宅 一郎)	138
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2							②		②		②		②		(徳田 泰伸)	139
	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習	2				△		②		②		②		②		(三宅一)・(徳田)・(橋本)・(矢野)	141	
	健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習	2						②		②		②		②		(三宅一)・(徳田)・(橋本)・(矢野)	151	

# カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科 平成20年度（2008年度）入学者対象  
 （ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		栄養士	管 理 栄養士	栄養 教諭 一種	食 品 衛 生 管 理 者 等	学年配当 (数字は週当り授業時間)								平成23年度の 担 当 者	ペー ジ	
			必修	選択					1年		2年		3年		4年				
									I	II	I	II	I	II	I	II			
教 養 科 目	放送大学科目 (別表1)																		
	大学洋上セミナー I	講義	4					④		④		④		④				不開講	
	大学洋上セミナー II	講義	2					②		②		②		②				不開講	
	特別講義 I	講義	1					①		①		①		①				不開講	
	特別講義 II	講義	1						①		①		①		①			不開講	
	特別演習 I	演習	2						2										
	特別演習 II	演習	2							2									
	私のためのキャリア設計	講義	2					②		②		②		②				[有働 壽恵]	161
	就職基礎能力 I	講義	2						②		②		②		②			[山本 清美]	162
	就職基礎能力 II	講義	2							②		②		②				[山本 清美]	163
	就職基礎能力 III	講義	2								②		②		②			[山本 清美]	164

◇は栄養士免許必修科目

○は管理栄養士国家資格必修科目

△は栄養教諭必修科目、▲は栄養教諭選択科目

※ 食品衛生管理者・食品衛生監視員取得には「化学」を修得すること。……A

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。





# 健康システム学科

基礎・教養科目

(平成 23 年度(2011 年度)開講科目)

# カリキュラム年次配当表

健康システム学科 平成23年度（2011年度）入学者対象

（ ）は兼任、[ ]は兼任講師

授業 科目 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		健康 運動 実践 指導者	教員免許関係			学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成23年度の 担当者	ページ	
			必修	選択		養護	保健 体育	保健	1年		2年		3年		4年				
									I	II	I	II	I	II	I	II			
基礎 科目	日本語（読解と表現）	演習	2						2								[安井]・[野田]・[辻本]	55	
	英語	演習	2			○	△	□	2								平本 幸治	59	
	英語	演習	2			○	△	□	2								[小泉 毅]	62	
	英語	演習	2			○	△	□	2								[Michael. H. FOX]	66	
	コンピュータ演習	演習	2						2								(西田 悦雄)	69	
	コンピュータ演習	演習	2			○	△	□	2								河野 稔	70	
	コンピュータ演習	演習	2						2								[佐竹 邦子]	74	
	生物基礎	講義		※2					2								[来田村]・[田中]・[池内]	79	
化学基礎	講義							2								[廣井]・[中本]・[田中]	82		
人文 系	宗教と人生	講義	2							2							(本多 彩)	84	
	生命倫理学	講義	2							②		②		②			[浅沼 光樹]	86	
	生涯発達心理学	講義	2							②		②		②			(森田 義宏)	88	
	哲学	講義	2							②		②		②			[三浦 摩美]	90	
	文学	講義	2							②		②		②			[安井 重雄]	91	
	芸術	講義	2							②		②		②			[柳楽 節子]	94	
	芸術	講義	2							②		②		②			[岩見 健二]	95	
	心理学	講義	2							②		②		②			(北島 律之)	96	
	宗教と文化Ⅰ（仏教）	講義	2							②		②		②			(本多 彩)	97	
	宗教と文化Ⅱ（キリスト教）	講義	2							②		②		②			[穂積 修司]	98	
	宗教と文化Ⅲ（イスラム教）	講義	2							②		②		②			[重親 知左子]	99	
	生活とデザイン	講義	2							②		②		②			(稲富 恭)	100	
	色彩学	講義	2							②		②		②			(浜島 成嘉)	101	
	音楽表現	演習	2							②		②		②			[大串 和久]	103	
	アメリカ文学	講義	2							②		②		②			平本 幸治	104	
	論説と評論	講義	2							②		②		②			[安井 重雄]	105	
	歴史学	講義	2							②		②		②			(金子 哲)	106	
	日本語表現法	演習	2							②		②		②			[野田 直恵]	107	
	社会 系	法と社会	講義	2							②		②		②			(今井 俊介)	108
		日本国憲法	講義	2			○	△	□	②		②		②				(今井 俊介)	109
人権の歴史		講義	2							②		②		②			[中川 智章]	112	
政治学		講義	2							②		②		②			(斎藤 正寿)	113	
国際関係論		講義	2							②		②		②			(斎藤 正寿)	114	
社会学		講義	2							②		②		②			(吉原 恵子)	115	
ジェンダー論		講義	2							②		②		②			(吉原 恵子)	117	
経済学		講義	2							②		②		②			(石原 敬子)	120	
自然 系	数学	講義	2							②		②		②			(山本 真弓)	121	
	物理学	講義	2							②		②		②			(湯瀬 晶文)	122	
	化学	講義	2							②		②		②			[岡本 一彦]	123	
	生物学	講義	2							②	②	②	②	②	②		(本多 久夫)	124	
	食と健康	講義	2							②		②		②			(亀谷 小枝)	125	
	語 学 系	英語Ⅰ	演習	2							②		②		②			[Michael. H. FOX]	127
英語Ⅱ		演習	2								②		②						
英語Ⅲ		演習	2									②		②					
フランス語Ⅰ		演習	2							②		②		②			[本多 雄一郎]	130	
フランス語Ⅱ		演習	2							②		②		②			[本多 雄一郎]	131	
ドイツ語Ⅰ		演習	2							②		②		②			[竹内 節]	132	
ドイツ語Ⅱ		演習	2							②		②		②			[竹内 節]	133	
中国語Ⅰ		演習	2							②		②		②			[佟 曉寧]	134	
中国語Ⅱ		演習	2							②		②		②			[佟 曉寧]	135	
韓国語Ⅰ		演習	2							②		②		②			[李 知妍]	136	
韓国語Ⅱ	演習	2							②		②		②			[李 知妍]	137		
体育 系	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2							②		②		②			三宅 一郎	138	
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2							②		②		②			徳田 泰伸	139	
	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習	2			○	△	□	②		②		②				三宅一・徳田・樽本・矢野	141	
	健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習	2						②		②		②				三宅一・徳田・樽本・矢野	151	

# カリキュラム年次配当表

健康システム学科 平成23年度（2011年度）入学者対象  
 ( )は兼担、[ ]は兼任講師

授 業 区 分	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	単 位 数		健 康 運 動 実 践 指 導 者	教 員 免 許 関 係			学 年 配 当 (数字は週当り授業時間)								平 成 23 年 度 の 担 当 者	ペ ー ジ
			必 修	選 択		養 護	保 健 体 育	保 健	1年		2年		3年		4年			
									I	II	I	II	I	II	I	II		
教 養 科 目	特別講義	講義		2					②		②		②		②			
	私のためのキャリア設計	講義		2					②		②		②		②		[有働 壽恵]	161
	就職基礎能力Ⅰ	講義		2						②		②		②		②	[山本 清美]	162
	就職基礎能力Ⅱ	講義		2							②		②		②			
	就職基礎能力Ⅲ	講義		2								②		②		②		

◇は健康運動実践指導者養成科目

○は養護教諭免許必修科目、●は養護教諭免許選択科目

△は保健体育免許必修科目、▲は保健体育免許選択科目

□は保健免許必修科目、■は保健免許選択科目

※ 基礎科目のうち、「生物基礎」又は「化学基礎」を1科目選択必修（卒業要件）

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

# カリキュラム年次配当表

健康システム学科 平成22年度（2010年度）入学者対象  
（ ）は兼担、[ ]は兼任講師

業 区 分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		健康 運動 実践 指導者	教員免許関係			学年配当 (数字は週当り授業時間)								平成23年度の 担 当 者	ペー ジ
			必修	選択		養護	保健 体育	保健	1年		2年		3年		4年			
									I	II	I	II	I	II	I	II		
基礎 科目	日本語（読解と表現）	演習	2						2									
	英語	演習	2			○	△	□	2									
	コンピュータ演習	演習	2			○	△	□	2									
	生物基礎	講義		※2					2									
	化学基礎	講義							2									
人 文 系	宗教と人生	講義	2						2									
	生命倫理学	講義	2							②		②		②		②	[浅沼 光樹]	86
	哲学	講義	2							②		②		②		②	[三浦 摩美]	90
	文学	講義	2						②		②		②		②		[安井 重雄]	91
	芸術	講義	2							②		②		②		②	[柳楽 節子]	94
	芸術	講義	2							②		②		②		②	[岩見 健二]	95
	心理学	講義	2						②		②		②		②		(北島 律之)	96
	宗教と文化Ⅰ（仏教）	講義	2							②		②		②		②	(本多 彩)	97
	宗教と文化Ⅱ（キリスト教）	講義	2							②		②		②		②	[穂積 修司]	98
	宗教と文化Ⅲ（イスラム教）	講義	2							②		②		②		②	[重親 知左子]	99
	生活とデザイン	講義	2						②		②		②		②		(稲富 恭)	100
	色彩学	講義	2						②		②		②		②		(浜島 成嘉)	101
	音楽表現	演習	2						②		②		②		②		[大串 和久]	103
	アメリカ文学	講義	2							②		②		②		②	平本 幸治	104
	論説と評論	講義	2							②		②		②		②	[安井 重雄]	105
	歴史学	講義	2						②		②		②		②		(金子 哲)	106
	日本語表現法	演習	2							②		②		②		②	[野田 直恵]	107
法 社 会 系	法と社会	講義	2						②		②		②		②		(今井 俊介)	108
	日本国憲法	講義	2			○	△	□	②		②		②		②		(今井 俊介)	109
	人権の歴史	講義	2						②		②		②		②		[中川 智章]	112
	政治学	講義	2						②		②		②		②		(斎藤 正寿)	113
	国際関係論	講義	2						②		②		②		②		(斎藤 正寿)	114
	社会学	講義	2						②		②		②		②		(吉原 恵子)	115
	ジェンダー論	講義	2						②		②		②		②		(吉原 恵子)	117
	経済学	講義	2						②		②		②		②		(石原 敬子)	120
自 然 系	数学	講義	2						②		②		②		②		(山本 真弓)	121
	物理学	講義	2						②		②		②		②		(湯瀬 晶文)	122
	化学	講義	2						②		②		②		②		[岡本 一彦]	123
	生物学	講義	2						②	②	②	②	②	②	②		(本多 久夫)	124
	食と健康	講義	2						②		②		②		②		(亀谷 小枝)	125
語 学 系	英語Ⅰ	演習	2						②		②		②		②		[Michael. H. FOX]	127
	英語Ⅱ	演習	2							②		②		②			[Michael. H. FOX]	128
	英語Ⅲ	演習	2								②		②		②		[Michael. H. FOX]	129
	フランス語Ⅰ	演習	2						②		②		②		②		[本多 雄一郎]	130
	フランス語Ⅱ	演習	2						②		②		②		②		[本多 雄一郎]	131
	ドイツ語Ⅰ	演習	2						②		②		②		②		[竹内 節]	132
	ドイツ語Ⅱ	演習	2						②		②		②		②		[竹内 節]	133
	中国語Ⅰ	演習	2						②		②		②		②		[佟 曉寧]	134
	中国語Ⅱ	演習	2						②		②		②		②		[佟 曉寧]	135
	韓国語Ⅰ	演習	2						②		②		②		②		[李 知妍]	136
韓国語Ⅱ	演習	2						②		②		②		②		[李 知妍]	137	
体 育 系	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2						②		②		②		②		三宅 一郎	138
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2						②		②		②		②		徳田 泰伸	139
	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習	2			○	△	□	②		②		②		②		三宅一・徳田・樽本・矢野	141
	健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習	2						②		②		②		②		三宅一・徳田・樽本・矢野	151

# カリキュラム年次配当表

健康システム学科 平成22年度（2010年度）入学者対象  
 （ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授 業 区 分	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	単 位 数		健 康 運 動 実 践 指 導 者	教 員 免 許 関 係			学 年 配 当 (数字は週当り授業時間)								平 成 23 年 度 の 担 当 者	ペ ー ジ
			必 修	選 択		養 護	保 健 体 育	保 健	1年		2年		3年		4年			
									I	II	I	II	I	II	I	II		
教 養 科 目	特別講義	講義		2					②		②		②		②			
	私のためのキャリア設計	講義		2					②		②		②		②		[有働 壽恵]	161
	就職基礎能力Ⅰ	講義		2						②		②		②		②	[山本 清美]	162
	就職基礎能力Ⅱ	講義		2							②		②		②		[山本 清美]	163
	就職基礎能力Ⅲ	講義		2								②		②		②	[山本 清美]	164

◇は健康運動実践指導者養成科目

○は養護教諭免許必修科目、●は養護教諭免許選択科目

△は保健体育免許必修科目、▲は保健体育免許選択科目

□は保健免許必修科目、■は保健免許選択科目

※ 基礎科目のうち、「生物基礎」又は「化学基礎」を1科目選択必修（卒業要件）

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

# カリキュラム年次配当表

健康システム学科 平成21年度（2009年度）入学者対象  
（ ）は兼担、[ ]は兼任講師

業 区 分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		健康 運動 実践 指導者	教員免許関係			学年配当 (数字は週当り授業時間)								平成23年度の 担 当 者	ペー ジ
						養護	保健 体育	保健	1年		2年		3年		4年			
									I	II	I	II	I	II	I	II		
基礎 科目	日本語（読解と表現）	演習	2						2									
	英語	演習	2			○	△	□	2									
	コンピュータ演習	演習	2			○	△	□	2									
	生物基礎	講義		※2					2									
	化学基礎	講義							2									
人 文 系	宗教と人生	講義	2						2									
	生命倫理学	講義	2							②		②		②		②	[浅沼 光樹]	86
	哲学	講義	2							②		②		②		②	[三浦 摩美]	90
	文学	講義	2						②		②		②		②		[安井 重雄]	91
	芸術	講義	2							②		②		②		②	[柳楽 節子]	94
	芸術	講義	2							②		②		②		②	[岩見 健二]	95
	心理学	講義	2						②		②		②		②		(北島 律之)	96
	宗教と文化Ⅰ（仏教）	講義	2							②		②		②		②	(本多 彩)	97
	宗教と文化Ⅱ（キリスト教）	講義	2							②		②		②		②	[穂積 修司]	98
	宗教と文化Ⅲ（イスラム教）	講義	2							②		②		②		②	[重親 知左子]	99
	生活とデザイン	講義	2						②		②		②		②		(稲富 恭)	100
	色彩学	講義	2						②		②		②		②		(浜島 成嘉)	101
	音楽表現	演習	2						②		②		②		②		[大串 和久]	103
	アメリカ文学	講義	2							②		②		②		②	平本 幸治	104
	論説と評論	講義	2							②		②		②		②	[安井 重雄]	105
	歴史学	講義	2						②		②		②		②		(金子 哲)	106
	日本語表現法	演習	2							②		②		②		②	[野田 直恵]	107
法 学 系	法と社会	講義	2						②		②		②		②		(今井 俊介)	108
	日本国憲法	講義	2			○	△	□	②		②		②		②		(今井 俊介)	109
	人権の歴史	講義	2						②		②		②		②		[中川 智章]	112
	政治学	講義	2						②		②		②		②		(斎藤 正寿)	113
	国際関係論	講義	2						②		②		②		②		(斎藤 正寿)	114
	社会学	講義	2						②		②		②		②		(吉原 恵子)	115
	ジェンダー論	講義	2						②		②		②		②		(吉原 恵子)	117
	経済学	講義	2						②		②		②		②		(石原 敬子)	120
自 然 系	数学	講義	2						②		②		②		②		(山本 真弓)	121
	物理学	講義	2						②		②		②		②		(湯瀬 晶文)	122
	化学	講義	2						②		②		②		②		[岡本 一彦]	123
	生物学	講義	2						②	②	②	②	②	②	②		(本多 久夫)	124
	食と健康	講義	2						②		②		②		②		(亀谷 小枝)	125
語 学 系	英語Ⅰ	演習	2						②		②		②		②		[Michael. H. FOX]	127
	英語Ⅱ	演習	2							②		②		②			[Michael. H. FOX]	128
	英語Ⅲ	演習	2								②		②		②		[Michael. H. FOX]	129
	フランス語Ⅰ	演習	2						②		②		②		②		[本多 雄一郎]	130
	フランス語Ⅱ	演習	2						②		②		②		②		[本多 雄一郎]	131
	ドイツ語Ⅰ	演習	2						②		②		②		②		[竹内 節]	132
	ドイツ語Ⅱ	演習	2						②		②		②		②		[竹内 節]	133
	中国語Ⅰ	演習	2						②		②		②		②		[佟 曉寧]	134
	中国語Ⅱ	演習	2						②		②		②		②		[佟 曉寧]	135
	韓国語Ⅰ	演習	2						②		②		②		②		[李 知妍]	136
韓国語Ⅱ	演習	2						②		②		②		②		[李 知妍]	137	
体 育 系	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2						②		②		②		②		三宅 一郎	138
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2						②		②		②		②		徳田 泰伸	139
	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習	2			○	△	□	②		②		②		②		三宅一・徳田・樽本・矢野	141
	健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習	2						②		②		②		②		三宅一・徳田・樽本・矢野	151

## カリキュラム年次配当表

健康システム学科 平成21年度（2009年度）入学者対象

（ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授 業 区 分	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	単 位 数		健 康 運 動 実 践 指 導 者	教 員 免 許 関 係			学 年 配 当 (数字は週当り授業時間)								平 成 23 年 度 の 担 当 者	ペ ー ジ
			必 修	選 択		養 護	保 健 体 育	保 健	1年		2年		3年		4年			
									I	II	I	II	I	II	I	II		
教 養 科 目	特別講義	講義		2					②		②		②		②			
	私のためのキャリア設計	講義		2					②		②		②		②		[有働 壽恵]	161
	就職基礎能力Ⅰ	講義		2						②	②		②		②		[山本 清美]	162
	就職基礎能力Ⅱ	講義		2							②		②		②		[山本 清美]	163
	就職基礎能力Ⅲ	講義		2									②		②		[山本 清美]	164

◇は健康運動実践指導者養成科目

○は養護教諭免許必修科目、●は養護教諭免許選択科目

△は保健体育免許必修科目、▲は保健体育免許選択科目

□は保健免許必修科目、■は保健免許選択科目

※ 基礎科目のうち、「生物基礎」又は「化学基礎」を1科目選択必修（卒業要件）

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。



# カリキュラム年次配当表

健康システム学科 平成20年度（2008年度）入学者対象  
（ ）は兼担、[ ]は兼任講師

業 区 分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		健康 運動 実践 指導者	教員免許関係			学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成23年度の 担 当 者	ペー ジ	
						養護	保健 体育	保健	1年		2年		3年		4年				
									I	II	I	II	I	II	I	II			
基礎 科目	日本語（読解と表現）	演習	2						2										
	英語	演習	2			○	△	□	2										
	コンピュータ演習	演習	2			○	△	□	2										
	生物基礎	講義		※2					2										
	化学基礎	講義							2										
人 文 系	宗教と人生	講義	2						2										
	哲学	講義	2							②		②		②		②	[三浦 摩美]	90	
	文学	講義	2						②		②		②		②		[安井 重雄]	91	
	芸術	講義	2							②		②		②		②	[柳楽 節子]	94	
	芸術	講義	2							②		②		②		②	[岩見 健二]	95	
	心理学	講義	2						②		②		②		②		(北島 律之)	96	
	宗教と文化Ⅰ（仏教）	講義	2						②		②		②		②		(本多 彩)	97	
	宗教と文化Ⅱ（キリスト教）	講義	2						②		②		②		②		[穂積 修司]	98	
	宗教と文化Ⅲ（イスラム教）	講義	2						②		②		②		②		[重親 知左子]	99	
	生活美学	講義	2						②		②		②		②		(稲富 恭)	100	
	色彩学	講義	2						②		②		②		②		(浜島 成嘉)	101	
	音楽表現Ⅰ	演習	2						②		②		②		②		[大串 和久]	103	
	音楽表現Ⅱ	演習	2							②		②		②		②		不開講	
	アメリカ文学	講義	2							②		②		②		②		平本 幸治	104
	英語コミュニケーション	講義	2							②		②		②		②		不開講	
	生命倫理学	講義	2							②		②		②		②		[浅沼 光樹]	86
	論説と評論	講義	2							②		②		②		②		[安井 重雄]	105
	社 会 系	歴史学	講義	2						②		②		②		②		(金子 哲)	106
		法と社会	講義	2						②		②		②		②		(今井 俊介)	108
		日本国憲法	講義	2			○	△	□	②		②		②		②		(今井 俊介)	109
人権の歴史		講義	2						②		②		②		②		[中川 智章]	112	
政治学		講義	2						②		②		②		②		(斎藤 正寿)	113	
国際関係論		講義	2						②		②		②		②		(斎藤 正寿)	114	
ジェンダー論		講義	2						②		②		②		②		(吉原 恵子)	117	
自 然 系	数学	講義	2							②		②		②		②	(山本 真弓)	121	
	物理学	講義	2						②		②		②		②		(湯瀬 晶文)	122	
	化学	講義	2						②		②		②		②		[岡本 一彦]	123	
	生物学	講義	2						②	②	②	②	②	②	②		(本多 久夫)	124	
	食と健康	講義	2						②		②		②		②		(亀谷 小枝)	125	
語 学 系	英語Ⅰ (TOEIC 400)	演習	2							②		②		②		②		不開講	
	英語Ⅱ (TOEIC 500)	演習	2							②		②		②		②		不開講	
	英語Ⅲ (TOEIC 600+)	演習	2							②		②		②		②		不開講	
	フランス語Ⅰ	演習	2						②		②		②		②		[本多 雄一郎]	130	
	フランス語Ⅱ	演習	2						②		②		②		②		[本多 雄一郎]	131	
	ドイツ語Ⅰ	演習	2						②		②		②		②		[竹内 節]	132	
	ドイツ語Ⅱ	演習	2						②		②		②		②		[竹内 節]	133	
	中国語Ⅰ	演習	2						②		②		②		②		[佟 曉寧]	134	
中国語Ⅱ	演習	2						②		②		②		②		[佟 曉寧]	135		
体 育 系	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2							②		②		②		②		三宅 一郎	138
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2							②		②		②		②		徳田 泰伸	139
	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習	2			○	△	□	②		②		②		②		②	三宅一・徳田・樽本・矢野	141
	健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習	2						②		②		②		②		②	三宅一・徳田・樽本・矢野	151

# カリキュラム年次配当表

健康システム学科 平成20年度（2008年度）入学者対象  
 （ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授 業 区 分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		健康 運動 実践 指導者	教員免許関係			学年配当 (数字は週当り授業時間)								平成23年度の 担 当 者	ペー ジ	
			必修	選択		養護	保健 体育	保健	1年		2年		3年		4年				
									I	II	I	II	I	II	I	II			
教 養 科 目	放送大学科目 (別表1)																		
	大学洋上セミナーⅠ	講義	4						④		④		④		④			不開講	
	大学洋上セミナーⅡ	講義	2						②		②		②		②			不開講	
	特別講義Ⅰ	講義	1						①		①		①		①			不開講	
	特別講義Ⅱ	講義	1							①		①		①		①		不開講	
	特別演習Ⅰ	演習	2							2									
	特別演習Ⅱ	演習	2								2								
	私のためのキャリア設計	講義	2						②		②		②		②			[有働 壽恵]	161
	就職基礎能力Ⅰ	講義	2							②		②		②		②		[山本 清美]	162
	就職基礎能力Ⅱ	講義	2								②		②		②			[山本 清美]	163
	就職基礎能力Ⅲ	講義	2									②		②		②		[山本 清美]	164

◇は健康運動実践指導者養成科目

○は養護教諭免許必修科目、●は養護教諭免許選択科目

△は保健体育免許必修科目、▲は保健体育免許選択科目

□は保健免許必修科目、■は保健免許選択科目

※ 基礎科目のうち、「生物基礎」又は「化学基礎」を1科目選択必修（卒業要件）

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。



# 看護学科

基礎・教養科目

(平成 23 年度(2011 年度)開講科目)

カリキュラム年次配当表

看護学科 平成23年度（2011年度）入学者対象  
（ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		看護師	保健師	養護教諭一種	学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成23年度の担当者	ページ
								1年		2年		3年		4年			
								I	II	I	II	I	II	I	II		
基礎科目	日本語（読解と表現）	演習	2		◇	□		2							[安井]・[野田]・[辻本]	55	
	英語	演習	2		◇	□	○	2							(平本 幸治)	59	
	英語	演習	2		◇	□	○	2							[小泉 毅]	62	
	英語	演習	2		◇	□	○	2							[Michael. H. FOX]	66	
	コンピュータ演習	演習	2					2							(西田 悦雄)	69	
	コンピュータ演習	演習	2		◇	□	○	2							(河野 稔)	70	
	コンピュータ演習	演習	2					2							[佐竹 邦子]	74	
	生物基礎	講義	2		◇	□		2							[米田村]・[田中]・[池内]	78	
	化学基礎	講義	2		◇	□		2							[廣井]・[中本]・[田中]	81	
人文系	宗教と人生	講義	2		◇	□		2							(本多 彩)	83	
	生命倫理学	講義	2		◆	■		②		②		②			[浅沼 光樹]	86	
	生涯発達心理学	講義	2		◆	■		②		②		②			(森田 義宏)	87	
	人間関係論（含カウンセリング）	講義	2		◆	■		②		②		②			(森田 義宏)	89	
	哲学	講義	2		◆	■		②		②		②			[三浦 摩美]	90	
	文学	講義	2		◆	■		②		②		②			[安井 重雄]	91	
	芸術	講義	2		◆	■		②		②		②			[柳楽 節子]	94	
	芸術	講義	2		◆	■		②		②		②			[岩見 健二]	95	
	心理学	講義	2		◆	■		②		②		②			(北島 律之)	96	
	宗教と文化Ⅰ（仏教）	講義	2		◆	■		②		②		②			(本多 彩)	97	
	宗教と文化Ⅱ（キリスト教）	講義	2		◆	■		②		②		②			[穂積 修司]	98	
	宗教と文化Ⅲ（イスラム教）	講義	2		◆	■		②		②		②			[重親 知左子]	99	
	生活とデザイン	講義	2		◆	■		②		②		②			(稲富 恭)	100	
	色彩学	講義	2		◆	■		②		②		②			(浜島 成嘉)	101	
	音楽表現	演習	2		◆	■		②		②		②			[大串 和久]	103	
	アメリカ文学	講義	2		◆	■		②		②		②			(平本 幸治)	104	
	論説と評論	講義	2		◆	■		②		②		②			[安井 重雄]	105	
	歴史学	講義	2		◆	■		②		②		②			(金子 哲)	106	
	日本語表現法	演習	2		◆	■		②		②		②			[野田 直恵]	107	
	社会系	法と社会	講義	2		◆	■		②		②		②			(今井 俊介)	108
		日本国憲法	講義	2		◆	■	○	②		②		②			(今井 俊介)	109
		人権の歴史	講義	2		◆	■		②		②		②			[中川 智章]	112
		政治学	講義	2		◆	■		②		②		②			(齋藤 正寿)	113
		国際関係論	講義	2		◆	■		②		②		②			(齋藤 正寿)	114
		社会学	講義	2		◆	■		②		②		②			(吉原 恵子)	115
		ジェンダー論	講義	2		◆	■		②		②		②			(吉原 恵子)	117
		経済学	講義	2		◆	■		②		②		②			(石原 敬子)	120
自然系		数学	講義	2		◆	■		②		②		②			(山本 真弓)	121
	物理学	講義	2		◆	■		②		②		②			(湯瀬 晶文)	122	
	化学	講義	2		◆	■		②		②		②			[岡本 一彦]	123	
	生物学	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②	②		本多 久夫	124	
	食と健康	講義	2		◆	■		②		②		②			(亀谷 小枝)	125	
	コンピュータ応用演習	演習	2		◆	■		②		②		②			河野 稔	126	
言語学系	英語Ⅰ	演習	2		◆	■		②		②		②			[Michael. H. FOX]	127	
	英語Ⅱ	演習	2		◆	■			②		②						
	英語Ⅲ	演習	2		◆	■				②		②					
	フランス語Ⅰ	演習	2		◆	■		②		②		②			[本多 雄一郎]	130	
	フランス語Ⅱ	演習	2		◆	■		②		②		②			[本多 雄一郎]	131	
	ドイツ語Ⅰ	演習	2		◆	■		②		②		②			[竹内 節]	132	
	ドイツ語Ⅱ	演習	2		◆	■		②		②		②			[竹内 節]	133	
	中国語Ⅰ	演習	2		◆	■		②		②		②			[佟 曉寧]	134	
	中国語Ⅱ	演習	2		◆	■		②		②		②			[佟 曉寧]	135	
	韓国語Ⅰ	演習	2		◆	■		②		②		②			[李 知妍]	136	
韓国語Ⅱ	演習	2		◆	■		②		②		②			[李 知妍]	137		
体育系	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2		◆	■		②		②		②			(三宅 一郎)	138	
	健康・スポーツ科学Ⅰ（演習）	演習	2		◆	■	○	②		②		②			(徳田 泰伸)	139	
	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習	2		◆	■		②		②		②			(三宅一)・(徳田)・(榎本)・(矢野)	141	
	健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習	2		◆	■		②		②		②			(三宅一)・(徳田)・(榎本)・(矢野)	151	

## カリキュラム年次配当表

看護学科 平成23年度（2011年度）入学者対象  
 （ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		看護師	保健師	養護 教諭 一種	学年配当 (数字は週当り授業時間)								平成23年度の 担当者	ページ
			必修	選択				1年		2年		3年		4年			
								I	II	I	II	I	II	I	II		
教 養 科 目	特別講義	講義	2		◆	■		②		②		②		②			
	私のためのキャリア設計	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[有働 壽恵]	161
	就職基礎能力 I	講義	2		◆	■			②		②		②			[山本 清美]	162
	就職基礎能力 II	講義	2		◆	■				②		②		②			
	就職基礎能力 III	講義	2		◆	■					②		②		②		

◇は看護師国家試験受験資格必修科目、◆は看護師国家試験受験資格選択科目（10単位以上必要）

□は保健師国家試験受験資格必修科目、■は保健師国家試験受験資格選択科目（10単位以上必要）

○は養護教諭免許必修科目、●は養護教諭免許選択科目

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

# カリキュラム年次配当表

看護学科 平成22年度（2010年度）入学者対象  
 （ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授業 科目 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		看護師	保健師	養護 教諭 一種	学年配当 (数字は週当り授業時間)								平成23年度の 担当者	ページ
			必修	選択				1年		2年		3年		4年			
								I	II	I	II	I	II	I	II		
基礎 科目	日本語（読解と表現）	演習	2		◇	□		2									
	英語	演習	2		◇	□	○	2									
	コンピュータ演習	演習	2		◇	□	○	2									
	生物基礎	講義	2		◇	□		2									
	化学基礎	講義	2		◇	□		2									
教 文 系	宗教と人生	講義	2		◇	□		2									
	生命倫理学	講義	2		◆	■			②	②	②	②		[浅沼 光樹]	86		
	生涯発達心理学	講義	2		◆	■			②	②	②	②		(森田 義宏)	87		
	人間関係論（含カウンセリング）	講義	2		◆	■			②	②	②	②		(森田 義宏)	89		
	哲学	講義	2		◆	■			②	②	②	②		[三浦 摩美]	90		
	文学	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②		[安井 重雄]	91		
	芸術	講義	2		◆	■			②	②	②	②		[柳楽 節子]	94		
	芸術	講義	2		◆	■			②	②	②	②		[岩見 健二]	95		
	心理学	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②		(北島 律之)	96		
	宗教と文化Ⅰ（仏教）	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②		(本多 彩)	97		
	宗教と文化Ⅱ（キリスト教）	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②		[穂積 修司]	98		
	宗教と文化Ⅲ（イスラム教）	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②		[重親 知左子]	99		
	生活とデザイン	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②		(稲富 恭)	100		
	色彩学	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②		(浜島 成嘉)	101		
	音楽表現	演習	2		◆	■		②	②	②	②	②		[大串 和久]	103		
	アメリカ文学	講義	2		◆	■			②	②	②	②		(平本 幸治)	104		
	論説と評論	講義	2		◆	■			②	②	②	②		[安井 重雄]	105		
	歴史学	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②		(金子 哲)	106		
	日本語表現法	演習	2		◆	■		②	②	②	②	②		[野田 直恵]	107		
	社 会 系	法と社会	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②		(今井 俊介)	108	
日本国憲法		講義	2		◆	■	○	②	②	②	②	②		(今井 俊介)	109		
人権の歴史		講義	2		◆	■		②	②	②	②	②		[中川 智章]	112		
政治学		講義	2		◆	■		②	②	②	②	②		(斎藤 正寿)	113		
国際関係論		講義	2		◆	■		②	②	②	②	②		(斎藤 正寿)	114		
社会学		講義	2		◆	■		②	②	②	②	②		(吉原 恵子)	115		
ジェンダー論		講義	2		◆	■		②	②	②	②	②		(吉原 恵子)	117		
経済学		講義	2		◆	■		②	②	②	②	②		(石原 敬子)	120		
自 然 系		数学	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②		(山本 真弓)	121	
	物理学	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②		(湯瀬 晶文)	122		
	化学	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②		[岡本 一彦]	123		
	生物学	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②		本多 久夫	124		
	食と健康	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②		(亀谷 小枝)	125		
	コンピュータ応用演習	演習	2		◆	■		②	②	②	②	②		河野 稔	126		
	語 学 系	英語Ⅰ	演習	2		◆	■		②	②	②	②	②		[Michael. H. FOX]	127	
英語Ⅱ		演習	2		◆	■			②	②	②	②		[Michael. H. FOX]	128		
英語Ⅲ		演習	2		◆	■			②	②	②	②		[Michael. H. FOX]	129		
フランス語Ⅰ		演習	2		◆	■		②	②	②	②	②		[本多 雄一郎]	130		
フランス語Ⅱ		演習	2		◆	■		②	②	②	②	②		[本多 雄一郎]	131		
ドイツ語Ⅰ		演習	2		◆	■		②	②	②	②	②		[竹内 節]	132		
ドイツ語Ⅱ		演習	2		◆	■		②	②	②	②	②		[竹内 節]	133		
中国語Ⅰ		演習	2		◆	■		②	②	②	②	②		[佟 曉寧]	134		
中国語Ⅱ		演習	2		◆	■		②	②	②	②	②		[佟 曉寧]	135		
韓国語Ⅰ		演習	2		◆	■		②	②	②	②	②		[李 知妍]	136		
韓国語Ⅱ	演習	2		◆	■		②	②	②	②	②		[李 知妍]	137			
体 育 系	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②		(三宅 一郎)	138		
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②		(徳田 泰伸)	139		
	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習	2		◆	■	○	②	②	②	②	②		(三宅一)・(徳田)・(樽本)・(矢野)	141		
	健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習	2		◆	■		②	②	②	②	②		(三宅一)・(徳田)・(樽本)・(矢野)	151		

## カリキュラム年次配当表

看護学科 平成22年度（2010年度）入学者対象  
 （ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授 業 区 分	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	単 位 数		看 護 師	保 健 師	養 護 教 諭 一 種	学 年 配 当 (数字は週当り授業時間)								平 成 23 年 度 の 担 当 者	ペ ー ジ
			必 修	選 択				1年		2年		3年		4年			
								I	II	I	II	I	II	I	II		
教 養 科 目	特別講義	講義	2	◆	■		②		②		②		②				
	私のためのキャリア設計	講義	2	◆	■		②		②		②		②		[有働 壽恵]	161	
	就職基礎能力Ⅰ	講義	2	◆	■			②		②		②		②	[山本 清美]	162	
	就職基礎能力Ⅱ	講義	2	◆	■				②		②		②		[山本 清美]	163	
	就職基礎能力Ⅲ	講義	2	◆	■					②		②		②	[山本 清美]	164	

◇は看護師国家試験受験資格必修科目、◆は看護師国家試験受験資格選択科目（10単位以上必要）

□は保健師国家試験受験資格必修科目、■は保健師国家試験受験資格選択科目（10単位以上必要）

○は養護教諭免許必修科目、●は養護教諭免許選択科目

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。



# カリキュラム年次配当表

看護学科 平成21年度（2009年度）入学者対象  
（ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		看護師	保健師	養護教諭一種	学年配当 (数字は週当り授業時間)								平成23年度の担当者	ページ
								1年		2年		3年		4年			
								I	II	I	II	I	II	I	II		
基礎科目	日本語（読解と表現）	演習	2		◇	□		2									
	英語	演習	2		◇	□	○	2									
	コンピュータ演習	演習	2		◇	□	○	2									
	生物基礎	講義	2		◇	□		2									
	化学基礎	講義	2		◇	□		2									
人文系	宗教と人生	講義	2		◇	□		2									
	生命倫理学	講義	2		◆	■			②	②	②	②		[浅沼 光樹]	86		
	生涯発達心理学	講義	2		◆	■			②	②	②	②		(森田 義宏)	87		
	人間関係論（含カウンセリング）	講義	2		◆	■			②	②	②	②		(森田 義宏)	89		
	哲学	講義	2		◆	■			②	②	②	②		[三浦 摩美]	90		
	文学	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②		[安井 重雄]	91		
	芸術	講義	2		◆	■			②	②	②	②		[柳楽 節子]	94		
	芸術	講義	2		◆	■			②	②	②	②		[岩見 健二]	95		
	心理学	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②		(北島 律之)	96		
	宗教と文化Ⅰ（仏教）	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②		(本多 彩)	97		
	宗教と文化Ⅱ（キリスト教）	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②		[穂積 修司]	98		
	宗教と文化Ⅲ（イスラム教）	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②		[重親 知左子]	99		
	生活とデザイン	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②		(稲富 恭)	100		
	色彩学	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②		(浜島 成嘉)	101		
	音楽表現	演習	2		◆	■		②	②	②	②	②		[大串 和久]	103		
	アメリカ文学	講義	2		◆	■			②	②	②	②		(平本 幸治)	104		
	論説と評論	講義	2		◆	■			②	②	②	②		[安井 重雄]	105		
	歴史学	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②		(金子 哲)	106		
	日本語表現法	演習	2		◆	■		②	②	②	②	②		[野田 直恵]	107		
	社会科学系	法と社会	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②		(今井 俊介)	108	
日本国憲法		講義	2		◆	■	○	②	②	②	②	②		(今井 俊介)	109		
人権の歴史		講義	2		◆	■		②	②	②	②	②		[中川 智章]	112		
政治学		講義	2		◆	■		②	②	②	②	②		(斎藤 正寿)	113		
国際関係論		講義	2		◆	■		②	②	②	②	②		(斎藤 正寿)	114		
社会学		講義	2		◆	■		②	②	②	②	②		(吉原 恵子)	115		
ジェンダー論		講義	2		◆	■		②	②	②	②	②		(吉原 恵子)	117		
経済学		講義	2		◆	■		②	②	②	②	②		(石原 敬子)	120		
自然科学系		数学	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②		(山本 真弓)	121	
	物理学	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②		(湯瀬 晶文)	122		
	化学	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②		[岡本 一彦]	123		
	生物学	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②		本多 久夫	124		
	食と健康	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②		(亀谷 小枝)	125		
	コンピュータ応用演習	演習	2		◆	■		②	②	②	②	②		河野 稔	126		
	外国語系	英語Ⅰ	演習	2		◆	■		②	②	②	②	②		[Michael. H. FOX]	127	
英語Ⅱ		演習	2		◆	■			②	②	②	②		[Michael. H. FOX]	128		
英語Ⅲ		演習	2		◆	■			②	②	②	②		[Michael. H. FOX]	129		
フランス語Ⅰ		演習	2		◆	■		②	②	②	②	②		[本多 雄一郎]	130		
フランス語Ⅱ		演習	2		◆	■		②	②	②	②	②		[本多 雄一郎]	131		
ドイツ語Ⅰ		演習	2		◆	■		②	②	②	②	②		[竹内 節]	132		
ドイツ語Ⅱ		演習	2		◆	■		②	②	②	②	②		[竹内 節]	133		
中国語Ⅰ		演習	2		◆	■		②	②	②	②	②		[佟 曉寧]	134		
中国語Ⅱ		演習	2		◆	■		②	②	②	②	②		[佟 曉寧]	135		
韓国語Ⅰ		演習	2		◆	■		②	②	②	②	②		[李 知妍]	136		
韓国語Ⅱ	演習	2		◆	■		②	②	②	②	②		[李 知妍]	137			
体育系	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②		(三宅 一郎)	138		
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②		(徳田 泰伸)	139		
	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習	2		◆	■	○	②	②	②	②	②		(三宅一)・(徳田)・(樽本)・(矢野)	141		
	健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習	2		◆	■		②	②	②	②	②		(三宅一)・(徳田)・(樽本)・(矢野)	151		

## カリキュラム年次配当表

看護学科 平成21年度（2009年度）入学者対象  
（ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授 業 区 分	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	単 位 数		看 護 師	保 健 師	養 護 教 諭 一 種	学 年 配 当 (数字は週当り授業時間)								平 成 23 年 度 の 担 当 者	ペ ー ジ
			必 修	選 択				1年		2年		3年		4年			
								I	II	I	II	I	II	I	II		
教 養 科 目 系	特別講義	講義		2	◆	■		②		②		②		②			
	私のためのキャリア設計	講義		2	◆	■		②		②		②		②		[有働 壽恵]	161
	就職基礎能力Ⅰ	講義		2	◆	■			②		②		②		②	[山本 清美]	162
	就職基礎能力Ⅱ	講義		2	◆	■				②		②		②		[山本 清美]	163
	就職基礎能力Ⅲ	講義		2	◆	■					②		②		②	[山本 清美]	164

◇は看護師国家試験受験資格必修科目、◆は看護師国家試験受験資格選択科目（10単位以上必要）

□は保健師国家試験受験資格必修科目、■は保健師国家試験受験資格選択科目（10単位以上必要）

○は養護教諭免許必修科目、●は養護教諭免許選択科目

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

カリキュラム年次配当表

看護学科 平成20年度（2008年度）入学者対象  
 ( )は兼担、[ ]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		看護師	保健師	養護教諭一種	学年配当(数字は週当たり授業時間)								平成23年度の担当者	ページ
			必修	選択				1年		2年		3年		4年			
								I	II	I	II	I	II	I	II		
基礎科目	日本語(読解と表現)	演習	2		◇	□		2									
	英語	演習	2		◇	□	○	2									
	コンピュータ演習	演習	2		◇	□	○	2									
	生物基礎	講義	2		◇	□		2									
	化学基礎	講義	2		◇	□		2									
人文系	宗教と人生	講義	2		◇	□		2									
	生命倫理学	講義	2		◇	□		2									
	生涯発達心理学Ⅰ	講義	2		◇	□		2									
	生涯発達心理学Ⅱ	講義	2		◇	□			2								
	人間関係論(含カウンセリング)	講義	2		◆	■			2								
	哲学	講義	2		◆	■			②	②	②	②	②		[三浦 摩美]	90	
	文学	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②	②		[安井 重雄]	91	
	芸術	講義	2		◆	■			②	②	②	②	②		[柳楽 節子]	94	
	芸術	講義	2		◆	■			②	②	②	②	②		[岩見 健二]	95	
	心理学	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②	②		(北島 律之)	96	
	宗教と文化Ⅰ(仏教)	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②	②		(本多 彩)	97	
	宗教と文化Ⅱ(キリスト教)	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②	②		[穂積 修司]	98	
	宗教と文化Ⅲ(イスラム教)	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②	②		[重親 知左子]	99	
	生活美学	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②	②		(稲富 恭)	100	
	色彩学	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②	②		(浜島 成嘉)	101	
	音楽表現Ⅰ	演習	2		◆	■		②	②	②	②	②	②		[大串 和久]	103	
	音楽表現Ⅱ	演習	2		◆	■			②	②	②	②	②		不開講		
	アメリカ文学	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②	②		(平本 幸治)	104	
	英語コミュニケーション	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②	②		不開講		
	論説と評論	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②	②		[安井 重雄]	105	
社会系	歴史学	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②	②		(金子 哲)	106	
	法と社会	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②	②		(今井 俊介)	108	
	日本国憲法	講義	2		◆	■	○	②	②	②	②	②	②		(今井 俊介)	109	
	人権の歴史	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②	②		[中川 智章]	112	
	政治学	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②	②		(斎藤 正寿)	113	
	国際関係論	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②	②		(斎藤 正寿)	114	
	ジェンダー論	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②	②		(吉原 恵子)	117	
	数学	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②	②		(山本 真弓)	121	
自然科学系	物理学	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②	②		(湯瀬 晶文)	122	
	化学	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②	②		[岡本 一彦]	123	
	生物学	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②	②		本多 久夫	124	
	食と健康	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②	②		(亀谷 小枝)	125	
	英語Ⅰ(TOEIC 400)	演習	2		◆	■		②	②	②	②	②	②		不開講		
	英語Ⅱ(TOEIC 500)	演習	2		◆	■		②	②	②	②	②	②		不開講		
言語学系	英語Ⅲ(TOEIC 600+)	演習	2		◆	■		②	②	②	②	②	②		不開講		
	フランス語Ⅰ	演習	2		◆	■		②	②	②	②	②	②		[本多 雄一郎]	130	
	フランス語Ⅱ	演習	2		◆	■		②	②	②	②	②	②		[本多 雄一郎]	131	
	ドイツ語Ⅰ	演習	2		◆	■		②	②	②	②	②	②		[竹内 節]	132	
	ドイツ語Ⅱ	演習	2		◆	■		②	②	②	②	②	②		[竹内 節]	133	
	中国語Ⅰ	演習	2		◆	■		②	②	②	②	②	②		[佟 曉寧]	134	
	中国語Ⅱ	演習	2		◆	■		②	②	②	②	②	②		[佟 曉寧]	135	
	健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②	②		(三宅 一郎)	138	
体育系	健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)	講義	2		◆	■	○	②	②	②	②	②	②		(徳田 泰伸)	139	
	健康・スポーツ科学Ⅱ(演習)	演習	2		◆	■		②	②	②	②	②	②		(三宅一)・(徳田)・(樽本)・(矢野)	141	
	健康・スポーツ科学Ⅲ(演習)	演習	2		◆	■		②	②	②	②	②	②		(三宅一)・(徳田)・(樽本)・(矢野)	151	

## カリキュラム年次配当表

看護学科 平成20年度（2008年度）入学者対象

（ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授 業 区 分	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	単 位 数		看 護 師	保 健 師	養 護 教 諭 一 種	学 年 配 当 (数 字 は 週 当 り 授 業 時 間)								平 成 23 年 度 の 担 当 者	ペ ー ジ	
			必 修	選 択				1年		2年		3年		4年				
								I	II	I	II	I	II	I	II			
教 養 合 系 目	放送大学科目（別表1）				◆	■												
	大学洋上セミナーⅠ	講義	4		◆	■		④		④		④		④		不開講		
	大学洋上セミナーⅡ	講義	2		◆	■		②		②		②		②		不開講		
	特別講義Ⅰ	講義	1		◆	■		①		①		①		①		不開講		
	特別講義Ⅱ	講義	1		◆	■			①		①		①		①		不開講	
	特別演習Ⅰ	演習	2		◆	■			2									
	特別演習Ⅱ	演習	2		◆	■				2								
	私のためのキャリア設計	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[有働 壽恵]	161	
	就職基礎能力Ⅰ	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[山本 清美]	162	
	就職基礎能力Ⅱ	講義	2		◆	■				②		②		②		[山本 清美]	163	
就職基礎能力Ⅲ	講義	2		◆	■					②		②		②	[山本 清美]	164		

◇は看護師国家試験受験資格必修科目、◆は看護師国家試験受験資格選択科目（10単位以上必要）

□は保健師国家試験受験資格必修科目、■は保健師国家試験受験資格選択科目（10単位以上必要）

○は養護教諭免許必修科目、●は養護教諭免許選択科目

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。



# 社会福祉学科

基礎・教養科目

(平成 23 年度(2011 年度)開講科目)

# カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成23年度（2011年度）入学者対象

( )は兼任、[ ]は兼任講師

授業 科目 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		社会 福祉 士	PSW	教員 免許 福祉	学年配当 (数字は週当り授業時間)								平成23年度の 担 当 者	ページ
			必修	選択				1年		2年		3年		4年			
								I	II	I	II	I	II	I	II		
基 礎 科 目	日本語（読解と表現）	演習	2					2								[安井]・[野田]・[辻本]	55
	英語	演習	2					2								(平本 幸治)	59
	英語	演習	2				△	2								[小泉 毅]	62
	英語	演習	2					2								[Michael. H. FOX]	65
	コンピュータ演習	演習	2				△	2								[佐竹 邦子]	75
	生物基礎	講義		2					2							未定	80
教 文 系	宗教と人生	講義	2					2								本多 彩	84
	生命倫理学	講義	2					②		②		②		②		[浅沼 光樹]	86
	哲学	講義	2					②		②		②		②		[三浦 摩美]	90
	文学	講義	2					②		②		②		②		[安井 重雄]	91
	芸術	講義	2					②		②		②		②		[柳楽 節子]	94
	芸術	講義	2					②		②		②		②		[岩見 健二]	95
	心理学	講義	2					②		②		②		②		北島 律之	96
	宗教と文化Ⅰ（仏教）	講義	2					②		②		②		②		本多 彩	97
	宗教と文化Ⅱ（キリスト教）	講義	2					②		②		②		②		[穂積 修司]	98
	宗教と文化Ⅲ（イスラム教）	講義	2					②		②		②		②		[重親 知左子]	99
	生活とデザイン	講義	2					②		②		②		②		稲富 恭	100
	色彩学	講義	2					②		②		②		②		浜島 成嘉	101
	音楽表現	演習	2					②		②		②		②		[大串 和久]	103
	アメリカ文学	講義	2					②		②		②		②		(平本 幸治)	104
	論説と評論	講義	2					②		②		②		②		[安井 重雄]	105
	歴史学	講義	2					②		②		②		②		(金子 哲)	106
	日本語表現法	演習	2					②		②		②		②		[野田 直恵]	107
養 社 会 系	法と社会	講義	2					②		②		②		②		今井 俊介	108
	日本国憲法	講義	2				△	②		②		②		②		今井 俊介	109
	人権の歴史	講義	2					②		②		②		②		[中川 智章]	112
	政治学	講義	2					②		②		②		②		(斎藤 正寿)	113
	国際関係論	講義	2					②		②		②		②		(斎藤 正寿)	114
	社会学	講義	2					2								吉原 恵子	116
	ジェンダー論	講義	2					②		②		②		②		吉原 恵子	117
	経済学	講義	2					②		②		②		②		(石原 敬子)	120
自 然 科 系	数学	講義	2					②		②		②		②		(山本 真弓)	121
	物理学	講義	2					②		②		②		②		(湯瀬 晶文)	122
	化学	講義	2					②		②		②		②		[岡本 一彦]	123
	生物学	講義	2					②	②	②	②	②	②	②		(本多 久夫)	124
	食と健康	講義	2					②		②		②		②		(亀谷 小枝)	125
	コンピュータ応用演習	演習	2					②		②		②		②		河野 稔	126
語 学 系	英語Ⅰ	演習	2					②		②		②		②		[Michael. H. FOX]	127
	英語Ⅱ	演習	2						②		②		②				
	英語Ⅲ	演習	2							②		②		②			
	フランス語Ⅰ	演習	2					②		②		②		②		[本多 雄一郎]	130
	フランス語Ⅱ	演習	2					②		②		②		②		[本多 雄一郎]	131
	ドイツ語Ⅰ	演習	2					②		②		②		②		[竹内 節]	132
	ドイツ語Ⅱ	演習	2					②		②		②		②		[竹内 節]	133
	中国語Ⅰ	演習	2					②		②		②		②		[佟 曉寧]	134
	中国語Ⅱ	演習	2					②		②		②		②		[佟 曉寧]	135
	韓国語Ⅰ	演習	2					②		②		②		②		[李 知妍]	136
韓国語Ⅱ	演習	2					②		②		②		②		[李 知妍]	137	
体 育 系	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2					②		②		②		②		(三宅 一郎)	138
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2					②		②		②		②		(徳田 泰伸)	139
	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習	2				△	②		②		②		②		(三宅一)・(徳田)・(橋本)・(矢野)	141
	健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習	2					②		②		②		②		(三宅一)・(徳田)・(橋本)・(矢野)	151

## カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成23年度（2011年度）入学者対象

（ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授 業 区 分	業 目 分	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	単 位 数		社 会 福 祉 士	PSW	教 員 免 許 福 祉	学 年 配 当 (数字は週当り授業時間)								平 成 23 年 度 の 担 当 者	ペ ー ジ	
				必 修	選 択				1年		2年		3年		4年				
									I	II	I	II	I	II	I	II			
教 養 科 目	キ ャ リ ア 系	特別講義	講義		2				②		②		②		②				
		私のためのキャリア設計	講義		2				②		②		②		②		[有働 壽恵]	161	
		就職基礎能力Ⅰ	講義		2					②		②		②		②		[山本 清美]	162
		就職基礎能力Ⅱ	講義		2						②		②		②				
		就職基礎能力Ⅲ	講義		2							②		②		②			

○は社会福祉士国家試験受験資格必修科目

◇は精神保健士(PSW)国家試験受験資格必修科目

△は福祉教員免許必修科目、▲は福祉教員免許選択科目

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。



# カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成22年度（2010年度）入学者対象

（ ）は兼任、[ ]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		社会福祉士	PSW	教員免許 福祉	学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成23年度の担当者	ページ		
			必修	選択				1年		2年		3年		4年					
								I	II	I	II	I	II	I	II				
基礎科目	日本語（読解と表現）	演習	2				2												
	英語	演習	2				△	2											
	コンピュータ演習	演習	2				△	2											
	生物基礎	講義		2					2										
人文系	宗教と人生	講義	2					2											
	生命倫理学	講義		2					②		②		②		②		[浅沼 光樹]	86	
	哲学	講義		2					②		②		②		②		[三浦 摩美]	90	
	文学	講義		2				②		②		②		②			[安井 重雄]	91	
	芸術	講義		2					②		②		②		②		[柳楽 節子]	94	
	芸術	講義		2					②		②		②		②		[岩見 健二]	95	
	心理学	講義		2				②		②		②		②			北島 律之	96	
	宗教と文化Ⅰ（仏教）	講義		2					②		②		②		②		本多 彩	97	
	宗教と文化Ⅱ（キリスト教）	講義		2				②		②		②		②			[穂積 修司]	98	
	宗教と文化Ⅲ（イスラム教）	講義		2					②		②		②		②		[重親 知左子]	99	
	生活とデザイン	講義		2				②		②		②		②			稲富 恭	100	
	色彩学	講義		2				②		②		②		②			浜島 成嘉	101	
	音楽表現	演習		2				②		②		②		②			[大串 和久]	103	
	アメリカ文学	講義		2					②		②		②		②		(平本 幸治)	104	
	論説と評論	講義		2					②		②		②		②		[安井 重雄]	105	
	歴史学	講義		2				②		②		②		②			(金子 哲)	106	
	日本語表現法	演習		2					②		②		②		②		[野田 直恵]	107	
	養社会系	法と社会	講義		2					②		②		②		②		今井 俊介	108
		日本国憲法	講義		2			△	②		②		②		②			今井 俊介	109
人権の歴史		講義		2				②		②		②		②			[中川 智章]	112	
政治学		講義		2				②		②		②		②			(斎藤 正寿)	113	
国際関係論		講義		2					②		②		②		②		(斎藤 正寿)	114	
社会学		講義		2				2									吉原 恵子	116	
ジェンダー論		講義		2					②		②		②		②		吉原 恵子	117	
経済学		講義		2				②		②		②		②			(石原 敬子)	120	
自然科学系	数学	講義		2					②		②		②		②		(山本 真弓)	121	
	物理学	講義		2				②		②		②		②			(湯瀬 晶文)	122	
	化学	講義		2				②		②		②		②			[岡本 一彦]	123	
	生物学	講義		2				②	②	②	②	②	②	②			(本多 久夫)	124	
	食と健康	講義		2					②		②		②		②		(亀谷 小枝)	125	
	コンピュータ応用演習	演習		2					②		②		②		②		河野 稔	126	
語学系	英語Ⅰ	演習		2					②		②		②		②		[Michael. H. FOX]	127	
	英語Ⅱ	演習		2						②		②		②			[Michael. H. FOX]	128	
	英語Ⅲ	演習		2							②		②		②		[Michael. H. FOX]	129	
	フランス語Ⅰ	演習		2				②		②		②		②			[本多 雄一郎]	130	
	フランス語Ⅱ	演習		2					②		②		②		②		[本多 雄一郎]	131	
	ドイツ語Ⅰ	演習		2				②		②		②		②			[竹内 節]	132	
	ドイツ語Ⅱ	演習		2					②		②		②		②		[竹内 節]	133	
	中国語Ⅰ	演習		2				②		②		②		②			[佟 曉寧]	134	
	中国語Ⅱ	演習		2					②		②		②		②		[佟 曉寧]	135	
	韓国語Ⅰ	演習		2				②		②		②		②			[李 知妍]	136	
韓国語Ⅱ	演習		2					②		②		②		②		[李 知妍]	137		
体育系	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2					②		②		②		②		(三宅 一郎)	138	
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2					②		②		②		②		(徳田 泰伸)	139	
	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習		2			△	②		②		②		②			(三宅一)・(徳田)・(楳本)・(矢野)	141	
	健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習		2				②		②		②		②			(三宅一)・(徳田)・(楳本)・(矢野)	151	

## カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成22年度（2010年度）入学者対象

（ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授 業 区 分	業 目 分	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	単 位 数		社 会 福 祉 士	PSW	教 員 免 許 福 祉	学 年 配 当 <small>(数字は週当り授業時間)</small>								平 成 23 年 度 の 担 当 者	ペ ー ジ	
				必 修	選 択				1年		2年		3年		4年				
									I	II	I	II	I	II	I	II			
教 養 科 目	キ ャ リ ア 系	特別講義	講義		2				②		②		②		②				
		私のためのキャリア設計	講義		2				②		②		②		②		[有働 壽恵]	161	
		就職基礎能力Ⅰ	講義		2					②		②		②		②		[山本 清美]	162
		就職基礎能力Ⅱ	講義		2						②		②		②		[山本 清美]	163	
		就職基礎能力Ⅲ	講義		2							②		②		②		[山本 清美]	164

○は社会福祉士国家試験受験資格必修科目

◇は精神保健士(PSW)国家試験受験資格必修科目

△は福祉教員免許必修科目、▲は福祉教員免許選択科目

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

# カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成21年度（2009年度）入学者対象

（ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		社会福祉士	PSW	教員免許 福祉	学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成23年度の担当者	ページ
			必修	選択				1年		2年		3年		4年			
								I	II	I	II	I	II	I	II		
基礎科目	日本語（読解と表現）	演習	2				2										
	英語	演習	2				△	2									
	コンピュータ演習	演習	2				△	2									
	生物基礎	講義		2					2								
人文系	宗教と人生	講義	2					2									
	生命倫理学	講義		2					②		②		②		②	[浅沼 光樹]	86
	哲学	講義		2					②		②		②		②	[三浦 摩美]	90
	文学	講義		2				②		②		②		②	[安井 重雄]	91	
	芸術	講義		2					②		②		②		②	[柳楽 節子]	94
	芸術	講義		2					②		②		②		②	[岩見 健二]	95
	心理学	講義		2				②		②		②		②	北島 律之	96	
	宗教と文化Ⅰ（仏教）	講義		2					②		②		②		②	本多 彩	97
	宗教と文化Ⅱ（キリスト教）	講義		2				②		②		②		②	[穂積 修司]	98	
	宗教と文化Ⅲ（イスラム教）	講義		2					②		②		②		②	[重親 知左子]	99
	生活とデザイン	講義		2				②		②		②		②	稲富 恭	100	
	色彩学	講義		2				②		②		②		②	浜島 成嘉	101	
	音楽表現	演習		2				②		②		②		②	[大串 和久]	103	
	アメリカ文学	講義		2					②		②		②		②	(平本 幸治)	104
	論説と評論	講義		2					②		②		②		②	[安井 重雄]	105
	歴史学	講義		2				②		②		②		②	(金子 哲)	106	
	日本語表現法	演習		2					②		②		②		②	[野田 直恵]	107
社会系	法と社会	講義		2					②		②		②		②	今井 俊介	108
	日本国憲法	講義		2			△	②		②		②		②	今井 俊介	109	
	人権の歴史	講義		2				②		②		②		②	[中川 智章]	112	
	政治学	講義		2				②		②		②		②	(斎藤 正寿)	113	
	国際関係論	講義		2					②		②		②		②	(斎藤 正寿)	114
	社会学	講義		2				2								吉原 恵子	116
	ジェンダー論	講義		2					②		②		②		②	吉原 恵子	117
	経済学	講義		2				②		②		②		②	(石原 敬子)	120	
自然科学系	数学	講義		2					②		②		②		②	(山本 真弓)	121
	物理学	講義		2				②		②		②		②	(湯瀬 晶文)	122	
	化学	講義		2				②		②		②		②	[岡本 一彦]	123	
	生物学	講義		2				②	②	②	②	②	②	②	(本多 久夫)	124	
	食と健康	講義		2					②		②		②		②	(亀谷 小枝)	125
	コンピュータ応用演習	演習		2					②		②		②		②	河野 稔	126
外国語系	英語Ⅰ	演習		2					②		②		②		②	[Michael. H. FOX]	127
	英語Ⅱ	演習		2						②		②		②	[Michael. H. FOX]	128	
	英語Ⅲ	演習		2						②		②		②	[Michael. H. FOX]	129	
	フランス語Ⅰ	演習		2				②		②		②		②	[本多 雄一郎]	130	
	フランス語Ⅱ	演習		2					②		②		②		②	[本多 雄一郎]	131
	ドイツ語Ⅰ	演習		2				②		②		②		②	[竹内 節]	132	
	ドイツ語Ⅱ	演習		2					②		②		②		②	[竹内 節]	133
	中国語Ⅰ	演習		2				②		②		②		②	[佟 曉寧]	134	
	中国語Ⅱ	演習		2					②		②		②		②	[佟 曉寧]	135
	韓国語Ⅰ	演習		2				②		②		②		②	[李 知妍]	136	
韓国語Ⅱ	演習		2					②		②		②		②	[李 知妍]	137	
体育系	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2					②		②		②		②	(三宅 一郎)	138
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2					②		②		②		②	(徳田 泰伸)	139
	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習		2			△	②		②		②		②	(三宅一)・(徳田)・(橋本)・(矢野)	141	
	健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習		2				②		②		②		②	(三宅一)・(徳田)・(橋本)・(矢野)	151	

## カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成21年度（2009年度）入学者対象

（ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授 業 区 分	業 目 分	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	単 位 数		社 会 福 祉 士	PSW	教 員 免 許 福 祉	学 年 配 当 <small>(数字は週当り授業時間)</small>								平 成 23 年 度 の 担 当 者	ペ ー ジ	
				必 修	選 択				1年		2年		3年		4年				
									I	II	I	II	I	II	I	II			
教 養 科 目	キ ャ リ ア 系	特別講義	講義		2				②		②		②		②				
		私のためのキャリア設計	講義		2				②		②		②		②		[有働 壽恵]	161	
		就職基礎能力Ⅰ	講義		2					②		②		②		②		[山本 清美]	162
		就職基礎能力Ⅱ	講義		2						②		②		②		[山本 清美]	163	
		就職基礎能力Ⅲ	講義		2							②		②		②		[山本 清美]	164

○は社会福祉士国家試験受験資格必修科目

◇は精神保健士(PSW)国家試験受験資格必修科目

△は福祉教員免許必修科目、▲は福祉教員免許選択科目

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

# カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成20年度（2008年度）入学者対象

（ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授業 科目 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		社会 福祉 士	PSW	教員 免許 福祉	学年配当 (数字は週当り授業時間)								平成23年度の 担 当 者	ページ	
			必修	選択				1年		2年		3年		4年				
								I	II	I	II	I	II	I	II			
科 基 礎	日本語（読解と表現）	演習	2				2											
	英語	演習	2				△	2										
	コンピュータ演習	演習	2				△	2										
教 文 系	宗教と人生	講義	2					2										
	哲学	講義	2						②		②		②		②		[三浦 摩美] 90	
	文学	講義	2						②		②		②		②		[安井 重雄] 91	
	芸術	講義	2							②		②		②		②	[柳楽 節子] 94	
	芸術	講義	2							②		②		②		②	[岩見 健二] 95	
	心理学	講義	2		◎	※		②		②		②		②		②	北島 律之 96	
	宗教と文化Ⅰ（仏教）	講義	2							②		②		②		②	本多 彩 97	
	宗教と文化Ⅱ（キリスト教）	講義	2						②		②		②		②		[穂積 修司] 98	
	宗教と文化Ⅲ（イスラム教）	講義	2							②		②		②		②	[重親 知左子] 99	
	生活美学	講義	2						②		②		②		②		稲富 恭 100	
	色彩学	講義	2						②		②		②		②		浜島 成嘉 101	
	音楽表現Ⅰ	演習	2						②		②		②		②		[大串 和久] 103	
	音楽表現Ⅱ	演習	2							②		②		②		②	不開講	
	アメリカ文学	講義	2							②		②		②		②	(平本 幸治) 104	
	英語コミュニケーション	講義	2							②		②		②		②	不開講	
	生命倫理学	講義	2							②		②		②		②	[浅沼 光樹] 86	
	論説と評論	講義	2							②		②		②		②	[安井 重雄] 105	
	社 会 系	社会学	講義	2		◎	※		2									吉原 恵子 116
		ジェンダー論	講義	2							②		②		②		②	吉原 恵子 117
		歴史学	講義	2						②		②		②		②		(金子 哲) 106
法と社会		講義	2							②		②		②		②	今井 俊介 108	
日本国憲法		講義	2					△	②		②		②		②		今井 俊介 109	
人権の歴史		講義	2						②		②		②		②		[中川 智章] 112	
政治学		講義	2						②		②		②		②		(斎藤 正寿) 113	
国際関係論		講義	2							②		②		②		②	(斎藤 正寿) 114	
自 然 系		数学	講義	2						②		②		②		②		(山本 真弓) 121
	物理学	講義	2						②		②		②		②		(湯瀬 晶文) 122	
	化学	講義	2						②		②		②		②		[岡本 一彦] 123	
	生物学	講義	2						②	②	②	②	②	②	②		(本多 久夫) 124	
	食と健康	講義	2							②		②		②		②	(亀谷 小枝) 125	
語 学 系	英語Ⅰ (TOEIC 400)	演習	2						②		②		②		②		不開講	
	英語Ⅱ (TOEIC 500)	演習	2						②		②		②		②		不開講	
	英語Ⅲ (TOEIC 600+)	演習	2						②		②		②		②		不開講	
	フランス語Ⅰ	演習	2						②		②		②		②		[本多 雄一郎] 130	
	フランス語Ⅱ	演習	2							②		②		②		②	[本多 雄一郎] 131	
	ドイツ語Ⅰ	演習	2						②		②		②		②		[竹内 節] 132	
	ドイツ語Ⅱ	演習	2							②		②		②		②	[竹内 節] 133	
	中国語Ⅰ	演習	2						②		②		②		②		[佟 曉寧] 134	
中国語Ⅱ	演習	2							②		②		②		②	[佟 曉寧] 135		
体 育 系	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2						②		②		②		②		(三宅 一郎) 138	
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2					△		②		②		②		②	(徳田 泰伸) 139	
	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習	2						②		②		②		②		(三宅一)・(徳田)・(楢本)・(矢野) 141	
	健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習	2						②		②		②		②		(三宅一)・(徳田)・(楢本)・(矢野) 151	

# カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成20年度（2008年度）入学者対象  
（ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授業 科目 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		社会 福祉 士	PSW	教員 免許 福祉	学年配当(数字は週当り授業時間)								平成23年度の 担当者	ページ	
			必修	選択				1年		2年		3年		4年				
								I	II	I	II	I	II	I	II			
教 養 合 系 目	放送大学科目(別表1)																	
	大学洋上セミナーⅠ	講義		4				④		④		④		④			不開講	
	大学洋上セミナーⅡ	講義		2				②		②		②		②			不開講	
	特別講義Ⅰ	講義		1				①		①		①		①			不開講	
	特別講義Ⅱ	講義		1					①		①		①		①		不開講	
	特別演習Ⅰ	演習		2					2									
	特別演習Ⅱ	演習		2						2								
	私のためのキャリア設計	講義		2				②		②		②		②			[有働 壽恵]	161
	就職基礎能力Ⅰ	講義		2					②		②		②		②		[山本 清美]	162
	就職基礎能力Ⅱ	講義		2					②		②		②		②		[山本 清美]	163
就職基礎能力Ⅲ	講義		2						②		②		②		②		[山本 清美]	164

○は社会福祉士国家試験受験資格必修科目、●◎は社会福祉士国家試験受験資格選択必修科目（各1科目必要）  
◇は精神保健士(PSW)国家試験受験資格必修科目、◆※は精神保健士(PSW)国家試験受験資格選択必修科目（各1科目必要）  
△は福祉教員免許必修科目、▲は福祉教員免許選択科目

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

(別表1)

授業 科目 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		社会 福祉 士	PSW	教員 免許 福祉	学年配当(数字は週当り授業時間)								備考	
			必修	選択				1年		2年		3年		4年			
								I	II	I	II	I	II	I	II		
放 送 大 学 科 目	地球とその歴史	講義		2					②		②		②				放送大学の授業科目のため放送による受講となります
	ロシア語Ⅰ	講義		2					②		②		②				
	ロシア語Ⅱ	講義		2					②		②		②				
	スペイン語Ⅰ	講義		2					②		②		②				
	スペイン語Ⅱ	講義		2					②		②		②				
	韓国語Ⅰ	講義		2					②		②		②				
	韓国語Ⅱ	講義		2					②		②		②				
	日本の技術と産業の発展	講義		2					②		②		②				
	数学の歴史	講義		2					②		②		②				
	家族論	講義		2					②		②		②				
	地球環境を考える	講義		2					②		②		②				
	行政の法システム入門	講義		2					②		②		②				
	雇用と法	講義		2					②		②		②				
	経済社会の現代	講義		2					②		②		②				
	ジェンダーの社会学	講義		2					②		②		②				
	環境社会学	講義		2					②		②		②				
	イノベーション経営	講義		2					②		②		②				
	現代ファイナンス入門	講義		2					②		②		②				
	情報産業論	講義		2					②		②		②				
	ベンチャー企業論	講義		2					②		②		②				
	生活者の経済	講義		2					②		②		②				
	変動する社会と暮らし	講義		2					②		②		②				
	地域と食文化	講義		2					②		②		②				
	大地と人間—食・農・環境の未来	講義		2					②		②		②				
	生態学	講義		2					②		②		②				
	宇宙の進化	講義		2					②		②		②				



# 保育科第一部

基礎・教養科目

(平成 23 年度(2011 年度)開講科目)



# カリキュラム年次配当表

保育科第一部 平成23年度（2011年度）入学者対象  
[ ]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		幼稚園教諭二種免許	保育士資格	学年配当(数字は週当たり授業時間)				平成23年度の担当者	ページ	備考
			必修	選択			1年		2年				
							I	II	I	II			
基礎科目	日本語（読解と表現）	演習	2		◇		2				安井・[野田]・[小林]	57	☆
	英語	演習	2				2				小泉 毅	63	
	英語	演習	2		◆	●	2				(Michael. H. FOX)	67	☆
	英語	演習	2				2				[平本 幸治]	60	
	コンピュータ演習	演習	2		◆		2				[河野 稔]	71	☆
	コンピュータ演習	演習	2				2				佐竹 邦子	76	
教養科目	宗教と人生	講義	2				2				[本多 彩]	85	
	文学	講義	2					2			安井 重雄	92	
	色彩学	講義	2				2				[浜島 成嘉]	102	
	日本国憲法	講義	2		◆			2			笹田 哲男	110	
	ジェンダー論	講義	2				2				[吉原 恵子]	118	
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2		◆	●		②		②	井上 靖	140	
	健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）	実技	1				②		②		井上 靖	142	
	健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）	実技	1				②		②		井上 眞美子	145	☆☆
	健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）	実技	1		◇	●	②		②		宮川 和三	148	
	健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）	実技	1					②		②	井上 靖	152	
	健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）	実技	1					②		②	井上 眞美子	155	☆☆
	健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）	実技	1					②		②	宮川 和三	158	

◆は幼稚園教諭二種免許取得のため必修科目、◇は幼稚園教諭二種免許取得のため選択科目

●は保育士資格取得のため必修科目、○は保育士資格取得のための選択科目

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

※ 備考欄の☆は、学則第23条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

※ 備考欄の☆☆は、学則第23条第1項第3号の但書に規定する授業科目を表す。

# カリキュラム年次配当表

保育科第一部 平成22年度（2010年度）入学者対象  
[ ]は兼任講師

授 業 区 分	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	単 位 数		幼稚園 教諭 二種 免許	保育士 資格	学年配当(数字は週当たり授業時間)				平成23年度の 担 当 者	ペー ジ	備 考	
			必修	選択			1年		2年					
							I	II	I	II				
基 礎 科	日本語（読解と表現）	演習		2	◇		2							☆
	英語	演習		2	◆	●	2							☆
	コンピュータ演習	演習		2	◆		2							☆
教 養 科 目	宗教と人生	講義	2				2							
	文学	講義	2					2						
	色彩学	講義	2				2							
	日本国憲法	講義	2		◆			2						
	ジェンダー論	講義	2				2							
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2		◆	●		②		②	井上 靖	140		
	健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）	実技	1				②		②		井上 靖	142		
	健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）	実技	1				②		②		井上 眞美子	145		☆☆
	健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）	実技	1		◇	●	②		②		宮川 和三	148		
	健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）	実技	1					②		②	井上 靖	152		
	健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）	実技	1					②		②	井上 眞美子	155		☆☆
	健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）	実技	1					②		②	宮川 和三	158		

◆は幼稚園教諭二種免許状取得のため必修科目、◇は幼稚園教諭二種免許状取得のため選択科目

●は保育士資格取得のため必修科目、○は保育士資格取得のための選択科目

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

※ 備考欄の☆は、学則第23条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

※ 備考欄の☆☆は、学則第23条第1項第3号の但書に規定する授業科目を表す。



# 保育科第三部

基礎・教養科目

(平成 23 年度(2011 年度)開講科目)

# カリキュラム年次配当表

保育科第三部 平成23年度（2011年度）入学者対象  
[ ]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		幼稚園教諭二種免許	保育士資格	学年配当(数字は週当り授業時間)						平成23年度の担当者	ページ	備考	
			必修	選択			1年		2年		3年					
							I	II	I	II	I	II				
基礎科目	日本語（読解と表現）	演習		2	◇			2						安井 重雄	58	☆
	英語	演習		2			2							小泉 毅	64	
	英語	演習		2	◆	●	2							(Michael. H. FOX)	68	☆
	英語	演習		2			2							[平本 幸治]	61	
	コンピュータ演習	演習		2	◆		2							佐竹 邦子	77	☆
教養科目	宗教と人生	講義	2				2							[本多 彩]	85	
	文学	講義		2				②		②		②		安井 重雄	93	
	色彩学	講義		2			2							[浜島 成嘉]	102	
	日本国憲法	講義		2	◆					2						
	ジェンダー論	講義		2			②		②		②			[吉原 恵子]	119	
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2	◆	●		②		②		②		井上 靖	140	
	健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）	実技		1			②		②		②			井上 靖	143	
	健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）	実技		1			②		②		②			井上 眞美子	146	☆☆
	健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）	実技		1		◇	②		②		②			宮川 和三	149	
	健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）	実技		1		●		②		②		②		井上 靖	153	
健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）	実技		1				②		②		②		井上 眞美子	156	☆☆	
健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）	実技		1				②		②		②		宮川 和三	159		

◆は幼稚園教諭二種免許状取得のため必修科目、◇は幼稚園教諭二種免許状取得のため選択科目

●は保育士資格取得のため必修科目、○は保育士資格取得のための選択科目

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

※ 備考欄の☆は、学則第23条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

※ 備考欄の☆☆は、学則第23条第1項第3号の但書に規定する授業科目を表す。

# カリキュラム年次配当表

保育科第三部 平成22年度（2010年度）入学者対象  
[ ]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		幼稚園教諭二種免許	保育士資格	学年配当(数字は週当り授業時間)						平成23年度の担当者	ページ	備考
							1年		2年		3年				
							I	II	I	II	I	II			
基礎科目	日本語（読解と表現）	演習	2	2	◇		2								☆
	英語	演習	2	2	◆	●	2								☆
	コンピュータ演習	演習	2	2	◆		2								☆
教養科目	宗教と人生	講義	2	2			2								
	文学	講義	2	2			②		②		②	安井 重雄	93		
	色彩学	講義	2	2			2					中川 智章	111		
	日本国憲法	講義	2	2	◆				2			中川 智章	111		
	ジェンダー論	講義	2	2			②		②		②	[吉原 恵子]	119		
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2	2	◆	●	②		②		②	井上 靖	140		
	健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）	実技	1	1			②		②		②	井上 靖	143		
	健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）	実技	1	1			②		②		②	井上 眞美子	146	☆☆	
	健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）	実技	1	1	◇	●	②		②		②	宮川 和三	149		
	健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）	実技	1	1			②		②		②	井上 靖	153		
	健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）	実技	1	1			②		②		②	井上 眞美子	156	☆☆	
	健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）	実技	1	1			②		②		②	宮川 和三	159		

◆は幼稚園教諭二種免許状取得のため必修科目、◇は幼稚園教諭二種免許状取得のため選択科目

●は保育士資格取得のため必修科目、○は保育士資格取得のための選択科目

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

※ 備考欄の☆は、学則第23条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

※ 備考欄の☆☆は、学則第23条第1項第3号の但書に規定する授業科目を表す。

# カリキュラム年次配当表

保育科第三部 平成21年度（2009年度）入学者対象  
[ ]は兼任講師

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		幼稚園 教諭 二種 免許	保育士 資格	学年配当(数字は週当り授業時間)						平成23年度の 担当者	ページ	備考
							1年		2年		3年				
							I	II	I	II	I	II			
基礎 科目	日本語（読解と表現）	演習	2	2	◇		2								☆
	英語	演習	2	2	◆	●	2								☆
	コンピュータ演習	演習	2	2	◆		2								☆
教 養 科 目	宗教と人生	講義	2	2			2								
	文学	講義	2	2			②		②		②	安井 重雄	93		
	色彩学	講義	2	2			2								
	日本国憲法	講義	2	2	◆				2						
	ジェンダー論	講義	2	2			②		②		②	[吉原 恵子]	119		
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2	2	◆	●	②		②		②	井上 靖	140		
	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習	2	2			②		②		②	井上 靖	144		
	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習	2	2			②		②		②	井上 眞美子	147		☆
	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習	2	2			②		②		②	宮川 和三	150		
	健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習	2	2	◇	●	②		②		②	井上 靖	154		
	健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習	2	2			②		②		②	井上 眞美子	157		☆
健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習	2	2			②		②		②	宮川 和三	160			

◆は幼稚園教諭二種免許状取得のため必修科目、◇は幼稚園教諭二種免許状取得のため選択科目

●は保育士資格取得のため必修科目、○は保育士資格取得のための選択科目

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

※ 備考欄の☆は、学則第23条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

《基礎科目》《経済情報学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	日本語(読解と表現)				
担当者名	安井 重雄・辻本 恭子・野田 直恵				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

高校から大学に入学し、それぞれに専門科目や教養科目を学ぶに際し、教科書に書かれている言葉や内容が難しくなっていると感じるだろう。これから社会の中で仕事を生きていくためには日本語の言葉と表現について深い理解が必要となってくる。この授業では、大学生活や社会で役立てるために、日本語の基本的な語彙や表現について学ぶこととする。

《授業の到達目標》

- ・常用漢字や、基本的な慣用表現やことわざの意味が理解できる。
- ・ある文の主語と述語が理解できる。
- ・基本的な助詞の使い方が理解できる。
- ・基本的な敬語の用法が理解できる。

《テキスト》

日本語表現に関する問題文などのコピーを配布する。

《参考文献》

授業時に指示する。

《成績評価の方法》

授業回数の3分の2以上(10回以上)出席しなければ単位は与えない。授業時の小テストなどの平常点(30%)、定期試験(70%)で評価する。

《授業時間外学習》

配布したプリントの内容を見直し、問題をもう一度解いて復習すること。

《備考》

授業に出来る限り、辞書(紙媒体のものも電子辞書も可)を持ってきてほしい。普段から辞書を引く習慣を身につけてほしい。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	授業の進め方の説明。ことばと表現、同音異義語・同訓異義語。
第2週	四字熟語。
第3週	慣用表現・ことわざ・故事成語。
第4週	主語と述語。
第5週	修飾語と被修飾語。
第6週	読点・接続詞・副詞の用法。
第7週	主語と述語。助詞の用法。
第8週	助詞の用法。
第9週	注意する助詞の用法。
第10週	敬語—尊敬語・謙譲語・丁寧語。
第11週	敬語—尊敬語・謙譲語・丁寧語。
第12週	敬語—尊敬語・謙譲語・丁寧語。
第13週	敬語—尊敬語・謙譲語・丁寧語。
第14週	手紙文の書き方。
第15週	これまでの授業のまとめ。



《基礎科目》《栄養マネジメント学科》

科目名	日本語(読解と表現)				
担当者名	安井 重雄・辻本 恭子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

高校から大学に入学し、それぞれに専門科目や教養科目を学ぶに際し、教科書に書かれている言葉や内容が難しくなっていると感じるだろう。これから社会の中で仕事を生きていくためには日本語の言葉と表現について深い理解が必要となってくる。この授業では、大学生活や社会で役立てるために、日本語の基本的な語彙や表現について学ぶこととする。

《授業の到達目標》

- ・常用漢字や、基本的な慣用表現やことわざの意味が理解できる。
- ・ある文の主語と述語が理解できる。
- ・基本的な助詞の使い方が理解できる。
- ・基本的な敬語の用法が理解できる。

《テキスト》

日本語表現に関する問題文などのコピーを配布する。

《参考文献》

授業時に指示する。

《成績評価の方法》

授業回数の3分の2以上(10回以上)出席しなければ単位は与えない。授業時の小テストなどの平常点(30%)、定期試験(70%)で評価する。

《授業時間外学習》

配布したプリントの内容を見直し、問題をもう一度解いて復習すること。

《備考》

授業に出来る限り、辞書(紙媒体のものも電子辞書も可)を持ってきてほしい。普段から辞書を引く習慣を身につけてほしい。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	授業の進め方の説明。ことばと表現、同音異義語・同訓異義語。
第2週	四字熟語。
第3週	慣用表現・ことわざ・故事成語。
第4週	主語と述語。
第5週	修飾語と被修飾語。
第6週	読点・接続詞・副詞の用法。
第7週	主語と述語。助詞の用法。
第8週	助詞の用法。
第9週	注意する助詞の用法。
第10週	敬語—尊敬語・謙譲語・丁寧語。
第11週	敬語—尊敬語・謙譲語・丁寧語。
第12週	敬語—尊敬語・謙譲語・丁寧語。
第13週	敬語—尊敬語・謙譲語・丁寧語。
第14週	手紙文の書き方。
第15週	これまでの授業のまとめ。

《基礎科目》《保育科第一部》

科目名	日本語(読解と表現)				
担当者名	安井 重雄・野田 直恵・小林 強				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

高校から大学に入学し、それぞれに専門科目や教養科目を学ぶに際し、教科書に書かれている言葉や内容が難しくなっていると感じるだろう。これから社会の中で仕事を生きていくためには日本語の言葉と表現について深い理解が必要となってくる。この授業では、大学生活や社会で役立てるために、日本語の基本的な語彙や表現について学ぶこととする。

《授業の到達目標》

- ・常用漢字や、基本的な慣用表現やことわざの意味が理解できる。
- ・ある文の主語と述語が理解できる。
- ・基本的な助詞の使い方が理解できる。
- ・基本的な敬語の用法が理解できる。

《テキスト》

日本語表現に関する問題文などのコピーを配布する。

《参考文献》

授業時に指示する。

《成績評価の方法》

授業回数の3分の2以上(10回以上)出席しなければ単位は与えない。授業時の小テストなどの平常点(30%)、定期試験(70%)で評価する。

《授業時間外学習》

配布したプリントの内容を見直し、問題をもう一度解いて復習すること。

《備考》

授業に出来る限り、辞書(紙媒体のものも電子辞書も可)を持ってきてほしい。普段から辞書を引く習慣を身につけてほしい。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	授業の進め方の説明。ことばと表現、同音異義語・同訓異義語。
第2週	四字熟語。
第3週	慣用表現・ことわざ・故事成語。
第4週	主語と述語。
第5週	修飾語と被修飾語。
第6週	読点・接続詞・副詞の用法。
第7週	主語と述語。助詞の用法。
第8週	助詞の用法。
第9週	注意する助詞の用法。
第10週	敬語—尊敬語・謙譲語・丁寧語。
第11週	敬語—尊敬語・謙譲語・丁寧語。
第12週	敬語—尊敬語・謙譲語・丁寧語。
第13週	敬語—尊敬語・謙譲語・丁寧語。
第14週	手紙文の書き方。
第15週	これまでの授業のまとめ。

《基礎科目》《保育科第三部》

科目名	日本語(読解と表現)				
担当者名	安井 重雄				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

高校から大学に入学し、それぞれに専門科目や教養科目を学ぶに際し、教科書に書かれている言葉や内容が難しくなっていると感じるだろう。これから社会の中で仕事を生きていくためには日本語の言葉と表現について深い理解が必要となってくる。この授業では、大学生活や社会で役立てるために、日本語の基本的な語彙や表現について学ぶこととする。

《授業の到達目標》

- ・常用漢字や、基本的な慣用表現やことわざの意味が理解できる。
- ・ある文の主語と述語が理解できる。
- ・基本的な助詞の使い方が理解できる。
- ・基本的な敬語の用法が理解できる。

《テキスト》

日本語表現に関する問題文などのコピーを配布する。

《参考文献》

授業時に指示する。

《成績評価の方法》

授業回数の3分の2以上(10回以上)出席しなければ単位は与えない。授業時の小テストなどの平常点(30%)、定期試験(70%)で評価する。

《授業時間外学習》

配布したプリントの内容を見直し、問題をもう一度解いて復習すること。

《備考》

授業に出来る限り、辞書(紙媒体のものも電子辞書も可)を持ってきてほしい。普段から辞書を引く習慣を身につけてほしい。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	授業の進め方の説明。ことばと表現、同音異義語・同訓異義語。
第2週	四字熟語。
第3週	慣用表現・ことわざ・故事成語。
第4週	主語と述語。
第5週	修飾語と被修飾語。
第6週	読点・接続詞・副詞の用法。
第7週	主語と述語。助詞の用法。
第8週	助詞の用法。
第9週	注意する助詞の用法。
第10週	敬語—尊敬語・謙譲語・丁寧語。
第11週	敬語—尊敬語・謙譲語・丁寧語。
第12週	敬語—尊敬語・謙譲語・丁寧語。
第13週	敬語—尊敬語・謙譲語・丁寧語。
第14週	手紙文の書き方。
第15週	これまでの授業のまとめ。

《基礎科目》《経済情報学科・栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	英語				
担当者名	平本 幸治				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

学生生活に密着した英会話表現と TOEIC Test 形式の練習問題を中心に編集されたテキストを利用して、実際的なコミュニケーション能力を養成します。テキストを着実に読み進み、内容、語義、文法事項、発音等を確認します。CD を用いて音声面の練成を試みます。小テストにより基本的な知識が定着するように努めます。

《授業の到達目標》

日常生活や職場で遭遇する英語による情報を理解でき、実際的なコミュニケーションに必要な表現を使いこなせる、実用的な英語を身に付けることを目標とします。

《テキスト》

『TOEIC Test Fundamentals』 クリストファー・ブルスマス他 (南雲堂)

《参考文献》

《成績評価の方法》

期末レポート (50%)、授業中に実施する小テスト (50%)

《授業時間外学習》

今回の学習範囲の単語や慣用句などの意味を調べ、精読しておいて下さい。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	Unit 1 Campus Life
第 2 週	Unit 2 Homestay 及び Unit 1 の復習
第 3 週	Unit 3 Making Friends 及び Unit 2 の復習
第 4 週	Unit 4 At a Party 及び Unit 3 の復習
第 5 週	Unit 5 In the Cafeteria 及び Unit 4 の復習
第 6 週	Unit 6 In the Library 及び Unit 5 の復習
第 7 週	Unit 7 Talking about 及び Weather と Unit 6 の復習
第 8 週	Unit 8 Making Telephone Calls 及び Unit 7 の復習
第 9 週	Unit 9 Weekend Activities 及び Unit 8 の復習
第 10 週	Unit 10 Driving 及び Unit 9 の復習
第 11 週	Unit 11 At a Bank 及び Unit 10 の復習
第 12 週	Unit 12 Shopping 及び Unit 11 の復習
第 13 週	Unit 13 Internet Shopping 及び Unit 12 の復習
第 14 週	Unit 14 At a Photo Shop 及び Unit 13 の復習
第 15 週	Unit 15 At the Campus Bookstore 及び Unit 14 の復習

**《基礎科目》《保育科第一部》**

科目名	英語				
担当者名	平本 幸治				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

**《授業のねらい及び概要》**

学生生活に密着した英会話表現と TOEIC Test 形式の練習問題を中心に編集されたテキストを利用して、実際的なコミュニケーション能力を養成します。テキストを着実に読み進み、内容、語義、文法事項、発音等を確認します。CD を用いて音声面の練成を試みます。小テストにより基本的な知識が定着するように努めます。

**《授業の到達目標》**

日常生活や職場で遭遇する英語による情報を理解でき、実際的なコミュニケーションに必要な表現を使いこなせる、実用的な英語を身に付けることを目標とします。

**《テキスト》**

『TOEIC Test Fundamentals』 クリストファー・ブルスミス他 (南雲堂)

**《参考文献》****《成績評価の方法》**

期末レポート (50%)、授業中に実施する小テスト (50%)

**《授業時間外学習》**

今回の学習範囲の単語や慣用句などの意味を調べ、精読しておいて下さい。

**《備考》****《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	Unit 1 Campus Life
第 2 週	Unit 2 Homestay 及び Unit 1 の復習
第 3 週	Unit 3 Making Friends 及び Unit 2 の復習
第 4 週	Unit 4 At a Party 及び Unit 3 の復習
第 5 週	Unit 5 In the Cafeteria 及び Unit 4 の復習
第 6 週	Unit 6 In the Library 及び Unit 5 の復習
第 7 週	Unit 7 Talking about 及び Weather と Unit 6 の復習
第 8 週	Unit 8 Making Telephone Calls 及び Unit 7 の復習
第 9 週	Unit 9 Weekend Activities 及び Unit 8 の復習
第 10 週	Unit 10 Driving 及び Unit 9 の復習
第 11 週	Unit 11 At a Bank 及び Unit 10 の復習
第 12 週	Unit 12 Shopping 及び Unit 11 の復習
第 13 週	Unit 13 Internet Shopping 及び Unit 12 の復習
第 14 週	Unit 14 At a Photo Shop 及び Unit 13 の復習
第 15 週	Unit 15 At the Campus Bookstore 及び Unit 14 の復習

**《基礎科目》《保育科第三部》**

科目名	英語				
担当者名	平本 幸治				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

**《授業のねらい及び概要》**

学生生活に密着した英会話表現と TOEIC Test 形式の練習問題を中心に編集されたテキストを利用して、実際的なコミュニケーション能力を養成します。テキストを着実に読み進み、内容、語義、文法事項、発音等を確認します。CD を用いて音声面の練成を試みます。小テストにより基本的な知識が定着するように努めます。

**《授業の到達目標》**

日常生活や職場で遭遇する英語による情報を理解でき、実際的なコミュニケーションに必要な表現を使いこなせる、実用的な英語を身に付けることを目標とします。

**《テキスト》**

『TOEIC Test Fundamentals』 クリストファー・ブルスミス他 (南雲堂)

**《参考文献》****《成績評価の方法》**

期末レポート (50%)、授業中に実施する小テスト (50%)

**《授業時間外学習》**

今回の学習範囲の単語や慣用句などの意味を調べ、精読しておいて下さい。

**《備考》****《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	Unit 1 Campus Life
第 2 週	Unit 2 Homestay 及び Unit 1 の復習
第 3 週	Unit 3 Making Friends 及び Unit 2 の復習
第 4 週	Unit 4 At a Party 及び Unit 3 の復習
第 5 週	Unit 5 In the Cafeteria 及び Unit 4 の復習
第 6 週	Unit 6 In the Library 及び Unit 5 の復習
第 7 週	Unit 7 Talking about 及び Weather と Unit 6 の復習
第 8 週	Unit 8 Making Telephone Calls 及び Unit 7 の復習
第 9 週	Unit 9 Weekend Activities 及び Unit 8 の復習
第 10 週	Unit 10 Driving 及び Unit 9 の復習
第 11 週	Unit 11 At a Bank 及び Unit 10 の復習
第 12 週	Unit 12 Shopping 及び Unit 11 の復習
第 13 週	Unit 13 Internet Shopping 及び Unit 12 の復習
第 14 週	Unit 14 At a Photo Shop 及び Unit 13 の復習
第 15 週	Unit 15 At the Campus Bookstore 及び Unit 14 の復習

《基礎科目》《経済情報学科・栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	英語				
担当者名	小泉 毅				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

リスニングの基礎から総復習をはかる。Phonics による基本の音を勉強し、歌、会話と発展していく。

《授業の到達目標》

英語に親しませることを目標とし、とくに基礎から聞いて→話すことに力点をおき、皆さんが英語が聞けるようになったと自信をもたせたい。そして、将来英検、TOEIC、TOEFL にチャレンジしていただく自信をつけさせたい。

《テキスト》

プリントを配布する。それでバインダー、辞書をもってきて下さい。

『Enjoy English』(長崎出版)

《参考文献》

NHK ラジオの「新基礎英語 1」を家で聞いていただくのを宿題として致します。本を買わなくていいです。

とにかくテープにとって聞いて下さい。

《成績評価の方法》

英検ノートづくり、クラスでの発表、小テスト、宿題を総合して評価する。定期テストはしない。なぜなら英語学習は毎日コツコツ聞くことが大切だからです。発表(40%)、宿題(30%)、小テスト(30%)。授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。

《授業時間外学習》

毎回宿題を致します。音読をして、ていねいにノートに書いて、暗唱まだしてください。また図書館の参考図書を使用する宿題も致します。図書館をよく利用してください。また DVD, Video, TV 等生の英語にどんどん触れていただければよいです。

《備考》

- 1.出席重視です。
- 2.席を決めていつもパートナーと一緒に発表するようにします。
- 3.はずかしがらないこと。どんどんしゃべって下さい。ただし英語で！
- 4.授業は全部英語でします。キャンパス内でも英語でしか話しません。これもすべてみなさんの英語力をアップしたいためです。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	授業の説明、自己紹介、評価の説明
第 2 週	小テスト、会話 (あいさつ)、Phonics (alphabet) 英検 5 級リスニングテスト
第 3 週	小テスト、会話、Phonics (alphabet) 英検 5 級リスニングテスト
第 4 週	小テスト、会話、Phonics (子音) ① 英検 4 級リスニングテスト
第 5 週	小テスト、会話、Phonics (子音) ② 英検 4 級リスニングテスト
第 6 週	小テスト、会話、Phonics (母音) ① 英検 3 級リスニングテスト
第 7 週	小テスト、会話、Phonics (母音) ② 英検 3 級リスニングテスト
第 8 週	小テスト、会話、Phonics を使った読解練習① 英検 5 級 (全体)
第 9 週	小テスト、会話、Phonics を使った読解練習② 英検 5 級 (全体)
第 10 週	小テスト、会話、Phonics (silent E) ① 英検 4 級 (全体)
第 11 週	小テスト、会話、Phonics (silent E) ② 英検 3 級 (全体)
第 12 週	小テスト、会話、Phonics (polite vowels) ① 英検準 2 級 (全体)
第 13 週	小テスト、会話、Phonics (polite vowels) ② 英検 5,4 級総復習
第 14 週	小テスト、会話総復習、Phonics 総復習① 英検 3 級総復習
第 15 週	小テスト、会話総復習、Phonics 総復習② 英検準 2 級総復習

《基礎科目》《保育科第一部》

科目名	英語				
担当者名	小泉 毅				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

リスニングの基礎から総復習をはかる。Phonics による基本の音を勉強し、歌、会話と発展していく。

《授業の到達目標》

英語に親しませることを目標とし、とくに基礎から聞いて→話すことに力点を置き、皆さんが英語が聞けるようになったと自信をもたせたい。そして、将来英検、TOEIC、TOEFL にチャレンジしていただく自信をつけさせたい。

《テキスト》

プリントを配布する。それでバインダー、辞書をもってきて下さい。

『Enjoy English』(長崎出版)

《参考文献》

NHK ラジオの「新基礎英語 1」を家で聞いていただくのを宿題として致します。本を買わなくていいです。

とにかくテープにとって聞いて下さい。

《成績評価の方法》

英検ノートづくり、クラスでの発表、小テスト、宿題を総合して評価する。定期テストはしない。なぜなら英語学習は毎日コツコツ聞くことが大切だからです。発表(40%)、宿題(30%)、小テスト(30%)。授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。

《授業時間外学習》

毎回宿題を致します。音読をして、ていねいにノートに書いて、暗唱まだしてください。また図書館の参考図書を使用する宿題も致します。図書館をよく利用してください。また DVD, Video, TV 等生の英語にどんどん触れていただければよいです。

《備考》

- 1.出席重視です。
- 2.席を決めていつもパートナーと一緒に発表するようにします。
- 3.はずかしがらないこと。どんどんしゃべって下さい。ただし英語で!
- 4.授業は全部英語でします。キャンパス内でも英語でしか話しません。これもすべてみなさんの英語力をアップしたいためです。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	授業の説明、自己紹介、評価の説明
第 2 週	小テスト、会話 (あいさつ)、Phonics (alphabet) 英検 5 級リスニングテスト
第 3 週	小テスト、会話、Phonics (alphabet) 英検 5 級リスニングテスト
第 4 週	小テスト、会話、Phonics (子音) ① 英検 4 級リスニングテスト
第 5 週	小テスト、会話、Phonics (子音) ② 英検 4 級リスニングテスト
第 6 週	小テスト、会話、Phonics (母音) ① 英検 3 級リスニングテスト
第 7 週	小テスト、会話、Phonics (母音) ② 英検 3 級リスニングテスト
第 8 週	小テスト、会話、Phonics を使った読解練習① 英検 5 級 (全体)
第 9 週	小テスト、会話、Phonics を使った読解練習② 英検 5 級 (全体)
第 10 週	小テスト、会話、Phonics (silent E) ① 英検 4 級 (全体)
第 11 週	小テスト、会話、Phonics (silent E) ② 英検 3 級 (全体)
第 12 週	小テスト、会話、Phonics (polite vowels) ① 英検準 2 級 (全体)
第 13 週	小テスト、会話、Phonics (polite vowels) ② 英検 5,4 級総復習
第 14 週	小テスト、会話総復習、Phonics 総復習① 英検 3 級総復習
第 15 週	小テスト、会話総復習、Phonics 総復習② 英検準 2 級総復習



《基礎科目》《保育科第三部》

科目名	英語				
担当者名	小泉 毅				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

リスニングの基礎から総復習をはかる。Phonics による基本の音を勉強し、歌、会話と発展していく。

《授業の到達目標》

英語に親しませることを目標とし、とくに基礎から聞いて→話すことに力点を置き、皆さんが英語が聞けるようになったと自信をもたせたい。そして、将来英検、TOEIC、TOEFL にチャレンジしていただく自信をつけさせたい。

《テキスト》

プリントを配布する。それでバインダー、辞書をもってきて下さい。

『Enjoy English』(長崎出版)

《参考文献》

NHK ラジオの「新基礎英語 1」を家で聞いていただくのを宿題として致します。本を買わなくていいです。

とにかくテープにとって聞いて下さい。

《成績評価の方法》

英検ノートづくり、クラスでの発表、小テスト、宿題を総合して評価する。定期テストはしない。なぜなら英語学習は毎日コツコツ聞くことが大切だからです。発表(40%)、宿題(30%)、小テスト(30%)。授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。

《授業時間外学習》

毎回宿題を致します。音読をして、ていねいにノートに書いて、暗唱まだしてください。また図書館の参考図書を使用する宿題も致します。図書館をよく利用してください。また DVD, Video, TV 等生の英語にどんどん触れていただければよいです。

《備考》

- 1.出席重視です。
- 2.席を決めていつもパートナーと一緒に発表するようにします。
- 3.はずかしがらないこと。どんどんしゃべって下さい。ただし英語で!
- 4.授業は全部英語でします。キャンパス内でも英語でしか話しません。これもすべてみなさんの英語力をアップしたいためです。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	授業の説明、自己紹介、評価の説明
第 2 週	小テスト、会話 (あいさつ)、Phonics (alphabet) 英検 5 級リスニングテスト
第 3 週	小テスト、会話、Phonics (alphabet) 英検 5 級リスニングテスト
第 4 週	小テスト、会話、Phonics (子音) ① 英検 4 級リスニングテスト
第 5 週	小テスト、会話、Phonics (子音) ② 英検 4 級リスニングテスト
第 6 週	小テスト、会話、Phonics (母音) ① 英検 3 級リスニングテスト
第 7 週	小テスト、会話、Phonics (母音) ② 英検 3 級リスニングテスト
第 8 週	小テスト、会話、Phonics を使った読解練習① 英検 5 級 (全体)
第 9 週	小テスト、会話、Phonics を使った読解練習② 英検 5 級 (全体)
第 10 週	小テスト、会話、Phonics (silent E) ① 英検 4 級 (全体)
第 11 週	小テスト、会話、Phonics (silent E) ② 英検 3 級 (全体)
第 12 週	小テスト、会話、Phonics (polite vowels) ① 英検準 2 級 (全体)
第 13 週	小テスト、会話、Phonics (polite vowels) ② 英検 5,4 級総復習
第 14 週	小テスト、会話総復習、Phonics 総復習① 英検 3 級総復習
第 15 週	小テスト、会話総復習、Phonics 総復習② 英検準 2 級総復習

《基礎科目》《経済情報学科・社会福祉学科》

科目名	英語				
担当者名	Michael. H. Fox				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

日本教育制度の英語教育は、中学校から6年間義務づけられている。この英語教育の目標は、受験合格に他ならない。大学受験英語は非常に難しく、内容も面白くない、英語ができないので英語が嫌いと言う学生も多い。しかしながら、受験英語の成績と英会話の能力は一切関係なく、受験英語がどうしてもできないと言う人でも、英会話を修得する可能性がある。このコースの主な特徴は、日本語を話せる外国人講師の英語の歌など使ったゆっくりとした親切な指導にあり、国際理解と英会話の上達を目指すものである。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する生きている英語を楽しみながら身につける。

《テキスト》

Talk Time Student Book 1  
Topic Talk

《参考文献》

各自は英和・和英辞典も持ってくるように(電子辞書もOK)。語学の上達のためには、辞書と仲良くすることが大切です。

《成績評価の方法》

成績評価は、毎回の講義における参加意欲・学力伸張を80パーセント、学期末に行う試験を20パーセントとする。

外国語を修得するためには、できるだけその言語を集中して勉強する必要がある。そこで出席を重視する。試験なしの評価もあるのでぜひ精一杯に努力すること。4回を欠席すると無資格者になる。つまり、許可なし3回連続欠席も無資格になる。

《授業時間外学習》

《備考》

この授業の内容は高等学校の授業と完全に違います。大事なことは出席と積極的な態度です。

《授業計画》

週	授業計画
第1週	Introduction +Orientation
第2週	Describing People p10~11
第3週	Everyday Activities p19-21
第4週	Foods and Drinks p25-7
第5週	Snacks p28-31
第6週	Housing p31-3
第7週	Free Time Activities p37-9
第8週	Popular Sports p40-2
第9週	Life Events p43-5
第10週	Weekend Plans p46-8
第11週	Movies p49-51
第12週	TV Programs p52-4
第13週	Health Problems p55-57
第14週	試験 or 自己評価
第15週	未定

《基礎科目》《健康システム学科・看護学科》

科目名	英語				
担当者名	Michael. H. Fox				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

日本教育制度の英語教育は、中学校から6年間義務づけられている。この英語教育の目標は、受験合格に他ならない。大学受験英語は非常に難しく、内容も面白くない、英語ができないので英語が嫌いと言う学生も多い。しかしながら、受験英語の成績と英会話の能力は一切関係なく、受験英語がどうしてもできないと言う人でも、英会話を修得する可能性がある。このコースの主な特徴は、日本語を話せる外国人講師の英語の歌など使ったゆっくりとした親切な指導にあり、国際理解と英会話の上達を目指すものである。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する生きている英語を楽しみながら身につける。

《テキスト》

Talk Time Student Book 2

Topic Talk

《参考文献》

各自は英和・和英辞典も持ってくるように(電子辞書もOK)。語学の上達のためには、辞書と仲良くすることが大切です。

《成績評価の方法》

成績評価は、毎回の講義における参加意欲・学力伸張を80パーセント、学期末に行う試験を20パーセントとする。

外国語を修得するためには、できるだけその言語を集中して勉強する必要がある。そこで出席を重視する。

試験なしの評価もあるのでぜひ精一杯に努力すること。4回を欠席すると無資格者になる。つまり、許可なし3回連続欠席も無資格になる。

《授業時間外学習》

《備考》

この授業の内容は高等学校の授業と完全に違います。大事なのは出席と積極的な態度です。

《授業計画》

週	授業計画
第1週	Introduction +Orientation
第2週	Describing People p10~11
第3週	Everyday Activities p19-21
第4週	Foods and Drinks p25-7
第5週	Snacks p28-31
第6週	Housing p31-3
第7週	Free Time Activities p37-9
第8週	Popular Sports p40-2
第9週	Life Events p43-5
第10週	Weekend Plans p46-8
第11週	Movies p49-51
第12週	TV Programs p52-4
第13週	Health Problems p55-57
第14週	試験 or 自己評価
第15週	未定

《基礎科目》《保育科第一部》

科目名	英語				
担当者名	Michael. H. Fox				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

日本教育制度の英語教育は、中学校から6年間義務づけられている。この英語教育の目標は、受験合格に他ならない。大学受験英語は非常に難しく、内容も面白くない、英語ができないので英語が嫌いと言う学生も多い。しかしながら、受験英語の成績と英会話の能力は一切関係なく、受験英語がどうしてもできないと言う人でも、英会話を修得する可能性がある。このコースの主な特徴は、日本語を話せる外国人講師の英語の歌など使ったゆっくりとした親切な指導にあり、国際理解と英会話の上達を目指すものである。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する生きている英語を楽しみながら身につける。

《テキスト》

Talk Time Student Book 1

《参考文献》

各自は英和・和英辞典も持ってくるように(電子辞書もOK)。語学の上達のためには、辞書と仲良くすることが大切です。

《成績評価の方法》

成績評価は、毎回の講義における参加意欲・学力伸張を80パーセント、学期末に行う試験を20パーセントとする。

外国語を修得するためには、できるだけその言語を集中して勉強する必要がある。そこで出席を重視する。試験なしの評価もあるのでぜひ精一杯に努力すること。4回を欠席すると無資格者になる。つまり、許可なし3回連続欠席も無資格になる。

《授業時間外学習》

《備考》

この授業の内容は高等学校の授業と完全に違います。大事なのは出席と積極的な態度です。

《授業計画》

週	授業計画
第1週	Introduction +Orientation
第2週	Describing People p10~11
第3週	Everyday Activities p19-21
第4週	Foods and Drinks p25-7
第5週	Snacks p28-31
第6週	Housing p31-3
第7週	Free Time Activities p37-9
第8週	Popular Sports p40-2
第9週	Life Events p43-5
第10週	Weekend Plans p46-8
第11週	Movies p49-51
第12週	TV Programs p52-4
第13週	Health Problems p55-57
第14週	試験 or 自己評価
第15週	未定

《基礎科目》《保育科第三部》

科目名	英語				
担当者名	Michael. H. Fox				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

日本教育制度の英語教育は、中学校から6年間義務づけられている。この英語教育の目標は、受験合格に他ならない。大学受験英語は非常に難しく、内容も面白くない、英語ができないので英語が嫌いと言う学生も多い。しかしながら、受験英語の成績と英会話の能力は一切関係なく、受験英語がどうしてもできないと言う人でも、英会話を修得する可能性がある。このコースの主な特徴は、日本語を話せる外国人講師の英語の歌など使ったゆっくりとした親切な指導にあり、国際理解と英会話の上達を目指すものである。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する生きている英語を楽しみながら身につける。

《テキスト》

Talk Time Student Book 1

《参考文献》

各自は英和・和英辞典も持ってくるように(電子辞書もOK)。語学の上達のためには、辞書と仲良くすることが大切です。

《成績評価の方法》

成績評価は、毎回の講義における参加意欲・学力伸張を80パーセント、学期末に行う試験を20パーセントとする。

外国語を修得するためには、できるだけその言語を集中して勉強する必要がある。そこで出席を重視する。試験なしの評価もあるのでぜひ精一杯に努力すること。4回を欠席すると無資格者になる。つまり、許可なし3回連続欠席も無資格になる。

《授業時間外学習》

《備考》

この授業の内容は高等学校の授業と完全に違います。大事なのは出席と積極的な態度です。

《授業計画》

週	授業計画
第1週	Introduction +Orientation
第2週	Describing People p10~11
第3週	Everyday Activities p19-21
第4週	Foods and Drinks p25-7
第5週	Snacks p28-31
第6週	Housing p31-3
第7週	Free Time Activities p37-9
第8週	Popular Sports p40-2
第9週	Life Events p43-5
第10週	Weekend Plans p46-8
第11週	Movies p49-51
第12週	TV Programs p52-4
第13週	Health Problems p55-57
第14週	試験 or 自己評価
第15週	未定

《基礎科目》《経済情報学科・健康システム学科・看護学科》

科目名	コンピュータ演習				
担当者名	西田 悦雄				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

コンピュータを使っての「レポート」や「資料」を作成するのに必要となる、1. 情報収集のための Web ブラウザを使った情報検索やその操作方法、2. レポート作成に用いるワードプロセッサソフト・表計算ソフトや発表のためのプレゼンテーションソフトの操作方法や活用法、3. 情報の共有やコミュニケーションのための電子メールの活用など基礎的な能力である“リテラシ”に対して、2号館3階の計算機実習室のコンピュータを使って演習を行います。

また、所属学科や理解度・進捗状況等により重点を置く項目が若干異なりますが、柔軟的に対応し進めていきます。

《授業の到達目標》

本学計算機実習室のコンピュータを使うための基礎的な知識や技術の習得を目指します。

具体的には、インターネットを使って必要とする情報の検索や閲覧・収集の方法、得られた情報の加工技術など、コンピュータを利用した情報処理に関する基礎的な知識・技術について、演習課題等を通して操作技術や考え方の獲得を目標としています。

また、情報化社会の通信基盤である「コンピュータ・ネットワーク」の利用に際してのその利便性や危険性など情報化社会での必要とされる知識の獲得も目指します。

《テキスト》

教科書は使用しません。毎回、オンライン資料やプリント等、必要に応じて適宜配布します。

《参考文献》

必要に応じて演習内にて適宜紹介します。

《成績評価の方法》

提出課題の提出状況(20%)と課題内容(80%)を総合的に評価します。

欠席回数が全授業回数の 1/3 以上ある場合には単位認定ができない場合があります。

《授業時間外学習》

授業内で配布する資料は学期終了まで自由に閲覧できるようにしますので、配布資料を熟読し理解を深めてください。

《備考》

これまでさまざまな文房具や道具を使ってきたように、コンピュータも便利な文房具や道具として加えることは、学生生活をおくる上でも損にはなりません。“便利な文房具や道具として”のコンピュータの積極的な利用を希望します。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	授業の概要説明（ガイダンス）， 計算機実習室利用の手続きと初期設定等
第 2 週	Windows の基礎・電子メールの活用
第 3 週	Web ブラウザの活用
第 4 週	ワードプロセッサソフトの演習(1)
第 5 週	ワードプロセッサソフトの演習(2)
第 6 週	ワードプロセッサソフトの演習(3)
第 7 週	表計算ソフトの演習(1)
第 8 週	表計算ソフトの演習(2)
第 9 週	プレゼンテーションソフトの演習(1)
第 10 週	プレゼンテーションソフトの演習(2)
第 11 週	プレゼンテーション資料の発表／総合的な演習(1)
第 12 週	総合的な演習(2)
第 13 週	総合的な演習(3)
第 14 週	総合的な演習(4)
第 15 週	総合的な演習(5)

《基礎科目》《経済情報学科・健康システム学科・看護学科》

科目名	コンピュータ演習				
担当者名	河野 稔				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

この授業では、大学・短大での学習活動に必要となる「情報リテラシー」、つまり ICT（情報コミュニケーション技術）による情報を活用する力の修得を目指します。

具体的には、インターネットを活用した情報検索、文書作成、データ処理、プレゼンテーションといった、ソフトウェアやシステムの操作や利用についての「技能面」の情報リテラシーの実習をします。また、システムの仕組みや機能、情報モラルなど、情報社会を生きる上で必要となる「知識面」の情報リテラシーについても学習します。

《授業の到達目標》

- パソコンやインターネットを学生生活の道具として適切に利用できる。
- 目的にあわせてソフトウェアやシステムを選択して情報の収集・編集・発表に活用できる。
- 日々生み出されるぼう大な情報を活用するための知識と態度を身につける。

《テキスト》

- ・毎回の授業で、授業内容を説明したプリントを配布します。
- ・配布したプリントやその他の資料などは、eラーニングのシステムや授業用の Web サイトで公開します。

《参考文献》

- ・『基礎からわかる情報リテラシー』奥村晴彦（技術評論社）2007年
  - ・『情報リテラシー教科書 インターネット・Word・Excel・PowerPoint』矢野文彦監修（オーム社）2009年
  - ・『インターネット社会を生きるための情報倫理 2010』情報教育学研究会・情報倫理研究グループ編（実教出版）2009年
- その他の文献や資料は、適宜紹介します。

《成績評価の方法》

- ・ほぼ毎回の提出課題（80%）と情報モラルに関するレポート等の提出物（20%）で評価します。
- ・欠席回数が授業実施回数の3分の1以上の場合は単位を与えません。

《授業時間外学習》

この授業では復習が重要です。ソフトの操作や利用方法を次の授業で生かせるように、学習や日常生活でパソコンを利用して、練習しておきましょう。次の授業の予習にもなります。

また、「文書作成」「データ処理」「プレゼンテーション」の実習では、3回の授業ごとにまとめ課題があります。それまでの授業で学習した成果を実践的に利用できるように練習しておいてください。

《備考》

ICTを使いこなすには、「習うより慣れる」ことが一番大事です。苦手意識を持っている人は、利用する機会を増やして、まずはキーボードを少しでも早く打てるように練習しましょう。

学習環境として、2号館のコンピュータ実習室を利用します。また、小テストや課題提出にはeラーニングのシステムを利用します。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	ガイダンス／コンピュータ実習室の利用手続き／授業前アンケートの実施
第 2 週	学内システムの利用／Webメールの利用／eラーニングへの利用
第 3 週	インターネット(1) 電子メールによるコミュニケーション
第 4 週	インターネット(2) インターネット上の情報の検索
第 5 週	インターネット(3) 情報モラル
第 6 週	文書作成(1) レポート形式の文書の作成
第 7 週	文書作成(2) 文書のデザインとレイアウト（図やイラストの利用）
第 8 週	文書作成(3) まとめ課題
第 9 週	データ処理(1) 表形式データの簡単な処理とグラフ作成
第 10 週	データ処理(2) 関数を利用した処理とグラフの活用
第 11 週	データ処理(3) まとめ課題
第 12 週	プレゼンテーション(1) 文字による基本的なプレゼンテーションの作成
第 13 週	プレゼンテーション(2) 図やアニメーションを利用した視覚表現
第 14 週	プレゼンテーション(3) まとめ課題
第 15 週	プレゼンテーション(4) まとめ課題の発表／授業全体のふり返り

《基礎科目》《保育科第一部》

科目名	コンピュータ演習				
担当者名	河野 稔				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

この授業では、大学・短大での学習活動に必要となる「情報リテラシー」、つまり ICT（情報コミュニケーション技術）による情報を活用する力の修得を目指します。

具体的には、インターネットを活用した情報検索、文書作成、データ処理、プレゼンテーションといった、ソフトウェアやシステムの操作や利用についての「技能面」の情報リテラシーの実習をします。また、システムの仕組みや機能、情報モラルなど、情報社会を生きる上で必要となる「知識面」の情報リテラシーについても学習します。

《授業の到達目標》

- パソコンやインターネットを学生生活の道具として適切に利用できる。
- 目的にあわせてソフトウェアやシステムを選択して情報の収集・編集・発表に活用できる。
- 日々生み出されるぼう大な情報を活用するための知識と態度を身につける。

《テキスト》

- ・毎回の授業で、授業内容を説明したプリントを配布します。
- ・配布したプリントやその他の資料などは、eラーニングのシステムや授業用の Web サイトで公開します。

《参考文献》

- ・『基礎からわかる情報リテラシー』奥村晴彦（技術評論社）2007年
  - ・『情報リテラシー教科書 インターネット・Word・Excel・PowerPoint』矢野文彦監修（オーム社）2009年
  - ・『インターネット社会を生きるための情報倫理 2010』情報教育学研究会・情報倫理研究グループ編（実教出版）2009年
- その他の文献や資料は、適宜紹介します。

《成績評価の方法》

- ・ほぼ毎回の提出課題（80%）と情報モラルに関するレポート等の提出物（20%）で評価します。
- ・欠席回数が授業実施回数の3分の1以上の場合は単位を与えません。

《授業時間外学習》

この授業では復習が重要です。ソフトの操作や利用方法を次の授業で生かせるように、学習や日常生活でパソコンを利用して、練習しておきましょう。次の授業の予習にもなります。

また、「文書作成」「データ処理」「プレゼンテーション」の実習では、3回の授業ごとにまとめ課題があります。それまでの授業で学習した成果を実践的に利用できるように練習しておいてください。

《備考》

ICT を使いこなすには、「習うより慣れる」ことが一番大事です。苦手意識を持っている人は、利用する機会を増やして、まずはキーボードを少しでも早く打てるように練習しましょう。

学習環境として、2号館のコンピュータ実習室を利用します。また、小テストや課題提出にはeラーニングのシステムを利用します。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	ガイダンス／コンピュータ実習室の利用手続き／授業前アンケートの実施
第 2 週	学内システムの利用／Web メールの利用／eラーニングへの利用
第 3 週	インターネット(1) 電子メールによるコミュニケーション
第 4 週	インターネット(2) インターネット上の情報の検索
第 5 週	インターネット(3) 情報モラル
第 6 週	文書作成(1) レポート形式の文書の作成
第 7 週	文書作成(2) 文書のデザインとレイアウト（図やイラストの利用）
第 8 週	文書作成(3) まとめ課題
第 9 週	データ処理(1) 表形式データの簡単な処理とグラフ作成
第 10 週	データ処理(2) 関数を利用した処理とグラフの活用
第 11 週	データ処理(3) まとめ課題
第 12 週	プレゼンテーション(1) 文字による基本的なプレゼンテーションの作成
第 13 週	プレゼンテーション(2) 図やアニメーションを利用した視覚表現
第 14 週	プレゼンテーション(3) まとめ課題
第 15 週	プレゼンテーション(4) まとめ課題の発表／授業全体のふり返し



《基礎科目》《栄養マネジメント学科》

科目名	コンピュータ演習				
担当者名	原田 昭子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

「読み」「書き」「そろばん」は、勉強や仕事をするのに必要最低限の習得しておかなければならないものとされました。このような基礎的な能力を「リテラシ」といいます。

本演習では、各種ソフトウェアやインターネットを使用して、コンピュータの基本的な活用能力であるコンピュータ・リテラシの演習を中心に行うとともに、情報処理に関する幅広い知識の習得も目指します。

具体的には、ワープロや表計算、電子メールなどのインターネット、プレゼンテーション活動など、幅広いコンピュータによる具体的な問題解決方法を学習することを予定しています。ただし、進捗状況によって内容が変更されることもあります。

主に使用するコンピュータ環境は、計算機実習室と学内情報ネットワーク HUMANS です。

《授業の到達目標》

大学のコンピュータ環境になれることが、第1目的である。

メールで教員とやり取りしながら、作品の完成度を高める。また、授業の内容の報告書をメールで提出し、まとめる能力が向上する。ワープロの文章機能だけでなく、図やイラスト、写真等を利用して食に関する媒体が作成できるようになる。

表計算ソフトでは、栄養価データをもとに計算機能を学習するだけでなく、グラフを作成しグラフを読み取り、コメントが書けるようになる。

パワーポイントでは、食についての発表原稿を作成するなかで、動きのあるグラフ、イラストが作れるようになる。

《テキスト》

適宜、資料を配布します。

《参考文献》

『インフォメーション・リテラシ』兵庫大学情報科学センター 発行

《成績評価の方法》

提出作品（100%）の評価で決定します。

《授業時間外学習》

「習うより慣れろ」というのはコンピュータを勉強する人にとっては、大事な言葉です。

コンピュータは命令しなくても勝手に自分で判断し仕事をすることはありません。人間が使いこなすことで何かができあがる「道具」です。道具を使いこなすには、できるだけ長い時間触って使うことが一番の早道です。また、本演習で行う内容は、毎回の授業の中だけで身につくものではありません。

授業時間以外にも積極的にコンピュータを利用して、少しでもキーボードを早く打てるように練習したり授業で習得したものを活用して、コンピュータやインターネットを利用する時間を自分で作ってください。

《備考》

休んだときは、その埋め合わせをしておかないと授業進行に支障が出る場合が多いので、注意が必要である。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	授業の概要説明 実習室の概要説明 コンピュータへの登録 キーボードとマウスの操作 Windows の基礎（1）
第 2 週	Windows の基礎（2）
第 3 週	インターネット：電子メール
第 4 週	インターネット：情報検索等
第 5 週	ワープロソフト（1）
第 6 週	ワープロソフト（2）
第 7 週	表計算ソフト（1）
第 8 週	表計算ソフト（2）
第 9 週	表計算ソフト（3）
第10週	表計算ソフト（4）
第11週	プレゼンテーション（1）
第12週	プレゼンテーション（2）
第13週	演習および課題（1）
第14週	演習および課題（2）
第15週	演習および課題（3）

《基礎科目》《栄養マネジメント学科》

科目名	コンピュータ演習				
担当者名	湯瀬 晶文				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

コンピューティング環境は私たちの生活に不可欠なものとなっている。以前は特別な分野だけで必要とされたコンピュータを利用する技能は、もはやあらゆる場面で当たり前のものとなりつつあり、大学の授業においても同様である。

授業ではコンピュータの基本的な操作方法と様々なアプリケーション（ソフトウェア）の基礎を演習する。ただし、個々のアプリケーションの詳細な使い方をすることが目的ではなく、コンピュータでどのような作業ができるのか、どういった場面でコンピュータが有用であるかを少しでも身につけることを目指して演習を行う。このため、あくまでも基本に留めつつ、複数のアプリケーションについて次々と演習を行う形をとる。内容は大学の設備状況や講義の進捗状況等により、変更することもある。

履修にあたってコンピュータの知識は必要としない。ただし、何とか身につけようという強い意志と、自分できちんと時間を割いてコンピュータと向かい合うことが必要不可欠である。

《授業の到達目標》

この演習では、コンピュータの基礎的な知識や能力（コンピュータリテラシー）の初歩的な部分、あるいは、今後受講することになる専門科目などで必要となるコンピュータに関する知識や技能の基礎を身につけることを目標とする。とりわけいくつかのソフトウェア環境において、基礎的な作業を行えるようになることを目標とする。

《テキスト》

特に指定しない（必要に応じてオンラインでのファイル配付等を行う）

《参考文献》

『体系的に学び直す パソコンのしくみ』 日経BP社

『コンピュータの仕組み』 尾内理紀夫著 朝倉書店

『コンピュータはなぜ動くのか』 矢沢久雄著 日経BP社

『コンピュータ概説』 宮崎他著 共立出版

図書館などにある「Word」や「Excel」についての各種解説書

図書館などにある「Windows」や「MacOS」、「コンピュータリテラシ」についての各種解説書

《成績評価の方法》

毎回の課題への取り組みとレポートを主として評価する（100%）。

なお、私語や携帯電話の利用など、授業・他者へ悪影響を与える行為は厳しく評価を行う。

《授業時間外学習》

毎回のように課題が出るので、時間をかけて取り組む必要がある。授業は前回までの課題を完成させていることを前提に行われる。万一授業を欠席する場合は、次回の授業までに授業内容を確認し、課題を完成させること。

《備考》

コンピュータはとにかく触ってみることが大切です。触って、どういう操作をすればどのような反応を示すのかを注意深く観察して下さい。全く知識が無い状態から出発しても、適切な情報を仕入れつつ自らの頭で考えながらコンピュータと向かい合っていれば、1年ほどでスペシャリストになることも可能です。そして、演習時間以外にも積極的にコンピュータに触れるようにして下さい。そのうちにコンピュータを利用することに抵抗が無くなり、だんだん使い易く感じられるようになると思います。コンピュータを利用しなですむことはほとんど無いので、どうせなら早めに慣れるようにしましょう。

また、コンピュータは自分で判断して勝手に作業をしてくれるわけではありません。人間が指示したとおりにしか動きませんので、勝手におかしな結果になることもありません。おかしな結果になったときは、自分が指示した内容をきちんと分析すると原因がはつきりしてくることが多いものです。試してみてください。

なお、コンピュータ演習ではクラス分けが行われますので、希望どおりのクラスにならない可能性がありますし、受講生の状態によって授業内容に多少の変更が出る可能性があります。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	演習教室の利用環境の設定 コンピュータの利用の準備
第 3 週	キーボードとマウスの操作 Windows の基礎（1）～コンピュータの利用のために～
第 4 週	Windows の基礎（2）～ファイルの操作など～
第 5 週	文字の入力
第 6 週	電子メールの練習
第 7 週	簡単な情報検索
第 8 週	ワープロソフト（1）
第 9 週	ワープロソフト（2）
第10週	表計算ソフト（1）
第11週	表計算ソフト（2）
第12週	表計算ソフト（3）
第13週	プレゼンテーションソフト（1）
第14週	プレゼンテーションソフト（2）
第15週	総合演習

《基礎科目》《健康システム学科・看護学科》

科目名	コンピュータ演習				
担当者名	佐竹 邦子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

パソコンなどの情報機器やインターネットを使えることは現在の社会では必須の能力となっています。学生生活のために必要な情報技術・知識を習得し、さらには将来にわたって長く役立つ知識を習得することも目指します。

授業は毎回実習形式で行い、課題を示します。

《授業の到達目標》

コンピュータやネットワークが広く利用されている現在の社会で、将来にわたってそれらと良好につきあっていくための基礎的技能を身につけられる。

メールやインターネット、各種アプリケーションソフトなどの基本的な使い方から、ネットワーク社会でのマナーも身につけられる。

《テキスト》

「学生のための Office2010&情報モラル」, noa 出版

《参考文献》

- ・できる大事典 Excel 2007 Windows Vista 対応, 尾崎 裕子 (著), 日花 弘子 (著), できるシリーズ編集部 (著), インプレスジャパン
- ・できる大事典 Word 2007 Windows Vista 対応, 嘉本 須磨子 (著), 神田 知宏 (著), できるシリーズ編集部 (著), インプレスジャパン
- ・よくわかる Microsoft Office Excel 2007 (基礎), 富士通エフ・オー・エム (著), FOM 出版/富士通エフ・オー・エム
- ・よくわかる Microsoft Office Excel 2007 (応用), 富士通エフ・オー・エム (著), FOM 出版/富士通エフ・オー・エム
- ・よくわかる Microsoft Office Word2007 (基礎), 富士通エフ・オー・エム (著), FOM 出版/富士通エフ・オー・エム
- ・よくわかる Microsoft Office Word2007 (応用), 富士通エフ・オー・エム (著), FOM 出版/富士通エフ・オー・エム
- ・よくわかる Microsoft Office PowerPoint 2007, 富士通エフ・オー・エム (著), FOM 出版/富士通エフ・オー・エム

《成績評価の方法》

- ・平常点 (30%)
- ・提出課題 (70%) ただし、欠席回数が5回を超えた場合、欠格となる。

《授業時間外学習》

- ・次回の授業範囲を予習すること。
- ・テキストに分からない専門用語等が出てきた場合には、メモをして可能な限り事前に調べておくこと。

《備考》

- ・出席を重視する。
- ・欠席した場合、次回授業までに自習しておくこと。欠席分の遅れは、自ら取り戻すことを原則とする。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	ガイダンス： 授業の概要の説明 実習室ログオンアカウントの確認、管理方法の理解 学内情報システムに関する理解、実習室環境の理解
第 2 週	Windows の基礎、電子メール (1)： Windows の基礎的操作 電子メールの送受信、署名の設定、基礎知識
第 3 週	電子メール (2)： ファイルの添付、メールに関するマナー
第 4 週	インターネットによる情報検索 (1)： 検索サイトの仕組み、検索サイトの活用、論理式を使った検索、情報の信頼性の検証方法
第 5 週	インターネットによる情報検索 (2)： セキュリティについて、情報モラル、著作権、個人情報の保護
第 6 週	ワープロソフトの基礎 (1)： 基本的な使い方の習得
第 7 週	ワープロソフトの基礎 (2)： 基本的な使い方の習得
第 8 週	表計算ソフトの基礎 (1)： 基本的な使い方の習得
第 9 週	表計算ソフトの基礎 (2)： 基本的な使い方の習得
第 10 週	プレゼンテーションソフトの基礎 (1)： 基本的な使い方の習得
第 11 週	プレゼンテーションソフトの基礎 (2)： 基本的な使い方の習得
第 12 週	レポート作成のための PC 活用 (1)： アウトラインの作成
第 13 週	レポート作成のための PC 活用 (2)： アンケート結果の集計
第 14 週	レポート作成のための PC 活用 (3)： アンケート結果をレポートにする
第 15 週	レポート作成のための PC 活用 (4)： アンケート結果をスライドにする

《基礎科目》《社会福祉学科》

科目名	コンピュータ演習				
担当者名	佐竹 邦子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

パソコンなどの情報機器やインターネットを使えることは現在の社会では必須の能力となっています。学生生活のために必要な情報技術・知識を習得し、さらには将来にわたって長く役立つ知識を習得することも目指します。

授業は毎回実習形式で行い、課題を示します。

《授業の到達目標》

コンピュータやネットワークが広く利用されている現在の社会で、将来にわたってそれらと良好につきあっていくための基礎的技能を身につけられる。

メールやインターネット、各種アプリケーションソフトなどの基本的な使い方から、ネットワーク社会でのマナーも身につけられる。

《テキスト》

「学生のための Office2010&情報モラル」, noa 出版

《参考文献》

- ・できる大事典 Excel 2007 Windows Vista 対応, 尾崎 裕子 (著), 日花 弘子 (著), できるシリーズ編集部 (著), インプレスジャパン
- ・できる大事典 Word 2007 Windows Vista 対応, 嘉本 須磨子 (著), 神田 知宏 (著), できるシリーズ編集部 (著), インプレスジャパン
- ・よくわかる Microsoft Office Excel 2007 (基礎), 富士通エフ・オー・エム (著), FOM 出版/富士通エフ・オー・エム
- ・よくわかる Microsoft Office Excel 2007 (応用), 富士通エフ・オー・エム (著), FOM 出版/富士通エフ・オー・エム
- ・よくわかる Microsoft Office Word2007 (基礎), 富士通エフ・オー・エム (著), FOM 出版/富士通エフ・オー・エム
- ・よくわかる Microsoft Office Word2007 (応用), 富士通エフ・オー・エム (著), FOM 出版/富士通エフ・オー・エム
- ・よくわかる Microsoft Office PowerPoint 2007, 富士通エフ・オー・エム (著), FOM 出版/富士通エフ・オー・エム

《成績評価の方法》

- ・平常点 (30%)
- ・提出課題 (70%)

ただし、欠席回数が5回を超えた場合、欠格となる。

《授業時間外学習》

- ・次回の授業範囲を予習すること。
- ・テキストに分からない専門用語等が出てきた場合には、メモをして可能な限り事前に調べておくこと。

《備考》

- ・出席を重視する。
- ・欠席した場合、次回授業までに自習しておくこと。欠席分の遅れは、自ら取り戻すことを原則とする。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	ガイダンス： 授業の概要の説明 実習室ログオンアカウントの確認、管理方法の理解 学内情報システムに関する理解、実習室環境の理解
第 2 週	Windows の基礎、電子メール (1)： Windows の基礎的操作 電子メールの送受信、署名の設定、基礎知識
第 3 週	電子メール (2)： ファイルの添付、メールに関するマナー
第 4 週	インターネットによる情報検索 (1)： 検索サイトの仕組み、検索サイトの活用、論理式を使った検索、情報の信頼性の検証方法
第 5 週	インターネットによる情報検索 (2)： セキュリティについて、情報モラル、著作権、個人情報の保護
第 6 週	ワープロソフトの基礎 (1)： 基本的な使い方の習得
第 7 週	ワープロソフトの基礎 (2)： 基本的な使い方の習得
第 8 週	表計算ソフトの基礎 (1)： 基本的な使い方の習得
第 9 週	表計算ソフトの基礎 (2)： 基本的な使い方の習得
第 10 週	プレゼンテーションソフトの基礎 (1)： 基本的な使い方の習得
第 11 週	プレゼンテーションソフトの基礎 (2)： 基本的な使い方の習得
第 12 週	レポート作成のための PC 活用 (1)： アウトラインの作成
第 13 週	レポート作成のための PC 活用 (2)： アンケート結果の集計
第 14 週	レポート作成のための PC 活用 (3)： アンケート結果をレポートにする
第 15 週	レポート作成のための PC 活用 (4)： アンケート結果をスライドにする

《基礎科目》《保育科第一部》

科目名	コンピュータ演習				
担当者名	佐竹 邦子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

パソコンなどの情報機器やインターネットを使えることは現在の社会では必須の能力となっています。学生生活のために必要な情報技術・知識を習得し、さらには将来にわたって長く役立つ知識を習得することも目指します。

授業は毎回実習形式で行い、課題を示します。

《授業の到達目標》

コンピュータやネットワークが広く利用されている現在の社会で、将来にわたってそれらと良好につきあっていくための基礎的スキルを身につけられる。

メールやインターネット、各種アプリケーションソフトなどの基本的な使い方から、ネットワーク社会でのマナーも身につけられる。

《テキスト》

「学生のための Office2010&情報モラル」, noa 出版

《参考文献》

- ・できる大事典 Excel 2007 Windows Vista 対応, 尾崎 裕子 (著), 日花 弘子 (著), できるシリーズ編集部 (著), インプレスジャパン
- ・できる大事典 Word 2007 Windows Vista 対応, 嘉本 須磨子 (著), 神田 知宏 (著), できるシリーズ編集部 (著), インプレスジャパン
- ・よくわかる Microsoft Office Excel 2007 (基礎), 富士通エフ・オー・エム (著), FOM 出版/富士通エフ・オー・エム
- ・よくわかる Microsoft Office Excel 2007 (応用), 富士通エフ・オー・エム (著), FOM 出版/富士通エフ・オー・エム
- ・よくわかる Microsoft Office Word2007 (基礎), 富士通エフ・オー・エム (著), FOM 出版/富士通エフ・オー・エム
- ・よくわかる Microsoft Office Word2007 (応用), 富士通エフ・オー・エム (著), FOM 出版/富士通エフ・オー・エム
- ・よくわかる Microsoft Office PowerPoint 2007, 富士通エフ・オー・エム (著), FOM 出版/富士通エフ・オー・エム

《成績評価の方法》

- ・平常点 (30%)
- ・提出課題 (70%)

ただし、欠席回数が5回を超えた場合、欠格となる。

《授業時間外学習》

- ・次回の授業範囲を予習すること。
- ・テキストに分からない専門用語等が出てきた場合には、メモをして可能な限り事前に調べておくこと。

《備考》

- ・出席を重視する。
- ・欠席した場合、次回授業までに自習しておくこと。欠席分の遅れは、自ら取り戻すことを原則とする。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	ガイダンス： 授業の概要の説明 実習室ログオンアカウントの確認、管理方法の理解 学内情報システムに関する理解、実習室環境の理解
第 2 週	Windows の基礎、電子メール (1)： Windows の基礎的操作 電子メールの送受信、署名の設定、基礎知識
第 3 週	電子メール (2)： ファイルの添付、メールに関するマナー
第 4 週	インターネットによる情報検索 (1)： 検索サイトの仕組み、検索サイトの活用、論理式を使った検索、情報の信頼性の検証方法
第 5 週	インターネットによる情報検索 (2)： セキュリティについて、情報モラル、著作権、個人情報の保護
第 6 週	ワープロソフトの基礎 (1)： 基本的な使い方の習得
第 7 週	ワープロソフトの基礎 (2)： 基本的な使い方の習得
第 8 週	表計算ソフトの基礎 (1)： 基本的な使い方の習得
第 9 週	表計算ソフトの基礎 (2)： 基本的な使い方の習得
第 10 週	プレゼンテーションソフトの基礎 (1)： 基本的な使い方の習得
第 11 週	プレゼンテーションソフトの基礎 (2)： 基本的な使い方の習得
第 12 週	レポート作成のための PC 活用 (1)： アウトラインの作成
第 13 週	レポート作成のための PC 活用 (2)： アンケート結果の集計
第 14 週	レポート作成のための PC 活用 (3)： アンケート結果をレポートにする
第 15 週	レポート作成のための PC 活用 (4)： アンケート結果をスライドにする

《基礎科目》《保育科第三部》

科目名	コンピュータ演習				
担当者名	佐竹 邦子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

パソコンなどの情報機器やインターネットを使えることは現在の社会では必須の能力となっています。学生生活のために必要な情報技術・知識を習得し、さらには将来にわたって長く役立つ知識を習得することも目指します。

授業は毎回実習形式で行い、課題を示します。

《授業の到達目標》

コンピュータやネットワークが広く利用されている現在の社会で、将来にわたってそれらと良好につきあっていくための基礎的技能を身につけられる。

メールやインターネット、各種アプリケーションソフトなどの基本的な使い方から、ネットワーク社会でのマナーも身につけられる。

《テキスト》

「学生のための Office2010&情報モラル」, noa 出版

《参考文献》

- ・できる大事典 Excel 2007 Windows Vista 対応, 尾崎 裕子 (著), 日花 弘子 (著), できるシリーズ編集部 (著), インプレスジャパン
- ・できる大事典 Word 2007 Windows Vista 対応, 嘉本 須磨子 (著), 神田 知宏 (著), できるシリーズ編集部 (著), インプレスジャパン
- ・よくわかる Microsoft Office Excel 2007 (基礎), 富士通エフ・オー・エム (著), FOM 出版/富士通エフ・オー・エム
- ・よくわかる Microsoft Office Excel 2007 (応用), 富士通エフ・オー・エム (著), FOM 出版/富士通エフ・オー・エム
- ・よくわかる Microsoft Office Word2007 (基礎), 富士通エフ・オー・エム (著), FOM 出版/富士通エフ・オー・エム
- ・よくわかる Microsoft Office Word2007 (応用), 富士通エフ・オー・エム (著), FOM 出版/富士通エフ・オー・エム
- ・よくわかる Microsoft Office PowerPoint 2007, 富士通エフ・オー・エム (著), FOM 出版/富士通エフ・オー・エム

《成績評価の方法》

- ・平常点 (30%)
- ・提出課題 (70%)

ただし、欠席回数が5回を超えた場合、欠格となる。

《授業時間外学習》

- ・次回の授業範囲を予習すること。
- ・テキストに分からない専門用語等が出てきた場合には、メモをして可能な限り事前に調べておくこと。

《備考》

- ・出席を重視する。
- ・欠席した場合、次回授業までに自習しておくこと。欠席分の遅れは、自ら取り戻すことを原則とする。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	ガイダンス： 授業の概要の説明 実習室ログオンアカウントの確認、管理方法の理解 学内情報システムに関する理解、実習室環境の理解
第 2 週	Windows の基礎、電子メール (1)： Windows の基礎的操作 電子メールの送受信、署名の設定、基礎知識
第 3 週	電子メール (2)： ファイルの添付、メールに関するマナー
第 4 週	インターネットによる情報検索 (1)： 検索サイトの仕組み、検索サイトの活用、論理式を使った検索、情報の信頼性の検証方法
第 5 週	インターネットによる情報検索 (2)： セキュリティについて、情報モラル、著作権、個人情報の保護
第 6 週	ワープロソフトの基礎 (1)： 基本的な使い方の習得
第 7 週	ワープロソフトの基礎 (2)： 基本的な使い方の習得
第 8 週	表計算ソフトの基礎 (1)： 基本的な使い方の習得
第 9 週	表計算ソフトの基礎 (2)： 基本的な使い方の習得
第 10 週	プレゼンテーションソフトの基礎 (1)： 基本的な使い方の習得
第 11 週	プレゼンテーションソフトの基礎 (2)： 基本的な使い方の習得
第 12 週	レポート作成のための PC 活用 (1)： アウトラインの作成
第 13 週	レポート作成のための PC 活用 (2)： アンケート結果の集計
第 14 週	レポート作成のための PC 活用 (3)： アンケート結果をレポートにする
第 15 週	レポート作成のための PC 活用 (4)： アンケート結果をスライドにする

《基礎科目》《栄養マネジメント学科・看護学科》

科目名	生物基礎				
担当者名	来田村 輔・田中 幸治・池内 敢				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

本講義では、毎回の授業ごとに異なるテーマを設けています。特に生体・生命のしくみに関する知識に重点をおいて、まず生物の基本単位である細胞の機能と構造から学習を進め、最後の生態系の学習に至るまで、全体の授業で生体・生命のしくみの概要を幅広く網羅した内容となっています。

《授業の到達目標》

健康・医療・栄養の専門家を目指す学生に必須となる生物の基礎知識を身につけることを目標としています。今後履修する専門科目の受講に先立って、幅広く生命・生体についての理解を深めるガイダンス的な講義です。

《テキスト》

「改訂版 視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録」 数研出版編集部編（数研出版）

《参考文献》

「アクセス生体機能成分—管理栄養士・栄養士のために」 五明紀春他著（技報堂出版）  
 「細胞の分子生物学」 アルバーツ他著（ニュートンプレス社）

《成績評価の方法》

アチーブメントテストの成績を主とし、この他に授業中に行う小テスト及び出席状況を含めた平常点を加味して総合的に評価します。（アチーブメントテスト70%、平常点30%）

《授業時間外学習》

授業中に指摘したポイントをしっかり復習し、次の授業で行う確認テストで満点を目指してください。

《備考》

本講義は、広く生物全般にわたる基礎的な知識の習得と確認を目的としています。高校で生物をほとんど履修していない学生のみならず、一通り学習した学生や得意とする学生にも興味を持って学習できるように、今後履修する栄養や健康に関する専門分野とのつながりを重視して、栄養や健康に関する話題を取り入れながら講義を進めます。学習内容の定着をはかるための小テストを毎回実施しますので、積極的な授業出席と復習を中心とした習熟度の自己確認を行うことを期待します。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	細胞の構造と機能 — 細胞は生物の基本単位
第2週	細胞をつくる物質・細胞膜の性質 — 細胞膜は半透膜・・・半透膜ってどんな膜？
第3週	酵素の機能と性質・体細胞分裂 — 酵素は働き者
第4週	呼吸と光合成 — 好気呼吸と嫌気呼吸・・・酸素がいらぬ呼吸もある？
第5週	生殖・減数分裂 — 生物はどうやって増えるのか？
第6週	発生 — たった一つの細胞から、複雑な生物体ができるまで
第7週	遺伝Ⅰ メンデルの遺伝の法則 — あなたの耳あかは乾いていますか、湿っていますか？
第8週	遺伝Ⅱ 連鎖と組換え — 遺伝子はシャッフルされて遺伝する
第9週	核酸の構造とタンパク質合成のしくみ — 遺伝子からタンパク質へ
第10週	神経伝達のしくみ — 体の中の情報ネットワーク
第11週	血液・腎臓・肝臓の働き — 体の中の道路と工場
第12週	自律神経系と内分泌系 — 自律神経系はアクセルとブレーキ
第13週	免疫系 — 細胞性免疫と体液性免疫 体を外敵から守るしくみ
第14週	生態系と人間 — 炭素の循環からみた環境問題 この講義全体のポイント再チェック
第15週	学習の総括とアチーブメントテスト

《基礎科目》《健康システム学科》

科目名	生物基礎				
担当者名	来田村 輔・田中 幸治・池内 敢				
授業方法	講義	単位・必選	2・選必	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

本講義では、毎回の授業ごとに異なるテーマを設けています。特に生体・生命のしくみに関する知識に重点をおいて、まず生物の基本単位である細胞の機能と構造から学習を進め、最後の生態系の学習に至るまで、全体の授業で生体・生命のしくみの概要を幅広く網羅した内容となっています。

《授業の到達目標》

健康・医療・栄養の専門家を目指す学生に必須となる生物の基礎知識を身につけることを目標としています。今後履修する専門科目の受講に先立って、幅広く生命・生体についての理解を深めるガイダンス的な講義です。

《テキスト》

「改訂版 視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録」 数研出版編集部編（数研出版）

《参考文献》

「アクセス生体機能成分—管理栄養士・栄養士のために」 五明紀春他著（技報堂出版）  
 「細胞の分子生物学」 アルバーツ他著（ニュートンプレス社）

《成績評価の方法》

アチーブメントテストの成績を主とし、この他に授業中に行う小テスト及び出席状況を含めた平常点を加味して総合的に評価します。（アチーブメントテスト70%、平常点30%）

《授業時間外学習》

授業中に指摘したポイントをしっかりと復習し、次回の授業で行う確認テストで満点を目指してください。

《備考》

本講義は、広く生物全般にわたる基礎的な知識の習得と確認を目的としています。高校で生物をほとんど履修していない学生のみならず、一通り学習した学生や得意とする学生にも興味を持って学習できるように、今後履修する栄養や健康に関する専門分野とのつながりを重視して、栄養や健康に関する話題を取り入れながら講義を進めます。学習内容の定着をはかるための小テストを毎回実施しますので、積極的な授業出席と復習を中心とした習熟度の自己確認を行うことを期待します。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	細胞の構造と機能 — 細胞は生物の基本単位
第 2 週	細胞をつくる物質・細胞膜の性質 — 細胞膜は半透膜・・・半透膜ってどんな膜？
第 3 週	酵素の機能と性質・体細胞分裂 — 酵素は働き者
第 4 週	呼吸と光合成 — 好気呼吸と嫌気呼吸・・・酸素がいらぬ呼吸もある？
第 5 週	生殖・減数分裂 — 生物はどうやって増えるのか？
第 6 週	発生 — たった一つの細胞から、複雑な生物体ができるまで
第 7 週	遺伝Ⅰ メンデルの遺伝の法則 — あなたの耳あかは乾いていますか、湿っていますか？
第 8 週	遺伝Ⅱ 連鎖と組換え — 遺伝子はシャッフルされて遺伝する
第 9 週	核酸の構造とタンパク質合成のしくみ — 遺伝子からタンパク質へ
第10週	神経伝達のしくみ — 体の中の情報ネットワーク
第11週	血液・腎臓・肝臓の働き — 体の中の道路と工場
第12週	自律神経系と内分泌系 — 自律神経系はアクセルとブレーキ
第13週	免疫系 — 細胞性免疫と体液性免疫 体を外敵から守るしくみ
第14週	生態系と人間 — 炭素の循環からみた環境問題 この講義全体のポイント再チェック
第15週	学習の総括とアチーブメントテスト



《基礎科目》《社会福祉学科》

科目名	生物基礎				
担当者名	未定				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

本講義では、毎回の授業ごとに異なるテーマを設けています。特に生体・生命のしくみに関する知識に重点をおいて、まず生物の基本単位である細胞の機能と構造から学習を進め、最後の生態系の学習に至るまで、全体の授業で生体・生命のしくみの概要を幅広く網羅した内容となっています。

《授業の到達目標》

健康・医療・栄養の専門家を目指す学生に必須となる生物の基礎知識を身につけることを目標としています。今後履修する専門科目の受講に先立って、幅広く生命・生体についての理解を深めるガイダンス的な講義です。

《テキスト》

「改訂版 視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録」 数研出版編集部編（数研出版）

《参考文献》

「アクセス生体機能成分—管理栄養士・栄養士のために」 五明紀春他著（技報堂出版）  
 「細胞の分子生物学」 アルバーツ他著（ニュートンプレス社）

《成績評価の方法》

アチーブメントテストの成績を主とし、この他に授業中に行う小テスト及び出席状況を含めた平常点を加味して総合的に評価します。（アチーブメントテスト70%、平常点30%）

《授業時間外学習》

授業中に指摘したポイントをしっかり復習し、次の授業で行う確認テストで満点を目指してください。

《備考》

本講義は、広く生物全般にわたる基礎的な知識の習得と確認を目的としています。高校で生物をほとんど履修していない学生のみならず、一通り学習した学生や得意とする学生にも興味を持って学習できるように、今後履修する栄養や健康に関する専門分野とのつながりを重視して、栄養や健康に関する話題を取り入れながら講義を進めます。学習内容の定着をはかるための小テストを毎回実施しますので、積極的な授業出席と復習を中心とした習熟度の自己確認を行うことを期待します。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	細胞の構造と機能 — 細胞は生物の基本単位
第 2 週	細胞をつくる物質・細胞膜の性質 — 細胞膜は半透膜・・・半透膜ってどんな膜？
第 3 週	酵素の機能と性質・体細胞分裂 — 酵素は働き者
第 4 週	呼吸と光合成 — 好気呼吸と嫌気呼吸・・・酸素がいらぬ呼吸もある？
第 5 週	生殖・減数分裂 — 生物はどうやって増えるのか？
第 6 週	発生 — たった一つの細胞から、複雑な生物体ができるまで
第 7 週	遺伝Ⅰ メンデルの遺伝の法則 — あなたの耳あかは乾いていますか、湿っていますか？
第 8 週	遺伝Ⅱ 連鎖と組換え — 遺伝子はシャッフルされて遺伝する
第 9 週	核酸の構造とタンパク質合成のしくみ — 遺伝子からタンパク質へ
第 10 週	神経伝達のしくみ — 体の中の情報ネットワーク
第 11 週	血液・腎臓・肝臓の働き — 体の中の道路と工場
第 12 週	自律神経系と内分泌系 — 自律神経系はアクセルとブレーキ
第 13 週	免疫系 — 細胞性免疫と体液性免疫 体を外敵から守るしくみ
第 14 週	生態系と人間 — 炭素の循環からみた環境問題 この講義全体のポイント再チェック
第 15 週	学習の総括とアチーブメントテスト

《基礎科目》《栄養マネジメント学科・看護学科》

科目名	化学基礎				
担当者名	廣井 賢一・中本 捷八朗・田中 幸治				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

授業期間の2/3を用いて、原子の構造や化学結合、化学反応や分子の状態などについて学び、物質への理解を深めます。その後の1/3の期間で、生命に関連の深い有機化学の基礎について学び、健康・医療・栄養科学を学ぶための導入となる講義を行います。

《授業の到達目標》

大学で健康・医療・栄養の関連分野を学ぶためには、化学の基礎知識が必要となります。化学的な知識があつてこそ、これらの学問の理解を速やかに進め、応用することができると考えます。本講義では、高校で履修する化学と同程度の基本的な知識を、生体成分や栄養成分の知識と密に関連して授業を進めることによって、健康・医療・栄養という各専門分野での勉学が確かな土台の上でおこなえるようにします。

《テキスト》

「食を中心とした化学」 北原・塚本・野中・水崎著 (東京教学社)

《参考文献》

上記のテキストで十分ですが、さらに進んだ化学の学習を望む者には次の書籍を推薦します。

「化学の基礎 化学入門コース1」 竹内敬人著 (岩波書店)

《成績評価の方法》

アチーブメントテストの成績を主とし、この他に授業中に行う小テスト及び出席状況を含めた平常点を加味して総合的に評価します。(アチーブメントテスト70%、平常点30%)

《授業時間外学習》

授業中に指摘したポイントをしっかり復習し、次の授業で行う確認テストで満点を目指してください。

《備考》

高等学校で化学をほとんど履修していない学生を含めて、化学の基礎知識を習得してもらうことを主なねらいとしているために、化学の予備知識は求めません。本講義は、単なる高校の化学の復習ではなく、食品や生体成分に関する化学に重点をおいた専門分野を学ぶための導入となる講義です。高校で化学を専門として履修しなかった学生のみならず、高校で化学を履修したが不得意であった学生や、十分に学習したが食や健康との関連にさらに興味を進めたい学生など、すべての学生を対象としています。

本講義では、学習する内容が多いために授業の進度は速くなるので、積極的な授業参加を期待します。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	原子の構造 — 物質を構成する原子と、原子を構成する陽子・電子・中性子
第2週	原子の結合 — いろいろな結合 イオン・共有・配位・水素結合
第3週	化学反応式 — $\text{CH}_4 + 2\text{O}_2 \rightarrow \text{CO}_2 + 2\text{H}_2\text{O}$ の意味
第4週	熱化学反応式 — ガスコンロ・・・都市ガスを燃やすと熱が出るのは？
第5週	酸化・還元 — 物質が電子を得ること・失うこと
第6週	水の三態 — 氷・水・水蒸気、違いはなにか？
第7週	溶解・浸透圧 — ナメクジに塩をかけると・・・
第8週	酸と塩基 — 酸味の原因
第9週	コロイド — 豆腐、ゼリー、人体・・・コロイドとはなにか？
第10週	有機化学Ⅰ 有機化合物 — 炭素を中心とする化学
第11週	有機化学Ⅱ 官能基の働き — 良い匂い・悪い臭い
第12週	有機化学Ⅲ 糖質・脂質 — 人間の活動をもたらすエネルギー源
第13週	有機化学Ⅳ タンパク質 — 酵素の働き
第14週	ビタミン・ミネラル — 化学と栄養 この講義全体のポイント再チェック
第15週	学習の総括とアチーブメントテスト

《基礎科目》《健康システム学科》

科目名	化学基礎				
担当者名	廣井 賢一・中本 捷八朗・田中 幸治				
授業方法	講義	単位・必選	2・選必	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

授業期間の2/3を用いて、原子の構造や化学結合、化学反応や分子の状態などについて学び、物質への理解を深めます。その後の1/3の期間で、生命に関連の深い有機化学の基礎について学び、健康・医療・栄養科学を学ぶための導入となる講義を行います。

《授業の到達目標》

大学で健康・医療・栄養の関連分野を学ぶためには、化学の基礎知識が必要となります。化学的な知識があつてこそ、これらの学問の理解を速やかに進め、応用することができると考えます。本講義では、高校で履修する化学と同程度の基本的な知識を、生体成分や栄養成分の知識と密に関連して授業を進めることによって、健康・医療・栄養という各専門分野での勉学が確かな土台の上でおこなえるようにします。

《テキスト》

「食を中心とした化学」 北原・塚本・野中・水崎著 (東京教学社)

《参考文献》

上記のテキストで十分ですが、さらに進んだ化学の学習を望む者には次の書籍を推薦します。

「化学の基礎 化学入門コース1」 竹内敬人著 (岩波書店)

《成績評価の方法》

アチーブメントテストの成績を主とし、この他に授業中に行う小テスト及び出席状況を含めた平常点を加味して総合的に評価します。(アチーブメントテスト70%、平常点30%)

《授業時間外学習》

授業中に指摘したポイントをしっかり復習し、次の授業で行う確認テストで満点を目指してください。

《備考》

高等学校で化学をほとんど履修していない学生を含めて、化学の基礎知識を習得してもらうことを主なねらいとしているために、化学の予備知識は求めません。本講義は、単なる高校の化学の復習ではなく、食品や生体成分に関する化学に重点をおいた専門分野を学ぶための導入となる講義です。高校で化学を専門として履修しなかった学生のみならず、高校で化学を履修したが不得意であった学生や、十分に学習したが食や健康との関連にさらに興味を進めたい学生など、すべての学生を対象としています。

本講義では、学習する内容が多いために授業の進度は速くなるので、積極的な授業参加を期待します。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	原子の構造 — 物質を構成する原子と、原子を構成する陽子・電子・中性子
第2週	原子の結合 — いろいろな結合 イオン・共有・配位・水素結合
第3週	化学反応式 — $\text{CH}_4 + 2\text{O}_2 \rightarrow \text{CO}_2 + 2\text{H}_2\text{O}$ の意味
第4週	熱化学反応式 — ガスコンロ・・・都市ガスを燃やすと熱が出るのは？
第5週	酸化・還元 — 物質が電子を得ること・失うこと
第6週	水の三態 — 氷・水・水蒸気、違いはなにか？
第7週	溶解・浸透圧 — ナメクジに塩をかけると・・・
第8週	酸と塩基 — 酸味の原因
第9週	コロイド — 豆腐、ゼリー、人体・・・コロイドとはなにか？
第10週	有機化学Ⅰ 有機化合物 — 炭素を中心とする化学
第11週	有機化学Ⅱ 官能基の働き — 良い匂い・悪い臭い
第12週	有機化学Ⅲ 糖質・脂質 — 人間の活動をもたらすエネルギー源
第13週	有機化学Ⅳ タンパク質 — 酵素の働き
第14週	ビタミン・ミネラル — 化学と栄養 この講義全体のポイント再チェック
第15週	学習の総括とアチーブメントテスト

《教養科目》《経済情報学科・看護学科》

科目名	宗教と人生				
担当者名	本多 彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

- ※この講義は、まず宗教へ多角的にアプローチすることによって、宗教に対する理解を深めることから始める予定である。この場合の宗教とは、制度化された体系だけを指すのではなく、宗教心や宗教性も含んだ広義の宗教である。さらにいくつかの宗教（特に仏教）の体系を知ることによって、“価値”や“意味”といった計量化できない問題に取り組む力を養う。
- ※学園および大学の「建学の精神」に対する理解を深める。
- ※私たちの日常生活領域に潜むさまざまな宗教を通して、人間や世界や生や死を考える。自分自身を見つめなおす手掛かりや、異文化や他者理解へのきっかけとなるであろう。
- ※現在医療や福祉などの分野で起こっている問題を、スピリチュアル・ケアという視点からとらえ直してみる。

《授業の到達目標》

- ※宗教の身体的次元、精神的次元、社会的次元について取り組む。
- ※「建学の精神」である仏教について学び、現代の人たちが抱える苦悩を理解する手立てとする。
- ※人間の関係性や社会のより良い方向性を模索するための知見を深める。

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考文献》

適宜、講義内で紹介します。

《成績評価の方法》

受講態度（約 30%）、小テスト（約 20%）、定期テスト（約 50%）の 3 項目で評価します（カッコ内の数字は、評価の点数配分）。また、講義中に質問することがあるので、ある程度の予習が必要となりますが、それも「受講態度」として評価しています。

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事には積極的に参加してください。毎週水曜日に行われる「定例礼拝」、お釈迦様の誕生を祝う「花まつり法要」、宗教セミナーや宗教ツアーがあります

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	宗教とはなにか：誤解されがちな「宗教」について、正の側面や負の側面、どのような機能があるかを理解することを目指す。
第 2 週	宗教の種類：広がりや性格によって分けられている宗教の種類を理解することを目指す。
第 3 週	「世界の宗教」諸宗教の価値体系や意味体系①：世界の諸宗教がもつ価値観を学び、その多様性の理解を目指す。
第 4 週	「世界の宗教」諸宗教の価値体系や意味体系②：世界の諸宗教がもつ価値観を学び、その多様性の理解を目指す。
第 5 週	キリスト教を知る①：現代社会における政治や福祉の基盤を見極めるため、キリスト教の基礎的な理解を目指す。
第 6 週	キリスト教を知る②：現代社会における政治や福祉の基盤を見極めるため、キリスト教の基礎的な理解を目指す。
第 7 週	仏教を知る①：建学の精神である「和」や「睦」の精神を理解し、兵庫大学学生としての誇りがもてるよう、仏教思想の理解を目指す。
第 8 週	仏教を知る②学内宗教ツアー：大学内にある宗教施設をまわって説明を聞き、建学の精神を体験する。
第 9 週	仏教を知る③：建学の精神の基盤となっている、釈尊の教えとその流れを理解することを目指す。
第 10 週	仏教を知る④：仏教は人間関係や社会の在り方をどう考えてきたかを学ぶ。
第 11 週	日本の宗教を知る①：神道を中心に、道教や儒教などの価値体系を知り、日本宗教の特性を理解することを目指す。
第 12 週	日本の宗教を知る②：仏教を中心に、日本宗教の特性を理解することを目指す。
第 13 週	現代社会の宗教①：第三次宗教ムーブメントやスピリチュアリズム・ムーブメントと呼ばれる現代社会の傾向と特性を理解する。
第 14 週	現代社会の宗教②：社会、文化、医療、福祉を支え、生と死の意味や価値を問いかけるスピリチュアル・ケアについて学ぶ。
第 15 週	死生学を学ぶ：医療・福祉・人文科学・社会科学などの接点といわれる「死生学」の初歩を習得する。

《教養科目》《栄養マネジメント学科・健康システム学科・社会福祉学科》

科目名	宗教と人生				
担当者名	本多 彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

- ※この講義は、まず宗教へ多角的にアプローチすることによって、宗教に対する理解を深めることから始める予定である。この場合の宗教とは、制度化された体系だけを指すのではなく、宗教心や宗教性も含んだ広義の宗教である。さらにいくつかの宗教（特に仏教）の体系を知ることによって、“価値”や“意味”といった計量化できない問題に取り組む力を養う。
- ※学園および大学の「建学の精神」に対する理解を深める。
- ※私たちの日常生活領域に潜むさまざまな宗教を通して、人間や世界や生や死を考える。自分自身を見つめなおす手掛かりや、異文化や他者理解へのきっかけとなるであろう。
- ※現在医療や福祉などの分野で起こっている問題を、スピリチュアル・ケアという視点からとらえ直してみる。

《授業の到達目標》

- ※宗教の身体的次元、精神的次元、社会的次元について取り組む。
- ※「建学の精神」である仏教について学び、現代の人たちが抱える苦悩を理解する手立てとする。
- ※人間の関係性や社会のより良い方向性を模索するための知見を深める。

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考文献》

適宜、講義内で紹介します。

《成績評価の方法》

受講態度（約 30%）、小テスト（約 20%）、定期テスト（約 50%）の 3 項目で評価します（カッコ内の数字は、評価の点数配分）。また、講義中に質問することがあるので、ある程度の予習が必要となりますが、それも「受講態度」として評価しています。

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事には積極的に参加してください。毎週水曜日に行われる「定例礼拝」、お釈迦様の誕生を祝う「花まつり法要」、宗教セミナーや宗教ツアーがあります

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	宗教とはなにか：誤解されがちな「宗教」について、正の側面や負の側面、どのような機能があるかを理解することを目指す。
第 2 週	宗教の種類：広がりや性格によって分けられている宗教の種類を理解することを目指す。
第 3 週	「世界の宗教」諸宗教の価値体系や意味体系①：世界の諸宗教がもつ価値観を学び、その多様性の理解を目指す。
第 4 週	「世界の宗教」諸宗教の価値体系や意味体系②：世界の諸宗教がもつ価値観を学び、その多様性の理解を目指す。
第 5 週	キリスト教を知る①：現代社会における政治や福祉の基盤を見極めるため、キリスト教の基礎的な理解を目指す。
第 6 週	キリスト教を知る②：現代社会における政治や福祉の基盤を見極めるため、キリスト教の基礎的な理解を目指す。
第 7 週	仏教を知る①：建学の精神である「和」や「睦」の精神を理解し、兵庫大学学生としての誇りがもてるよう、仏教思想の理解を目指す。
第 8 週	仏教を知る②学内宗教ツアー：大学内にある宗教施設をまわって説明を聞き、建学の精神を体験する。
第 9 週	仏教を知る③：建学の精神の基盤となっている、釈尊の教えとその流れを理解することを目指す。
第 10 週	仏教を知る④：仏教は人間関係や社会の在り方をどう考えてきたかを学ぶ。
第 11 週	日本の宗教を知る①：神道を中心に、道教や儒教などの価値体系を知り、日本宗教の特性を理解することを目指す。
第 12 週	日本の宗教を知る②：仏教を中心に、日本宗教の特性を理解することを目指す。
第 13 週	現代社会の宗教①：第三次宗教ムーブメントやスピリチュアリズム・ムーブメントと呼ばれる現代社会の傾向と特性を理解する。
第 14 週	現代社会の宗教②：社会、文化、医療、福祉を支え、生と死の意味や価値を問いかけるスピリチュアル・ケアについて学ぶ。
第 15 週	死生学を学ぶ：医療・福祉・人文科学・社会科学などの接点といわれる「死生学」の初歩を習得する。

《教養科目》《保育科第一部・保育科第三部》

科目名	宗教と人生				
担当者名	本多 彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

- ※この講義は、まず宗教へ多角的にアプローチすることによって、宗教に対する理解を深めることから始める予定である。この場合の宗教とは、制度化された体系だけを指すのではなく、宗教心や宗教性も含んだ広義の宗教である。さらにいくつかの宗教（特に仏教）の体系を知ることによって、“価値”や“意味”といった計量化できない問題に取り組む力を養う。
- ※学園および大学の「建学の精神」に対する理解を深める。
- ※私たちの日常生活領域に潜むさまざまな宗教を通して、人間や世界や生や死を考える。自分自身を見つめなおす手掛かりや、異文化や他者理解へのきっかけとなるであろう。
- ※現在医療や福祉などの分野で起こっている問題を、スピリチュアル・ケアという視点からとらえ直してみる。

《授業の到達目標》

- ※宗教の身体的次元、精神的次元、社会的次元について取り組む。
- ※「建学の精神」である仏教について学び、現代の人たちが抱える苦悩を理解する手立てとする。
- ※人間の関係性や社会のより良い方向性を模索するための知見を深める。

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考文献》

適宜、講義内で紹介します。

《成績評価の方法》

受講態度（約 30%）、小テスト（約 20%）、定期テスト（約 50%）の 3 項目で評価します（カッコ内の数字は、評価の点数配分）。また、講義中に質問することがあるので、ある程度の予習が必要となりますが、それも「受講態度」として評価しています。

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事には積極的に参加してください。毎週水曜日に行われる「定例礼拝」、お釈迦様の誕生を祝う「花まつり法要」、宗教セミナーや宗教ツアーがあります。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	宗教とはなにか：誤解されがちな「宗教」について、正の側面や負の側面、どのような機能があるかを理解することを目指す。
第 2 週	宗教の種類：広がりや性格によって分けられている宗教の種類を理解することを目指す。
第 3 週	「世界の宗教」諸宗教の価値体系や意味体系①：世界の諸宗教がもつ価値観を学び、その多様性の理解を目指す。
第 4 週	「世界の宗教」諸宗教の価値体系や意味体系②：世界の諸宗教がもつ価値観を学び、その多様性の理解を目指す。
第 5 週	キリスト教を知る①：現代社会における政治や福祉の基盤を見極めるため、キリスト教の基礎的な理解を目指す。
第 6 週	キリスト教を知る②：現代社会における政治や福祉の基盤を見極めるため、キリスト教の基礎的な理解を目指す。
第 7 週	仏教を知る①：建学の精神である「和」や「睦」の精神を理解し、兵庫大学学生としての誇りがもてるよう、仏教思想の理解を目指す。
第 8 週	仏教を知る②学内宗教ツアー：大学内にある宗教施設をまわって説明を聞き、建学の精神を体験する。
第 9 週	仏教を知る③：建学の精神の基盤となっている、釈尊の教えとその流れを理解することを目指す。
第 10 週	仏教を知る④：仏教は人間関係や社会の在り方をどう考えてきたかを学ぶ。
第 11 週	日本の宗教を知る①：神道を中心に、道教や儒教などの価値体系を知り、日本宗教の特性を理解することを目指す。
第 12 週	日本の宗教を知る②：仏教を中心に、日本宗教の特性を理解することを目指す。
第 13 週	現代社会の宗教①：第三次宗教ムーブメントやスピリチュアリズム・ムーブメントと呼ばれる現代社会の傾向と特性を理解する。
第 14 週	現代社会の宗教②：社会、文化、医療、福祉を支え、生と死の意味や価値を問いかけるスピリチュアル・ケアについて学ぶ。
第 15 週	死生学を学ぶ：医療・福祉・人文科学・社会科学などの接点といわれる「死生学」の初歩を習得する。

《教養科目》《経済情報学科・栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	生命倫理学				
担当者名	浅沼 光樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	全学年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

医療技術の進歩は、これまで私たちが当然とみなしていた人間や生死についての考え方（人間とは何であり、死とは何であるのかについて漠然と抱いているイメージ）と食い違いを生じ、むしろ私たちの方が医療技術の進歩に合わせて考え方をええざるをえなくなっています。授業では、こうした事態から生じる問題のうち重要なものをいくつかピックアップして皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。

《授業の到達目標》

- ・生命倫理学とは何か説明できる。
- ・生命倫理学ではどのようなことが問題となるのか説明できる。
- ・生命倫理学の主要概念（インフォームド・コンセント、パターナリズム批判、選択的中絶など）を説明できる。

《テキスト》

市販のテキストはとくに使用せず、必要に応じてプリントなどを配布し、それに基づいて授業を行います。

《参考文献》

- 『生命倫理学入門 [第二版]』今井道夫、産業図書、2005
- 『生命倫理学を学ぶ人のために』加藤尚武・加茂直樹（編）、世界思想社、1998

《成績評価の方法》

原則として平常点によって—具体的には毎回、授業の終わりにミニ・レポートを書いていただき、その提出回数と記述内容によって—成績を評価します。

（内訳：ミニ・レポートの提出回数 50%、ミニ・レポートの記述内容 50%）

《授業時間外学習》

授業では教材としてVTRを使用します。視聴の際は感想をレポートしていただきますが、詳しい解説は次回に行います。それまでにVTRの内容を振り返り、自分の考えを再吟味しておいてください。また授業では、そのつど関連する文献などの紹介も行いますので、関心のあるものについてはぜひ実際に自分で読んでみましょう。

《備考》

自分の理解度を確認しつつ、わからないことはミニ・レポートの質問欄や授業終了時などを利用して質問してください。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	イントロダクション—この授業では何をどのように学ぶのか
第 2 週	生命倫理学とは何か—バイオエシックスの成立
第 3 週	生殖技術(1)
第 4 週	生殖技術(2)
第 5 週	安楽死
第 6 週	インフォームド・コンセントとパターナリズム批判
第 7 週	キュア偏重の医療からケア重視の医療へ
第 8 週	出生前診断と選択的中絶
第 9 週	医療資源の配分
第 10 週	障害をもつ子を産むということ
第 11 週	幼児虐待
第 12 週	ターミナルケア
第 13 週	死とは何か(1)
第 14 週	死とは何か(2)
第 15 週	学習のまとめ—授業を終えるにあたって

《教養科目》《栄養マネジメント学科・看護学科》

科目名	生涯発達心理学				
担当者名	森田 義宏				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	全学年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

発達とは何か、生涯発達とは何かについて考える。発達に及ぼす環境の影響やその重要性について学ぶ。代表的な発達理論について学ぶ。乳児期から老年期までの各発達段階ごとの発達課題や認知的、社会的特徴について学ぶ。同時に、各発達段階ごとに生じやすい問題やその対処などについて学ぶ。

《授業の到達目標》

発達、生涯発達とはなにかについて説明できる。  
 発達心理学や生涯発達心理学で用いられる基礎的な用語について説明できる。  
 発達に及ぼす環境に影響や重要性について説明できる。  
 発達段階ごとの発達課題や発達上の問題について説明できる。  
 代表的な発達理論について説明できる。  
 各発達段階ごとの認知機能や社会性の特徴について説明できる。

《テキスト》

使用しない

《参考文献》

授業中に随時紹介する

《成績評価の方法》

試験 70%と平常点（授業で指示する課題レポート、受講態度） 30%

《授業時間外学習》

新聞の悩みの相談・人生相談記事を 10 件集め、感想文を提出する。  
 毎授業ごとに授業のまとめを提出する

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画				
第 1 週	オリエンテーション	生涯発達とは	発達概念		
第 2 週	発達と環境	遺伝土と環境の相互作用とは	発達の理論		
第 3 週	乳児期の発達①	乳児期の発達課題	乳児の認知発達		
第 4 週	乳児期の発達②	愛着形成と社会性の発達			
第 5 週	幼児期の発達①	幼児期の発達課題	幼児の認知とことばの発達		
第 6 週	幼児期の発達②	幼児の自己意識の発達と社会性の発達			
第 7 週	児童期の発達①	児童期の発達課題	児童期の認知発達		
第 8 週	児童期の発達②	児童の社会性の発達（学校・友人）			
第 9 週	青年期の発達①	青年期の発達課題	青年期の特徴	青年の心的特性(1)	
第 10 週	青年期の発達②	青年の心的特性(2)			
第 11 週	青年期の発達③	青年期の心的特性(3)	おとなへの旅立ち		
第 12 週	成人期の発達	成人期の発達課題	仕事と結婚の心理		
第 13 週	中年期の発達①	中年期の発達課題	職場と家庭、人生の見直し		
第 14 週	老年期の発達①	老年期の発達課題	定年と第 2 の人生		
第 15 週	老年期の心理②	老化と心身の健康（認知症とは）			



《教養科目》《健康システム学科》

科目名	生涯発達心理学				
担当者名	森田 義宏				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

発達とは何か、生涯発達とは何かについて考える。発達に及ぼす環境の影響やその重要性について学ぶ。代表的な発達理論について学ぶ。乳児期から老年期までの各発達段階ごとの発達課題や認知的、社会的特徴について学ぶ。同時に、各発達段階ごとに生じやすい問題やその対処などについて学ぶ。

《授業の到達目標》

発達、生涯発達とはなにかについて説明できる。  
 発達心理学や生涯発達心理学で用いられる基礎的な用語について説明できる。  
 発達に及ぼす環境に影響や重要性について説明できる。  
 発達段階ごとの発達課題や発達上の問題について説明できる。  
 代表的な発達理論について説明できる。  
 各発達段階ごとの認知機能や社会性の特徴について説明できる。

《テキスト》

使用しない

《参考文献》

授業中に随時紹介する

《成績評価の方法》

試験 70%と平常点（授業で指示する課題レポート、受講態度） 30%

《授業時間外学習》

新聞の悩みの相談・人生相談記事を 10 件集め、感想文を提出する。  
 毎授業ごとに授業のまとめを提出する

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画			
第 1 週	オリエンテーション	生涯発達とは	発達概念	
第 2 週	発達と環境	遺伝子と環境の相互作用とは	発達の理論	
第 3 週	乳児期の発達①	乳児期の発達課題	乳児の認知発達	
第 4 週	乳児期の発達②	愛着形成と社会性の発達		
第 5 週	幼児期の発達①	幼児期の発達課題	幼児の認知とことばの発達	
第 6 週	幼児期の発達②	幼児の自己意識の発達と社会性の発達		
第 7 週	児童期の発達①	児童期の発達課題	児童期の認知発達	
第 8 週	児童期の発達②	児童の社会性の発達（学校・友人）		
第 9 週	青年期の発達①	青年期の発達課題	青年期の特徴	青年の心的特性(1)
第 10 週	青年期の発達②	青年の心的特性(2)		
第 11 週	青年期の発達③	青年期の心的特性(3)	おとなへの旅立ち	
第 12 週	成人期の発達	成人期の発達課題	仕事と結婚の心理	
第 13 週	中年期の発達①	中年期の発達課題	職場と家庭、人生の見直し	
第 14 週	老年期の発達①	老年期の発達課題	定年と第 2 の人生	
第 15 週	老年期の心理②	老化と心身の健康（認知症とは）		

《教養科目》《栄養マネジメント学科・看護学科》

科目名	人間関係論（含カウンセリング）				
担当者名	森田 義宏				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	全学年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

良好な人間関係は困った時に支え助けてくれるが、良好でない人間関係は敵対的で、時には傷つけられる危険性すらあり、ストレスのもととなる。この授業では人間関係や良好な人間関係の作り方などに関する理論、実験、実践例などについて心理学の観点から学ぶ。授業では、社会の中の人間関係と個人の視点からの人間関係について概念を整理しながら学びを深めていく。前者では集団とリーダーシップのダイナミクスを学び、後者での人間関係を対人関係という概念に置き換え、コミュニケーション、自己理解、自己意識、対人関係の発達、対人関係の分析、対人関係の病理などについて学ぶ。

《授業の到達目標》

人間関係についての基礎的な専門用語について説明できる。  
 自分をとりまく人間関係をある程度分析できる。  
 良い人間関係をつくるスキルを日々の生活に応用できる。

《テキスト》

使用しない

《参考文献》

授業中に随時紹介する

《成績評価の方法》

試験 70%、レポートなど提出物 30%

《授業時間外学習》

人間関係の悩みについての記事を新聞、雑誌、web 上から探し、報告する  
 自分をとりまく人間関係について、授業で学んだこととの関連を探して、報告する。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション 現代の人間関係の特徴と問題
第 2 週	人間関係論と対人関係のちがい 人間関係論のはじまり；ホーソン研究と集団力学
第 3 週	集団とリーダーシップ リーダーシップ研究の変遷 その1
第 4 週	集団とリーダーシップ リーダーシップ研究の変遷 その2
第 5 週	対人関係と自己理解1 自己理解を深める ジョー・ハリーの窓
第 6 週	対人関係と自己理解2 心理テストを通じた自己理解
第 7 週	対人関係と自己理解3 他者から見た自己理解
第 8 週	対人関係と自己理解4 印象形成、対人魅力
第 9 週	自己意識・自己概念の発達
第10週	対人関係とコミュニケーション
第11週	カウンセリングにおける人間関係のあり方 受容と共感的理解
第12週	対人関係の分析1 エゴグラムと交流分析
第13週	対人関係の分析2 交流分析：ストローク、ゲーム、ラケット、脚本分析
第14週	対人関係ストレスとストレスコーピング
第15週	人間関係の病理

《教養科目》《経済情報学科・栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	哲学				
担当者名	三浦 摩美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	全学年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

哲学は、言語活動を通して物事を概念的に把握しようとする知的営みであるといえる。授業では、まず、原因、根拠、原理の探究として開かれた古代ギリシャの哲学から近代哲学までの幾人かの哲学思想について紹介し、哲学とは何かについて理解できるようにする。そしてそれを踏まえ、後半では、哲学的真理の探究者である人間の認識の働きとそれを支える言語活動の関係について、いくつかの言語哲学思想を概説しつつ哲学的探究を紹介する。

《授業の到達目標》

- ・哲学が扱ってきたいくつかの問題について理解できるようにする。
- ・思考と言語の関係について、哲学的な観点から理解できるようにする。
- ・人間の認識の枠組みについて、哲学的に思考することを学ぶ。
- ・各自哲学書を読んでみることで、難解な文章に挑戦してみる意気込みを獲得する。
- ・各テーマについて、柔軟に自分なりの考察や感想が持てるように試みる。

《テキスト》

適宜資料を配布する。

《参考文献》

授業中にそのつど紹介する。

《成績評価の方法》

平常の小レポート(50%)および期末の課題レポート(50%)によって評価する。

《授業時間外学習》

- ・小レポートをいくつか提出してもらうため、ノートや各自必要な参考文献を用いてレポートをまとめ、提出できるようにする。
- ・授業で取り上げた哲学者の著作を読むことで、各哲学者の思考の息吹に触れてみるようにする。
- ・各テーマについて、自分なりの考察や感想が持てるよう授業内容を復習し、コメントメモを作成する。

《備考》

意欲的な取り組みを期待します。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	哲学の誕生 哲学誕生の意義・神話の世界から自然哲学へ
第 2 週	ミレトスの自然哲学・原因・根拠を核とした哲学的営みの開始 タレスの自然哲学とミレトスの思想家たち
第 3 週	イオニアの自然哲学者たち デモクリトス、アナクサゴラスの哲学
第 4 週	自然哲学から人間学への転回・自然の探究から人間の探究へ ソクラテスの哲学思想
第 5 週	自然の探究と人間の探究 (1)・プラトンのイデア説 ソクラテスが探究した人間学と自然探究の原理の結接点
第 6 週	自然の探究と人間の探究 (2)・アリストテレスの自然学の原理
第 7 週	自然の探究と人間の探究 (3)・アリストテレスの形而上学の原理
第 8 週	デカルトの認識論ーデカルトの哲学の原理
第 9 週	ロックの認識論ー人間の認識の源泉
第 10 週	ヒュームの認識論ー人間本性論
第 11 週	カントの認識論ー認識の範囲と限界
第 12 週	言語的相対主義ーソシュールの記号言語論
第 13 週	語用論的言語学ーオースティンの発話行為論
第 14 週	言語コミュニケーション論ー行動とコミュニケーションに関する言語の働き
第 15 週	まとめおよびコメントメモの整理と提出

《教養科目》《経済情報学科・栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	文学				
担当者名	安井 重雄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	全学年・I期

《授業のねらい及び概要》

文学は、新聞や雑誌の文章とは異なり、ただ事実を説明したり自分の考えを伝えるだけのものではない。言葉には事実を超えた感動や人生を生きるための力を与えることがあり、そういった言葉が持つ可能性を追求したものが文学である。この授業では、代表的な古典文学作品と現代小説を取り上げて、読解し、文学の言葉や文章が持つ特徴を理解することを目指す。

《授業の到達目標》

作者と作品との関係、語り手、技巧など、文学が持つ、一般の文章とは異なる特徴を理解し、文学が以前よりも深く理解できるようになる。

《テキスト》

一つの作品を数時間の授業で読むが、テキストは授業時にコピーを配布する。

《参考文献》

特になし。

《成績評価の方法》

授業中に何度か授業で取り扱った作品の感想の提出を求めるので、それを平常点（40%）とし、定期試験（60%）と併せて評価する。なお授業回数の3分の2以上（10回以上）出席しなければ単位を与えない。

《授業時間外学習》

次に取り扱う作品は前もって指示するので、その作品を読んでおくこと。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	授業の進め方の説明。古典文学と近現代文学。
第 2 週	『源氏物語』第一部を読む。
第 3 週	『源氏物語』第二部を読む。
第 4 週	『源氏物語』第三部を読む。
第 5 週	『雨月物語』を読む。
第 6 週	『雨月物語』を読む。
第 7 週	現代小説を読む。高校時代を描く小説。
第 8 週	現代小説を読む。高校時代を描く小説。
第 9 週	現代小説を読む。現代の情報社会を描く小説。
第 10 週	現代小説を読む。現代の情報社会を描く小説。
第 11 週	現代小説を読む。現代の情報社会を描く小説。
第 12 週	現代小説を読む。歴史小説。
第 13 週	現代小説を読む。歴史小説。
第 14 週	現代小説を読む。歴史小説。
第 15 週	授業のまとめ。

**《教養科目》《保育科第一部》**

科目名	文学				
担当者名	安井 重雄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

**《授業のねらい及び概要》**

文学は新聞や雑誌など一般の文章とは異なり、ただ事実を説明したり自分の考えを伝えるだけのものではない。言葉には事実を超えた感動や人生を生きるための力を与えることがあり、そういった言葉が持つ可能性を追求したものが文学である。この授業では、代表的な古典文学作品と現代小説を取り上げて、読解し、文学の言葉や文章の特徴を理解することを目指す。

**《授業の到達目標》**

作者と作品との関係、語り手、技巧など、文学が持つ、一般の文章とは異なる特徴を理解し、文学が以前よりも深く理解できるようになる。

**《テキスト》**

一つの作品を数時間の授業で読むが、テキストは授業時にコピーを配布する。

**《参考文献》**

特になし。

**《成績評価の方法》**

授業中に何度か授業で取り扱った作品の感想の提出を求めるので、それを平常点（40%）とし、定期試験（60%）と併せて評価する。なお授業回数の3分の2以上（10回以上）出席しなければ単位を与えない。

**《授業時間外学習》**

次に取り扱う作品は前もって指示するので、その作品を読んでおくこと。

**《備考》****《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	授業の進め方の説明。古典文学と近現代文学。
第 2 週	『源氏物語』第一部を読む。
第 3 週	『源氏物語』第二部を読む。
第 4 週	『源氏物語』第三部を読む。
第 5 週	『雨月物語』を読む。
第 6 週	『雨月物語』を読む。
第 7 週	現代小説を読む。高校時代を描く小説。
第 8 週	現代小説を読む。高校時代を描く小説。
第 9 週	現代小説を読む。現代の情報社会を描く小説。
第 10 週	現代小説を読む。現代の情報社会を描く小説。
第 11 週	現代小説を読む。現代の情報社会を描く小説。
第 12 週	現代小説を読む。歴史小説。
第 13 週	現代小説を読む。歴史小説。
第 14 週	現代小説を読む。歴史小説。
第 15 週	授業のまとめ。

**《教養科目》《保育科第三部》**

科目名	文学				
担当者名	安井 重雄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	全学年・Ⅱ期

**《授業のねらい及び概要》**

文学は新聞や雑誌など一般の文章とは異なり、ただ事実を説明したり自分の考えを伝えるだけのものではない。言葉には事実を超えた感動や人生を生きるための力を与えることがあり、そういった言葉が持つ可能性を追求したものが文学である。この授業では、代表的な古典文学作品と現代小説を取り上げて、読解し、文学の言葉や文章の特徴を理解することを目指す。

**《授業の到達目標》**

作者と作品との関係、語り手、技巧など、文学が持つ、一般の文章とは異なる特徴を理解し、文学が以前よりも深く理解できるようになる。

**《テキスト》**

一つの作品を数時間の授業で読むが、テキストは授業時にコピーを配布する。

**《参考文献》**

特になし。

**《成績評価の方法》**

授業中に何度か授業で取り扱った作品の感想の提出を求め、それを平常点（40%）とし、定期試験（60%）と併せて評価する。なお授業回数の3分の2以上（10回以上）出席しなければ単位を与えない。

**《授業時間外学習》**

次に取り扱う作品は前もって指示するので、その作品を読んでおくこと。

**《備考》****《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	授業の進め方の説明。古典文学と近現代文学。
第 2 週	『源氏物語』第一部を読む。
第 3 週	『源氏物語』第二部を読む。
第 4 週	『源氏物語』第三部を読む。
第 5 週	『雨月物語』を読む。
第 6 週	『雨月物語』を読む。
第 7 週	現代小説を読む。高校時代を描く小説。
第 8 週	現代小説を読む。高校時代を描く小説。
第 9 週	現代小説を読む。現代の情報社会を描く小説。
第 10 週	現代小説を読む。現代の情報社会を描く小説。
第 11 週	現代小説を読む。現代の情報社会を描く小説。
第 12 週	現代小説を読む。歴史小説。
第 13 週	現代小説を読む。歴史小説。
第 14 週	現代小説を読む。歴史小説。
第 15 週	授業のまとめ。

《教養科目》《経済情報学科・栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	芸術				
担当者名	柳楽 節子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	全学年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

日本の美術は身近にあるものですが、私達がそれらについて深く知る機会を持つことは、意外に少ないのではないのでしょうか。この講義では、日本の美術の歴史をたどりながら、日本の美が時代と共にどのように変化してきたか、過去に存在したものと現在あるものがどのような関連性をもっているか、などについて探ります。西洋と東洋、中国と日本との比較も交えながら、日本美術の面白さが実感できる実物資料、視聴覚資料等を提示し、受講学生が日本の美術に親しみ、日本の美について考える手がかりを得ることをめざします。

《授業の到達目標》

日本の文化と日本人について考える姿勢を持ち、芸術に親しみながら自ら広く学ぶことができる。

《テキスト》

『日本美術史』 辻 惟雄（美術出版社）

《参考文献》

『日本美術の特質』 八代幸雄（岩波書店）

《成績評価の方法》

- ・レポート提出100%により評価する。
- ・授業には10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。

《授業時間外学習》

- ・各授業時に所定の内容を指示する。

《備考》

- ・レポートの課題と提出の要領については12月中旬に連絡する予定である。

《授業計画》

週	授 業 計 画	
第1週	担当教員自己紹介 私の版画制作と日本の美術	
第2週	現在の美術の状況から 1	DVD
第3週	現在の美術の状況から 2	DVD
第4週	日本の信仰 自然崇拜 神道 仏教	
第5週	仏教美術 1 飛鳥時代 天平時代	DVD
第6週	仏教美術 2 平安時代 鎌倉時代	DVD
第7週	日本の美術 1 室町時代	DVD
第8週	日本の美術 2 室町時代	DVD
第9週	日本の美術 3 桃山時代	DVD
第10週	日本の美術 4 桃山時代	DVD
第11週	日本の美術 5 江戸時代	DVD
第12週	日本の美術 6 江戸時代	DVD
第13週	日本の美術 7 江戸～明治時代以降	DVD
第14週	現在の美術の状況から 3	DVD
第15週	芸術について	

《教養科目》《経済情報学科・栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	芸術				
担当者名	岩見 健二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	全学年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

人は何故創作活動をするのか[芸術]とは何なのかを、画家一人一人に焦点をあてその創作の過程・時代との係わりなどを探りながら、解き明かしていく。

《授業の到達目標》

- 1.画家それぞれの内面を探ることにより創造のすばらしさや厳しさを知り、芸術の存在意義を理解する事が出来る。
- 2.芸術的感性を養う

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

《参考文献》

授業中に随時紹介

《成績評価の方法》

- ・授業には、10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。
- ・課題レポート（100%）

《授業時間外学習》

毎回学習した作家について、各自でより深く調べておく事。

《備考》

特になし

《授業計画》

週	授 業 計 画	
第 1 週	担当者自己紹介 授業の流れについての説明 欠席・遅刻などに関するルール説明	
第 2 週	佐伯祐三とブラマンク	
第 3 週	古代⇒ルネッサンス	
第 4 週	ルネッサンス⇒印象派	
第 5 週	印象派⇒現代	
第 6 週	ジョット	(宗教と絵画)
第 7 週	ヴェロネーゼ	(宗教と市民)
第 8 週	カラヴァッジョ	(人間表現の革新)
第 9 週	ハルスとレンブラント	(市民と画家)
第 10 週	ゴヤ	(人間の内面)
第 11 週	ダヴィッド・アングル・ドラクロア	(政治と画家)
第 12 週	クールベとマネ	(リアルとはなにか)
第 13 週	モネとセザンヌ	(絵画の自立)
第 14 週	エゴン・シーレ	(自我の模索)
第 15 週	岩見健二	



《教養科目》《経済情報学科・栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	心理学				
担当者名	北島 律之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	全学年・I期

《授業のねらい及び概要》

人間を理解すること、とりわけ「心」について理解することは、社会において適応的な生活を行う上でとても重要です。本授業では、心の学問である心理学の科学的な考え方にに基づき、これまでにわかっている知見を整理し、人間の心の多様性を理解します。授業はテキストと、別途配布するプリントを中心に進行します。また、プロジェクタにより図や映像を多く示すとともに、必要に応じて簡単にできる実験的観察を取り入れながら説明を行い、視覚的、体験的理解を重視します。

《授業の到達目標》

- 「心理学」にはどのような領域があるか類別できる。
- 種々のデータを基に、心を科学的な視点から説明できる。
- 心に関する共通的な性質と個人差を説明できる。

《テキスト》

『図説心理学入門 第2版』 齋藤勇(編) 誠信書房

《参考文献》

『心理学』 無藤隆, 森敏昭, 遠藤由美, 玉瀬耕治 有斐閣 (より深く勉強したい人向き)  
 『イラストレート心理学入門』 齋藤勇 誠信書房 (内容が難しすぎると感じる人向き)  
 その他の参考図書については、第1週の授業で内容とレベルを示す。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト 80%      レポート・小テストなど 10%      受講態度 10%

《授業時間外学習》

・予習の方法

下の授業計画にはテキストの該当する箇所を記載しています。読んでおくようにしてください。この段階では必ずしも内容を理解できている必要はありません。どういったテーマを学ぶか、前もって意識することが大切です。

・復習の方法

授業中に整理するプリントの内容を中心に復習してください。図や表、様々なデータを参照しつつ、用語の意味を理解し覚えてください。また、内容が十分に理解できないところがあれば、適宜、テキストを読みなおすことも大切です。

《備考》

- ・心理学を学ぶには、日頃から自分の心や他人の行動について関心をもつことが大切です。
- ・健康システム学科および社会福祉学科で認定心理士の取得を希望する学生は、本科目を必ず修得してください。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	「心理学とはどんな学問なの？」 心理学の科学的な考え方や心理学内の各分野についての概説。《序章§1～9》
第 2 週	「情報、入ります(知覚)」 情報の入り口である知覚が成立するまでの流れ。《第 1 章§1～2, §6～7》
第 3 週	「覚えているって、どういうこと?(記憶)」 記憶のプロセス、記憶にまつわるいくつかの事象。《第 3 章§4》
第 4 週	「どうやって、学んでいくのだろう?(学習)」 学習についての基本的な考え方。条件づけなど。《第 3 章§1》
第 5 週	「笑ったり怒ったり(感情)」 喜怒哀楽に関する科学的な見方。《第 2 章§5～9》
第 6 週	「いつも何かを望みます(欲求とフラストレーション) I」 私たちが欲するものを分類。《第 2 章§1～3》
第 7 週	「いつも何かを望みます(欲求とフラストレーション) II」 欲求の階層。思うようにいかないときの行動。《第 2 章§2～4》
第 8 週	「君って、どんな人?(性格)」 性格という、分かっているようで分からないものに対する心理学の見方。《第 4 章§1, 第 5 章》
第 9 週	「私たちは大人になってきた(発達)」 生涯にわたる心の発達を概観。《第 4 章§2～3》
第 10 週	「あの人って、きつこうなんだ(社会的認知)」 他人を判断することにおける様々な性質。《第 6 章§1～2》
第 11 週	「人が周りにいるから(社会的影響)」 説得や無言の圧力に関する効果。《第 6 章§4》
第 12 週	「メディアから伝わるもの(メディア心理学)」 メディアによる効果とその変遷。《第 6 章§2》
第 13 週	「無意識って何だろう? (無意識と深層の心理)」 無意識のいくつかの理論。心理療法にも言及。《第 5 章§4, 第 8 章》
第 14 週	「こころと身体は関係あるの?(脳と生理心理学)」 近年進展をみせる脳と心の関係。《第 7 章》
第 15 週	「これまで何を学んだか?(まとめ)」 心理学と心の多様性。これまで学習したことに対するまとめ。

《教養科目》《経済情報学科・栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	宗教と文化Ⅰ（仏教）				
担当者名	本多 彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	全学年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

宗教研究は、社会学や心理学や民俗学など多くの領域と深く関連する学際的性格をもっている。伝統的宗教からカルト教団や超常現象問題に至るまで、幅広く取り上げながら、仏教文化を解説していく。我々のまわりをよく観察すれば、いかに仏教が生活や思考に関わっているかに気づくことができる。自分自身を見つめ直す契機になったり、異文化理解へのきっかけになることであろう。

《授業の到達目標》

- \*比較文化の視点から我々の身近な宗教について考える。
- \*仏教文化について学ぶ。
- \*日本浄土仏教の文化について学ぶ。

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考文献》

適宜、講義内で紹介します。

《成績評価の方法》

「受講態度(約30%)」「小テスト(約20%)」「定期テスト(約50%)」の3項目で評価する(カッコ内の数字は、評価の点数配分)。また、講義中に何かと質問するので、ある程度の予習が必要となるが、それも「受講態度」として評価する。

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教室主催の行事には積極的に参加してください。毎週水曜日の「定例礼拝」、その他にも宗教セミナーや宗教ツアーがあります。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	比較文化論の概説。
第2週	宗教の理念が生み出す諸文化。
第3週	仏教文化論の概説。
第4週	現代宗教文化の特徴①。
第5週	現代宗教文化の特徴②。
第6週	現代社会における宗教問題①
第7週	現代社会における宗教問題②
第8週	日本仏教の概説①。
第9週	日本仏教の概説②。
第10週	日本文化論の系譜を学ぶ。
第11週	日本仏教文化の特徴を考える①。
第12週	日本仏教文化の特徴を考える②。
第13週	日本浄土仏教について考える。
第14週	日本浄土仏教文化論：生と死の意味。
第15週	日本浄土仏教文化に見られる生命観。

《教養科目》《経済情報学科・栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	宗教と文化Ⅱ（キリスト教）				
担当者名	穂積 修司				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	全学年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

日本では、もともと宗教に対する理解が乏しい上に、いわゆる「カルト宗教」の影響や「テロ」を巡る論議の中で、宗教への誤解や偏見が増幅され、社会全体に宗教に対するある種の警戒感が広がっている。しかし、宗教自体は何等恐ろしいものでも破壊的なものでもなく、社会に貢献し、文化を創造し、人間をより豊かに生かすものである。

本講義では、キリスト教を考察することによってそのような宗教の豊かさを認識する力を養いたい。また、グローバル化が進み、多様な価値観の中を生きねばならない時代にあつて、異質な宗教や文化を理解し、自分とは違う人々と共に生きる視点を身につけることを目指したい。そのために、講義の他に、ビデオ等の視聴覚教材やレポートの提出などによって、授業を進めたい。

《授業の到達目標》

- キリスト教についての一般的な知識を知る。
- キリスト教という宗教の本質を知る。
- 聖書を読んで、キリスト教の考え方や価値観を知る。
- 身近な所にあるキリスト教の影響を知る。

《テキスト》

『信じる気持ち はじめてのキリスト教』 富田正樹著(日本キリスト教団出版局)2007  
 『聖書』(授業の初めに配布します)

《参考文献》

『キリスト教との出会い/聖書資料集』 富田正樹著 (日本キリスト教団出版局) 2004  
 『知って役立つキリスト教大研究』 八木谷涼子著(新潮 OH!文庫)2001  
 『キリスト教との出会い/はじめて知るキリスト教』 本田栄一著(日本キリスト教団出版局)2002  
 『キリスト教思想への招待』 田川建三著(劉草書房)2004  
 『アートバイブル』 共同訳聖書実行委員会(日本聖書協会)2003

《成績評価の方法》

- ・授業取り組みの態度(30%)、通常レポート(30%)、期末レポート(40%)を総合して評価する。
- ・レポートの内容(テーマ、枚数、書き方)や締切り期日等は、授業中に指示する。

《授業時間外学習》

- ・教科書と聖書を読んでおくこと
- ・配布する資料を整理し、理解しておくこと

《備考》

- ・宗教に対する関心とキリスト教について知りたいという意欲をもって授業に望んでほしい。
- ・私語等、授業態度の悪い者は、退席してもらうことがある。
- ・授業の性格上、出席をして講義を聞くことが大切なので、全体の授業日数の1/3以上欠席した場合は単位が取れないので、注意してほしい。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	キリスト教を知る ー教派について
第 3 週	キリスト教を知る ー教会暦、礼拝、祈り、賛美
第 4 週	キリスト教を知る ー結婚式、葬式、牧師の生活、信徒の生活
第 5 週	聖書について学ぶ ー旧約聖書とは？
第 6 週	聖書について学ぶ ー新約聖書とは？
第 7 週	キリスト教の本質を学ぶ ーキリスト教の成り立ち
第 8 週	キリスト教の本質を学ぶ ー神について、イエス・キリストについて
第 9 週	聖書の言葉に学ぶ ーイエスの言葉と行為について
第 10 週	聖書の言葉に学ぶ ーイエスの言葉と行為について
第 11 週	聖書の言葉に学ぶ ーパウロの言葉について
第 12 週	日本におけるキリスト教について学ぶ ー歴史と影響
第 13 週	日本におけるキリスト教について学ぶ ー現代の課題-1
第 14 週	日本におけるキリスト教について学ぶ ー現代の課題-2
第 15 週	まとめ

《教養科目》《経済情報学科・栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	宗教と文化Ⅲ（イスラム教）				
担当者名	重親 知左子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	全学年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

世界におけるムスリム（イスラム教徒）の数は約13億人、総人口の20%以上を占めている。日本在住のムスリムも11、2万人に達しているが、多くの人にとってはなじみのない宗教ではなからうか。いずれにせよ、今後内外でイスラムと出会う機会は増えるであろうし、異文化理解と交流のためにも、その基本的な信仰内容と信仰行為を知っておくことは大切である。この授業を通してイスラムに関心を持ち、イスラム世界をとりまく現状を理解することができるよう進めていきたい。

最初にイスラム世界をめぐる状況を概観する。その後イスラムの成立と発展、その基本的な信仰内容や信仰行為（六信五行）、日常生活の規範などを順に説明する。イスラム世界の現状を捉える前提として、歴史的な側面も取り上げる。具体的なイメージがつかめるよう、ほぼ毎回ドキュメンタリーを中心としたVTRを視聴する。同時に新聞記事も利用し、世界と日本におけるムスリムの姿などを把握する際の参考資料の一つとしたい。

《授業の到達目標》

- ・イスラムの基本的な信仰内容と信仰行為について説明できる。
- ・イスラムにおける日常生活の規範について説明できる。
- ・日本におけるイスラムやムスリムの現状を把握できる。
- ・イスラムに関わる世界のニュースについて主体的に考えることができる。

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回プリントを配付する。

《参考文献》

- 大川玲子・島崎晋『図解 これだけは知っておきたいコーラン入門』洋泉社、2007  
 河田尚子『日本人女性信徒が語るイスラム案内』つくばね社、2004  
 小杉泰『イスラムとは何か―その宗教・社会・文化―』講談社、1994  
 小杉泰・長岡慎介『イスラムを知る12 イスラム銀行 金融と国際経済』山川出版社、2010  
 桜井啓子『日本のムスリム社会』筑摩書房、2003  
 内藤正典『イスラムの怒り』集英社、2009

《成績評価の方法》

- ・授業後に課すレポート（50%）/VTR視聴後に課すレポート（50%）
- ・授業欠席回数は授業実施回数の1/3以下であること。

《授業時間外学習》

- ・授業計画を参照し、次回の授業範囲を参考文献等により予習しておくこと。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問もしくは自分で調べること（第一回講義にて、連絡用のメールアドレスを知らせます）。
- ・イスラムに関わる内外のニュースをチェックし、考察すること。
- ・可能な範囲で、生の「イスラム」に触れること（例：モスク<イスラムの礼拝所>見学）。

《備考》

レポートの提出遅れについては減点する。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	世界と日本におけるイスラムの現状
第2週	イスラムの成立と発展
第3週	イスラムの根本原理 /イスラムの基本的信仰内容(1)アッラー
第4週	イスラムの基本的信仰内容(2)預言者・天使 /スンナ派とシーア派
第5週	イスラムの基本的信仰内容(3)啓典
第6週	イスラムの基本的信仰内容(4)来世・運命
第7週	イスラムの信仰行為(1)信仰告白・礼拝
第8週	イスラムの信仰行為(2)喜捨 /イスラム金融
第9週	イスラムの信仰行為(3)断食 /イスラム暦
第10週	イスラムの信仰行為(4)巡礼
第11週	日常生活の中の規範(1) 飲酒・結婚・服装
第12週	日常生活の中の規範(2) 離婚・遺産相続・血縁関係
第13週	イスラム世界の興隆
第14週	イスラム世界の衰退
第15週	日本とイスラム世界の交流

《教養科目》《経済情報学科・栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	生活とデザイン				
担当者名	稲富 恭				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	全学年・I期

《授業のねらい及び概要》

・我々の生活は携帯電話から超高層ビルに至るまで、たくさんの「もの」に取り囲まれています。それらは実用的価値を満たすだけでなく、社会的価値、美的価値が反映された、価値観の総体として捉える事ができます。本講義では、このような身の回りのデザインと価値との関連について多面的に考察します。

《授業の到達目標》

- デザイン一般に関する基礎知識を身につける。
- デザインが決定されるに至った背景、要因について分析的に理解する能力を身につける。
- デザインが生活における価値観の反映である事を理解する。

《テキスト》

・テキストは用いません。

《参考文献》

- ・多岐に及ぶため授業中に適宜、紹介します。例えば、以下のような文献が授業の理解を深めます。
- ・『世界デザイン史』阿部 公正、美術出版社,1995
- ・『近代椅子学事始』島崎 信、ワールドフォトプレス,2002
- ・『北欧デザイン(1)~(3)』渡部 千春、プチグラフィックデザイン,2004
- ・『20世紀ファッションの文化史』成実 弘至、河出書房新社,2007

《成績評価の方法》

・授業中に毎回実施するレポート(70%)、及び、学期末に実施する学期末レポート(30%)によって評価します。また授業ノートの提出が単位認定の必要条件になります。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法 教員が予習用のキーワードを提示しますので、事前に文献、雑誌、インターネット等を利用して基礎的な用語、知識を調査しておいてください。
- ・復習の方法 授業後は授業内容に従い、授業ノートを制作して下さい。
- ・学期末レポート 「学期末レポート」の執筆を行って下さい。課題は第11週(予定)に提示します。

《備考》

- ・デザイン分野に関心があり、概観的な知識を広く身につけたい学生を受講対象者として想定しています。
- ・授業は板書形式ではなく、スライドを口頭で解説する形式で実施します。また毎回、授業の最後に授業内容に関するレポートを提出してもらいます。
- ・出欠確認は出欠管理端末を用いて行います。必ず学生証を持参して下さい。単位の取得には、11回以上の出席が必要です(公欠に準じる欠席を除く)。遅刻は交通機関の遅延、公的な原因に基づくもの以外、一切出席回数に含めませんので注意して下さい。原則として出欠管理端末による出欠確認は授業開始時(担当教員が責任をもって管理します)に終了します。必ず授業開始までに出席確認を行ってください(ただし授業準備の都合で、出欠確認の終了時間が若干遅れる場合があります)。
- ・出席状態は「LiveCampus」から確認できます。授業出席回数について個別に注意を促すことはありません。各自で責任をもって把握して下さい。なお本講義では就職活動による欠席に対して特別の配慮は行いません。
- ・授業中の私語、携帯電話の操作は禁止します。授業担当者の判断において退席を求めますので、あらかじめ了解した上で受講して下さい。
- ・授業計画は予定です。授業の進行に伴って、順序、内容が変更になる場合があります。
- ・「学期末レポート」は必ず「授業ノート」と併せて提出して下さい。
- ・「生活美学」の読み替え科目になります。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	「デザインって、何ですか」 実用品と贅沢品と作品について(ガイダンス)
第2週	「はずさない家の選び方」 住宅と家族の生活の関わり(建築デザイン)
第3週	「新しい携帯電話が欲しくなるわけ」 携帯電話のデザインにみるマーケティング手法(プロダクトデザイン)
第4週	「なぜ椅子の種類はこんなにもたくさんあるのか」 椅子のデザインを通じて考える材料・技術の発展(プロダクトデザイン)
第5週	H&M、GAP、ZARA」 北欧デザインにみるデザインと社会体制の関連(プロダクトデザイン)
第6週	「ウェッジウッドが好きな人」 クラシックなデザインの系譜(デザインの歴史(1):ギリシア・ローマ期からゴシックの様式)
第7週	「機械式時計はなぜ復活をとげたのか」 科学技術の発展を背景としたデザインの変化(デザインの歴史(2):ルネサンスから新古典様式)
第8週	「モダンデザイン、モダンアート、モダン焼き・・・モダンって何」 社会の変化とデザインの関わり(デザインの歴史(3):アーツ・アンド・クラフツからモダニズム)
第9週	「全然おもしろくない映画がなぜ名画に選ばれるのか」 映画・ドラマにみる映像作品の構造と文法(映像デザイン)
第10週	「エコカーに乗らないとだめですか」 自動車デザインの歴史とパラダイムシフト(インダストリアルデザイン)
第11週	「シャネル VS ユニクロ」 20世紀ファッションの系譜と大衆化現象(ファッションデザイン)
第12週	「なぜ東京で迷子になってしまうのか」 世界の都市における都市形態の決定要因(都市デザイン)
第13週	「床の間は無駄か」 懐石料理と茶室の背景(和風デザインの系譜)
第14週	「授業のまとめ」 デザインと価値観の関わりについて
第15週	学期末レポートのプレゼンテーションと講評

《教養科目》《経済情報学科・栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	色彩学				
担当者名	浜島 成嘉				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	全学年・I期

《授業のねらい及び概要》

色彩化の時代を迎え、衣・食・住など私達を取り巻く生活環境はカラフルになっている。色彩は使い方を間違えると、視覚上や心理面において、むしろ不快感を感じさせる場合もある。授業では、快い色彩調和を得るため、カラーハーモニーはどの様に考えれば良いのか、また色彩が私たちの生活にどのような影響を与えるのか、感覚的、科学的視点から理解出来るように解説する。

《授業の到達目標》

色彩学の基本となる、「色彩体系」「色の見え方」「色彩の感情効果」「色彩調和論」等々の理論について学び、その色彩理論を「色」で理解しなければ、色彩学を学んだとはいえない。言い替えば「色彩の調和理論」とその理論を「色」でも理解していないと、日常生活において活用することが出来ないため、全く意味をなさない。例えばファッションのカラーコーディネートなどにおいて、「配色調和理論」を「色」でも表現することが出来るようになることが必要です。

《テキスト》

- ・テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。
- ・カラーカードを使用する。

《参考文献》

- ・『生活と色彩』（朝倉書店）
- ・『カラーコーディネーター入門・色彩』（日本色研事業）

《成績評価の方法》

- ・授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した場合は単位を与えない。
- ・小テスト(40点)、カラーリング課題(60点)

《授業時間外学習》

- ・生活の中でサインとして使われている理髪店の赤・青・白は何を表わしているのか？街で見かけるいい配色と 思われる服装のカラーを観察しておくこと。

《備考》

- ・授業内容は文科省(後援)色彩能力検定試験3級レベル。(1級2次、1級、2級、3級)

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	・色彩と生活 色彩は日常生活でどのように活用されているのか、色彩の果たす役割を改めて見直す。
第2週	・色の知覚 色彩は光が眼球に入り、それが網膜の視細胞により生じた刺激が、大脳に伝達され最終的には脳で感じているという色知覚について学ぶ。
第3週	・色彩の感情効果・I 赤、橙、黄、青など、それぞれの色相がもっている、色の感情効果について。
第4週	・色の感情効果・II 色の連想、象徴について解説し、色の嗜好性と性格についてふれる。
第5週	・色の表示 色彩学の基礎である色の三属性を基に、各国のカラーシステムの違いについて説明。
第6週	・色名 平安時代、江戸時代における、日本の伝統色名やヨーロッパの色名について理解する。
第7週	・色のイメージ 同じ人でも、着用する色によってイメージが異なる。どのような色調がそれぞれイメージ表現出来るのかを理解する。
第8週	・色の見えの現象 日常生活において、同じ色でも見え方が異なる場合があり、それは何故そのような現象が起きるのか？
第9週	・配色調和・I 色の調和の歴史、良いカラーハーモニーを得るには、配色調和の基本原則を学び、それに従ってに配色を考えれば良い。
第10週	・配色調和・II イメージを基に色相、トーンで美しく調和を得る方法を解説。
第11週	・色の伝達性 色彩が私たちの行動に与える、影響について事例を基に説明。
第12週	・色彩と文化 国により色彩に対する捉え方が異なる。
第13週	・「衣」(ファッション)の色彩 流行色はどのようにつくられるのか？時代と流行色の関係について分析する。
第14週	・「食」 食の五原色。料理の配色について。
第15週	・「住」 環境の色彩(騒色)、インテリアのカラーコーディネートについて。

《教養科目》《保育科第一部・保育科第三部》

科目名	色彩学				
担当者名	浜島 成嘉				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

色彩化の時代を迎え、衣・食・住など私達を取り巻く生活環境はカラフルになっている。色彩は使い方を間違えると、視覚上や心理面において、むしろ不快感を感じさせる場合もある。授業では、快い色彩調和を得るため、カラーハーモニーはどの様に考えれば良いのか、また色彩が私たちの生活にどのような影響を与えるのか、感覚的、科学的視点から理解出来るように解説する。

《授業の到達目標》

色彩学の基本となる、「色彩体系」「色の見え方」「色彩の感情効果」「色彩調和論」等々の理論について学び、その色彩理論を「色」で理解しなければ、色彩学を学んだとはいえない。言い替えば「色彩の調和理論」とその理論を「色」でも理解していないと、日常生活において活用することが出来ないため、全く意味をなさない。例えばファッションのカラーコーディネートなどにおいて、「配色調和理論」を「色」でも表現することが出来るようになることが必要です。

《テキスト》

- ・テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。
- ・カラーカードを使用する。

《参考文献》

- ・『生活と色彩』（朝倉書店）
- ・『カラーコーディネーター入門・色彩』（日本色研事業）

《成績評価の方法》

- ・授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した場合は単位を与えない。
- ・小テスト(40点)、カラーリング課題(60点)

《授業時間外学習》

- ・生活の中でサインとして使われている理髪店の赤・青・白は何を表わしているのか？街で見かけるいい配色と 思われる服装のカラーを観察しておくこと。

《備考》

- ・授業内容は文科省(後援)色彩能力検定試験3級レベル。(1級2次、1級、2級、3級)

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	・色彩と生活 色彩は日常生活でどのように活用されているのか、色彩の果たす役割を改めて見直す。
第 2 週	・色の知覚 色彩は光が眼球に入り、それが網膜の視細胞により生じた刺激が、大脳に伝達され最終的には脳で感じているという色知覚について学ぶ。
第 3 週	・色彩の感情効果・I 赤、橙、黄、青など、それぞれの色相がもっている、色の感情効果について。
第 4 週	・色の感情効果・II 色の連想、象徴について解説し、色の嗜好性と性格についてふれる。
第 5 週	・色の表示 色彩学の基礎である色の三属性を基に、各国のカラーシステムの違いについて説明。
第 6 週	・色名 平安時代、江戸時代における、日本の伝統色名やヨーロッパの色名について理解する。
第 7 週	・色のイメージ 同じ人でも、着用する色によってイメージが異なる。どのような色調がそれぞれイメージ表現出来るのかを理解する。
第 8 週	・色の見えの現象 日常生活において、同じ色でも見え方が異なる場合があり、それは何故そのような現象が起きるのか？
第 9 週	・配色調和・I 色の調和の歴史、良いカラーハーモニーを得るには、配色調和の基本原則を学び、それに従ってに配色を考えれば良い。
第10週	・配色調和・II イメージを基に色相、トーンで美しく調和を得る方法を解説。
第11週	・色の伝達性 色彩が私たちの行動に与える、影響について事例を基に説明。
第12週	・色彩と文化 国により色彩に対する捉え方が異なる。
第13週	・「衣」(ファッション)の色彩 流行色はどのようにつくられるのか？時代と流行色の関係について分析する。
第14週	・「食」 食の五原色。料理の配色について。
第15週	・「住」 環境の色彩(騒色)、インテリアのカラーコーディネートについて。

《教養科目》《経済情報学科・栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	音楽表現				
担当者名	大串 和久				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	全学年・I期

《授業のねらい及び概要》

歌って、弾いて、作って — 即ち、歌唱・器楽・創作活動を実践するとともに鑑賞まで範囲をひろげながら、楽しく音楽を表現する力を身に付けていきます。全員が必ず所持している楽器＝健康な心身をもって各自の可能性を最大限に活かせるよう歌唱を中心とした演習を行います。また、歌唱曲に関連する器楽曲を簡易なアレンジにて電子ピアノ（ヘッドフォンによる個人練習とスピーカによる全員合奏）で演習したり、即興の動きや演奏さらに鑑賞を通じて音楽を表現するということを総合的に学びます。

《授業の到達目標》

- 歌声を出すしくみを理解し自分の体で実践したうえで楽曲をのびのびと歌うことができる。
- たいへん簡易なキーボードアレンジの楽曲を個々のレベルにあわせたパート演奏を重ね楽しく合奏することができる。
- その場で演じる（動きや演奏）たんへん簡易な即興力を身に付け歌や楽器の演奏に活かすことができる。
- 自分以外の人が行う演奏活動や行動を集中して聴き見ることによって一層自分の表現の幅をひろげることができる。

《テキスト》

『4訂版 歌のミュージックランド～楽しい歌とコーラス～』（教育芸術社）  
資料等は、その都度配布する。

《参考文献》

『ピアノ&ボーカルセレクション メリーポピンズ ミュージカル版』（HAL LEONARD）  
『メリー・ポピンズ（ピアノ伴奏CD付）』（ヤマハミュージックメディア）  
『Super Chorus クラス合唱曲集』（教育芸術社）

《成績評価の方法》

1. 理由の如何にかかわらず授業回数の3分の1以上を欠席すると単位を認めない。
2. 授業点30%（授業時の座席は固定し授業態度が真面目であること、積極的に授業へ参加していることを評価）。
3. レポート・課題等の提出20%（提出期日厳守。遅れた場合は減点）。
4. 授業中に実施する小テスト50%（定期試験は実施しない）。小テストには実技テスト（歌唱・ピアノ・和太鼓）、筆記テストを含む。

《授業時間外学習》

原則的に予習の必要はない（必要な時のみ事前に指示する）。毎回の授業時の実践が一番大切で、復習については毎回の授業内容を再確認して不明な点等があれば質問したり図書館やWebで調べる等、各自で対応すること。

《備考》

1. 遅刻・早退は20分まで出席扱い（当該日の授業点を減点）とする。やむを得ず20分を超えそうな時は出席扱いとはならないが授業内容が毎回つながりをもつので、そのような時でも必ず出席すること。場合によっては当日の小テストを受験できるよう配慮することもある。
2. 講義室の使用上の注意事項を厳守し、授業終了時には次の使用者のために清潔を心がけること。特に室内は飲食厳禁はもちろんこと、携帯電話の使用も厳禁（発覚の際は当該日の授業点を減点）とする。

《授業計画》

週	授 業 計 画	
第1週	『音楽表現』における授業内容の説明。指導者の紹介と簡易なアンケート調査。	
第2週	歌う～自分の身体のマカニズムを知ろう1	
第3週	歌う～自分の身体のマカニズムを知ろう2	聴き入って見る～鑑賞1
第4週	歌う～のびのびと歌おう1	聴き入って見る～鑑賞2
第5週	歌う～のびのびと歌おう2	聴き入って見る～鑑賞3
第6週	歌う～のびのびと歌おう3	聴き入って見る～鑑賞4
第7週	歌う～のびのびと歌おう4	聴き入って見る～鑑賞5
第8週	歌う～のびのびと歌おう5	聴き入って見る～鑑賞6
第9週	歌う～のびのびと歌おう6	聴き入って見る～鑑賞7
第10週	弾こう～やさしいアレンジで1	たたこう～和太鼓1
第11週	弾こう～やさしいアレンジで2	たたこう～和太鼓2
第12週	弾こう～やさしいアレンジで3	たたこう～和太鼓3
第13週	歌って、弾いて、たたいて、聴こう1	
第14週	歌って、弾いて、たたいて、聴こう2	
第15週	総合復習とレポート提出	



《教養科目》《経済情報学科・栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	アメリカ文学				
担当者名	平本 幸治				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	全学年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

19世紀半ば、アメリカ合衆国が文化的にも物質的にもイギリス本国やヨーロッパから独立し、新興国として世界に台頭し始めた時代、即ち、アメリカ・ルネサンス期（1830-60頃）の文学に関して考察します。この時代の思潮や文化的背景の具体的なイメージをつかむために、映画化された文学作品のVTRを観賞したり、作家・思想家の紹介VTRや翻訳書を参考にしながら、実際に英文テキストを精読し、原文で読むアメリカ文学作品の醍醐味を味わってみたいと思います。

《授業の到達目標》

アメリカ・ルネサンス期に輩出した思想家・作家並びにその作品群を紹介し、我々からすればおそらく異文化的な、アメリカ合衆国の文化・社会の基底を成す精神性を主体的に解することが出来るようになることを目標とします。

《テキスト》

必要に応じてプリントを配布します。

《参考文献》

《成績評価の方法》

期末レポート（50%）、授業中に実施する小テスト（50%）

《授業時間外学習》

授業でプリントを配布しますので次回の学習範囲の単語や慣用句などの意味を調べ、精読しておいて下さい。

《備考》

《授業計画》

週	授業計画
第1週	アメリカ文学史の概要
第2週	アメリカ・ルネサンスの概要
第3週	思想家 Ralph Waldo Emerson
第4週	Ralph Waldo Emerson の Nature
第5週	Ralph Waldo Emerson の Essays
第6週	思想家 Henry David Thoreau 《VTR 視聴》
第7週	Henry David Thoreau の Walden, or Life in the Woods 《VTR 視聴》
第8週	Henry David Thoreau の Civil Disobedience
第9週	作家 Nathaniel Hawthorne 《VTR 視聴》
第10週	Nathaniel Hawthorne の The Scarlet Letter (1)
第11週	Nathaniel Hawthorne の The Scarlet Letter (2)
第12週	作家 Herman Melville 《VTR 視聴》
第13週	Herman Melville の Moby-Dick; or, The Whale (1) 《VTR 視聴》
第14週	Herman Melville の Moby-Dick; or, The Whale (2) 《VTR 視聴》
第15週	学習のまとめ

《教養科目》《経済情報学科・栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	論説と評論				
担当者名	安井 重雄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	全学年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

高校までの授業では、必ず正解があり、正答が出る。しかし、実際の社会では正解が存在することの方が珍しい。一つの物事についてさまざまな考え方が存在するのである。我々はそれらの考え方をよく吟味し考え、さらに自分の意見を提示する力が必要である。この授業では、評論や論説文を題材として、著者の意見を汲み取り、それに対して受講者の意見を提出し、考える力を養成する。

《授業の到達目標》

社会、文化、芸術など、さまざまな分野において、そこで論じられている意見を客観的に把握し、自らの考えを提出できる。

《テキスト》

さまざまな評論をコピーして配布する。

《参考文献》

特になし。

《成績評価の方法》

出席は授業全体の3分の2以上なければ単位を与えない。授業で取り上げた作品についての意見を書く時間を何度か取るので、それを平常点（40パーセント）とし、定期試験（60パーセント）とによって評価する。

《授業時間外学習》

授業では次回に取り上げる作品を指示するので、その作品や作者について調べておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	授業の進め方の説明。
第 2 週	日本の社会に関する文章を読む。
第 3 週	日本の社会に関する文章を読む。
第 4 週	日本の社会に関する文章を読む。
第 5 週	日本の芸術についての文章を読む。
第 6 週	日本の芸術についての文章を読む。
第 7 週	日本の芸術についての文章を読む。
第 8 週	日本の教育についての文章を読む。
第 9 週	日本の教育についての文章を読む。
第 10 週	日本の教育についての文章を読む。
第 11 週	日本の文化についての文章を読む。
第 12 週	日本の文化についての文章を読む。
第 13 週	日本の文化についての文章を読む。
第 14 週	日本の文化についての文章を読む。
第 15 週	授業のまとめ。

《教養科目》《経済情報学科・栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	歴史学				
担当者名	金子 哲				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	全学年・I期

《授業のねらい及び概要》

歴史って、嫌だよな。勉強するの面倒くさいもの。奇々怪々な漢字や呪文みたいなカタカナ人名を暗記するのにウンザリしたよな。あの、年表ってヤツもいけ好かないヤツだったな、面白みも色気もありやしない。

でも、安心して！ この講義じゃ、「物知り歴史」や「暗記物の歴史」は扱わないからネ。ものを覚えるんじゃなくて、感じて欲しいんだ、「人間の変わらない思考方法」を。時代が変わっても、地域が変わっても、人間の感性や考え方なんてそうそう変わるものじゃないんだな、実は。先進国と発展途上国、いわゆる文明人と未開民族（嫌な表現だな）とでも、変わりやしないんだ。（そもそも私は、こんな区別無意味だと思ってるんだ。）

人間の持つ本質的な限界と馬鹿らしさ、そして愛おしさを伝えられたらな、と思ってます。

扱う主な事象は、人間の感性が最も鮮やかになる「自由-非日常・反秩序のアヤシゲな時空間-」に関してで、日本の前近代を多く取り扱うことを、あらかじめお断りしておきます。

《授業の到達目標》

歴史って、「お偉いさん」の視点から語られることが多いよね。扱う事柄も、「○○王朝がどうだ」の「xx王がこうした」だの、「執権政治がなんたら」で「将軍がどうたら」、なんて事ばかり。ふう・・・で、これを暗記しろって言うんだからたまらない、よね。

最近、こんな歴史学とは全く別の歴史学が結構はやっているんだ。「アナル歴史学」「社会史」なんて言われる歴史学の方法なんだ。その時生きていた人々の視点で、いや、五感で、その時代を感じてみよう、という方法なんだ。

この講義で真剣に思索すれば、「アナル派の思考方法」の第一段階が獲得できるはず。そして一生かかって悩み続ける「自由とは何か」という大問題解決へのシード（種）が獲得できるはず。

《テキスト》

なし

《参考文献》

『戦国時代論』勝俣鎮夫（岩波書店）←ハードカバーの学術書だけど、読みやすくブツ飛んだ内容。

『増補 無縁・公界・楽』網野善彦（「平凡社ライブラリー」平凡社）←必読教養書。危険な内容。

『はじめての構造主義』橋爪大三郎（「講談社現代新書」講談社）←「柔らか頭」のための基本書。

『排除の構造』今村仁司（「ちくま学芸文庫」筑摩書房）←頭痛に襲われたという方へ。

『週間朝日百科 日本の歴史』（朝日新聞社）←前衛的な内容を平易でグラフィカルに読みやすく。

《成績評価の方法》

学期の最後に行うペーパーテストで評価します。自筆ノート（ワープロ書き不可、コピー不可）と直接配布したレジュメ（コピー不可）の持ち込みのみ可とします。

《授業時間外学習》

この講義に出席するにあたっては、常識を一度捨て、柔軟な思考ができる状態になるよう、頭の柔軟運動をしてください。その際には、前回の講義をよく思い出し、反芻してください。

そして、参考文献を一読してみることをお奨めします。格段に講義が理解しやすくなります。

《備考》

現代の常識とは真っ向から衝突する講義です。常識の外部に存在する諸問題を考察したくない方は履修しないことをお奨め申し上げます。最新鋭の研究成果を反映させます。それが大学教員の責務と考えています。故にシラバスの内容と完全に一致しない可能性があります。その点は納得の上、登録してください。

《授業計画》

週	授 業 計 画	
第 1 週	はじめに	どんなことをしていくか
第 2 週	歴史の捉え方・時間のイメージ	「直進的な時間」と「循環する時間」、「西洋の時間」と「東洋の時間」
第 3 週	歴史の見方	等身大の視点、ということ
第 4 週	中心と周縁	「王と道化（ピエロ）の関係」
第 5 週	反秩序の場	「盛り場」「遊郭」「悪所」「アジール（避難所）」と「聖なる場」・「性なる場」
第 6 週	反秩序の時間	「祭り」「祝祭」「カーニバル」と「逆転の秩序」
第 7 週	前近代の自由について 1	現代人の固定観念から離脱しよう！ 逃げろよ逃げろ！ 逃走と離脱の論理
第 8 週	前近代の自由について 2	「エンガチョ！ エンガチョ！」など、現在にも潜む前近代の構造
第 9 週	前近代の自由について 3	困り込まれていく自由と、近代（モダン）の論理
第 10 週	中世の絵巻物から自由を探る 1	「聖なる場」と「暗黒の場」をグラフィカルに読み解こう
第 11 週	中世の絵巻物から自由を探る 2	「アブノーマルな人々」を中世絵巻物に探る 「反秩序」への誘い
第 12 週	総合的な思索 1	新たな視点の獲得へ 近代（モダン）の論理への批判
第 13 週	総合的な思索 2	グローバルスタンダードへの批判
第 14 週	総合的な思索 3	周縁に生きる
第 15 週	おわりに	

《教養科目》《栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	日本語表現法				
担当者名	野田 直恵				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	全学年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

言葉を適切に用いることは社会人としての常識であり、それを欠く者は一人前の社会人としてまず認めてもらえません。そこでこの授業では、テキストや配布するプリントの説明・解説などを行ったのち、その内容に即した課題に取り組む、ということを取り返し、論文やレポートなどを書く力を身につけることをめざします。語彙力や読解力を伸ばすための自発的な努力も求めますが、それによって物事をさらに多角的にとらえる契機を得てもらいたいと思います。

《授業の到達目標》

- 論文やレポートの基本的な書き方を身につける。
- 論文を書くにあたっての資料の集め方・調査の方法などを具体的に学ぶ。
- 他者の論文に対する問題点を見出す力を獲得する。
- 専門的な研究を行うための基礎的な能力を高める。

《テキスト》

『新版 大学生のためのレポート論文術』（講談社現代新書）小笠原喜康、講談社、2009  
その他、別にプリントも配布します。

《参考文献》

必要に応じ、授業時に指示します。

《成績評価の方法》

- ・授業への参加姿勢および授業時の提出物 30%（提出状況とその内容によって評価する）
- ・課題プリント等の提出物 20%
- ・定期試験 50%

《授業時間外学習》

- ・予習の方法  
授業時に課題プリントを配布するので、指定時までに仕上げ提出してください。また、その他にも読書課題等を出しますので指定時までにやっておいてください。読書課題等については、課題に基づいた小テストなどを行うことがあります。
- ・復習の方法  
授業内容をふりかえって不明な点が出てきた場合は、遠慮なく質問してください。授業時以外でも質問を受け付けます。（初回の講義で連絡用のメールアドレスを知らせます。）また、課題などの完成度が一定水準に満たなかった場合は再提出を求めることがあります。

《備考》

- ・プリント類は各自でファイルなどにとじ、指定時には必ず持ってきてください。プリントは受講人数分しか配布しません。また、国語辞典など（電子辞書可）もなるべく持ってきてください。
- ・この授業は「日本語（読解と表現）」の延長的なもので、応用力を充実させるためのものです。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	論文の種類：さまざまな分野における論文のスタイル
第2週	論文の鉄則：論文を書くにあたって守らねばならないこと
第3週	論文の構造：論文の構成法
第4週	論文を読む（1）：問題をとらえる視点
第5週	論文を読む（2）：文章表現の特徴・工夫
第6週	論文の良し悪し：さまざまな論文のあり方
第7週	論文のテーマ：論文のテーマの見つけ方およびテーマにあわせた見通しの立て方
第8週	論文を書く準備（1）：論文を書くために必要な資料の探し方
第9週	論文を書く準備（2）：論文を書くために必要な資料の集め方
第10週	論文を書く（1）：論を実際に組み立てる
第11週	論文を書く（2）：論文の下書き
第12週	論文を書く（3）：パソコン入力の書式・原稿用紙の使い方
第13週	論文を書く（4）：論文の推敲・仕上げ
第14週	論文の批評：お互いの論文批評
第15週	学習のまとめ：専門的な研究や卒業論文にむけての探求

《教養科目》《経済情報学科・栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	法と社会				
担当者名	今井 俊介				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	全学年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

授業計画表にしたがい講義形式により行う。ときには講義内容に関連する素材の希望を募り、討論方式を取り入れる等意見表明の訓練もしたい。

少子・高齢化に伴う福祉国家を向かえ、身近な社会問題（年金、介護、食品・薬品偽装、ニート問題、労働者派遣制度に伴う問題、無差別・家族殺人事件等）を取り上げ問題点の所在を正確に理解し、判断・批判能力を涵養したい。なお裁判員制度の施行に伴い、制度の趣旨・概要、裁判員としての心構え、仕事内容、権利・義務等の解説を施し、選任されたとき動揺のないように理解を深める。

《授業の到達目標》

社会における法の果たす役割、機能を理解させる。とりわけ基本的人権の歴史、機能、現状についての認識を深める。そして全授業過程内に基本的人権の理解・認識・擁護という大きな柱を渡し、これを通して人権思想の支配する社会正義を、他人との共感・共鳴を通して法的モラルをそれぞれ会得する。このようにして法の学習を通して日々のマスコミ報道運を理解することができ、人間と社会の理解に寄与することを目標とする。

《テキスト》

特に指定はしない。随時資料をコピーして配布する。

《参考文献》

奥平康弘 いかそう日本国憲法 岩波ジュニア新書235  
 杉原泰雄 憲法読本第3版 岩波ジュニア新書471  
 後藤 昭 新版わたしたちと裁判 岩波ジュニア新書547

《成績評価の方法》

基本的にはペーパーテストに主力を置くが（80%）、中間にレポートを提出させることがある（20%）。

《授業時間外学習》

日々のマスコミ報道に留意し、疑問点を調べ、資料としてこれを収集することを薦める。その結果を講義に持ち帰り全員の討議の資料として活用したい。

《備考》

法治国家の構成員である諸君は、基礎的な法知識なしでこれからの社会を乗り切れません。ニュースで報じられる日々の出来事を理解するにも法的知識が不可欠です。この機会に是非受講をお勧めします。なお受講の際は手ごろな六法全書を携行して下さい。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	社会あるところ法あり (Ubi societas ibi ius) 社会の多様性と法 法治主義の構造
第2週	国民生活と憲法 国民生活を導く最高かつ基本的公序としての憲法の役割と地位
第3週	現代社会と人権 人権を推進し、阻害する要因、新しい人権（プライバシーの権利、環境権、知る権利）の誕生
第4週	自由と平等 人権獲得の歴史を通じ、それが自分のみならず他人にとってもかけがえの無い財産であることを学ぶ
第5週	行政と法 肥大化する行政権力を支える行政法群と行政救済法
第6週	犯罪と刑罰 現代における犯罪の様相、死刑論、罪刑法定主義、刑罰法規不遡及の原則
第7週	経済取引と法（1） 不動産を中心とする物権取引のあらまし
第8週	経済取引と法（2） 典型契約を中心とする債権取引のあらまし
第9週	市民生活と不法行為 一般不法行為、使用者責任、工作物設置責任、自動車交通事故
第10週	家族生活と法 親族法、相続法のあらまし
第11週	労働と法 賃金・労働時間を中心とする基礎的労働問題と労働者派遣制度の解説
第12週	社会保障と法 社会保障制度を支える法思想と法体制、社会保障関連重要裁判例の紹介
第13週	私的紛争とその解決 紛争解決方法の多様性と利害得失
第14週	裁判員制度 制度の問題点、裁判員の権能と義務等
第15週	まとめと質疑応答

《教養科目》《経済情報学科・栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	日本国憲法				
担当者名	今井 俊介				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	全学年・I期

《授業のねらい及び概要》

授業計画表にしたがい講義形式により行う。ときには講義内容に関連する素材の希望を募り、討論方式を取り入れる等意見表明の訓練もしたい。

少子・高齢化に伴う福祉国家を向かえ、講義のテーマに応じ、身近な社会問題（年金、介護、食品・薬品偽装、ニート問題、労働者派遣制度に伴う問題、無差別・家族殺人事件等）を取り上げ問題点の所在を正確に理解し、判断・批判能力を涵養したい。なお裁判員制度の施行に伴い、制度の趣旨・概要、裁判員としての心構え、仕事内容、権利・義務等の解説を施し、選任されたときに動揺のないように理解を深める。

《授業の到達目標》

社会における法の存在、価値を自覚させ、国家の基本構造、国民生活の基本公序としての憲法を理解させる。その中でも基本的人権の生成につきその歴史から説き起こし、これを通して人権思想の支配する社会正義を体得し、他人との共感・共鳴を通して法的モラルを会得させる。次いで現代社会における行政の果たす役割、民事・刑事裁判制度のしくみを鳥瞰し、立法・行政・司法三権の基本構造、相互のチェック・アンド・バランスについての理解を深め日々のニュース報道が理解できるようにしたい。以上憲法の実定法的解釈の学習を通して人間と社会の理解に寄与したい。

《テキスト》

特に指定はしない。資料等は随時コピーのうえ配布する。

《参考文献》

奥平康弘 いかそう日本国憲法 岩波ジュニア新書235  
 杉原泰雄 憲法読本第3版 岩波ジュニア新書471  
 後藤 昭 新版わたしたちと裁判 岩波ジュニア新書547

《成績評価の方法》

基本的にはペーパーテストに主力を置くが（80%）、中間にレポートを提出させる（20%）。

《授業時間外学習》

毎日のニュース報道に意を配り憲法が問題となっている事象をとりあげて自分の意見・感想等をまとめ発表の機会を設けたい。

《備考》

法治国家の構成員である諸君は、基礎的な法知識なしでこれからの社会を乗り切れません。ニュースで報じられる日々の出来事を理解するには憲法を中心とする法的知識が不可欠です。この機会に是非受講をお勧めします。なお受講の際は手ごろな六法全書を携行して下さい。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	憲法とはなにか 憲法が基本法・最高法規といわれる所以についての理解
第 2 週	日本国憲法の成立 現憲法の誕生と明治憲法との連続性
第 3 週	憲法の法源と解釈 憲法の解釈・運用と変遷、改正
第 4 週	国民主権 主権者としての国民、憲法上の機関としての国民
第 5 週	選挙 選挙の重要性、近代選挙法の原則
第 6 週	象徴天皇制 天皇の国事行為、内閣の助言と承認
第 7 週	地方自治 地方自治の本旨、地方公共団体の機関と権能
第 8 週	平和国家 平和主義の原理、9条の法的性格、戦争放棄と自衛権
第 9 週	基本的人権の原理・体系 人権の歴史、公共の福祉、人権の種類、新しい人権
第 10 週	自由権 精神の自由、人身の自由、経済活動の自由・平等権の内容
第 11 週	社会権 社会権の誕生、受益権・生存権の基本権
第 12 週	国会 国会の地位と性格、両院制、議院の権能
第 13 週	内閣 議院内閣制、内閣の権能
第 14 週	裁判所 司法権の独立、違憲法令審査権
第 15 週	裁判員制度 制度の仕組み、裁判員の権能と義務等

《教養科目》《保育科第一部》

科目名	日本国憲法				
担当者名	笹田 哲男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

日本国憲法の基本項目（「基本的人権の保障」「国民主権」「権力の分立」「平和国家」等）について、講説します。教員採用試験等の受験準備にも役立つよう必要事項をできるだけ多く解説することに留意しますが、「男女の平等」や「子どもの学習権」、また「日本の防衛と国際貢献」などについては、とくに時間をとって、皆さんとともに検討したいと考えています。

《授業の到達目標》

1. 「憲法(国家の基本法)とは何か」「日本の憲法のおいたち」などについて理解する。
2. 日本国憲法の主要な内容についての知識を獲得する。
3. 日本国憲法と現代社会とのかかわりを、裁判例の研究なども通じながら、具体的に理解する。

《テキスト》

『改訂 現代の法学—法学・憲法—』野口寛編著（建帛社）

《参考文献》

- 『憲法Ⅰ[第4版]』『憲法Ⅱ[第4版]』野中俊彦ほか（有斐閣）  
 『[全訂]憲法学教室』浦部法穂（日本評論社）  
 『憲法』辻村みよ子（日本評論社）

《成績評価の方法》

授業時間内に実施する筆記試験（テキスト持込可）の結果で100%評価します。

《授業時間外学習》

教科書の指定箇所を読んでおくこと。

《備考》

法的思考を培い、社会を見る眼を養って下さい。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	憲法と私たちの関係 ①法と社会、法の種類、法のシステム、その他 ②国家と法、憲法の意味・分類、その他
第 2 週	日本の憲法のおいたち ①明治憲法の成立過程と特質 ②日本国憲法の成立過程と特質 VTR使用
第 3 週	基本的人権の保障（1） ①人権の性格と歴史 ②個人の尊重、人権の制約
第 4 週	基本的人権の保障（2） ①法の下での平等 ②「家族生活における男女の平等」 VTR使用
第 5 週	基本的人権の保障（3） ①精神の自由（思想・良心の自由） ②精神の自由（信教の自由）
第 6 週	基本的人権の保障（4） ①精神の自由（集会・結社の自由、表現の自由） ②精神の自由（学問の自由） VTR使用
第 7 週	基本的人権の保障（5） ①人身の自由 ②経済活動の自由
第 8 週	基本的人権の保障（6） ①生存権の内容 ②生存権の法的性格 VTR使用
第 9 週	基本的人権の保障（7） ①教育を受ける権利 ②「子どもの学習権と『教育権の所在』」 VTR使用
第 10 週	基本的人権の保障（8） ①勤労の権利、労働基本権 ②「雇用労働と男女の平等」 VTR使用
第 11 週	基本的人権の保障（9） ①受益権、参政権 ②基本的義務
第 12 週	国民主権 ①選挙 ②象徴天皇制、地方自治 VTR使用
第 13 週	権力の分立 ①国会 ②内閣、裁判所 VTR使用
第 14 週	平和国家 ①前文と9条 ②「日本の防衛と国際貢献」 VTR使用
第 15 週	まとめ

《教養科目》《保育科第三部》

科目名	日本国憲法				
担当者名	中川 智章				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

「人権」という語は今日誰もが何の違和感もなく使っているが、今ここで改めて人権について考えてみる。これは大変重要でその意味と価値を再認識しようと思う。

この科目では人権の概念をはじめ、多種の人権について第1講から第15講で概説する。

《授業の到達目標》

「社会のあるところに法がある」という諺がある。これはおよそ人が寄り集まって共同生活するところには、その人の集団あるいは社会には社会生活上の営みに必要な社会規範があるということである。その社会規範はその集団または社会での秩序を維持し、その社会の構成員の行動基準となる。このように考えると、憲法は勿論その他の国家の法律、国際法は共に強制力を伴う社会規範であり、人間の自由、平等を中心にした基本的人権を確保し保障する「力」を有していることに気づくのである。私達の人権はどのようにして保障されているかについて理解する力を養う。

《テキスト》

『六法全書』（新六法、デイリー六法、ポケット六法のいずれか1冊）

『それぞれの人権』憲法教育研究会編（法律文化社）

《参考文献》

『憲法学Ⅰ』：奥平康弘＝杉原泰雄著（有斐閣）

『憲法概説』：芦部信喜＝今井貴著（有斐閣）

『人権擁護三〇年』：山下潔著（日本評論社）

『人権・社会・国家』：青柳幸一著（尚学社）

《成績評価の方法》

定期試験（100%）の結果により成績評価をします。

《授業時間外学習》

(1) 予め教科書の○頁から○頁までを読んでおくこと。

(2) 上記(1)の講義をした後、プリントに難解であったと思われる事項等を記載して提出する。

《備考》

(1) 講義中に私語をしないこと。

(2) 講義中、携帯電話を操作しないこと。

(3) 小型の六法全書と教科書を毎時間持参すること。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	市民生活と人権・憲法の基本的人権とその裁判規範性・ いじめと人権
第2週	人権の普遍性・日本国憲法と国際人権法・ 職場における自由と権利
第3週	外国人の人権・外国人と各種の人権・ 女性と労働
第4週	人権と法人・人権の法人への保障とその範囲・ 女性差別と男女平等社会の実現
第5週	法の下での平等・法の下での平等の意味その他・ 地域住民の健康な環境
第6週	法の下での平等・法の下での平等の意味その他・ 障害者・高齢者・患者の人権
第7週	刑罰と人権・逮捕と人権・ 外国人の人権
第8週	亡命権・世界人権宣言14条その他・ 信教の自由と政教分離の原則
第9週	基本的人権と公共の福祉・公共の福祉とは何か、学説と判例・ 被告人の権利
第10週	適法手続・憲法31条の解釈と刑事裁判・ 報道の自由と報道被害
第11週	捜索・押収・その捜査要件の解釈とその他・ 市民の表現の自由
第12週	自白・自白の証拠能力に関する考え方・ 情報化隠しに対抗する知る権利
第13週	少年の責任能力と刑罰 監視社会における市民の自由
第14週	憲法と人権のまとめ 国民主権と天皇制
第15週	人権総論のまとめ 人権論の要点



《教養科目》《経済情報学科・栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	人権の歴史				
担当者名	中川 智章				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	全学年・I期

《授業のねらい及び概要》

「人権」という語は今日誰もが何の違和感もなく使っているが、今ここで改めて人権について考えてみる。これは大変重要でその意味と価値を再認識しようと思う。

この科目では人権の概念をはじめ、多種の人権について第1講から第15講で概説する。

《授業の到達目標》

「社会のあるところに法がある」という諺がある。これはおよそ人が寄り集まって共同生活するところには、その人の集団あるいは社会には社会生活上の営みに必要な社会規範があるということである。その社会規範はその集団または社会での秩序を維持し、その社会の構成員の行動基準となる。このように考えてくると、憲法は勿論その他の国家の法律、国際法は共に強制力を伴う社会規範であり、人間の自由、平等を中心にした基本的人権を確保し保障する「力」を有していることに気づくのである。私達の人権はどのようにして保障されているかについて理解する力を養う。

《テキスト》

『六法全書』（新六法、デイリー六法、ポケット六法のいずれか1冊）

『それぞれの人権』憲法教育研究会編（法律文化社）

《参考文献》

『憲法学Ⅰ』：奥平康弘＝杉原泰雄著（有斐閣）

『憲法概説』：芦部信喜＝今井貴著（有斐閣）

『人権擁護三〇年』：山下潔著（日本評論社）

『人権・社会・国家』：青柳幸一著（尚学社）

《成績評価の方法》

定期試験（100%）の結果により成績評価をします。

《授業時間外学習》

(1) 予め教科書の〇頁から〇頁までを読んでおくこと。

(2) 上記(1)の講義をした後、プリントに難解であったと思われる事項等を記載して提出する。

《備考》

(1) 講義中に私語をしないこと。

(2) 講義中、携帯電話を操作しないこと。

(3) 小型の六法全書と教科書を毎時間持参すること。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	市民生活と人権・憲法の基本的人権とその裁判規範性・いじめと人権
第2週	人権の普遍性・日本国憲法と国際人権法・職場における自由と権利
第3週	外国人の人権・外国人と各種の人権・女性と労働
第4週	人権と法人・人権の法人への保障とその範囲・女性差別と男女平等社会の実現
第5週	法の下での平等・法の下での平等の意味その他・地域住民の健康な環境
第6週	法の下での平等・法の下での平等の意味その他・障害者・高齢者・患者の人権
第7週	刑罰と人権・逮捕と人権・外国人の人権
第8週	亡命権・世界人権宣言14条その他・信教の自由と政教分離の原則
第9週	基本的人権と公共の福祉・公共の福祉とは何か、学説と判例・被告人の権利
第10週	適法手続・憲法31条の解釈と刑事裁判・報道の自由と報道被害
第11週	捜索・押収・その捜査要件の解釈とその他・市民の表現の自由
第12週	自白・自白の証拠能力に関する考え方・情報化隠しに対抗する知る権利
第13週	少年の責任能力と刑罰・監視社会における市民の自由
第14週	憲法と人権のまとめ・国民主権と天皇制
第15週	人権総論のまとめ・人権論の要点

《教養科目》《経済情報学科・栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	政治学				
担当者名	斎藤 正寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	全学年・I期

《授業のねらい及び概要》

政治とは「政治家のやっていること」であり、政治学は「政治家のやっていることを分析したり批判したりすること」であるというのが諸君が抱く大方のイメージであろう。それはもちろん間違っていない。しかし実は「私達のような普通の人々も毎日のように政治を行っている」のである。へえ！と諸君は驚くかもしれないが、政治学は私達の日常の行動もその考察の対象としているのである。プロの政治家のやっている政治を「大きな政治」と呼ぶとすれば、私達は日常「小さな政治」を行っていることができる。政治とは人間が社会で「うまく」生きていくための智恵であり、大きくても小さくても、そこで行われる人間の所作は基本的に同じものである。すなわち人間は生まれながらに「政治家」であるともいえよう。

講義では、私達の身近にある小さな政治から出発して、政治学的なボキャブラリーを身に付けてもらいながら、次第にプロの大きな政治の世界の理解へと進んでいくつもりである。考え方の修得を主たる目標とするが、プロの政治の理解には業界特有の事情を知る必要もあるので、それらの知識の獲得も同時並行して行うことにしたい。

《授業の到達目標》

政治学のボキャブラリーを使用して、現実起こっている、小さな、あるいは大きな政治現象を分析し説明できるようになる。

《テキスト》

テキストは使用しない。講義中に必要な資料を配布する。

《参考文献》

『現代政治学・新版』加茂利男他、有斐閣、2003年  
 『政治学』久米郁男他、有斐閣、2003年  
 他の参考文献は講義をすすめながら、紹介をしていく。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《授業時間外学習》

講義ごとに必ず、授業内容のスケルトンと、講義内容に関連する資料を集めたものを1枚のプリント（場合によってはそれ以上の量）にして配布しますので、それをよく読み理解して下さい。なお、読んでなお不明な点があれば講義の際、もしくはオフィスアワーに遠慮なく質問に来て下さい。

《備考》

医学というと「病気を治療する」ための実践的な学問というイメージが強くありますが、実際にはそうした臨床医学と呼ばれる分野と同等、もしくはそれ以上に大事なものとして基礎医学（解剖学、生理学、病理学）という領域が存在しています。政治という現実の現象に対するときにも、臨床医学的態度（汚職は許さないぞ！）と基礎医学的態度（汚職はどうして起こるのだろう）の両方があります。この講義においては政治を基礎医学的に取り扱うつもりです。すなわち政治現象を解剖して、その生理（往々して病理）を明らかにしたいと考えています。私達がよりよく生きるためには、現実の「現実的」理解から出発すべきというのが講義担当者のスタンスです。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	A. 素人の政治 政治とは、小さな政治と大きな政治
第 2 週	制度・原理・状況
第 3 週	ノモス・コスモス・カオス
第 4 週	権力と正統性
第 5 週	リーダーとフォロワー
第 6 週	B. 玄人の政治 様々なアクター・様々な利益
第 7 週	職業政治家
第 8 週	官僚
第 9 週	財界・マスコミ
第 10 週	C. 政治の制度 政党と選挙
第 11 週	政治体制と政権
第 12 週	政策・イデオロギー
第 13 週	政治と文化
第 14 週	国家と国民
第 15 週	まとめ

《教養科目》《経済情報学科・栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	国際関係論				
担当者名	斎藤 正寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	全学年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

20世紀の前史としての19世紀末の帝国主義時代から始まり、第1次世界大戦と戦間期、第2次世界大戦、脱植民地化と第3世界の勃興、米ソ冷戦構造の成立とベトナム戦争、ソ連社会主義の崩壊を経て、ポスト冷戦社会としての現在までを時系列に沿って講義を進めていくつもりである。その意味で、講義は高校時代のあの忌まわしい(?)世界史の授業のように知識(年代、人名、事項)の羅列になるおそれ十分であるが、仮に「自分なりの20世紀像を作り上げるという作業」を粘土細工にたとえると、像を作り上げる前の粘土集めに相当するところである。ここで粘土集めを我慢してやっておかないと、いざ粘土で諸君が自分なりの像を完成させようとするときに、粘土が不足して思い通りの像が完成しなかったり、または非常に歪んだ像が出来てしまったりする可能性がある。頑張ってほしい。もちろん教師としては、諸君が像を完成させるときに役に立ちそうな粘土(歴史的事実等)をなるべく厳選して提供できるように努力をするつもりである。

《授業の到達目標》

自分なりの20世紀像を構想するために必要な歴史的事象を指摘できる。  
20世紀の歴史的事象を知り相互連関を考察することで21世紀現代社会の歴史的な条件を把握できる。

《テキスト》

教科書は指定しない。講義の際に教科書に代わるプリントを配布する。

《参考文献》

高校世界史の教科書レベルで、安価(590円)かつハンディ(文庫版)なので、『世界の歴史がわかる本「帝国主義～現代」篇』綿引弘著(三笠書房・知的生きかた文庫、2011年)が講義のペースメーカーとして一番役立つであろう。ほかの文献については講義の中で紹介するが、20世紀の通史としては、『世界近現代全史Ⅲ－世界戦争の時代』大江一道著(山川出版社)1997、『20世紀の歴史』全2巻 E.ホブズボーム著(三省堂)1996などが適当であろう。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験(100%)を実施する。

《授業時間外学習》

講義ごとに必ず、授業内容のスケルトンと、講義内容に関連する資料を集めたものを1枚のプリント(場合によってはそれ以上の量)にして配布しますので、それをよく読み理解して下さい。なお、読んでなお不明な点があれば講義の際、もしくはオフィスアワーに遠慮なく質問に来て下さい。

《備考》

「人間は自分じしんの歴史をつくる。だが、思う儘にはではない。自分でえらんだ環境のもとではなくて、すぐ目の前にある、あたえられ、持越されてきた環境のもとでつくるのである。」これはロンドンで1883年に64才で没した(私の好きな)ある社会科学者の言葉です。21世紀をつくるにあたり、20世紀の「持越されてきた環境」が何であるのかを考えてみたいと思う方は受講してみてください。

《授業計画》

週	授 業 計 画	
第1週	イントロダクション	講義の進め方、19世紀の概観
第2週	前史・帝国主義時代(1)	19世紀末の世界状況
第3週	帝国主義時代(2)	列強による世界分割
第4週	帝国主義時代(3)	アジアの近代
第5週	第1次世界大戦(1)	列強の対立・再編
第6週	第1次世界大戦(2)	開戦・終戦処理
第7週	戦間期の時代(1)	ヴェルサイユ体制
第8週	戦間期の時代(2)	ワシントン体制
第9週	第2次世界大戦(1)	世界恐慌、ファシズムの台頭
第10週	第2次世界大戦(2)	極東の危機、日中戦争
第11週	第2次世界大戦(3)	ヨーロッパ戦争、アジア太平洋戦争
第12週	冷戦構造(1)	戦後処理、米ソ対立
第13週	冷戦構造(2)	中東戦争、ベトナム戦争
第14週	第3世界の台頭	脱植民地化、低開発、資源
第15週	ポスト冷戦の世界	社会主義の崩壊、民族紛争の激化

《教養科目》《経済情報学科・栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科》

科目名	社会学				
担当者名	吉原 恵子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	全学年・I期

《授業のねらい及び概要》

本講義は、社会学をはじめて学ぶ人に、社会的ものの見方のおもしろさや有効性について理解してもらうことを目的とする。目の前の現実について、いろいろな見方ができること、裏を返せば自分からみた社会は一つの見え方にすぎないという感覚を身につけてほしい。授業では、社会学の専門用語を解説しながら、現代社会における個人と社会の関係やしぐみについて見抜く理論的道具を使えるようになることをめざす。講義内容は、(1)社会的ものの見方、(2)行為の分析、(3)社会集団と秩序、(4)社会は求められる、の4つである。

《授業の到達目標》

- (1) 社会的ものの見方ができるようになる
  - 現象の裏に隠された何かとは？ ●異邦人の目は？ ●常識の見方を捨てられるか？
- (2) 社会を理解するために、社会的道具を使うことができるようになる
  - 社会はどのような「つくり」になっているのだろうか？ ●社会はどのようにして動いているのだろうか？
  - それは、どんな方法でわかってくるのだろうか？
- (3) みんなで共に生きていくために、人間がどんな工夫をしているのか説明できるようになる
  - 「私」の生活はどのように成り立っているのだろうか？ ●私と「あの人」との関係は？
  - 社会は個人の集まりだけど、個人の総和がそのまま社会ではない…個人と社会の関係はどうなっているのだろうか？

《テキスト》

『社会学のエッセンス』友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵（2007、有斐閣アルマ）

《参考文献》

『社会学がわかる事典』森下伸也（2000、日本実業出版社）、厚生労働白書その他、適宜提示します。

《成績評価の方法》

- 講義回数のうち10回以上の出席により評価および単位認定対象とする。
- 授業内レポート1-2回およびミニ・テストを数回実施する。（配点：文章作成能力および知識の定着度45点）
- 定期試験（持ち込み不可）により学習達成度を評価する。（配点：理論体系の理解度、データを読む力、社会問題に取り組もうとする意欲、批判的視点等の獲得度：55点）

《授業時間外学習》

- (1) できるだけ、テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに利用するためファイリングして活かしてください。
- (3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。
- (4) ミニテストの実施は事前に知らせませんが、日頃から学習内容をまとめておく習慣を身につけてください。

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。1st Stepとして、「聴く」、2nd Stepとして「考える」、3rd Stepとして「まとめる」の3 Stepsで学習に取り組んでほしい。さいごの授業では、(1)講義を聴いて自分の中にあたらしく生まれたことがらを自分自身で確認できているか、(2)それらを自分の中から引き出して整理することができているか、(3)人々の生活と社会の関係について自分なりの見方や考え方をもちることができているかについて自己評価してもらいます。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	社会的ものの見方（社会学の成立、個人と社会）
第 2 週	行為の分析 (1) 意味と相互主観性
第 3 週	行為の分析 (2) アイデンティティ
第 4 週	行為の分析 (3) ステイグマ
第 5 週	行為の分析 (4) 正常と異常
第 6 週	行為の分析 (5) 予言の自己成就
第 7 週	行為の分析 (6) 社会構築主義
第 8 週	社会集団と秩序 (1) ジェンダー
第 9 週	社会集団と秩序 (2) 規範と制度
第 10 週	社会集団と秩序 (3) 社会のなかの権力
第 11 週	社会集団と秩序 (4) 不平等と正義
第 12 週	社会は求められる (1) 共同体
第 13 週	社会は求められる (2) 国家と市民社会
第 14 週	学習の総まとめ(1)
第 15 週	学習の総まとめ(2)

《教養科目》《社会福祉学科》

科目名	社会学				
担当者名	吉原 恵子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

本講義は、社会学をはじめて学ぶ人に、社会的ものの見方のおもしろさや有効性について理解してもらうことを目的とする。目の前の現実について、いろいろな見方ができること、裏を返せば自分からみた社会は一つの見え方にすぎないという感覚を身につけてほしい。授業では、社会学の専門用語を解説しながら、現代社会における個人と社会の関係やしぐみについて見抜く理論的道具を使えるようになることをめざす。講義内容は、(1)社会的ものの見方、(2)行為の分析、(3)社会集団と秩序、(4)社会は求められる、の4つである。

《授業の到達目標》

- (1) 社会的ものの見方ができるようになる
  - 現象の裏に隠された何かとは？ ●異邦人の目は？ ●常識の見方を捨てられるか？
- (2) 社会を理解するために、社会的道具を使うことができるようになる
  - 社会はどのような「つくり」になっているのだろうか？ ●社会はどのようにして動いているのだろうか？
  - それは、どんな方法でわかってくるのだろうか？
- (3) みんなで共に生きていくために、人間がどんな工夫をしているのか説明できるようになる
  - 「私」の生活はどのように成り立っているのだろうか？ ●私と「あの人」との関係は？
  - 社会は個人の集まりだけど、個人の総和がそのまま社会ではない…個人と社会の関係はどうなっているのだろうか？

《テキスト》

『社会学のエッセンス』友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵（2007、有斐閣アルマ）

《参考文献》

『社会学がわかる事典』森下伸也（2000、日本実業出版社）、厚生労働白書その他、適宜提示します。

《成績評価の方法》

- 講義回数のうち10回以上の出席により評価および単位認定対象とする。
- 授業内レポート1-2回およびミニ・テストを数回実施する。（配点：文章作成能力および知識の定着度45点）
- 定期試験（持ち込み不可）により学習達成度を評価する。（配点：理論体系の理解度、データを読む力、社会問題に取り組もうとする意欲、批判的視点等の獲得度：55点）

《授業時間外学習》

- (1) できるだけ、テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに利用するためファイリングして活かしてください。
- (3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。
- (4) ミニテストの実施は事前に知らせませんが、日頃から学習内容をまとめておく習慣を身につけてください。

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。1st Stepとして、「聴く」、2nd Stepとして「考える」、3rd Stepとして「まとめる」の3 Stepsで学習に取り組んでほしい。さいごの授業では、(1)講義を聴いて自分の中にあたらしく生まれたことがらを自分自身で確認できているか、(2)それらを自分の中から引き出して整理することができているか、(3)人々の生活と社会の関係について自分なりの見方や考え方もつことができているかについて自己評価してもらいます。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	社会的ものの見方（社会学の成立、個人と社会）
第 2 週	行為の分析（1）意味と相互主観性
第 3 週	行為の分析（2）アイデンティティ
第 4 週	行為の分析（3）ステイグマ
第 5 週	行為の分析（4）正常と異常
第 6 週	行為の分析（5）予言の自己成就
第 7 週	行為の分析（6）社会構築主義
第 8 週	社会集団と秩序（1）ジェンダー
第 9 週	社会集団と秩序（2）規範と制度
第 10 週	社会集団と秩序（3）社会のなかの権力
第 11 週	社会集団と秩序（4）不平等と正義
第 12 週	社会は求められる（1）共同体
第 13 週	社会は求められる（2）国家と市民社会
第 14 週	学習の総まとめ（1）
第 15 週	学習の総まとめ（2）

《教養科目》《経済情報学科・栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	ジェンダー論				
担当者名	吉原 恵子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	全学年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

本講義では、「ジェンダー」概念と「ジェンダーの視点」の学習を通して、「女であること／男であること」の文化的・社会的側面について、多面的に理解する。主として、社会学分野における「労働」「家族」「教育」の領域を取り上げる。それぞれの分野について、まず(1)諸データにより実態を把握し、次に(2)ジェンダーの視点を用いながら諸問題を批判的に見る目を養う。また、各分野のまとめにあたって、(3)作業シートによって、知識の定着を確認するとともに、社会問題へのジェンダーの視点によるアプローチを身につける。

《授業の到達目標》

- (1)ジェンダーについて社会的に語るができるようになる。  
・「ジェンダー」って何？ ・「社会的まなざし」って何？
- (2)日本社会の諸問題について統計データを用いて、ジェンダーの視点から説明できるようになる。  
・男性の生涯未婚率は？ ・介護はだれがしているの？ ・離婚するとだれが困るの？
- (3)講義のなかから自分のテーマを見つけて、考えをまとめて、他の人に説明できるようになる。  
・「社会問題」に近づこう ・「社会問題」を友だちに語ってみよう ・「社会問題」を解いてみよう

《テキスト》

『女性のデータブック 第4版』井上輝子・江原由美子編（2005、有斐閣）

《参考文献》

- 『ジェンダーの社会学』江原由美子（放送大学教育振興会）  
 『ジェンダーで学ぶ社会学』伊藤公雄／牟田和恵編（世界思想社）  
 『社会学がわかる事典』森下伸也（日本実業出版社）  
 『ジェンダー入門』加藤秀一（朝日新聞社）  
 『女性学・男性学』伊藤公雄／樹村みのり／國信潤子（有斐閣）

《成績評価の方法》

- 講義のうち 11 回以上の出席により評価および単位認定対象とする。
- 毎回実施する「作業シート」の提出（配点：文章作成能力および知識の定着度 45%）
- 「学習のまとめ」シート（「持ち込み可」）を完成させること（配点：協力して学ぶ力、データを読む力、社会問題に取り組もうとする意欲、批判的視点等の獲得度：55%）

《授業時間外学習》

- (1)できるだけ、テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
- (2)毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに利用するためファイリングして活かしてください。
- (3)毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。
- (4)授業内レポートは適宜実施します。日頃から学習内容をまとめておく習慣を身につけてください。

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。1st Step として、「聴く」、2nd Step として「考える」、3rd Step として「まとめる」の 3 Steps で学習に取り組んでほしい。さいごの、「まとめる」は、新しいことを学んだ後、講義を聴いて自分の中にあたらしく生まれたことを、自分の中から引き出して整理することを指しています。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	ジェンダー論の基礎(1) ジェンダーとは何か？（ジェンダー概念の誕生、ジェンダー論と学問領域、セックス／ジェンダーという二分法、知識社会学とジェンダーの社会学）
第 2 週	ジェンダー論の基礎(2) 「性」の多様性と「女らしさ／男らしさ」の形成
第 3 週	結婚・家族はどう変わったか(1) 少子化社会、近代結婚制度、結婚の意義と配偶者選択：少子化とジェンダー
第 4 週	結婚・家族はどう変わったか(2) 男の子育て／女の子育て：ケアとジェンダー
第 5 週	結婚・家族はどう変わったか(3) 高齢者の生活実態：ケアとジェンダー
第 6 週	学習のまとめとワークショップ①
第 7 週	女の時間／男の時間(1) アンパイドワーク、サービス経済と女性、M字型就労パターン：労働とジェンダー
第 8 週	女の時間／男の時間(2) 非正規雇用、雇用管理、賃金格差：雇用とジェンダー：雇用とジェンダー
第 9 週	学習のまとめとワークショップ②
第 10 週	学校の中のジェンダー(1) ジェンダー・バイアス、隠れたカリキュラム：教育とジェンダー
第 11 週	学校の中のジェンダー(2) 進路形成と進学、専攻分野の分化：教育とジェンダー
第 12 週	マスメディアとジェンダー(1) メディアのなかの女性像／男性像、メディア行動、メディア産業：情報社会とジェンダー
第 13 週	学習のまとめとワークショップ③
第 14 週	性・こころ・からだ(1) 性意識と性行動、親密性とセクシュアリティ：性とジェンダー
第 15 週	性・こころ・からだ(2) セクシュアリティと暴力、性の商品化：性とジェンダー

《教養科目》《保育科第一部》

科目名	ジェンダー論				
担当者名	吉原 恵子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

本講義では、「ジェンダー」概念と「ジェンダーの視点」の学習を通して、「女であること／男であること」の文化的・社会的側面について、多面的に理解する。主として、社会学分野における「労働」「家族」「教育」の領域を取り上げ、それぞれについて、まず(1)諸データにより実態を把握し、次に(2)ジェンダーの視点をういながら諸問題を批判的に見る目を養う。また、各分野のまとめにあたって、(3)ワークショップを行い、社会問題についてジェンダーの視点から討議する。

《授業の到達目標》

- (1)ジェンダーについて社会的に語るができるようになる。  
・「ジェンダー」って何？ ・「社会的まなざし」って何？
- (2)日本社会の諸問題について統計データを用いて、ジェンダーの視点から説明できるようになる。  
・男性の生涯未婚率は？ ・介護はだれがしているの？ ・離婚するとだれが困るの？
- (3)講義のなかから自分のテーマを見つけて、考えをまとめて、他の人に説明できるようになる。  
・「社会問題」に近づこう ・「社会問題」を友だちに語ってみよう ・「社会問題」を解いてみよう

《テキスト》

『女性のデータブック 第4版』井上輝子・江原由美子編（2005、有斐閣）

《参考文献》

- 『ジェンダーの社会学』江原由美子（放送大学教育振興会）  
 『ジェンダーで学ぶ社会学』伊藤公雄／牟田和恵編（世界思想社）  
 『社会学がわかる事典』森下伸也（日本実業出版社）  
 『ジェンダー入門』加藤秀一（朝日新聞社）  
 『女性学・男性学』伊藤公雄／樹村みのり／國信潤子（有斐閣）

《成績評価の方法》

- 講義のうち10回以上の出席により評価および単位認定対象とする。
- 授業内レポートを数回実施する。（配点：授業への参加度、文章作成能力および知識の定着度45%）
- 学習のまとめとして、3回のワークショップに参加し、作業シートを完成させること（持ち込み可）により学習達成度を評価する。（配点：協力して学ぶ力、データを読む力、社会問題に取り組もうとする意欲、批判的視点等の獲得度：55%）

《授業時間外学習》

- (1)できるだけ、テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
- (2)毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに利用するためファイリングして活かしてください。
- (3)毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。
- (4)授業内レポートは適宜実施します。日頃から学習内容をまとめておく習慣を身につけてください。

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。1st Stepとして、「聴く」、2nd Stepとして「考える」、3rd Stepとして「まとめる」の3Stepsで学習に取り組んでほしい。さいごの、「まとめる」は、新しいことを学んだ後、講義を聴いて自分の中にあたらしく生まれたことを、自分の中から引き出して整理することを指しています。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	ジェンダー論の基礎(1) ジェンダーとは何か？（ジェンダー概念の誕生、ジェンダー論と学問領域、セックス／ジェンダーという二分法、知識社会学とジェンダーの社会学）
第2週	ジェンダー論の基礎(2) 「性」の多様性と「女らしさ／男らしさ」の形成
第3週	結婚・家族はどう変わったか(1) 少子化社会、近代結婚制度、結婚の意義と配偶者選択：少子化とジェンダー
第4週	結婚・家族はどう変わったか(2) 男の子育て／女の子育て：ケアとジェンダー
第5週	結婚・家族はどう変わったか(3) 高齢者の生活実態：ケアとジェンダー
第6週	学習のまとめとワークショップ①
第7週	女の時間／男の時間(1) アンパイドワーク、サービス経済と女性、M字型就労パターン：労働とジェンダー
第8週	女の時間／男の時間(2) 非正規雇用、雇用管理、賃金格差：雇用とジェンダー：雇用とジェンダー
第9週	学習のまとめとワークショップ②
第10週	学校の中のジェンダー(1) ジェンダー・バイアス、隠れたカリキュラム：教育とジェンダー
第11週	学校の中のジェンダー(2) 進路形成と進学、専攻分野の分化：教育とジェンダー
第12週	マスメディアとジェンダー(1) メディアのなかの女性像／男性像、メディア行動、メディア産業：情報社会とジェンダー
第13週	学習のまとめとワークショップ③
第14週	性・こころ・からだ(1) 性意識と性行動、親密性とセクシュアリティ：性とジェンダー
第15週	性・こころ・からだ(2) セクシュアリティと暴力、性の商品化：性とジェンダー

《教養科目》《保育科第三部》

科目名	ジェンダー論				
担当者名	吉原 恵子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	全学年・I期

《授業のねらい及び概要》

本講義では、「ジェンダー」概念と「ジェンダーの視点」の学習を通して、「女であること／男であること」の文化的・社会的側面について、多面的に理解する。主として、社会学分野における「労働」「家族」「教育」の領域を取り上げ、それぞれについて、まず(1)諸データにより実態を把握し、次に(2)ジェンダーの視点をういながら諸問題を批判的に見る目を養う。また、各分野のまとめにあたって、(3)ワークショップを行い、社会問題についてジェンダーの視点から討議する。

《授業の到達目標》

- (1)ジェンダーについて社会的に語るができるようになる。  
・「ジェンダー」って何？ ・「社会的まなざし」って何？
- (2)日本社会の諸問題について統計データを用いて、ジェンダーの視点から説明できるようになる。  
・男性の生涯未婚率は？ ・介護はだれがしているの？ ・離婚するとだれが困るの？
- (3)講義のなかから自分のテーマを見つけて、考えをまとめて、他の人に説明できるようになる。  
・「社会問題」に近づこう ・「社会問題」を友だちに語ってみよう ・「社会問題」を解いてみよう

《テキスト》

『女性のデータブック 第4版』井上輝子・江原由美子編（2005、有斐閣）

《参考文献》

- 『ジェンダーの社会学』江原由美子（放送大学教育振興会）  
 『ジェンダーで学ぶ社会学』伊藤公雄／牟田和恵編（世界思想社）  
 『社会学がわかる事典』森下伸也（日本実業出版社）  
 『ジェンダー入門』加藤秀一（朝日新聞社）  
 『女性学・男性学』伊藤公雄／樹村みのり／國信潤子（有斐閣）

《成績評価の方法》

- 講義のうち10回以上の出席により評価および単位認定対象とする。
- 授業内レポートを数回実施する。（配点：授業への参加度、文章作成能力および知識の定着度45%）
- 学習のまとめとして、3回のワークショップに参加し、作業シートを完成させること（持ち込み可）により学習達成度を評価する。（配点：協力して学ぶ力、データを読む力、社会問題に取り組もうとする意欲、批判的視点等の獲得度：55%）

《授業時間外学習》

- (1)できるだけ、テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
- (2)毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに利用するためファイリングして活かしてください。
- (3)毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。
- (4)授業内レポートは適宜実施します。日頃から学習内容をまとめておく習慣を身につけてください。

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。1st Stepとして、「聴く」、2nd Stepとして「考える」、3rd Stepとして「まとめる」の3Stepsで学習に取り組んでほしい。さいごの、「まとめる」は、新しいことを学んだ後、講義を聴いて自分の中にあたらしく生まれたことを、自分の中から引き出して整理することを指しています。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	ジェンダー論の基礎(1) ジェンダーとは何か？（ジェンダー概念の誕生、ジェンダー論と学問領域、セックス／ジェンダーという二分法、知識社会学とジェンダーの社会学）
第2週	ジェンダー論の基礎(2) 「性」の多様性と「女らしさ／男らしさ」の形成
第3週	結婚・家族はどう変わったか(1) 少子化社会、近代結婚制度、結婚の意義と配偶者選択：少子化とジェンダー
第4週	結婚・家族はどう変わったか(2) 男の子育て／女の子育て：ケアとジェンダー
第5週	結婚・家族はどう変わったか(3) 高齢者の生活実態：ケアとジェンダー
第6週	学習のまとめとワークショップ①
第7週	女の時間／男の時間(1) アンパイドワーク、サービス経済と女性、M字型就労パターン：労働とジェンダー
第8週	女の時間／男の時間(2) 非正規雇用、雇用管理、賃金格差：雇用とジェンダー：雇用とジェンダー
第9週	学習のまとめとワークショップ②
第10週	学校の中のジェンダー(1) ジェンダー・バイアス、隠れたカリキュラム：教育とジェンダー
第11週	学校の中のジェンダー(2) 進路形成と進学、専攻分野の分化：教育とジェンダー
第12週	マスメディアとジェンダー(1) メディアのなかの女性像／男性像、メディア行動、メディア産業：情報社会とジェンダー
第13週	学習のまとめとワークショップ③
第14週	性・こころ・からだ(1) 性意識と性行動、親密性とセクシュアリティ：性とジェンダー
第15週	性・こころ・からだ(2) セクシュアリティと暴力、性の商品化：性とジェンダー



《教養科目》《経済情報学科・栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	経済学				
担当者名	石原 敬子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	全学年・I期

《授業のねらい及び概要》

「経済学」というと、「企業」「ビジネス」「お金儲け」などの言葉を連想し、ビジネスに携わらなければあまり関係がないと思う人もあるかもしれません。たしかに、ビジネスの世界と密接にかかわる分野であることにちがひありませんが、経済学は、社会を構成する一部の人のみに関わるものではありません。皆さんが日ごろ行っているモノを買う行動（消費）もきわめて重要な経済活動です。経済学は、(1) 私たちに身近な消費や貯蓄、企業が主としてになっている生産、販売などさまざまな経済活動がどのように行われるのか、(2) これらの経済活動が経済・社会にどのような影響を及ぼすのか、さらには、(3) 私たちの暮らしをより豊かにするにはどうすればよいか、という問題を考える学問なのです。

この授業では、身近な問題をとりあげながら、基礎的な経済理論・経済学の考え方について解説します。

《授業の到達目標》

- ・私たちが暮らしている市場経済のしくみについて理解する。
- ・身近な問題を通して「経済学的な考え方」を学ぶ。
- ・需要と供給、交換の利益、貨幣の役割など、経済学入門レベルの基礎知識を身につける。

《テキスト》

とくに指定しません。  
毎時間プリントを配布します。

《参考文献》

授業時に適宜紹介します。

《成績評価の方法》

平常点（授業時に取り組む課題についての評価）と学習のまとめとして学期末に行う筆記試験をもって評価します。評価の割合は、平常点 40%、学期末の試験 60%とします。

《授業時間外学習》

- ・毎回1つのテーマについて解説する予定です。授業ごとにしっかりと内容を復習してください。わかりにくいこと、疑問に思うことがあるときには、そのままにせず、質問して理解を深めるよう努めてください。
- ・第11週目を終わったところに復習用の教材（自習用）を配布する予定です。それまでの授業内容についてしっかりと理解できているか、振り返ってみましょう。

《備考》

- ・第1回目の授業時に、この授業の概要と受講に際しての注意事項を説明します。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	授業の概要・受講上の注意事項 「経済学」とは
第2週	市場のはたらきについて考えよう
第3週	交換の利益・分業の利益
第4週	貨幣の歴史と役割
第5週	IT革命がもたらしたもの
第6週	企業戦略を経済学的に分析する(1)：差別価格戦略
第7週	企業戦略を経済学的に分析する(2)：セット販売はなぜ行われるのか？
第8週	市場経済での競争の役割(1)：競争的市場と独占市場
第9週	市場経済での競争の役割(2)：競争政策の役割
第10週	「市場の失敗」について考えよう(1)：「市場の失敗」とは
第11週	「市場の失敗」について考えよう(2)：地球温暖化問題
第12週	「市場の失敗」について考えよう(3)：偽装問題はなぜ起きるのか？
第13週	景気の問題について考えよう
第14週	少子高齢化問題について考えよう
第15週	学習のまとめ

《教養科目》《経済情報学科・栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	数学				
担当者名	山本 真弓				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	全学年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

毎時間始めに計算問題のトレーニングを行います。  
毎時間のように違ったトピックを取り上げ、高校までの数学とは違った角度から講義を行い、一般教養を身につけます。

《授業の到達目標》

日常生活にも役立つ計算力を身につけます。  
数学を通じて「考える力」、「集中力」、「論理力」を身につけます。

《テキスト》

テキストは使用しません。必要に応じてプリントを配布します。

《参考文献》

必要に応じて授業中に紹介します。

《成績評価の方法》

試験(80%)、毎回の授業の前後に実施する小テスト (20%)

《授業時間外学習》

復習：その日に学んだことをノートにまとめ直し、理解不足の箇所は例題を再び自分自身の手を動かして解いてみて下さい。  
予習：前回の授業を再び復習し本当に理解できているかどうか見直して下さい。次回の復習テストに備えて下さい。

《備考》

毎時間遅刻せず出席してください。  
過去の配布プリント、筆記用具（鉛筆、消しゴム、赤ペン、定規）とノートは必ず持参してください。  
携帯電話の使用を禁止します。特に、授業中携帯電話で話をした場合は、その場で単位修得不可能とします。  
努力して考えても分からないところは、授業中の演習中、授業後またはオフィスアワーに質問してください。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	数学（教養科目）についてのガイダンス
第 2 週	自然数、整数、有理数、実数について
第 3 週	循環小数について
第 4 週	素数、素因数分解について
第 5 週	最大公約数、最小公倍数について
第 6 週	利子について
第 7 週	数列について
第 8 週	数列の和について
第 9 週	地震の話題 など
第 10 週	マンホールのふたはなぜまるい？ など
第 11 週	数の単位について など
第 12 週	フィールズ賞、円周率 $\pi$ について など
第 13 週	白地図の色分け問題 など
第 14 週	検算について など
第 15 週	学習のまとめ

《教養科目》《経済情報学科・栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	物理学				
担当者名	湯瀬 晶文				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	全学年・I期

《授業のねらい及び概要》

近年、自然科学の各分野のみならず、非常に幅広い分野において物理学的な世界観あるいはものの見方が取り入れられており、それらの分野の理解のためにも物理学の考え方は必要となっている。

この授業では力学の基礎を中心として物理学の考え方を講義する。そのために、まず物理学はどのようにものを見るのか、次に自然現象はどのようにして物理の考え方や概念で理解されるのかを説明する。さらにそれらに対して若干の数式を用いることにより定量化、一般化される過程の説明を通して、最終的に「物理学とは何か」あるいは「物理学の考え方はどのようなものか」ということについての基本的な部分の理解を得ることを目指す。従って、ある程度数式を利用することになる。なお、受講生の状態により、内容を変更することもありうる。

また、物理学の授業方法は主として講義であるが、過去の受講生からは実験等があると良いとの意見も多い。大学における設備不足のため本格的な実験は望めないが、可能なら簡単な実験やコンピュータシミュレーションを授業の中に取り入予定である。受講者数や予算等にも依存するが、実施の場合には補講や一時的な教室変更が有り得るので注意してほしい。

《授業の到達目標》

この授業では物理学の考え方の基本を身に付け、一見複雑な現象あるいはお互いに何の関係もないように見える複数の現象の影に隠されている真理や共通性を見抜こうという姿勢を身に付けることを目標とする。とりわけいくつかの具体例において、物理学的な観点から理由を挙げて説明できるようになることを目指す。

《テキスト》

後日指定（テキスト以外は必要に応じてファイル等を配布する）

《参考文献》

- 『物理学とは何だろうか（上・下）』 朝永振一郎 岩波書店
- 『おもしろい物理学（本編・続編・続続編）』 ペレリマン 社会思想社現代教養文庫
- 『研究者のための上手なサイエンス・コミュニケーション』 英国物理学会監修 東京図書
- 『物理数学の直観的方法 第2版』 長沼伸一郎 通商産業研究社
- 『物理入門コース』全10巻 岩波書店
- 『非平衡系の秩序と乱れ』 沢田康次 朝倉書店

《成績評価の方法》

毎回の各自の授業への取り組み方(30%)、講義中のレポート及び試験期間中のペーパーテスト等(70%)により評価する予定であるが、オリエンテーションにおける履修者の意見確認の結果によっては、評価割合等も含めて変更することもある。ただし、私語や携帯電話の利用など、授業・他者へ悪影響を与える行為は厳しく評価を行う。

《授業時間外学習》

- 毎回の授業の復習を行うこと、特に例題などを自分の頭で考えてみる。
- 機会を見つけて授業での考え方を実生活の中で実践してみる。

《備考》

人類が持つ「世界観・考え方」には様々なものがありますが、中でも物理的世界観・物理的な考え方は、最も幅広く強力な世界観の一つであり、自然科学的な考え方の基礎となっています。混沌とした物事の基本や共通事項を探究する物理的思考は大学だけでなく、その後の生活でも役に立つものだと思いますし、同時にこうした考え方が有効なのは現時点でどの辺りまでなのかもつかめると思います。ですから、物理的な考え方をぜひ身に付けて下さい。

また、物理学には数式がたくさん出てきますが、物理学の基本的な概念の理解に、必ずしも数式は必要ありません。自ら考える姿勢は不可欠ですが、絵を描いたり頭の中にイメージを持つといった努力を積むことによって数式無しでも理解できると思います。ただ、全体を精密に見通すためには数式の力が必要となることも事実ですので、これを機に挑戦してみてください。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション（履修希望者は必ず出席のこと） 講義の進め方についての説明と履修者の意見の確認、及び、評価方法の決定
第 2 週	物理学の考え方と数学の簡単な復習（1）
第 3 週	物理学の考え方と数学の簡単な復習（2）
第 4 週	物理学の考え方と数学の簡単な復習（3）
第 5 週	力学の初歩と基本定理（1）
第 6 週	力学の初歩と基本定理（2）
第 7 週	力学の初歩と基本定理（3）
第 8 週	力学の初歩と基本定理（4）
第 9 週	力学の初歩と基本定理（5）
第10週	電磁気学（光や波の性質について）（1）
第11週	電磁気学（光や波の性質について）（2）
第12週	相対論（時空間4次元の世界）
第13週	身のまわりの物理学（統計力学・熱力学、非平衡系の物理学）
第14週	総合演習（1）
第15週	総合演習（2）

《教養科目》《経済情報学科・栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	化学				
担当者名	岡本 一彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	全学年・I期

《授業のねらい及び概要》

化学の基礎知識をベースとする専門領域の学問を修得される学生にとって必要な基礎的な力を育成することを目的に、化学知識の基本事項である原子の構造、化学結合、分子構造、物質の状態、化学反応などを解説し、また、有機化合物の基礎についても概説する。一方、化学に縁のない方向に進む学生にとっても、多種多様な化学物質がいたる所で利用され、化学物質に関する情報が多く見られる現代、それらに関心を持ち、正しく理解し、評価できることが大切である。そのための教養としての化学的知識の修得をねらいとする。

《授業の到達目標》

今までに広範な領域の知識を相当な量と質的な面で吸収してきたと思うが、大抵はまる暗記する形で学習することが多かったのではないかと考えられる。この授業では化学知識の基本事項である原子の構造、化学結合、分子構造、物質の状態、化学反応などを解説する中で、学生には学び方として暗記ではなく、科学的思考を通してより深く物事を理解していく方向に仕向け、自らが主体的に問題解決に立ち向かう態度の育成に寄与する。

《テキスト》

プリントを配布します。

《参考文献》

プリントの内容と比較対比できるものとして『教養の化学』E.F.Neuzil 著 和田悟朗訳（東京化学同人）  
 化学の基本を確実なものとして身につけるためには演習が欠かせないので、各自で演習を行うのに、つぎの書籍を挙げておきます。  
 『化学 基本の考え方を中心に 問題と解答』A.Sherman, S.Serman, L.Russikoff 著 石倉洋子、石倉久之訳（東京化学同人）

《成績評価の方法》

定期試験（ペーパーテスト）（90%）のほかに授業中に行う数回の小テスト結果及び課題の提出状況（10%）を加味して評価を行う。

《授業時間外学習》

授業が終わった後、講義の余韻がまだ残っている間に授業の復習をし、より深い理解に努める。また、一般科学雑誌「ニュートン」なども思考訓練になるかと思うので、ページをめくって見てほしい。

《備考》

高等学校で化学をほとんど履修して来なかった者に対して現代化学の基本的知識を修得させることを主なねらいとして講義をするので、化学の予備知識は求めない。しかし、内容を理解しようと積極的に取り組んで頂ければ、ほぼ授業内容が理解できると思います。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	原子の構造（電子オービタル）
第 2 週	原子の構造（電子オービタルと電子配置）
第 3 週	原子の構造（電子配置と周期律）
第 4 週	化学結合と分子構造
第 5 週	化学結合と分子構造
第 6 週	物質の三態
第 7 週	物質の三態、溶液の化学
第 8 週	溶液の化学
第 9 週	化学反応（酸と塩基）
第 10 週	化学反応（酸と塩基）、（酸化と還元）
第 11 週	化学反応（酸化と還元）
第 12 週	有機化学（鎖式化合物と環式化合物）
第 13 週	有機化学（官能基）
第 14 週	生物化学（糖）
第 15 週	生物化学（たんぱく質）



《教養科目》《経済情報学科・栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	食と健康				
担当者名	亀谷 小枝				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	全学年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

誰もが健康で活動的な生活をしたいと望んでいる。そのためには個々のライフスタイルに応じた食事形態で、適切な栄養を摂取することが重要である。本講座では、栄養素の基本的な知識（生体に必要な栄養素とその生理的役割）、食品の機能性、食環境、食情報、ライフサイクルに応じた食生活、生活習慣病について理解する。加えて、健全な食生活（目指すべき食生活）について自ら考える能力を身につけるため、グループワーク学習を行うことがある。

《授業の到達目標》

- ・基礎的な栄養学の知識、食品の機能性や食文化について理解し、説明できる。
- ・ライフサイクルに応じた食生活のあり方について理解し、説明できる。
- ・現在の日本の食生活の問題点を理解し、健全な食生活のあり方について説明できる。
- ・自らの食生活を見つめ直し、改善する能力を身につけることができる。

《テキスト》

「食生活論 第3版」 福田靖子、小川宣子編（朝倉書店）

《参考文献》

- 「食生活論」 遠藤金次他著（南江堂）  
 「新基礎栄養学 第7版」 吉田勉、石井孝彦、篠田粧子編（医歯薬出版）  
 「食品学Ⅰ 第2版」 菅原龍幸、福澤美喜男編（建帛社）

《成績評価の方法》

- ・課題レポート：50%（提出遅れについては減点する）、筆記テスト：50%の割合で評価する。
- ・授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。

《授業時間外学習》

- ・毎回、次週の授業範囲のところのテキストをしっかりと読んで勉強しておくこと。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問したり自分で調べたりすること。

《備考》

- ・授業初回到授業内容や成績評価について詳しく説明するので、できるだけ出席すること。
- ・課題レポートは指定した書式・内容のものを作成すること。
- ・授業欠席者に対する追加的指示や措置は講じない。
- ・遅刻（授業開始から30分以内、30分以上の場合は欠席）3回で1回の欠席とする。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	授業方針と計画・成績評価の説明 食生活の現状と課題
第2週	栄養の定義と栄養素の化学
第3週	栄養素の分類と生理的役割(1)
第4週	栄養素の分類と生理的役割(2)
第5週	食事摂取基準と食事バランス
第6週	食品の1次機能、2次機能、3次機能
第7週	食の精神的機能：食事の認知システムと記憶
第8週	食の社会的機能：食形態の変化と心の病
第9週	食の文化的機能：食文化の伝承
第10週	食の教育的意義(1)：家庭や社会での食の役割
第11週	食の教育的意義(2)：食情報の役割と食環境教育
第12週	ライフサイクルと食生活(1)：妊娠期と乳幼児期
第13週	ライフサイクルと食生活(2)：学童期と思春期
第14週	ライフサイクルと食生活(3)：壮・中年期と老年期
第15週	食の安全性と生活習慣病

《教養科目》《栄養マネジメント学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	コンピュータ応用演習				
担当者名	河野 稔				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1～3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

「コンピュータ演習」の学習成果である ICT (情報コミュニケーション技術) を活用する能力、つまり「情報リテラシー」を發展させ、これからの情報社会に適応できる能力である、「情報フルーエンシー」を身につけることが目標です。具体的には、実習と提出課題を通して、大学生活だけでなく社会生活に必要な、「文書作成」「データ処理」「プレゼンテーション」の実践的な活用方法を修得します。なお毎回の授業では、担当教員からの具体的な操作や手順の説明は基本的にありません。問題解決のために学生一人ひとりが自分のペースで主体的に実習に取り組む、自学自習形式で授業を進めます。

《授業の到達目標》

- 読みやすさに配慮した書式設定と図表や文書全体の適切なレイアウト設定をして、卒業論文レベルの文書を作成するために、ワープロソフトを活用できる。
- 数字や文字形式のデータを加工し集計して、データ全体の特徴や傾向を読み取るためにグラフなどにまとめるために、表計算ソフトを活用できる。
- 口頭発表での説明資料として、文章やデータを図表やグラフなどの適切な表現手段にまとめてスライドを作成するために、プレゼンテーションソフトを活用できる。
- 情報を伝える相手や状況に合わせて、ICT を適切に取捨選択して活用することができる。

《テキスト》

- ・実習の内容は、e ラーニングのシステムや専用の Web サイトで公開します。
- ・その他に必要な資料は、適宜配布します。

《参考文献》

- ・『情報リテラシー教科書 インターネット・Word・Excel・PowerPoint』矢野文彦監修 (オーム社) 2009 年
- ・『キーワードで理解する最新情報リテラシー 第3版』久野靖、辰己丈夫、佐藤義弘監修 (日経 BP 社) 2010 年
- ・『基礎からわかる情報リテラシー』奥村晴彦 (技術評論社) 2007 年

その他の文献や資料は、適宜紹介します。

《成績評価の方法》

- ・課題の提出物 80 点、授業中に出題する質問への回答 (ミニツツペーパーに記入) 20 点の合計 100 点満点のうち、60 点以上を合格とします。
- ・欠席回数が授業実施回数の 3 分の 1 以上の場合は単位を与えません。

《授業時間外学習》

まず、提出課題を仕上げるのが、主な授業時間外学習となります。復習としては、各ソフトの操作方法や活用上のポイントなどの技能を自ら扱えるように練習してください。また、その技能を扱えることがその回以降の授業で前提となるので、復習することが予習にもなります。

《備考》

パソコンやインターネットを自分の道具として使いこなすには、日ごろからパソコンなどを積極的に利用すること、つまり「習うより慣れる」ことが重要です。

他の受講生と協調しながら実習や課題に取り組み、積極的に授業に参加することを期待します。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション (授業の進め方、成績評価など) / e ラーニングの利用
第 2 週	文書作成(1) ワードによる文書作成の基礎
第 3 週	文書作成(2) 図と図形を利用した文書の作成
第 4 週	文書作成(3) 表を利用した文書の作成
第 5 週	文書作成(4) 文書全体のレイアウト
第 6 週	データ処理(1) 表形式データの基本的な処理
第 7 週	データ処理(2) 関数を利用したデータ処理
第 8 週	文書作成とデータ処理 (ここまで) の振り返り、中間のまとめ
第 9 週	データ処理(3) ささまざまなグラフの作成
第 10 週	データ処理(4) グラフ作成とワードとの連携
第 11 週	データ処理(5) データベース機能
第 12 週	プレゼンテーション(1) 一般的な発表用スライドの作成
第 13 週	プレゼンテーション(2) 視覚的な効果の活用
第 14 週	プレゼンテーション(3) 口頭発表の技術
第 15 週	学習の振り返り、授業全体のまとめ

《教養科目》《経済情報学科・栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	英語 I				
担当者名	Michael. H. Fox				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1～3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

日本教育制度の英語教育は、中学校から6年間義務づけられている。この英語教育の目標は、受験合格に他ならない。大学受験英語は非常に難しく、内容も面白くない、英語ができないので英語が嫌いと言う学生も多い。しかしながら、受験英語の成績と英会話の能力は一切関係なく、受験英語がどうしてもできないと言う人でも、英会話を修得する可能性がある。このコースの主な特徴は、日本語を話せる外国人講師の英語の歌など使ったゆっくりとした親切な指導にあり、国際理解と英会話の上達を目指すものである。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する生きている英語を楽しみながら身につける。

《テキスト》

各自、教科書『Talk Time Student Book 2』と「Topic Talk」を購買部で購入し、授業には毎回必ず持って来て下さい。この授業では、pair practice 練習(二人組で対話する)を実施するので教科書がないと授業は進まず、他の学生に迷惑をかけてしまいます。教科書を二回以上忘れてきた場合、二回目から欠席扱いにします。

《参考文献》

毎週、英語の曲を聴取し、プリントを配布。

《成績評価の方法》

成績評価は、毎回の講義における参加意欲・学力伸張を80パーセント、学期末に行う試験を20パーセントとする。

外国語を修得するためには、できるだけその言語を集中して勉強する必要がある。そこで出席を重視する。試験なしの評価もあるのでぜひ精一杯に努力すること。4回を欠席すると無資格者になる。つまり、許可なし3回連続欠席も無資格になる。

《授業時間外学習》

《備考》

この授業の内容は高等学校の授業と完全に違います。大事なものは出席と積極的な態度です。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	Introduction
第 2 週	Unit 7 : At a supermarket Topic Talk: Shopping
第 3 週	Unit 7: Clothes and colors Topic Talk: Fashion
第 4 週	Unit 8: Shops and Stores Topic Talk: Best Friends
第 5 週	Unit 8: Places around town Topic Talk: Crime
第 6 週	Unit 9: Hobbies Topic Talk: Animals
第 7 週	Unit 9: Indoor Exercise Topic Talk: Health and Fitness
第 8 週	Unit 10: Travel Plans Topic Talk: Vacation
第 9 週	Unit 10: Trip preparations Topic Talk: Transportation
第 10 週	Unit 11: Quantities Topic Talk: Food
第 11 週	Unit 11: Cooking Topic Talk:
第 12 週	Unit 12: Job Skills Topic Talk: School
第 13 週	Unit 12: Artistic Talents Topic Talk: Marriage
第 14 週	Review & Test (optional).
第 15 週	未定



《教養科目》《経済情報学科・栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	英語Ⅱ				
担当者名	Michael. H. Fox				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2,3年・I期

《授業のねらい及び概要》

日本教育制度の英語教育は、中学校から6年間義務づけられている。この英語教育の目標は、受験合格に他ならない。大学受験英語は非常に難しく、内容も面白くない、英語ができないので英語が嫌いと言う学生も多い。しかしながら、受験英語の成績と英会話の能力は一切関係なく、受験英語がどうしてもできないと言う人でも、英会話を修得する可能性がある。このコースの主な特徴は、日本語を話せる外国人講師の英語の歌など使ったゆっくりとした親切な指導にあり、国際理解と英会話の上達を目指すものである。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する生きている英語を楽しみながら身につける。

《テキスト》

各自、教科書『Talk Time Student Book 3』と「Topic Talk」を購買部で購入し、授業には毎回必ず持って来て下さい。この授業では、pair practice 練習(二人組で対話する)を実施するので教科書がないと授業は進まず、他の学生に迷惑をかけてしまいます。教科書を二回以上忘れてきた場合、二回目から欠席扱いにします。

《参考文献》

毎週、英語の曲を聴取し、プリントを配布。

《成績評価の方法》

成績評価は、毎回の講義における参加意欲・学力伸張を80パーセント、学期末に行う試験を20パーセントとする。

外国語を修得するためには、できるだけその言語を集中して勉強する必要がある。そこで出席を重視する。試験なしの評価もあるのでぜひ精一杯に努力すること。4回を欠席すると無資格者になる。つまり、許可なし3回連続欠席も無資格になる。

《授業時間外学習》

《備考》

この授業の内容は高等学校の授業と完全に違います。大事なのは出席と積極的な態度です。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	Introduction
第2週	Unit 1 Describing Character
第3週	Unit 1 Free Time Activities
第4週	Unit 2 Geography
第5週	Unit 2 Weather
第6週	Unit 3 Everyday Activities
第7週	Unit 3 Life Experiences
第8週	Unit 4 School Subjects
第9週	Unit 4 At School
第10週	Unit 5 Phone Messages
第11週	Unit 5 Favors and Requests
第12週	Unit 6 Wishes
第13週	Unit 6 Opinions
第14週	定期試験 or 自己評価
第15週	未定

《教養科目》《経済情報学科・栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	英語Ⅲ				
担当者名	Michael. H. Fox				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2,3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

日本教育制度の英語教育は、中学校から6年間義務づけられている。この英語教育の目標は、受験合格に他ならない。大学受験英語は非常に難しく、内容も面白くない、英語ができないので英語が嫌いと言う学生も多い。しかしながら、受験英語の成績と英会話の能力は一切関係なく、受験英語がどうしてもできないと言う人でも、英会話を修得する可能性がある。このコースの主な特徴は、日本語を話せる外国人講師の英語の歌など使ったゆっくりとした親切な指導にあり、国際理解と英会話の上達を目指すものである。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する生きている英語を楽しみながら身につける。

《テキスト》

各自、教科書『Talk Time Student Book 3』と「Topic Talk」を購買部で購入し、授業には毎回必ず持って来て下さい。この授業では、pair practice 練習(二人組で対話する)を実施するので教科書がないと授業は進まず、他の学生に迷惑をかけてしまいます。教科書を二回以上忘れてきた場合、二回目から欠席扱いにする。

《参考文献》

毎週、英語の曲を聴取し、プリントを配布。

《成績評価の方法》

成績評価は、毎回の講義における参加意欲・学力伸張を80パーセント、学期末に行う試験を20パーセントとする。

外国語を修得するためには、できるだけその言語を集中して勉強する必要がある。そこで出席を重視する。試験なしの評価もあるのでぜひ精一杯に努力すること。4回を欠席すると無資格者になる。つまり、許可なし3回連続欠席も無資格になる。

《授業時間外学習》

《備考》

この授業の内容は高等学校の授業と完全に違います。大事なことは出席と積極的な態度です。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	Introduction
第2週	Unit 7: Customs 文法: It + infinitive; gerunds as subjects
第3週	Unit 7: Events and Celebrations 文法: time clauses: "before, when, after"
第4週	Unit 8: Jobs 文法: 現在完了と"how long, since, and for"
第5週	Unit 8: At work 文法: 動詞+不定詞+ 動名詞
第6週	Unit 9: Recent Activities 文法: 現在進行形
第7週	Unit 9: Leisure Activities 文法: 現在進行形 vs 現在完了形
第8週	Unit 10: Describing People 文法: "Used To"
第9週	Unit 10: Everyday Habits 文法: 過去形with "how long"
第10週	Unit 11: Stories 文法: Reported Speech
第11週	Unit 11: In the News 文法: 節: "while / then."
第12週	Unit 12: Before you travel 文法: "Have to, have got, must."
第13週	Unit 12: Travel Experiences 文法: 現在完了形～現在までの行為
第14週	Review & Test (optional).
第15週	未定

《教養科目》《経済情報学科・栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	フランス語 I				
担当者名	本多 雄一郎				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	全学年・I期

《授業のねらい及び概要》

この授業では、フランス語の基礎的な運用力を養うことを目標とし、さらにフランス語をはぐくんできたこの国の文化・社会などにも触れていきたい。

フランス語は昔から外交・通商で国際語として用いられてきたことから、EU統合でもその共通語として採用され、ヨーロッパを知るにはかかせない言葉です。しかも、フランスは言わずと知れた食文化や芸術の中心であり、この分野に関係する学科の受講生は、フランス語を学べばより具体的に深く自らの知識を伸ばしていけると思われる。

《授業の到達目標》

フランス語の発音の特徴を学ぶことから始めて、コミュニケーションの手段としてのフランス語の基礎を習得して実践することをめざします。

言葉はなによりも発音が大切ですから、まずはあいさつや自己紹介を覚えて十分に発音練習を行います。

話す、聞く、読む、という多面的な教材を選びましたので、このテキストに沿って日常会話に必要な表現を少しずつ確実に身につけていき、様々な日常の場面でどう言えばよいかを練習していく。

また、フランスについてビデオも用いて紹介していく。

《テキスト》

『やさしいサリュ』—サリュ！簡略版— 田辺保子他著（駿河台出版）

《参考文献》

《成績評価の方法》

授業中の口頭による応答・発表を平常点として評価し、定期テストの評価と合わせて判断します。（平常点 50%、定期テスト 50%）  
テスト前には十分な準備ができるように試験の範囲や要領について説明します。

《授業時間外学習》

言葉は暗唱できなくてはいけないものなので、毎回習ったことを覚えて何度もくりかえし自宅で口頭練習しておくこと。  
授業時には毎回の復習を必ず最初に行ないます。

《備考》

○毎回全員に何度か口頭での応答をしてもらうので、授業中は集中をきらさないこと。

○直接こちらに質問や問い合わせができない時は教務を通して行なってください。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	1、フランス語の発音（I） 2、アルファベ 3、あいさつ
第 2 週	1、フランス語の発音（II） 2、フランス語の単語の読み方
第 3 週	1、フランス語の発音（III） 2、自己紹介（名前）
第 4 週	1、自己紹介（身分） 2、フランス語の基本動詞の活用
第 5 週	1、自己紹介（出身や国籍） 2、名詞の性と数、国の名前
第 6 週	1、自己紹介（住所や話せる言葉） 2、フランス語の動詞の活用、定冠詞
第 7 週	1、自己紹介（学んでいることについて） 2、否定文の作り方
第 8 週	1、自己紹介（家族のこと） 2、不定冠詞
第 9 週	1、自己紹介（年齢） 2、数詞
第10週	1、自己紹介（趣味）
第11週	1、食べる、飲む表現。レストランでの表現 2、部分冠詞
第12週	1、疑問文の作り方、答え方「それは何ですか？」
第13週	1、人や物を描写する 2、形容詞の使い方
第14週	1、疑問の表現「それは誰ですか？」
第15週	1、自己表現のまとめ

《教養科目》《経済情報学科・栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	フランス語Ⅱ				
担当者名	本多 雄一郎				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	全学年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

この授業では、フランス語の基礎的な運用力を養うことを目標とし、さらにフランス語をはぐくんできたこの国の文化・社会などにも触れていきたい。

フランス語は昔から外交・通商で国際語として用いられてきたことから、EU統合でもその共通語として採用され、ヨーロッパを知るにはかかせない言葉です。しかも、フランスは言わずと知れた食文化や芸術の中心であり、この分野に関係する学科の受講生は、フランス語を学べばより具体的により深く自らの知識を伸ばしていけると思われる。

《授業の到達目標》

Ⅰ期にひきつづいて、常に口頭練習を行ないながら様々な表現を覚えていくことでコミュニケーション能力を高めていく。Ⅱ期では日常の場面や日本について説明する訓練をすることで、自分の意見を言ったり、フランス語で日本や日本の生活を紹介できるようにしていく。

また、フランスについてビデオも用いて紹介していく。

《テキスト》

『やさしいサリュ』—サリュ！簡略版— 田辺保子他著（駿河台出版）

《参考文献》

《成績評価の方法》

授業中の口頭による応答・発表を平常点として評価し、定期テストとの評価と合わせて判断します。（平常点 50%、定期テスト 50%）  
テスト前には十分な準備ができるように試験の範囲や要領について説明します。

《授業時間外学習》

言葉は暗唱できなくてはいけないものなので、毎回習ったことを覚えて何度もくりかえし自宅で口頭練習しておくこと。  
授業時には毎回の復習を必ず最初に行ないます。

《備考》

○毎回全員に何度か口頭での応答をしてもらうので、授業中は集中をきらさないこと。

○直接こちらに質問や問い合わせができない時は教務を通して行なってください。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	1、様々な国へ旅行に行く表現 2、疑問文の作り方
第 2 週	1、様々な日常の生活で利用する場所へ行く表現 2、数詞（続き）
第 3 週	1、時刻の表現
第 4 週	1、疑問の表現「何をしますか？」 2、様々な慣用表現
第 5 週	1、これからすることを言う（近接未来）
第 6 週	1、終えたばかりのことを言う（近接過去）
第 7 週	1、したいこと、できることを言う
第 8 週	1、体調や病気の表現
第 9 週	1、一日の暮しを言う
第 10 週	1、天候の表現
第 11 週	1、自分の考えを言う
第 12 週	1、場所をたずねる表現
第 13 週	1、道案内の表現
第 14 週	1、命令や依頼の表現
第 15 週	1、日常表現のまとめ

《教養科目》《経済情報学科・栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	ドイツ語 I				
担当者名	竹内 節				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	全学年・I期

《授業のねらい及び概要》

英語と違い、ドイツ語を初め、ヨーロッパの言語は語形変化が複雑です。教科書にのっつて文法事項を解りやすく説明した後、練習問題（文法確認と実践応用）をします。基本として文法事項をきちんと整理し、自分でノートを取りながら覚えなければなりません。演習形式の授業なので、できるだけ多くの学生諸君に練習問題をしてもらいます。

《授業の到達目標》

「話す、聞く、読む、書く」など、人と人とのコミュニケーションには最低限の決まりが必要です。それが「文法」です。ごく初歩的な文法事項を段階的に覚えることによって、「文法」が身につきます。中学・高校と英語を学んだことが、ある意味で新しい言語を学ぶことに役立ちます。

《テキスト》

『クヴェレ・ドイツ文法』森・渡辺 著（同学社）

《参考文献》

『ドイツ語が面白いほど身につく本』中野久夫 著（中経出版）  
参考文献として挙げましたが、購入しなければならないというわけではありません。  
適宜、プリントを配布しますので、講義を一所懸命に聴けば、大丈夫です。

《成績評価の方法》

前提として授業実施回数の3分の2以上出席すること。発表回数と内容（10%）、事前に予告して実施する小テスト（20%）、ノートの提出（10%）、定期試験（60%）で総合的に成績評価をします。なお、定期試験については出題範囲を予告します。

《授業時間外学習》

授業で行われる課のドイツ語の発音練習をしておくこと。練習問題をノートに書き写し、予習しておくこと。毎回、「講義ノート」を講義終了後に提出すること。

《備考》

1. 教科書はもちろん、必ず独和辞典を購入し、講義には持ってくること。
2. 必ず予習し、解らないことがあればすぐに質問すること。
3. 練習問題など、必ず音読すること。
4. 板書した説明や練習問題などは必ずノートに書くこと。間違っただ箇所は消さずに、赤ペンで直すこと。
5. 私語はつつしみ、楽しい授業となるよう一緒に努力しましょう。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	ヨーロッパの言語とドイツ語の関係。アルファベートを覚え、その発音練習をする。
第2週	アルファベートの復習と母音および子音の発音を単語で練習する。
第3週	単語の発音練習。文法用語の説明。規則変化動詞の現在人称変化。
第4週	単語の発音練習。規則変化動詞で口語上注意すべき動詞の現在人称変化。練習問題。
第5週	単語の発音練習。重要な不規則変化動詞 sein, haben, warden の現在人称変化。定動詞の位置。練習問題。
第6週	単語の発音練習。名詞の性と冠詞(定冠詞と不定冠詞)。格の用法と格変化。練習問題。
第7週	単語の発音練習。名詞の複数形と格変化。辞書の引き方。男性弱変化名詞の格変化。練習問題。
第8週	単語の発音練習。不規則変化動詞の現在人称変化。命令法と練習問題。
第9週	単語の発音練習。冠詞類（定冠詞類と不定冠詞類）の用法と格変化。人称代名詞の格変化。語順について。練習問題。
第10週	単語の発音練習。前置詞とその用法。慣用表現について。副文と従属の接続詞について。練習問題。
第11週	単語の発音練習。話法の助動詞とその用法。未来形について。練習問題。
第12週	単語の発音練習。復習問題により、第3週までの主要文法事項の復習。
第13週	単語の発音練習。復習問題により、第7週までの主要文法事項の復習。
第14週	単語の発音練習。復習問題により、第11週までの主要文法事項の復習。
第15週	定期試験に備えて質疑応答。

《教養科目》《経済情報学科・栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	ドイツ語Ⅱ				
担当者名	竹内 節				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	全学年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

ドイツ語Ⅱを学ぶとき、ドイツ語Ⅰで学習したことを前提としています。従って、ドイツ語Ⅰを履修していない学生は自習などによって基本的な文法事項をある程度習得しておく必要があります。ドイツ語Ⅱでも同じく初歩的な文法事項を習得することによって「文法」を身につけることが重要なのは言うまでもありません。

《授業の到達目標》

ドイツ語Ⅰと同じテキストを使いますが、基本的には授業の内容も同じです。ただ、「覚えること」はなかなか難しいので、復習を多くしたいと思います。さらに語形変化が複雑になるため、きちんと覚えなければなりません。演習形式の授業もそのままです。

《テキスト》

『クヴェレ・ドイツ文法』森・渡辺 著 (同学社)

《参考文献》

『ドイツ語が面白いほど身につく本』中野久夫 著 (中経出版)  
参考文献として挙げましたが、購入しなければならないというわけではありません。  
適宜、プリントを配布しますので、講義を一所懸命に聴けば、大丈夫です。

《成績評価の方法》

前提として授業実施回数の3分の2以上出席すること。発表回数と内容(10%)、事前に予告して実施する小テスト(20%)、ノートの提出(10%)、定期試験(60%)で総合的に成績評価をします。なお、定期試験については出題範囲を予告します。

《授業時間外学習》

授業で行われる課のドイツ語の発音練習をしておくこと。練習問題をノートに書き写し、予習しておくこと。毎回、「講義ノート」を講義終了後に提出すること。

《備考》

1. 教科書はもちろん、必ず独和辞典を購入し、講義には持ってくること。
2. 必ず辞書をひいて予習し、解らないことがあればすぐに質問すること。
3. 練習問題など、必ず音読すること。
4. 板書した説明や練習問題などは必ずノートに書くこと。間違った箇所は消さずに、赤ペンで直すこと。
5. 私語はつつしみ、楽しい授業となるよう一緒に努力しましょう。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	単語の発音練習。ドイツ語Ⅰの主要文法事項の復習。
第 2 週	単語の発音練習。ドイツ語Ⅰの主要文法事項の復習。
第 3 週	単語の発音練習。ドイツ語Ⅰの主要文法事項の復習。
第 4 週	単語の発音練習。複合動詞、再帰動詞、非人称の主語 es についての説明と用法。練習問題。
第 5 週	単語の発音練習。形容詞の用法と格変化。形容詞の名詞化。形容詞の比較変化とその表現。練習問題。
第 6 週	単語の発音練習。動詞の三基本形。過去人称変化。練習問題。
第 7 週	単語の発音練習。完了時称の説明と用法。練習問題。
第 8 週	単語の発音練習。受動態の説明と用法。Zu 不定詞の説明と用法。分詞の説明と用法。練習問題。
第 9 週	単語の発音練習。指示代名詞と関係代名詞の説明と用法。練習問題。
第 10 週	単語の発音練習。接続法の説明。接続法第一式の用法。
第 11 週	単語の発音練習。接続法第二式の用法。
第 12 週	単語の発音練習。接続法の練習問題。
第 13 週	単語の発音練習。復習問題により第 4 週から第 6 週までの主要文法事項の復習。
第 14 週	単語の発音練習。復習問題により第 7 週から第 9 週までの主要文法事項の復習。
第 15 週	定期試験に備えて質疑応答。

《教養科目》《経済情報学科・栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	中国語 I				
担当者名	修 暁寧				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	全学年・I期

《授業のねらい及び概要》

この講義では中国語入門テキストを使い、発音（中国語のローマ字ピンイン）、基礎文法、会話文を勉強します。発音段階にできるだけ映像などの視覚情報で勉強し、同時に簡単なあいさつも勉強します。その後、日本人留学生中西くんの話を軸に、自己紹介から、ホテルのチェックイン、買い物など中国への旅行で必ず出会う場面を取り上げ、会話を展開していきます。1年間の勉強を通して中国語の基礎文法、あいさつの言葉、簡単な会話をマスターすることを目指します。

《授業の到達目標》

- 発音 声調（4声調）、母音、子音、鼻音を正しく発音できる。
- 挨拶 文法にこだわらず、日常簡単なあいさつができる。
- 文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
- 会話 簡単な日常会話ができる。

《テキスト》

『しゃべっていいとも中国語』 陳淑梅・劉光赤、朝日出版社、2010

《参考文献》

《成績評価の方法》

- ・授業の参加（出席3分の2以上を求める）とその成果 20%
- ・課題等の提出物 20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・定期試験 60%（なお、試験はテキスト等の「持ち込み不可」にて実施する）

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
  - ①CDを繰り返し聞くこと
  - ②新出単語をチェックすること
- ・復習の方法
  - ①CDを繰り返し聞くこと
  - ②会話文を暗誦すること

《備考》

- ・毎回出席を取る
- ・授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	中国語とは？ 第1課 あいさつの言葉、発音1、中国語の音節、声調、ドリル（発音のDVD視聴）
第 2 週	第2課 あいさつの言葉、発音2母音、ドリル（発音のDVD視聴）
第 3 週	第3課 あいさつの言葉、発音3子音（1）、ドリル（発音のDVD視聴）
第 4 週	第4課 あいさつの言葉、発音4子音（2）、鼻音、ドリル（発音のDVD視聴）
第 5 週	発音総復習（発音のDVD視聴）
第 6 週	第5課 名前の言い方とたずね方、人称代名詞、会話文、ドリル（CDを聞く）
第 7 週	第6課 動詞「是」、助詞「的」、会話文、ドリル（CDを聞く）
第 8 週	第5課と第6課のまとめ
第 9 週	第7課 基本語順 S+V+O、連動文 V1+V2、会話文、ドリル（CDを聞く）
第10週	第8課 助動詞「想」、動詞「有」、指示代名詞、会話文、ドリル（CDを聞く）
第11週	第7課と第8課のまとめ
第12週	第9課 動詞「在」、方位詞、前置詞、場所の代名詞
第13週	会話文、ドリル（CDを聞く）
第14週	復習とまとめ 文法
第15週	復習とまとめ 会話文

《教養科目》《経済情報学科・栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	中国語Ⅱ				
担当者名	修 暁寧				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	全学年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

この講義は中国語Ⅰの続きで、基礎文法、会話文を勉強します。日本人留学生中西くんの話を軸に、買い物、料理の注文、スポーツ鑑賞など中国への旅行で必ず出会う場面を取り上げ、会話を展開していきます。1年間の勉強を通して中国語の基礎文法、あいさつの言葉、簡単な会話をマスターすることを目指します。

《授業の到達目標》

- 発音 声調（4声調）、母音、子音、鼻音を正しく発音できる。
- 挨拶 文法にこだわらず、日常簡単なあいさつができる。
- 文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
- 会話 簡単な日常会話ができる。

《テキスト》

『しゃべっていいとも中国語』 陳淑梅・劉光赤、朝日出版社、2010

《参考文献》

《成績評価の方法》

- ・授業の参加（出席3分の2以上を求める）とその成果20%
- ・課題等の提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・定期試験60%（なお、試験はテキスト等の「持ち込み不可」にて実施する）

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
  - ①CDを繰り返し聞くこと
  - ②新出単語をチェックすること
- ・復習の方法
  - ①CDを繰り返し聞くこと
  - ②会話文を暗誦すること

《備考》

- ・毎回出席を取る
- ・授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	第10課 文法 ①数の言い方、お金の言い方 ②形容詞の文
第2週	会話 ドリル
第3週	第11課 文法 ①年月日、曜日 ②年齢の言い方
第4週	会話 ドリル
第5週	第12課 文法 ①量詞 ②動詞の重ね型
第6週	会話 ドリル
第7週	第13課 文法 ①時刻の言い方 ②文末の「了」
第8週	会話 ドリル
第9週	第14課 文法 ①時間の長さの言い方 ②完了を表す「了」
第10週	会話 ドリル
第11週	第15課 文法 ①前置詞「給」 ②助動詞「可以」・「能」
第12週	会話 ドリル
第13週	第16課 文法 ①進行形の表現 ②助動詞「会」
第14週	会話 ドリル
第15週	復習とまとめ



《教養科目》《経済情報学科・栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	韓国語 I				
担当者名	李 知妍				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1～3年・I期

《授業のねらい及び概要》

韓国語の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める。

《授業の到達目標》

- ①韓国語（ハングル）の基礎から簡単な会話、読み書きの習得を目的とする。
- ②ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
- ③簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
- ④韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《テキスト》

『みんなで学ぶ韓国語（文法編）』 金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

《参考文献》

油谷幸利 他編著 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 小学館  
 塚本勲 監修・熊谷明泰編集 『パスポート朝鮮語小事典』 白水社  
 油谷幸利 他編著 『朝鮮語辞典』 小学館（韓国・金星出版社 共同編集）

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢 30%、レポート 20%、期末テスト 50%

《授業時間外学習》

テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することをお願いします。

《備考》

- ①ハングルは日本語母語者には一番覚えやすい言語だと思います。ですので、すぐにでも手ごたえを感じられるとおもいます。
- ②テキストに付いているCDを良く聞きながら発音の練習をすることが必要です。
- ③声を出して読むことやペアで応用会話の練習をしながら楽しく話せる語学授業を考えています。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	授業ガイダンス・文字と発音①基本母音
第 2 週	文字と発音②子音（平音）
第 3 週	文字と発音③子音（激音・濃音）
第 4 週	文字と発音④二重母音
第 5 週	文字と発音⑤子音（終声子音）・読み方の法則
第 6 週	文化項目（1）：韓国の映画や音楽などを通しての文化理解
第 7 週	第1課 私は吉田ひかるです。
第 8 週	第2課 お名前は何ですか。
第 9 週	第3課 ここは出口ではありません。
第10週	Review 1
第11週	第4課 近くに地下鉄の駅ありますか。
第12週	第5課 学校の図書館でアルバイトをします。
第13週	第6課 私の誕生日は10月9日です。
第14週	Review 2
第15週	まとめ

《教養科目》《経済情報学科・栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	韓国語Ⅱ				
担当者名	李 知妍				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1～3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

韓国語の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める。

《授業の到達目標》

- ①韓国語（ハングル）の基礎から簡単な会話、読み書きの習得を目的とする。
- ②ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
- ③簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
- ④韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《テキスト》

『みんなで学ぶ韓国語（文法編）』 金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

《参考文献》

油谷幸利 他編著 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 小学館  
 塚本勲 監修・熊谷明泰編集 『パスポート朝鮮語小事典』 白水社  
 油谷幸利 他編著 『朝鮮語辞典』 小学館（韓国・金星出版社 共同編集）

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢 30%、レポート 20%、期末テスト 50%

《授業時間外学習》

テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することをお願いします。

《備考》

- ①ハングルは日本語母語者には一番覚えやすい言語だと思います。ですので、すぐにでも手ごたえを感じられるとおもいます。
- ②テキストに付いているCDを良く聞きながら発音の練習をすることが必要です。
- ③発音の練習やペアで応用会話の練習をしながら楽しく話せる語学授業を考えています。
- ④韓国語Ⅰを必ず受講してから韓国語Ⅱを受講するのをおすすめします。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	復習及び数字の活用
第 2 週	第7課 友達とランチを食べます。
第 3 週	第8課 日本の冬はあまり寒くありません。
第 4 週	第9課 キムチは辛いけどおいしいです。
第 5 週	Review 3
第 6 週	文化項目 (2) : 韓国の映画や音楽などを通しての文化理解
第 7 週	第10課 今日は天気がとても良いです。
第 8 週	第11課 公園で友達を待ちます。
第 9 週	第12課 合コンは今日の夕方6時です。
第10週	Review 4
第11週	第13課 ソウルから釜山までKTXで3時間かかりました。
第12週	第14課 韓国の映画は好きですか。
第13週	第15課 道を教えてください。
第14週	Review 5
第15週	まとめ

《教養科目》《経済情報学科・栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	健康・スポーツ科学 I (講義)				
担当者名	三宅 一郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	全学年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進める。  
 体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《授業の到達目標》

健康とスポーツの関わりについて理解を深める。  
 健康については、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等について探る。  
 スポーツも見る楽しさやスポーツを実践する際の効果的な方法を学ぶ。  
 健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、“生涯を通して積極的に健康づくりができる力”“自己の健康管理ができる力”を身につける事をめざす。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《参考文献》

- 『健康・スポーツ科学入門』 出村真一・村瀬智彦 (大修館書店)
- 『体力を考える～その定義・測定と応用～』 宮下充正著 (杏林書院)
- 『からだの仕組みのサイエンス』—運動生理学の最前線—加賀谷淳子他 (杏林書院)
- 『生涯スポーツ実践論』 川西正志・野川春夫 (市村出版)
- 「運動発達の科学」～幼児の運動発達を考える～三宅一郎 (大阪教育図書)

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。  
 ただし授業回数の1/3以上欠席した場合単位は与えない。  
 毎時間与えるテーマに対するミニレポート (50%)  
 受講に取り組む姿勢等の平常点 (20%)  
 学期末に課題に対するレポート (30%) の総合で評価する。

《授業時間外学習》

- <予習方法>  
 下記の授業計画における次時の授業内容をあらかじめ参考文献等で確認しておくことでより理解が深まる。
- <復習方法>  
 学んだ内容を配付資料等で再確認することによって今後の自己の健康管理に生かして欲しい。

《備考》

この授業を受講することによって、自分自身の健康づくりや体力づくりを再確認して欲しい。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	授業オリエンテーション
第 2 週	体力の考え方と構造
第 3 週	体力の測定と評価方法
第 4 週	体力の加齢変化と性差
第 5 週	運動生理学の基礎
第 6 週	バイオメカニクスの基礎
第 7 週	運動栄養学の基礎
第 8 週	トレーニング論の基礎
第 9 週	健康の考え方
第 10 週	健康づくりと運動処方
第 11 週	健康づくりと運動実践
第 12 週	健康と体力の関係
第 13 週	今後の健康づくりについて考える①
第 14 週	今後の健康づくりについて考える②
第 15 週	まとめ

《教養科目》《経済情報学科・栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	健康・スポーツ科学 I (講義)				
担当者名	徳田 泰伸				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	全学年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

受講者には体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進め、体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《授業の到達目標》

健康とスポーツの関わりについて理解を深め、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等やスポーツの見る楽しさやスポーツを実践する際の効果的な方法を学ぶことができる。

健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、「生涯を通して積極的に健康づくりができる力」「自己の健康管理ができる力」を身につける事ができる。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配布する。

《参考文献》

- 『健康・スポーツ科学入門』 出村真一・村瀬智彦 (大修館書院)
- 『運動適応の科学～トレーニングの科学的アプローチ～』 竹宮隆・石河利寛著 (杏林書院)
- 『体力を考える～その定義・測定と応用～』 宮下充正著 (杏林書院)
- 『からだの‘仕組み’のサイエンス』 一運動生理学の最前線—加賀谷淳子他 (杏林書院)
- 『生涯スポーツ実践論』 川西正志・野川春夫 (市村出版)

《成績評価の方法》

小テスト、授業内容課題の提出物、レポート課題

毎回の講義後に実施する小テスト (20%)、各分野の学習後に課すレポート課題 (60%)、平常点 (20%)

授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない

《授業時間外学習》

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	授業オリエンテーション 15週の授業内容について説明する
第 2 週	体力の考え方と構造
第 3 週	体力の測定と評価方法 1年Ⅰ期に実施した体力測定を基にそのデータを利用して自分の体力を分析してみる
第 4 週	体力の加齢変化と性差
第 5 週	運動生理学の基礎 具体例を踏まえ学生同士が意見を述べる内容とする
第 6 週	バイオメカニクスの基礎 具体例を踏まえ運動の実践例を述べていく
第 7 週	運動栄養学の基礎 具体例を踏まえ日常生活の中での食について運動との関わりを説明する
第 8 週	トレーニング論の基礎 各自の体力に合わせ日頃の運動習慣を身につけるためにトレーニングを行うかについて述べていく
第 9 週	健康の考え方 国民の健康に対する取り組み 男女差、年齢差等実践例を踏まえ説明する
第10週	健康づくりと運動処方 各自1日の健康・運動に対する具体的な運動実践をいかに時間的流れを加味して取り組むか説明する
第11週	健康づくりと運動実践 10週目を踏まえ具体的に教室外に出て実践をしてみる
第12週	健康と体力の関係 各自の意見発表を通じて健康と体力についてそれぞれの考え方を論議しあう
第13週	今後の健康づくりについて考える①
第14週	今後の健康づくりについて考える②
第15週	学習のまとめ

《教養科目》《保育科第一部・保育科三部》

科目名	健康・スポーツ科学 I (講義)				
担当者名	井上 靖				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	全学年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

この講義では、運動及びスポーツと健康生活との関係について理解を深め、豊かな人生につながる健康的なライフスタイルの形成について考える。

《授業の到達目標》

人生 80 年時代の健康問題を理解し自己実現に必要なライフスキルの向上に取り組むことができる。

《テキスト》

テキストは使用しない。プリントを随時配布する。

《参考文献》

- 「からだことば」 立川昭二 早川書房
- 「健康と文明の人類史」 マーク・コーエン 中元藤茂・戸澤由美子訳 人文書院
- 「目で見える動きの解剖学」 金子公宥 大修館書店
- 「入門運動生理学」 勝田 茂 杏林書院
- 「スポーツ社会学」 亀田佳明 世界思想社

《成績評価の方法》

- ・欠席回数が5回を越えると評価の対象外とする。
- ・評価は定期試験 70%、平常点 30%とする。

《授業時間外学習》

参考文献を読んでおくこと。

《備考》

- ・遅刻は欠席扱いとする。ただし、受講することはできる。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	・各自の健康観を文章にし提出する。
第 2 週	・人生 80 年時代の健康問題
第 3 週	・ライフスタイルと健康問題
第 4 週	・からだことばと健康観
第 5 週	・日本の近代化と身体
第 6 週	・生涯スポーツのビジョン
第 7 週	・生態輸送のメカニズム
第 8 週	・運動発現のメカニズム
第 9 週	・神経・筋パワーのメカニズム
第 10 週	・スポーツ科学の最前線
第 11 週	・運動と体力
第 12 週	・スポーツトレーニングと医学
第 13 週	・自己実現とライフスキル
第 14 週	・厳しい自然を楽しむスポーツのルーツを探る
第 15 週	・テスト

《教養科目》《経済情報学科・栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅱ(演習)				
担当者名	三宅 一郎・徳田 泰伸・樽本 つぐみ・矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	全学年・I期

《授業のねらい及び概要》

授業の最初に身体組成の計測と体力テストを実施し、自分の体力の現状を把握する。次に、各自が取り組むスポーツ種目を選択し、その間の積極的な行動が授業の最終日に行う体力テストに反映できるようなプログラムを構築していく。さらには、ルールに基づいた各種のスポーツ活動を行っていくなかで、技術、体力、戦術などについて理解を深めるとともに、生涯スポーツ実践の能力を身につける事を目的とする。

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考文献》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館） 『からだロジー入門』宮下充正（大修館）

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。

ただし授業回数の1/3以上欠席した場合単位は与えない。

毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)

随時テーマに対するレポート提出(20%)

学期末にまとめのレポート提出(30%)

《授業時間外学習》

<予習方法>

シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。

<復習方法>

実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、種目に応じてその場に適したものをを使用すること。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	・授業オリエンテーション
第 2 週	・身体組成計測と体力テスト
第 3 週	・バトミントン
第 4 週	・ソフトボール
第 5 週	・テニス
第 6 週	・卓球
第 7 週	・バスケットボール
第 8 週	・バレーボール
第 9 週	・サッカー
第10週	・インディアカ
第11週	・ターゲットバードゴルフ
第12週	・ペタンク
第13週	・ユニバーサルホッケー
第14週	・その他、適宜種目を検討する
第15週	・体力テスト

**《教養科目》《保育科第一部》**

科目名	健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）				
担当者名	井上 靖				
授業方法	実技	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	全学年・Ⅰ期

**《授業のねらい及び概要》**

スポーツの実践を通して自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツを習得し、豊かなライフスタイルを形成する能力を身につける。

**《授業の到達目標》**

テニスの基礎技術の習得及びゲームを通してスポーツの真の楽しさを共有することができるようになる。

**《テキスト》**

テキストは使用しない。

**《参考文献》**

「スポーツスキルの科学」宮下充正 大修館書店  
「スポーツ上達の科学」八木一正 大河出版

**《成績評価の方法》**

- ・欠席回数が5回を越えると評価の対象外となる。
- ・技術点50%、取り組む姿勢50%とする。

**《授業時間外学習》**

- ・授業で紹介するストレッチを週3日程度実施しておくこと。
- ・本で大まかな技術要領を学んでおくこと。

**《備考》**

- ・スポーツにふさわしい服装を準備すること。
- ・理解度によって、内容を変更することがある。

**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第1週	・オリエンテーション（種目選択を含む）。
第2週	・ストレッチのねらいと要領 ・ボレーの要領及び球だしの要領
第3週	・ボレーの練習 ・ストロークの要領（フォアハンド）
第4週	・ボレーアンドストローク ・バックハンドストロークの要領
第5週	・ボレーアンドストローク ・ストロークの練習
第6週	・サーブの要領 ・サーブレシーブの要領
第7週	・ミニコートでのゲーム ・ゲーム（ダブルス）の進め方
第8週	・ゲーム ・ゲームにおける2人の基本的な動き
第9週	・ゲームの各場面における対処法
第10週	・ゲームとその分析
第11週	・ゲームとその分析
第12週	・ゲームとその分析
第13週	・ゲームとその分析
第14週	・ゲームとその分析及び評価
第15週	・ゲームとその分析及び評価

《教養科目》《保育科第三部》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）				
担当者名	井上 靖				
授業方法	実技	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	1,2年・I期

《授業のねらい及び概要》

スポーツの実践を通して自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツを習得し、豊かなライフスタイルを形成する能力を身につける。

《授業の到達目標》

テニスの基礎技術の習得及びゲームを通してスポーツの真の楽しさを共有することができるようになる。

《テキスト》

テキストは使用しない。

《参考文献》

「スポーツスキルの科学」宮下充正 大修館書店  
 「スポーツ上達の科学」八木一正 大河出版

《成績評価の方法》

- ・欠席回数が5回を越えると評価の対象外となる。
- ・技術点50%、取り組む姿勢50%とする。

《授業時間外学習》

- ・授業で紹介するストレッチを週3日程度実施しておくこと。
- ・本で大まかな技術要領を学んでおくこと。

《備考》

- ・スポーツにふさわしい服装を準備すること。
- ・理解度によって、内容を変更することがある。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	・オリエンテーション（種目選択を含む）。
第2週	・ストレッチのねらいと要領 ・ボレーの要領及び球だしの要領
第3週	・ボレーの練習 ・ストロークの要領（フォアハンド）
第4週	・ボレーアンドストローク ・バックハンドストロークの要領
第5週	・ボレーアンドストローク ・ストロークの練習
第6週	・サーブの要領 ・サーブレシーブの要領
第7週	・ミニコートでのゲーム ・ゲーム（ダブルス）の進め方
第8週	・ゲーム ・ゲームにおける2人の基本的な動き
第9週	・ゲームの各場面における対処法
第10週	・ゲームとその分析
第11週	・ゲームとその分析
第12週	・ゲームとその分析
第13週	・ゲームとその分析
第14週	・ゲームとその分析及び評価
第15週	・ゲームとその分析及び評価



《教養科目》《保育科第三部》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）				
担当者名	井上 靖				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

スポーツの実践を通して自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツを習得し、豊かなライフスタイルを形成する能力を身につける。

《授業の到達目標》

テニスの基礎技術の習得及びゲームを通してスポーツの真の楽しさを共有することができるようになる。

《テキスト》

テキストは使用しない。

《参考文献》

「スポーツスキルの科学」宮下充正 大修館書店  
 「スポーツ上達の科学」八木一正 大河出版

《成績評価の方法》

- ・欠席回数が5回を越えると評価の対象外となる。
- ・技術点50%、取り組む姿勢50%とする。

《授業時間外学習》

- ・授業で紹介するストレッチを週3日程度実施しておくこと。
- ・本で大まかな技術要領を学んでおくこと。

《備考》

- ・スポーツにふさわしい服装を準備すること。
- ・理解度によって、内容を変更することがある。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	・オリエンテーション（種目選択を含む）。
第2週	・ストレッチのねらいと要領 ・ボレーの要領及び球だしの要領
第3週	・ボレーの練習 ・ストロークの要領（フォアハンド）
第4週	・ボレーアンドストローク ・バックハンドストロークの要領
第5週	・ボレーアンドストローク ・ストロークの練習
第6週	・サーブの要領 ・サーブレシーブの要領
第7週	・ミニコートでのゲーム ・ゲーム（ダブルス）の進め方
第8週	・ゲーム ・ゲームにおける2人の基本的な動き
第9週	・ゲームの各場面における対処法
第10週	・ゲームとその分析
第11週	・ゲームとその分析
第12週	・ゲームとその分析
第13週	・ゲームとその分析
第14週	・ゲームとその分析及び評価
第15週	・ゲームとその分析及び評価

《教養科目》《保育科第一部》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）				
担当者名	井上 眞美子				
授業方法	実技	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	全学年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

スポーツの実践を通し、自己のライフステージや心身の状態に適した内容で生活の中に取り入れ豊かなライフスタイルを形成できる能力を身につける。

《授業の到達目標》

動きを上手に洗練させていくことを楽しむのが目的です。音楽に合わせたはずみ動作が多く、ビートに合わせたシャープでメリハリのある動きによって健康になり、強くしなやかな美しい体をつくる。

①～⑦をフィジカル・フィットネスと捉えて、全てのプログラムを動く。

《テキスト》

使用しない。授業中に適宜紹介する。

《参考文献》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）

『からだロジー入門』宮下充正（大修館）

《成績評価の方法》

毎回の授業毎の評価(20%)、実技テスト(80%)の割合で評価する。授業回数の 1/3 を超える欠席者は成績評価の対象とならない。

《授業時間外学習》

毎回の授業についてのイメージトレーニングを行うよう指示する。

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、種目に応じてその場に適したものを使用する。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	RHYTHMIC MOTION (LIGHT)についての説明・オリエンテーション
第 2 週	①ウォーミングアップ（リズムの動きになれる）・フォークダンス
第 3 週	②スタートの体操（基本的な動きをリズムカルにバランスよく行う）・フォークダンス
第 4 週	③Running エクササイズ・エアロビック体操・フォークダンス
第 5 週	④ストレッチング（柔軟性を高める）・フォークダンス
第 6 週	⑤パワーアップⅠ（腹筋力・背筋力） （変化に富んだ動きをリズムカルに正しく行う）・フォークダンス
第 7 週	⑥パワーアップⅡ（緩急のある洗練された動きや高度な動きを行う）・フォークダンス
第 8 週	⑦クーリングダウン・フォークダンス
第 9 週	①～⑦Repeat・フォークダンス
第 10 週	①～⑦Repeat・フォークダンス
第 11 週	①～⑦Repeat・フォークダンス
第 12 週	①～⑦Repeat・フォークダンス
第 13 週	グループ別に作品を創作
第 14 週	グループ別に作品を創作
第 15 週	グループ別作品発表会

《教養科目》《保育科第三部》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）				
担当者名	井上 眞美子				
授業方法	実技	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	1,2年・I期

《授業のねらい及び概要》

スポーツの実践を通し、自己のライフステージや心身の状態に適した内容で生活の中に取り入れ豊かなライフスタイルを形成できる能力を身につける。

《授業の到達目標》

動きを上手に洗練させていくことを楽しむのが目的です。音楽に合わせたはずみ動作が多く、ビートに合わせたシャープでメリハリのある動きによって健康になり、強くしなやかな美しい体をつくる。

①～⑦をフィジカル・フィットネスと捉えて、全てのプログラムを動く。

《テキスト》

使用しない。授業中に適宜紹介する。

《参考文献》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）

『からだロジー入門』宮下充正（大修館）

《成績評価の方法》

毎回の授業毎の評価(20%)、実技テスト(80%)の割合で評価する。授業回数の 1/3 を超える欠席者は成績評価の対象とならない。

《授業時間外学習》

毎回の授業についてのイメージトレーニングを行うよう指示する。

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、種目に応じてその場に適したものを使用する。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	RHYTHMIC MOTION (LIGHT)についての説明・オリエンテーション
第 2 週	①ウォーミングアップ（リズムの動きになれる）・フォークダンス
第 3 週	②スタートの体操（基本的な動きをリズムカルにバランスよく行う）・フォークダンス
第 4 週	③Running エクササイズ・エアロビック体操・フォークダンス
第 5 週	④ストレッチング（柔軟性を高める）・フォークダンス
第 6 週	⑤パワーアップⅠ（腹筋力・背筋力） （変化に富んだ動きをリズムカルに正しく行う）・フォークダンス
第 7 週	⑥パワーアップⅡ（緩急のある洗練された動きや高度な動きを行う）・フォークダンス
第 8 週	⑦クーリングダウン・フォークダンス
第 9 週	①～⑦Repeat・フォークダンス
第 10 週	①～⑦Repeat・フォークダンス
第 11 週	①～⑦Repeat・フォークダンス
第 12 週	①～⑦Repeat・フォークダンス
第 13 週	グループ別に作品を創作
第 14 週	グループ別に作品を創作
第 15 週	グループ別作品発表会

《教養科目》《保育科第三部》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）				
担当者名	井上 眞美子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

スポーツの実践を通し、自己のライフステージや心身の状態に適した内容で生活の中に取り入れ豊かなライフスタイルを形成できる能力を身につける。

《授業の到達目標》

動きを上手に洗練させていくことを楽しむのが目的です。音楽に合わせたはずみ動作が多く、ビートに合わせたシャープでメリハリのある動きによって健康になり、強くしなやかな美しい体をつくる。

①～⑦をフィジカル・フィットネスと捉えて、全てのプログラムを動く。

《テキスト》

使用しない。授業中に適宜紹介する。

《参考文献》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）

『からだロジー入門』宮下充正（大修館）

《成績評価の方法》

毎回の授業毎の評価(20%)、実技テスト(80%)の割合で評価する。授業回数の 1/3 を超える欠席者は成績評価の対象とならない。

《授業時間外学習》

毎回の授業についてのイメージトレーニングを行うよう指示する。

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、種目に応じてその場に適したものを使用する。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	RHYTHMIC MOTION (LIGHT)についての説明・オリエンテーション
第 2 週	①ウォーミングアップ（リズムの動きになれる）・フォークダンス
第 3 週	②スタートの体操（基本的な動きをリズムカルにバランスよく行う）・フォークダンス
第 4 週	③Running エクササイズ・エアロビック体操・フォークダンス
第 5 週	④ストレッチング（柔軟性を高める）・フォークダンス
第 6 週	⑤パワーアップⅠ（腹筋力・背筋力） （変化に富んだ動きをリズムカルに正しく行う）・フォークダンス
第 7 週	⑥パワーアップⅡ（緩急のある洗練された動きや高度な動きを行う）・フォークダンス
第 8 週	⑦クーリングダウン・フォークダンス
第 9 週	①～⑦Repeat・フォークダンス
第 10 週	①～⑦Repeat・フォークダンス
第 11 週	①～⑦Repeat・フォークダンス
第 12 週	①～⑦Repeat・フォークダンス
第 13 週	グループ別に作品を創作
第 14 週	グループ別に作品を創作
第 15 週	グループ別作品発表会

《教養科目》《保育科第一部》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）				
担当者名	宮川 和三				
授業方法	実技	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	全学年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

スポーツの実践を通し、自己のライフステージや心身の状態に適した内容を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成する能力を身につける。

また、各スポーツの基礎技能とルールを学習しスポーツを正しく実践する能力を身につける。

《授業の到達目標》

授業の進め方は、球技の中で特にバレーボールを取り上げ、豊かなライフステージを形成するための能力を身につける。

《テキスト》

使用しない。授業中に適宜紹介する。

《参考文献》

『からだロジー入門』奈良女子大学体育学教室（大修館）

『スポーツスキルの科学』宮下充正著（大修館）

『筋肉はエンジンである。』宮下充正著（大修館）

《成績評価の方法》

毎回の授業毎の評価（20%）、実技テスト（80%）の割合で評価する。

授業回数の1/3を超える欠席者は成績評価の対象とならない。

《授業時間外学習》

毎回の実技についてのイメージトレーニングを行うよう指示する。

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。

シューズは屋内用と屋外用を準備し、種目に応じてその場に適したものをを使用すること。

授業中の携帯電話の使用は厳禁とする。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	パス（オーバーハンド、アンダーハンド）アタック（レフト、ライト、センター）
第 2 週	ボール慣れ、アタック、サーブ（アンダー、サイド、オーバー、フローター）
第 3 週	ボール慣れ、パス、アタック、サーブ、サーブレシーブ
第 4 週	ボール慣れ、パス、アタック、サーブ、サーブレシーブ、フォーメーション
第 5 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）①
第 6 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）②
第 7 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）③
第 8 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）④
第 9 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）⑤
第 10 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）⑥
第 11 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）⑦
第 12 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）⑧
第 13 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）⑨
第 14 週	（リーグ戦）⑩ 学習のまとめ
第 15 週	（リーグ戦）⑪ 学習のまとめ

《教養科目》《保育科第三部》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）				
担当者名	宮川 和三				
授業方法	実技	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	1,2年・I期

《授業のねらい及び概要》

スポーツの実践を通し、自己のライフステージや心身の状態に適した内容を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成する能力を身につける。

また、各スポーツの基礎技能とルールを学習しスポーツを正しく実践する能力を身につける。

《授業の到達目標》

授業の進め方は、球技の中で特にバレーボールを取り上げ、豊かなライフステージを形成するための能力を身につける。

《テキスト》

使用しない。授業中に適宜紹介する。

《参考文献》

『からだロジー入門』奈良女子大学体育学教室（大修館）

『スポーツスキルの科学』宮下充正著（大修館）

『筋肉はエンジンである。』宮下充正著（大修館）

《成績評価の方法》

毎回の授業毎の評価（20%）、実技テスト（80%）の割合で評価する。

授業回数の1/3を超える欠席者は成績評価の対象とならない。

《授業時間外学習》

毎回の実技についてのイメージトレーニングを行うよう指示する。

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。

シューズは屋内用と屋外用を準備し、種目に応じてその場に適したものを使用すること。

授業中の携帯電話の使用は厳禁とする。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	パス（オーバーハンド、アンダーハンド）アタック（レフト、ライト、センター）
第 2 週	ボール慣れ、アタック、サーブ（アンダー、サイド、オーバー、フローター）
第 3 週	ボール慣れ、パス、アタック、サーブ、サーブレシーブ
第 4 週	ボール慣れ、パス、アタック、サーブ、サーブレシーブ、フォーメーション
第 5 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）①
第 6 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）②
第 7 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）③
第 8 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）④
第 9 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）⑤
第 10 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）⑥
第 11 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）⑦
第 12 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）⑧
第 13 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）⑨
第 14 週	（リーグ戦）⑩ 学習のまとめ
第 15 週	（リーグ戦）⑪ 学習のまとめ

《教養科目》《保育科第三部》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）				
担当者名	宮川 和三				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

スポーツの実践を通し、自己のライフステージや心身の状態に適した内容を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成する能力を身につける。

また、各スポーツの基礎技能とルールを学習しスポーツを正しく実践する能力を身につける。

《授業の到達目標》

授業の進め方は、球技の中で特にバレーボールを取り上げ、豊かなライフステージを形成するための能力を身につける。

《テキスト》

使用しない。授業中に適宜紹介する。

《参考文献》

『からだロジー入門』奈良女子大学体育学教室（大修館）

『スポーツスキルの科学』宮下充正著（大修館）

『筋肉はエンジンである。』宮下充正著（大修館）

《成績評価の方法》

毎回の授業毎の評価（20%）、実技テスト（80%）の割合で評価する。

授業回数の1/3を超える欠席者は成績評価の対象とならない。

《授業時間外学習》

毎回の実技についてのイメージトレーニングを行うよう指示する。

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。

シューズは屋内用と屋外用を準備し、種目に応じてその場に適したものをを使用すること。

授業中の携帯電話の使用は厳禁とする。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	パス（オーバーハンド、アンダーハンド）アタック（レフト、ライト、センター）
第 2 週	ボール慣れ、アタック、サーブ（アンダー、サイド、オーバー、フローター）
第 3 週	ボール慣れ、パス、アタック、サーブ、サーブレシーブ
第 4 週	ボール慣れ、パス、アタック、サーブ、サーブレシーブ、フォーメーション
第 5 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）①
第 6 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）②
第 7 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）③
第 8 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）④
第 9 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）⑤
第 10 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）⑥
第 11 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）⑦
第 12 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）⑧
第 13 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）⑨
第 14 週	（リーグ戦）⑩ 学習のまとめ
第 15 週	（リーグ戦）⑪ 学習のまとめ

《教養科目》《経済情報学科・栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅲ(演習)				
担当者名	三宅 一郎・徳田 泰伸・樽本 つぐみ・矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	全学年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

屋内と屋外スポーツを同時に進行する。時間単位で種目を選択し、毎時間ゲームを取り入れて各種目の応用技能を習得する。

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習し、スポーツそのものを楽しむことを目的とする。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考文献》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）  
『からだロジー入門』宮下充正（大修館）

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。  
ただし授業回数の1/3以上欠席した場合単位は与えない。  
毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)  
随時テーマに対するレポート提出(20%)  
学期末にまとめのレポート提出(30%)

《授業時間外学習》

<予習方法>

シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。

<復習方法>

実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、種目に応じてその場に適したものを使用すること。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	・授業オリエンテーション
第 2 週	・バトミントン
第 3 週	・ソフトボール
第 4 週	・テニス
第 5 週	・卓球
第 6 週	・バスケットボール
第 7 週	・バレーボール
第 8 週	・サッカー
第 9 週	・インディアカ
第10週	・ターゲットバードゴルフ
第11週	・ペタンク
第12週	・ユニバーサルホッケー
第13週	・アルティメット
第14週	・エアロビクスダンス
第15週	・日常生活における体力づくりトレーニング



《教養科目》《保育科第一部》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）				
担当者名	井上 靖				
授業方法	実技	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	全学年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

スポーツの実践を通して自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツを習得し、豊かなライフスタイルを形成する能力を身につける。

《授業の到達目標》

テニスの基礎技術の習得及びゲームを通してスポーツの真の楽しさを共有することができるようになる。

《テキスト》

テキストは使用しない。

《参考文献》

「スポーツスキルの科学」宮下充正 大修館書店  
 「スポーツ上達の科学」八木一正 大河出版

《成績評価の方法》

- ・欠席回数が5回を越えると評価の対象外となる。
- ・技術点50%、取り組む姿勢50%とする。

《授業時間外学習》

- ・授業で紹介するストレッチを週3回程度実施しておくこと。
- ・本で大まかな技術要領を学んでおくこと。

《備考》

- ・スポーツにふさわしい服装を準備すること。
- ・理解度によって内容を変更することがある。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	オリエンテーション（種目選択を含む）
第2週	・ストレッチのねらいと要領 ・ボレーのレベルアップトレーニング
第3週	・ストロークのトレーニング ・サーブのトレーニング
第4週	・サーブレシーブのトレーニング ・ストロークトレーニング（3つの打点を意識する）
第5週	・ゲーム（サーブアンドボレーを中心に）
第6週	・ゲーム（サーブアンドボレーを中心に）
第7週	・ゲーム（サーブアンドボレーを中心に）
第8週	・ゲーム（状況に応じた2人の動きを中心に）
第9週	・ゲーム（状況に応じた2人の動きを中心に）
第10週	・ゲーム（状況に応じた2人の動きを中心に）
第11週	・ゲーム（状況に応じた2人の動きを中心に）
第12週	・ゲーム（状況に応じた2人の動きを中心に）
第13週	・ゲーム（ゲーム分析）
第14週	・ゲーム（ゲーム分析）及びテスト
第15週	・ゲーム（ゲーム分析）及びテスト

《教養科目》《保育科第三部》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）				
担当者名	井上 靖				
授業方法	実技	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	1,2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

スポーツの実践を通して自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツを習得し、豊かなライフスタイルを形成する能力を身につける。

《授業の到達目標》

テニスの基礎技術の習得及びゲームを通してスポーツの真の楽しさを共有することができるようになる。

《テキスト》

テキストは使用しない。

《参考文献》

「スポーツスキルの科学」宮下充正 大修館書店  
 「スポーツ上達の科学」八木一正 大河出版

《成績評価の方法》

- ・欠席回数が5回を越えると評価の対象外となる。
- ・技術点50%、取り組む姿勢50%とする。

《授業時間外学習》

- ・授業で紹介するストレッチを週3回程度実施しておくこと。
- ・本で大まかな技術要領を学んでおくこと。

《備考》

- ・スポーツにふさわしい服装を準備すること。
- ・理解度によって内容を変更することがある。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	オリエンテーション（種目選択を含む）
第2週	・ストレッチのねらいと要領 ・ボレーのレベルアップトレーニング
第3週	・ストロークのトレーニング ・サーブのトレーニング
第4週	・サーブレシーブのトレーニング ・ストロークトレーニング（3つの打点を意識する）
第5週	・ゲーム（サーブアンドボレーを中心に）
第6週	・ゲーム（サーブアンドボレーを中心に）
第7週	・ゲーム（サーブアンドボレーを中心に）
第8週	・ゲーム（状況に応じた2人の動きを中心に）
第9週	・ゲーム（状況に応じた2人の動きを中心に）
第10週	・ゲーム（状況に応じた2人の動きを中心に）
第11週	・ゲーム（状況に応じた2人の動きを中心に）
第12週	・ゲーム（状況に応じた2人の動きを中心に）
第13週	・ゲーム（ゲーム分析）
第14週	・ゲーム（ゲーム分析）及びテスト
第15週	・ゲーム（ゲーム分析）及びテスト

《教養科目》《保育科第三部》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）				
担当者名	井上 靖				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

スポーツの実践を通して自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツを習得し、豊かなライフスタイルを形成する能力を身につける。

《授業の到達目標》

テニスの基礎技術の習得及びゲームを通してスポーツの真の楽しさを共有することができるようになる。

《テキスト》

テキストは使用しない。

《参考文献》

「スポーツスキルの科学」宮下充正 大修館書店  
 「スポーツ上達の科学」八木一正 大河出版

《成績評価の方法》

- ・欠席回数が5回を越えると評価の対象外となる。
- ・技術点50%、取り組む姿勢50%とする。

《授業時間外学習》

- ・授業で紹介するストレッチを週3回程度実施しておくこと。
- ・本で大まかな技術要領を学んでおくこと。

《備考》

- ・スポーツにふさわしい服装を準備すること。
- ・理解度によって内容を変更することがある。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	オリエンテーション（種目選択を含む）
第2週	・ストレッチのねらいと要領 ・ボレーのレベルアップトレーニング
第3週	・ストロークのトレーニング ・サーブのトレーニング
第4週	・サーブレシーブのトレーニング ・ストロークトレーニング（3つの打点を意識する）
第5週	・ゲーム（サーブアンドボレーを中心に）
第6週	・ゲーム（サーブアンドボレーを中心に）
第7週	・ゲーム（サーブアンドボレーを中心に）
第8週	・ゲーム（状況に応じた2人の動きを中心に）
第9週	・ゲーム（状況に応じた2人の動きを中心に）
第10週	・ゲーム（状況に応じた2人の動きを中心に）
第11週	・ゲーム（状況に応じた2人の動きを中心に）
第12週	・ゲーム（状況に応じた2人の動きを中心に）
第13週	・ゲーム（ゲーム分析）
第14週	・ゲーム（ゲーム分析）及びテスト
第15週	・ゲーム（ゲーム分析）及びテスト

《教養科目》《保育科第一部》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）				
担当者名	井上 眞美子				
授業方法	実技	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	全学年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

スポーツの実践を通し、自己のライフステージや心身の状態に適した内容で生活の中に取り入れ豊かなライフスタイルを形成できる能力を身につける。

《授業の到達目標》

動きを上手に洗練させていくことを楽しむのが目的です。音楽に合わせたはずみ動作が多く、ビートに合わせたシャープでメリハリのある動きによって健康になり、強くしなやかな美しい体をつくる。

①～⑦をフィジカル・フィットネスと捉えて、全てのプログラムを動く。

《テキスト》

使用しない。授業中に適宜紹介する。

《参考文献》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）

『からだロジー入門』宮下充正（大修館）

《成績評価の方法》

毎回の授業毎の評価(20%)、実技テスト(80%)の割合で評価する。授業回数の1/3を超える欠席者は成績評価の対象とならない。

《授業時間外学習》

毎回の授業についてのイメージトレーニングを行うよう指示する。

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、種目に応じてその場に適したものを使用する。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	RHYTHMIC MOTION (LIGHT)についての説明・オリエンテーション
第 2 週	①ウォーミングアップ（リズムの動きになれる）・フォークダンス
第 3 週	②スタートの体操（基本的な動きをリズムカルにバランスよく行う）・フォークダンス
第 4 週	③Running エクササイズ・エアロビック体操・フォークダンス
第 5 週	④ストレッチング（柔軟性を高める）・フォークダンス
第 6 週	⑤パワーアップⅠ（腹筋力・背筋力） （変化に富んだ動きをリズムカルに正しく行う）・フォークダンス
第 7 週	⑥パワーアップⅡ（緩急のある洗練された動きや高度な動きを行う）・フォークダンス
第 8 週	⑦クーリングダウン・フォークダンス
第 9 週	①～⑦Repeat・フォークダンス
第 10 週	①～⑦Repeat・フォークダンス
第 11 週	①～⑦Repeat・フォークダンス
第 12 週	①～⑦Repeat・フォークダンス
第 13 週	グループ別に作品を創作
第 14 週	グループ別に作品を創作
第 15 週	グループ別作品発表会

《教養科目》《保育科第三部》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）				
担当者名	井上 眞美子				
授業方法	実技	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	1,2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

スポーツの実践を通し、自己のライフステージや心身の状態に適した内容で生活の中に取り入れ豊かなライフスタイルを形成できる能力を身につける。

《授業の到達目標》

動きを上手に洗練させていくことを楽しむのが目的です。音楽に合わせたはずみ動作が多く、ビートに合わせたシャープでメリハリのある動きによって健康になり、強くしなやかな美しい体をつくる。

①～⑦をフィジカル・フィットネスと捉えて、全てのプログラムを動く。

《テキスト》

使用しない。授業中に適宜紹介する。

《参考文献》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）  
『からだロジー入門』宮下充正（大修館）

《成績評価の方法》

毎回の授業毎の評価(20%)、実技テスト(80%)の割合で評価する。授業回数の1/3を超える欠席者は成績評価の対象とならない。

《授業時間外学習》

毎回の授業についてのイメージトレーニングを行うよう指示する。

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、種目に応じてその場に適したものを使用する。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	RHYTHMIC MOTION (LIGHT)についての説明・オリエンテーション
第 2 週	①ウォーミングアップ（リズムの動きになれる）・フォークダンス
第 3 週	②スタートの体操（基本的な動きをリズムカルにバランスよく行う）・フォークダンス
第 4 週	③Running エクササイズ・エアロビック体操・フォークダンス
第 5 週	④ストレッチング（柔軟性を高める）・フォークダンス
第 6 週	⑤パワーアップⅠ（腹筋力・背筋力） （変化に富んだ動きをリズムカルに正しく行う）・フォークダンス
第 7 週	⑥パワーアップⅡ（緩急のある洗練された動きや高度な動きを行う）・フォークダンス
第 8 週	⑦クーリングダウン・フォークダンス
第 9 週	①～⑦Repeat・フォークダンス
第 10 週	①～⑦Repeat・フォークダンス
第 11 週	①～⑦Repeat・フォークダンス
第 12 週	①～⑦Repeat・フォークダンス
第 13 週	グループ別に作品を創作
第 14 週	グループ別に作品を創作
第 15 週	グループ別作品発表会

《教養科目》《保育科第三部》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）				
担当者名	井上 眞美子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

スポーツの実践を通し、自己のライフステージや心身の状態に適した内容で生活の中に取り入れ豊かなライフスタイルを形成できる能力を身につける。

《授業の到達目標》

動きを上手に洗練させていくことを楽しむのが目的です。音楽に合わせたはずみ動作が多く、ビートに合わせたシャープでメリハリのある動きによって健康になり、強くしなやかな美しい体をつくる。

①～⑦をフィジカル・フィットネスと捉えて、全てのプログラムを動く。

《テキスト》

使用しない。授業中に適宜紹介する。

《参考文献》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）  
『からだロジー入門』宮下充正（大修館）

《成績評価の方法》

毎回の授業毎の評価(20%)、実技テスト(80%)の割合で評価する。授業回数の1/3を超える欠席者は成績評価の対象とならない。

《授業時間外学習》

毎回の授業についてのイメージトレーニングを行うよう指示する。

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、種目に応じてその場に適したものを使用する。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	RHYTHMIC MOTION (LIGHT)についての説明・オリエンテーション
第 2 週	①ウォーミングアップ（リズムの動きになれる）・フォークダンス
第 3 週	②スタートの体操（基本的な動きをリズムカルにバランスよく行う）・フォークダンス
第 4 週	③Running エクササイズ・エアロビック体操・フォークダンス
第 5 週	④ストレッチング（柔軟性を高める）・フォークダンス
第 6 週	⑤パワーアップⅠ（腹筋力・背筋力） （変化に富んだ動きをリズムカルに正しく行う）・フォークダンス
第 7 週	⑥パワーアップⅡ（緩急のある洗練された動きや高度な動きを行う）・フォークダンス
第 8 週	⑦クーリングダウン・フォークダンス
第 9 週	①～⑦Repeat・フォークダンス
第 10 週	①～⑦Repeat・フォークダンス
第 11 週	①～⑦Repeat・フォークダンス
第 12 週	①～⑦Repeat・フォークダンス
第 13 週	グループ別に作品を創作
第 14 週	グループ別に作品を創作
第 15 週	グループ別作品発表会

《教養科目》《保育科第一部》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）				
担当者名	宮川 和三				
授業方法	実技	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	全学年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

スポーツの実践を通し、自己のライフステージや心身の状態に適した内容を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成する能力を身につける。

また、各スポーツの基礎技能とルールを学習しスポーツを正しく実践する能力を身につける。

《授業の到達目標》

授業の進め方は、球技の中で特にバレーボールを取り上げ、豊かなライフステージを形成するための能力を身につける。

《テキスト》

使用しない。授業中に適宜紹介する。

《参考文献》

『からだロジー入門』奈良女子大学体育学教室（大修館）

『スポーツスキルの科学』宮下充正著（大修館）

『筋肉はエンジンである。』宮下充正著（大修館）

《成績評価の方法》

毎回の授業毎の評価（20%）、実技テスト（80%）の割合で評価する。

授業回数の1/3を超える欠席者は成績評価の対象とならない。

《授業時間外学習》

毎回の実技についてのイメージトレーニングを行うよう指示する。

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。

シューズは屋内用と屋外用を準備し、種目に応じてその場に適したものを使用すること。

授業中の携帯電話の使用は厳禁とする。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	パス（オーバーハンド、アンダーハンド）アタック（レフト、ライト、センター）
第 2 週	ボール慣れ、アタック、サーブ（アンダー、サイド、オーバー、フローター）
第 3 週	ボール慣れ、パス、アタック、サーブ、サーブレシーブ
第 4 週	ボール慣れ、パス、アタック、サーブ、サーブレシーブ、フォーメーション
第 5 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）①
第 6 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）②
第 7 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）③
第 8 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）④
第 9 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）⑤
第 10 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）⑥
第 11 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）⑦
第 12 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）⑧
第 13 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）⑨
第 14 週	（リーグ戦）⑩ 学習のまとめ
第 15 週	（リーグ戦）⑪ 学習のまとめ

《教養科目》《保育科第三部》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）				
担当者名	宮川 和三				
授業方法	実技	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	1,2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

スポーツの実践を通し、自己のライフステージや心身の状態に適した内容を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成する能力を身につける。  
また、各スポーツの基礎技能とルールを学習しスポーツを正しく実践する能力を身につける。

《授業の到達目標》

授業の進め方は、球技の中で特にバレーボールを取り上げ、豊かなライフステージを形成するための能力を身につける。

《テキスト》

使用しない。授業中に適宜紹介する。

《参考文献》

『からだロジー入門』奈良女子大学体育学教室（大修館）  
『スポーツスキルの科学』宮下充正著（大修館）  
『筋肉はエンジンである。』宮下充正著（大修館）

《成績評価の方法》

毎回の授業毎の評価（20%）、実技テスト（80%）の割合で評価する。  
授業回数の1/3を超える欠席者は成績評価の対象とならない。

《授業時間外学習》

毎回の実技についてのイメージトレーニングを行うよう指示する。

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。  
シューズは屋内用と屋外用を準備し、種目に応じてその場に適したものを使用すること。  
授業中の携帯電話の使用は厳禁とする。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	パス（オーバーハンド、アンダーハンド）アタック（レフト、ライト、センター）
第 2 週	ボール慣れ、アタック、サーブ（アンダー、サイド、オーバー、フローター）
第 3 週	ボール慣れ、パス、アタック、サーブ、サーブレシーブ
第 4 週	ボール慣れ、パス、アタック、サーブ、サーブレシーブ、フォーメーション
第 5 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）①
第 6 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）②
第 7 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）③
第 8 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）④
第 9 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）⑤
第 10 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）⑥
第 11 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）⑦
第 12 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）⑧
第 13 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）⑨
第 14 週	（リーグ戦）⑩ 学習のまとめ
第 15 週	（リーグ戦）⑪ 学習のまとめ



《教養科目》《保育科第三部》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）				
担当者名	宮川 和三				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

スポーツの実践を通し、自己のライフステージや心身の状態に適した内容を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成する能力を身につける。

また、各スポーツの基礎技能とルールを学習しスポーツを正しく実践する能力を身につける。

《授業の到達目標》

授業の進め方は、球技の中で特にバレーボールを取り上げ、豊かなライフステージを形成するための能力を身につける。

《テキスト》

使用しない。授業中に適宜紹介する。

《参考文献》

『からだロジー入門』奈良女子大学体育学教室（大修館）

『スポーツスキルの科学』宮下充正著（大修館）

『筋肉はエンジンである。』宮下充正著（大修館）

《成績評価の方法》

毎回の授業毎の評価（20%）、実技テスト（80%）の割合で評価する。

授業回数の1/3を超える欠席者は成績評価の対象とならない。

《授業時間外学習》

毎回の実技についてのイメージトレーニングを行うよう指示する。

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。

シューズは屋内用と屋外用を準備し、種目に応じてその場に適したものをを使用すること。

授業中の携帯電話の使用は厳禁とする。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	パス（オーバーハンド、アンダーハンド）アタック（レフト、ライト、センター）
第 2 週	ボール慣れ、アタック、サーブ（アンダー、サイド、オーバー、フローター）
第 3 週	ボール慣れ、パス、アタック、サーブ、サーブレシーブ
第 4 週	ボール慣れ、パス、アタック、サーブ、サーブレシーブ、フォーメーション
第 5 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）①
第 6 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）②
第 7 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）③
第 8 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）④
第 9 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）⑤
第 10 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）⑥
第 11 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）⑦
第 12 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）⑧
第 13 週	ボール慣れ、パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦）⑨
第 14 週	（リーグ戦）⑩ 学習のまとめ
第 15 週	（リーグ戦）⑪ 学習のまとめ

《教養科目》《栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	私のためのキャリア設計				
担当者名	有働 壽恵				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	全学年・I期

《授業のねらい及び概要》

「生活と仕事」を切り離してキャリアを設計することはできない。[生活経営とは] [家族をどう捉えるか] [よりよく自分らしく生きる] など、「生活と仕事」の視点から一人一人が価値観に基づいて、自分らしい生き方と長期に亘るキャリアについて検討する。日々の生活のなかで仕事とどのように向き合い、どのような関係を築くのか、他者の意見を聞きながら人生の素描を試みる。

《授業の到達目標》

- 知識・理解  
家族・家計・仕事の諸問題を多面的にみることができる
- 思考・判断  
ライフキャリアを主体的に考える。
- 関心・意欲・態度  
生活と仕事の諸課題について、自ら調べ、問題の所在を検討して、解決方法を探る態度を身につける。
- 技能・表現  
収集した情報を分析し、検討を加え、意見をまとめて説明できる。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配付する

《参考文献》

必要に応じて紹介する。

《成績評価の方法》

授業への取組姿勢（グループ討議への参加等）20%、定期試験（筆記試験）60%、提出物（課題の評価）20%

《授業時間外学習》

次週のプリントを配付する。また振り返りの課題を提示する。

《備考》

「職業を選択することは自分自身の生き方を選択することである。」を考える機会とする。

《授業計画》

週	授 業 計 画	
第 1 週	生活と仕事の視点	生活を経営するということ
第 2 週	社会の変化と生活 (1)	生活経営における就労の意味、男女共同参画社会と就労 VTR 視聴・課題提示
第 3 週	社会の変化と生活 (2)	雇用環境の変化、労働力率の変化とライフイベント
第 4 週	家族の役割 (1)	ライフステージとライフロール
第 5 週	家族の役割 (2)	発達課題と子どもの社会化
第 6 週	家族の役割 (3)	家族関係を考える VTR 視聴・課題提示
第 7 週	家族の役割 (4)	家族の諸問題（グループ討議、発表）
第 8 週	くらしの経済 (1)	家計、家計収支の構造と実態、生涯賃金、生涯生計費と生活経営 VTR 視聴
第 9 週	くらしと経済 (2)	くらしを考える（グループ討議、発表）
第 10 週	ライフキャリアを考える (1)	キャリア概念の理解（スーパー、クランボルツ、シュロスバーグなど） 課題提示
第 11 週	ライフキャリアを考える (2)	キャリア概念の理解（グループ討議、発表）
第 12 週	ライフキャリアを考える (3)	キャリア発達と職業の選択
第 13 週	ライフキャリアを考える (4)	エンプロイアビリティ、キャリアを支えるスキル
第 14 週	ライフキャリアを考える (5)	職業キャリアからライフキャリアへ 課題提示
第 15 週	まとめ	振り返りと質疑応答

《教養科目》《栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	就職基礎能力 I				
担当者名	山本 清美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	全学年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

コミュニケーションの基本を学び、キャリアアップにつながる実習中心の授業とします。  
 自らの行動パターンの分析を通し対人折衝能力を高めます。  
 スピーチ・プレゼンテーションを経験することで自らの考えを伝える方法を身につけます。

《授業の到達目標》

学生生活をはじめ様々な場面で他人との円滑なコミュニケーションをとる為に必要なことを学習する。  
 基本から応用まで「なぜ、そうなるのか」といった疑問や不安を解消することを目標とします。  
 同時にNPO法人日本人材教育協会認定のYESプログラム1単位「コミュニケーション能力」の習得も目標とします。

《テキスト》

プリント資料（講師作成）

《参考文献》

ホスピタリティの教科書：林田正光 あさひ出版 1400+税  
 あいさつの教科書：挨拶教育研究会 中経出版 1200+税  
 あたりまえだけどとても大切なこと：ロン・クラーク 草思社 1400+税  
 日本語練習帳：大野晋 岩波新書

《成績評価の方法》

平常点（授業への参加態度）を重視する 発言を奨励する 40%  
 授業中に実施するレポート及び試験 60%

《授業時間外学習》

新聞に目を通し興味のあるニュースについて自分の意見をまとめておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション：本講座の説明・各自の目標設定
第 2 週	今までの自分のキャリアを見つめて意図的に大学生活に活かす方法を探る
第 3 週	スピーチ 発表の仕方、発声方法をはじめパブリックスピーキングのポイントを習得する①
第 4 週	スピーチ 発表の仕方、発声方法をはじめパブリックスピーキングのポイントを習得する②
第 5 週	行動分析：自らの行動パターンの特性を把握する。
第 6 週	行動分析：他人の行動パターンを推測し、対応方法を考える
第 7 週	行動分析：ケーススタディを通し、実際に対応方法を習得する。
第 8 週	これからの企業と働き方を考える。組織秩序の維持とは
第 9 週	インターンシップを通して学ぶ意義
第 10 週	自己分析：今を考える・先を考える
第 11 週	グループ別ディスカッション・整理
第 12 週	キャリアプラン作成
第 13 週	プレゼンテーション入門・実習/評価
第 14 週	プレゼンテーション入門・実習/評価
第 15 週	総まとめ・筆記試験

《教養科目》《栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	就職基礎能力Ⅱ				
担当者名	山本 清美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2～4年・I期

《授業のねらい及び概要》

過去に1度は学んだことがある問題でもなかなか正解できないのがSPI適性検査です。本科目ではSPIの基礎知識—言語能力・非言語能力分野について詳しく説明し短時間に正解答できる能力の習得をねらいとします。就職試験に必要な「読む、書く、計算する」力を磨きます。

《授業の到達目標》

本番の就職試験を想定した実践力を養い、就職戦線に勝ち残るための基礎能力—言語・非言語能力(国語力・計算)の向上を図っていきます。

各受講生が自らの能力が向上したと自信が持てるよう指導いたします。

同時にNPO法人日本人材教育協会認定のYESプログラム2単位—「基礎学力読み書き・計算」の習得も目標とします。

《テキスト》

最新最強のSPIクリア問題集：成美堂出版 1200+税

《参考文献》

筆記試験の完全攻略：内定ロボット 日経ナビ&就職ガイド編集部 1400+税

フィンランドメソッド実践ドリル：諸葛正弥 毎日コミュニケーションズ 950+税

《成績評価の方法》

平常点（授業参加態度）を重視する

授業中に実施する小試験 以上40%

筆記試験 60%

《授業時間外学習》

新聞を読んだりニュースを見たりしておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	オリエンテーション・SPI非言語能力問題模試実施
第2週	非言語能力問題模試(解答解説)・SPI言語能力模試実施・計算の基本
第3週	SPI言語能力問題(解答解説)・国語の知識
第4週	SPI検査、その他筆記試験の攻略法・《小試験》
第5週	手紙の基本・ビジネス文書の基本・宛名の書き方
第6週	社内文書と社外文書
第7週	その他の文書(FAX・電子メール)
第8週	《小試験》
第9週	仕事の中で使う算数—計算の応用
第10週	図形・模擬試験実施
第11週	理論と論証
第12週	グラフと資料の読み方
第13週	《小試験》
第14週	質疑応答
第15週	総まとめ・筆記試験

《教養科目》《栄養マネジメント学科・健康システム学科・看護学科・社会福祉学科》

科目名	就職基礎能力Ⅲ				
担当者名	山本 清美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

社会人として必要なビジネスマナーを大学生活に即して学びます。あわせて会社の仕組み、税金、為替相場、ローンと金利等社会常識をビジネスシーンでの様々なケースを想定し、DVD 学習や実習により学んでいきます。

《授業の到達目標》

「社会で働くこと」を前提にビジネスマナーの基礎知識を習得し周りの人々との良い人間関係を築く為の常識力を高めます。合わせて「自分らしさ」を表現し社会に貢献できる即戦力を養うことを目標とします。同時にNPO法人日本人材教育協会認定のYESプログラム2単位－「ビジネスマナー・社会人常識」の習得も目標とします。

《テキスト》

「株式会社 同友館発行 著者 東条文千代 はじめてのビジネスマナー」

《参考文献》

ビジネス基本ルール 120：PHP 研究所 1048＋税  
日本語練習帳：大野晋 岩波新書 660＋税

《成績評価の方法》

平常点（授業参加態度を重視する）・授業中に実施する実技試験 40%  
筆記試験 60%（記述式）

《授業時間外学習》

新聞を読みニュースをチェックし社会情勢に関心を持つこと。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション・ビジネスマナーの重要性
第 2 週	社会と会社
第 3 週	挨拶と基本マナー
第 4 週	お金を使うと見えてくる社会
第 5 週	ワンランクアップの言葉遣い
第 6 週	感じの良い話し方と聴き方
第 7 週	暮らしの中で見えてくる社会－税金と法律
第 8 週	電話対応の基本
第 9 週	電話対応の応用
第 10 週	ビジネス知識の整理
第 11 週	訪問の心構え－アポイントメントの取り方から自己紹介まで
第 12 週	席次の知識から訪問後の心構え
第 13 週	来客対応の心構え－受付からお見送りまで
第 14 週	ホスピタリティサービスを考える
第 15 週	総まとめ・筆記試験